

新保田中村前遺跡Ⅰ

一級河川染谷川河川改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第1分冊

溝・井戸・河川跡・水田・畠の調査

〈遺物観察表編〉

1990

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

しん ぼ た なかむらまえ
新保田中村前遺跡 I

一級河川染谷川河川改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第1分冊

溝・井戸・河川跡・水田・畠の調査

《遺物観察表編》

1990

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

例言・凡例

1. 本書は、一級河川桑谷川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1分冊「新保田中村前遺跡」《遺物観察表編》である。

2. 遺物は、本文編に掲載した挿図中の実測図の順に、記載している。遺物の種類ごとに表の書式は異なっている。遺物番号は挿図中の遺物番号に一致している。表中に使用した記号や略号は各々以下の通りである。

①器種 《石器》UF=Used Flake(使用痕のある剥片)、RF=Retouched Flake(加工痕のある剥片)

②法量 《土器・石器》口：口縁部直径 底：底部直径 高：器高 胴：胴部最大直径
石器の厚さは、おおむね断面実測位置で計測した。

なお、計測値に()を付したものは復元値である。

《木器》単位：cm +α：測定値が残存値であることを示す φ：芯持ち材の直径

③色調 陶磁器を除いて土器の色調は小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修を用いて記載した。

④樹種 《木器》観察表中の樹種の同定は高橋利彦氏の以下のような26科37分類群(Taxa)の設定に拠る。

イチイ科	カヤ(<i>Torreya nucifera</i>)
イヌガヤ科	イヌガヤ(<i>Cherphalotaxus harringtonia</i>)
マツ科	モミ属(<i>Abies</i> sp.) マツ属残存管束属(<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxyton</i> sp.)
スギ科	スギ(<i>Cryptomeria japonica</i>)
ヒノキ科	ヒノキ属(<i>Chamaecyparis</i> sp.)
ヤナギ科	ヤナギ属(<i>Salix</i> sp.)
クルミ科	オニグルミ(<i>Juglans ailanthifolia</i>)
カバノキ科	カバノキ属(<i>Betula</i> sp.) ハンノキ属(<i>Alnus</i> sp.)
ブナ科	ブナ属(<i>Fagus</i> sp.) コナラ属アカガシ亜属(<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i> sp.) コナラ属コナラ亜属コナラ節(<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i> sect. <i>Prinus</i> sp.) コナラ属コナラ亜属カヌキ節(<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i> sect. <i>Cerris</i> sp.)
クワ科	クワ(<i>Castanea crenata</i>)
ニレ科	ニレ属(<i>Ulmus</i> sp.) ケヤキ(<i>Zelkova serrata</i>) エノキ属(<i>Celtis</i> sp.) ムクノキ(<i>Aphananthe aspera</i>)
タケ科	ヤマガワ(<i>Morus bombycia</i>)
カツラ科	カツラ(<i>Cercidiphyllum japonicum</i>)
バラ科	サクラ属(<i>Prunus</i> sp.)
ミカン科	コクサキ(<i>Oriza japonica</i>)
トウダイグサ科	シラキ(<i>Sapindus japonicum</i>)
ウルシ科	ヌルデ(<i>Rhus javanica</i>)
カエデ科	カエデ属(<i>Acer</i> sp.)
トチノキ科	トチノキ(<i>Aesculus turbinata</i>)
ムクロジ科	ムクロジ(<i>Sapindus mukorozii</i>)
クロウメモドキ科	ケンボナシ(<i>Hovenia dulcis</i>)
ツバキ科	ヤブツバキ(<i>Camellia japonica</i>) サカキ(<i>Cleyera japonica</i>) ヒサカキ類群種(cf. <i>Eurya japonica</i>)
ウコキ科	ウコキ属(<i>Acanthopanax</i> sp.)
エゴノキ科	エゴノキ属(<i>Styrax</i> sp.)
モクセイ科	トネリコ属(<i>Fraxinus</i> sp.)
ゴマノハグサ科	キリ(<i>Paonolva tomentosa</i>)
スイカズラ科	ニワトコ(<i>Sambucus sieboldiana</i>)

目 次

1. 溝出土遺物観察表	3
2. 井戸出土遺物観察表	53
3. 河川跡出土遺物観察表	58
河川跡出土植物遺存体一覧表	131
河川跡出土獣骨一覧表	132
4. 畠出土遺物観察表	137

1. 溝出土遺物観察表

3号溝出土遺物観察表〈陶器・磁器〉 図10

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
25 63	扁形香炉 陶器	体部一底部 底 (7.6cm)	F-6 G 底面上7cm	浅黄色	筒形香炉の底部片。底部外面に脚を貼り付ける。面釉を体部 外面に施す。	瀬戸・美濃系 18C
24 63	三島手鉢 陶器	体部一底部 底 (13.8cm)	F-6 G 底面上2cm	赤褐色	皿か鉢の底部。外面は無釉。高台端部に目尻直紋。底部内面 に目尻。内面は長石釉系の透明釉。	唐津系 17~18C
23 63	鉢形楕円 陶器	口縁部一底部 口 (33.2cm)	F-6 G 底面下16cm	淡黄色	口縁部は外側に折り返し、肥厚させる。口縁部内面は段差を 有する。器目は15本単位。内外面に施釉。	瀬戸・美濃系 18C後半。

3号溝出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図10

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
26 63	瓦 女瓦	破片 厚 2.0cm	F-6 G 底面上1.0cm	①白色磁物粒子を含む。 ②還元・快焼 ③灰NS/	桶巻造り。門面に1単位1.8cm程の雲木直。凸面口 口整形板。分割後、側部周辺を縦位に施釉で、側部面 取り2回。快焼部面取り2回。布目は6cmで56本。	瀬戸系

4号溝出土遺物観察表〈陶器・磁器〉 図11

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
53 63	染付そば 割口 磁器	体部一底部 破片 底 (3.9cm)	埋没土中	灰白色	底部器壁は厚い。体部外面の2方に花卉文。高台端部を除き、 透明釉。	波佐見系 18C
65 63	染付碗 磁器	口縁部一底部 破片 口 (11.0cm)	埋没土中	灰白色	口縁部外面に丸文。透明釉はやや青味を帯びる。割れ口に漆 付着。	波佐見系? 18C
61 63	染付碗 磁器	口縁部 破片	埋没土中	白色	器壁はやや薄く、胎土は白色。呉須の発色は良い。	伊万里系 18C
48 63	染付碗 磁器	口縁部一底部 1/4残存 口 (9.9cm)	埋没土中	灰白色	器壁は厚い。呉須の発色は鈍い。透明釉。	波佐見系 18C
55 63	染付皿 磁器	底部 破片	埋没土中	灰白色	底部器壁は厚い。呉須はやや黒味を帯びる。透明釉。	波佐見系 18C
56 63	染付広底 型碗 磁器	完形 口 8.8cm 底 4.1cm 高 4.6cm	埋没土中	灰白色	やや小型の碗。体部外面に菊花散らし文。高台外面に纏旋花 の襷輪。底部内面の文様は不明。焼き継ぎ有り。高台内に焼 き継ぎ時と思われる赤褐色の文字。	波佐見系 18C末~19C 前半
49 63	染付蓋物 磁器	口縁部一底部 1/2残存 口 (11.4cm) 底 6.1cm 高 8.6cm	埋没土中	白色	体部は直線的。口縁部はわずかに肥厚。呉須の発色は良い。底 部に焼きぶくれ有り。発付は幅広く、無釉。焼き継ぎ有り。 口縁部内面は無釉。透明釉には貫入が入る。	伊万里系 19C前半

4号清出土遺物観察表(陶器・磁器) 図11

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	胎土	器形・整形・装飾の特徴	備考
64 63	染付端反 碗 磁器	口縁部～底部 1/4残存 口 (10.2cm) 底 4.0cm 高 6.3cm	埋没土中	白色。比重は軽 い。	口縁部は外反。呉須の発色は濃く、滲んでいる。底部内面の 銘は「大化年製」か。	瀬戸・美濃系 19C前半
52 63	染付端反 碗 磁器	口縁部～底部 2/3残存 口 (10.9cm) 底 4.3cm 高 6.1cm	埋没土中	灰白色	口縁部は外反。呉須の発色は薄い。生け垣文調の2方に花卉 文。高台端部無軸。底部内面は松葉文。	徳佐見系 19C前半
50 63	染付湯飲 み 磁器	口縁部～底部 1/3残存 口 (7.1cm) 底 4.2cm 高 5.6cm	埋没土中	白色	体部・口縁部は直線的。高台はやや高い。釣り人が主文様。 文様は細線で輪郭を描き、後に「濃み」。	伊万里系 19C中
51 63	染付端反 碗 磁器	口縁部～体部 1/4残存 口 (11.4cm)	埋没土中	白色	口縁部は外反する。呉須の発色は濃く、染付部分は盛り上 がる。	瀬戸・美濃系 19C前半～中頃
58 63	染付瓶 磁器	口縁部～底部 1/3残存 口 (11.0cm) 底 3.7cm 高 4.8cm	埋没土中	白色	高台は小さい。外面の染付は「ペロ藍」	瀬戸・美濃系 明治～大正
54 63	紅藍 磁器	口縁部～底部 1/4残存 口 (5.8cm) 底 (2.5cm) 高 2.1cm	埋没土中	白色	内面に藍色の上絵。ゴム印か?	瀬戸・美濃系 大正
60 63	飯碗 磁器	体部～底部 破片	埋没土中	白色	外面は型刷削。呉須は「ペロ藍」	瀬戸・美濃系 明治後期
62 63	小杯 磁器	口縁部～底部 1/2残存 口 (6.2cm) 底 (2.9cm) 高 4.9cm	埋没土中	白色	底部内面に押印文様。外面はクローム青磁軸。内面・高台内 は透明軸。高台端部は無軸。口蓋。	瀬戸・美濃系 大正
57 63	飯碗 磁器	口縁部～底部 1/4残存 口 (11.4cm) 底 4.3cm 高 6.2cm	埋没土中	白色	外面に「ペロ藍」で茄子と雲、オリーブ褐色で富士山。「一 富士・二鷹・三茄子」か?文様はすべてコンプレッサーによ る吹き墨。高台内にゴム印で「岐8066」銘。	美濃 昭和初期
41 63	餉輪碗 陶器	口縁部～底部 1/3残存 口 (11.0cm) 底 4.5cm 高 7.5cm	埋没土中	灰白色	外面は口縁部下までヘラケズリ。張り付け高台。高台脇以下 を除き餉輪。	瀬戸・美濃系 18C中頃

4号溝出土遺物観察表(陶器・磁器) 図11・12

番号 凡	器 種	残 存 法 量	出土位置	胎 土	器形・整形・施釉の特徴	備 考
35 62	柿輪碗 陶器	口縁部～底部 1/4残存 口 (9.9cm) 底 3.4cm 高 4.9cm	埋没土中	灰白色	高台は小さい。腰は張り、器高は低い。貼り付け高台。高台 脇以下を除き柿輪。外面は口縁部下までヘラケズリ。	瀬戸・美濃系 19C前半
36 62	櫻摘碗 陶器	口縁部～底部 1/2残存 口 (8.8cm)。 底 4.2cm 高 4.8cm	埋没土中	灰白色	口縁部下に螺旋状の沈線を3条巡らす。内面と口縁部外面は 灰釉、外面は柿輪に近い鉄輪の掛け分け。高台端部のみ無釉。 灰釉部分のみ粗い貫入。	瀬戸・美濃系 19C前半
37 62	櫻摘碗 陶器	体部下位～底部 1/5残存 底 4.5cm	埋没土中	明褐色	口縁部下に螺旋状の沈線を巡らす。内面と口縁部外面は灰釉。 外面は黒色の鉄輪の掛け分け。高台端部のみ無釉。灰釉の み粗い貫入。	瀬戸・美濃系 18C後半
38 62	船輪碗 陶器	体部～底部 1/4残存 底 5.5cm	埋没土中	明褐色	体部外面はヘラケズリ。高台外面以下は無釉。高台端部は使 用により厚減。	瀬戸・美濃系 18C後半
47 62	青磁皿 磁器	口縁部～底部 1/2残存 口 (16.2cm) 底 (9.2cm) 高 2.4cm	埋没土中	白色	内面に彫押して菊花、花はピンク・藍が青灰色の輪下彫。焼 き過ぎか。高台内縁が化粧。釉切れが著しい。	瀬戸・美濃系 大正～昭和
46 62	刷毛目皿 陶器	口縁部～底部 2/3残存 口 (13.3cm) 底 6.5cm 高 3.8cm	埋没土中	灰白色。緻密。	内外面に白土で螺旋状の刷毛目。高台端部を除き、長石釉系 の透明釉。やや粗い貫入。	瀬戸・美濃系 19C
45 62	船輪汁注 陶器	注口部破片	埋没土中	にぶい黄褐色	体部外面下位以下無釉。	瀬戸・美濃系 18～19C
43 62	灰輪片口 鉢 陶器	口縁部～体部 1/5残存 口 (16.0cm)	埋没土中	褐色	口縁端部内面は突出。口縁部外面に沈線。体部下位以下は無 釉。外面は口縁部以下までヘラケズリ。	瀬戸・美濃系 19C前半
42 62	灰輪鉢鉢 陶器	口縁部破片 口 (32.6cm)半	埋没土中	灰白色	口縁部は外方に折り返す。口縁部外面に銅緑釉を掛け流す。 粗い貫入。	瀬戸・美濃系 19C中頃～後
44 64	灰輪徳利 陶器	体部～底部 底 6.2cm	埋没土中	褐色	体部は守割型。高台は低い。内面は無釉。体部下位以下の釉 は拭い取る。いわゆる「高田徳利」。	瀬戸・美濃系 19C
39 64	燈明皿 陶器	口縁部～底部 1/2残存 口 (10.2cm) 底 (3.6cm) 高 2.0cm	埋没土中	にぶい黄褐色	外面は口縁部下までヘラケズリ。外面の銅輪は拭い取る。底 部内面に目肌。口縁端部に油煙付着。	瀬戸・美濃系 18C後半～19 C前半
40 64	燈明皿 受け皿 陶器	口縁部～底部 1/2残存 口 10.3cm 底 4.7cm 高 2.2cm	埋没土中	浅黄褐色	外面は口縁部以下までヘラケズリ。口縁部外面以下の銅輪を 拭い取る。受け部先端は使用により厚減。	瀬戸・美濃系 19C前半

4号溝出土遺物観察表 (陶器・磁器) 図12

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	胎土	器形・装飾・施釉の特徴	備考
28	火鉢 軟質陶器	口縁部一体部 破片 口 (31.6cm)	埋没土中	灰白色	口縁部は外反。口縁部下に3条の沈線。器表は黒色。口縁部 内面のみ灰白色。外面は焙烙の底部と同様の質感。	在地製 江戸～明治
30	火鉢? 軟質陶器	脚部 破片 底 (21.1cm)	埋没土中	灰白色	台座部は摩滅。器表は黒色。28・27と同一個体か。	在地製 江戸～明治
27 29	火鉢 軟質陶器	体部～底部 破片 底 (17.0cm)	埋没土中	灰白色	底部に台の張り付け痕。外面は28と同様の質感。28の底部の 可能性が高い。	在地製 江戸～明治
31	火鉢? 軟質陶器	体部中位 1/4残存	埋没土中	にぶい橙	外面に波状文と3条の沈線と同様の痕? 器表は黒色。体部内 面上位のみになぶい橙。28と同器形か。	在地製 江戸～明治
32 64	焙烙 軟質陶器	口縁部～体部 1/4残存 口 (36.5cm)	埋没土中	にぶい橙	口縁部外面～底部外面僅存。残存部を取っては一つ。	在地製 幕末～明治
34 64	不明 軟質陶器	底部破片	埋没土中	白色・赤褐色部 分が磁状を成す 金雲母含む。	外面の器表は剥離。底部のえくり部以外は摩滅。	在地製 江戸～明治
33 64	播磨 陶器	口縁部～底部 1/4残存 口 (32.8cm) 底 (14.8cm) 高 13.7cm	埋没土中	淡黄色	播目は16本単位。全面に繪物を施し、底部外面のみ物を拭い 取る。外面は口縁部下までヘラケズリ。	瀬戸・美濃系 19C前半

4号溝出土遺物観察表 (木器) 図13

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
1122 64	桶の底	21.2×0.7	埋没土中	柾目 モミ属	底部1/2残存	厚さ0.7cm、筒板ののる縁は厚さは 0.4cmで、幅は1.2～1.5cmである。	

10号溝出土遺物観察表 (金属器) 図15

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	重量	形状・特色・その他	備考
6	鎌	先端部と茎尻を 欠損	埋没土中	57.3+ ϵ g	刃部と茎の成角は鈍角となり開き出す。稜厚3mm、刃 部の厚さ2mmを呈す。刃部の幅は4cmである。茎尻は曲 げてまるめてある形状が推測され、近世に類例をみる。	

11号溝出土遺物観察表 (陶器・磁器) 図17

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	胎土	器形・装飾・施釉の特徴	備考
85 64	灰釉碗 陶器	高台部 底 4.9cm	F-16G 底面上20cm	黄灰色	内面は灰釉。外面無釉。張り付け高台	瀬戸・美濃系 18C

11号溝出土遺物観察表〈陶器・磁器〉 図11

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
84	燈明皿 陶器	口縁部一部份 1/4残存 口径11.0cm	埋没土中	灰白色	外面は口縁部下までヘラケズリ。内面から口縁部外面まで灰釉。口縁部以下無釉。口縁部に油煙付着。	製作地不詳 19C

11号溝出土遺物観察表〈木器〉 図18～20

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
577 65	角材	49.8+ ϕ ×4.2×2.0	G-16G 底上13.6cm	板目 ヒノキ属	両端部欠損	平坦面をつくり、両側面も平坦部をつくり出しているが、劣化が激しい。	
612 65	杭	36.7×10.0×5.0	G-16G 底上31.5cm	分刺材 コナラ属 アカシヤ属	完形	先端部は尖らせ、頸部は平坦にしている。踵部が残る。	
611 65	板	20.3+ ϕ ×7.5×2.0	G-16G 底上36.0cm	板目 オニグルミ	全体形状不明	一端部はつぶれている。包端方向は不明。側面は斜方向に切断されている。平坦面は削り残が残る。	
613 65	杭	51.5+ ϕ ×5.5 ϕ ×4.6	G-16G 底上24.5cm	芯持 タリ	頸部欠損	杭の先端部分は加工されている。対面から大きく削られている。最先端部はつぶれている。	
582 65	竹	61.5+ ϕ ×4.8 ϕ	G-16G 底上35.0cm	筒状	両端部欠損	枝が弘われている痕跡がある。	
610 65	丸杭	59.2+ ϕ ×10.8×9.8	G-16G 底F1.5cm	芯持 タリ	先端一部欠損	先端部は周辺から削り出す。頸部は平坦に切っている。	
578 65	筒	底径 10.0 器内 1.4	G-16G 底上6.9cm	ブナ属	1/4残存	内外面とも赤く漆で塗られている。	
606 65	建築材	41.0+ ϕ ×5.5×3.5	G-16G 底F4.0cm	分刺材 タリ	一端部欠損	長さ7.5cm、深さ約2.0cmの切り込み部分をケケ所もつ。踵部が残る。枝を払い節が残る。	
605 65	杭	85.7+ ϕ ×13.9×13.6	G-16G 底F14.0cm	芯持 タリ	先端部欠損	先端部は削り出している。頸部付近は一部が削られている。	
607 66	丸杭	59.4+ ϕ ×8.7 ϕ	F-16G 底上2.0cm	芯持 広葉樹 散孔材	頸端部欠損	先端部は二方向から削り出され、最先端部はつぶれている。踵部は劣化している。	
609 66	丸杭	19.7+ ϕ ×9.0×6.5	F-16G 底F1.5cm	芯持 タリ	先端部欠損	表面は劣化している。頸部は平坦である。	
608 66	角材	24.0+ ϕ ×7.9×7.6	F-16G 底F9.5cm	芯持 タリ	一端部欠損	角材の一面に幅2.8cm、深さ1.9cmのU字溝が開いている。角材の隅は面取りされ、丸みをもつ。	
616 66	杭	36.6+ ϕ ×7.0 ϕ	G-16G ビット2内	芯持 エゴノキ属	先端一部欠損	踵部の一部を削っている。樹皮を残す。	

11号清出土遺物観察表(木器) 図20・21

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
615 66	棒状木製品	46.2+ ϵ ×3.7×2.0	G-16G ビット2内	榎目 スギ	端部をわずかに欠損	平面に二穴を穿つ。端部寄りの一穴は長軸方向に長く1.5×0.7cmで、中央寄りの一穴は短軸方向に長く、1.2×0.4cmである。両者とも貫通している。	
621 66	板	10.0+ ϵ ×8.0+ ϵ ×1.9	G-16G ビット2内	芯持 オニグルミ	一端側面が僅かに残存	表裏面が平滑である。	
619 66	丸杖	11.0+ ϵ ×5.0×4.0	G-16G ビット2内	芯持 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	片端部欠損	側面は平坦面をもつ。節部を残す。	
617 66	杖	13.2+ ϵ ×5.6×3.8	G-16G ビット2内	分刺材 コナラ属 アカガシ亜属	先端部付近残存	先端部は削り出されている。	
620 66	杖?	16.5+ ϵ ×4.4×4.4	G-16G ビット2内	分刺材 コナラ属 アカガシ亜属	両端部欠損	みかん割り1/4が残る。	
618 66	丸杖	15.8×5.8 ϕ	G-16G ビット2内	芯持 エゴノキ属	先端部欠損	側面は平坦面を残す。	
614 66	杖	101.0+ ϵ ×17.5×15.0	埋設土中	芯持 クリ	先端部欠損	側面は平坦面をもつ。	
580 66	板	43.1+ ϵ ×7.4+ ϵ ×0.9	G-16G 底上7.0cm	榎目 マツ属 残葉管葉亜属	端部一面残存	表裏面を平坦に仕上げている。規模は不明。	
586 66	板	48.0+ ϵ ×8.6+ ϵ ×1.7	G-16G 底上14.0cm	榎目 マツ属 残葉管葉亜属	一端側面残存	表裏面はほぼ平坦に仕上げられている。	
584 67	角材	48.0+ ϵ ×3.7×2.4	G-16G 底上13.0cm	榎目 ヒノキ属	両端部欠損	片端部は折れ、他端部は劣化している。平面・側面は平滑に仕上げられている。	
581 67	板	26.7+ ϵ ×4.9+ ϵ ×1.0	G-16G 底上5.0cm	榎目 マツ属 残葉管葉亜属	一部残存	表裏面を平坦に仕上げている。四辺とも欠損しているため、規模は不明。	
583 67	板	19.8+ ϵ ×8.0+ ϵ ×0.9	G-16G 底上15.5cm	榎目 マツ属 残葉管葉亜属	一端部残存	一端部は斜方向に切られていると思われる。表裏面は平坦に仕上げられている。	
587 67	板	22.8+ ϵ ×10.3+ ϵ ×0.9	G-16G 底上16.0cm	榎目 マツ属 残葉管葉亜属	一面面わずかに残存	表裏面はほぼ平坦に仕上げられている。	
579 67	くさび	17.5+ ϵ ×5.4×4.0	G-16G 底上15.5cm	榎目 ヒノキ属	一端部残存	角材の表裏面に切り込みを入れる。一面は長軸に対し直角に2cm、他面は長軸に対し直角に一段切り込みを入れた後、斜方向に再度切り込みを入れて二段にしている。	

11号溝出土遺物観察表(木器) 図21-23

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 樹 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
585 67	板	22.0+ ϕ ×6.2+ ϕ ×1.1	G-16G 底上2.0cm	榎目 マツ属 竜胆管束亜属	一端のみ残存	一端部分は長軸に直角に残る。表裏面は平滑に仕上げられている。	
598 67	板材	99.5+ ϕ ×18.0+ ϕ ×2.8	G-16G 底上9.6cm	榎目 スギ	一端部わずかに残存	表裏面とも平滑に仕上げられている。表面には斜方向に幅4cmの浅い溝がある。	
594 67	板	81.4+ ϕ ×22.3×1.0	G-16G 底上4.0cm	榎目 マツ属 竜胆管束亜属	一端両側面の一部残存	表裏面とも平滑に仕上げられている。	
591 67	板	56.9×15.8+ ϕ ×1.2	G-16G 底上5.4cm	榎目 マツ属 竜胆管束亜属	両端一側面残存	表裏一側面は平滑に仕上げられている。	
592 67	板	23.6+ ϕ ×4.8×1.5	G-16G 底上8.8cm	不明 スギ	多くを欠損	わずかに切り込んだ痕が残る。表裏面とも平滑である。	
588 67	板状木製品	19.8×7.6+ ϕ ×1.2	G-16G 底上6.5cm	榎目 マツ属 竜胆管束亜属	両側面欠損	両端部は残存する。表裏両面は平滑に仕上げられている。3本の釘痕が残る。	
590 67	板	37.4+ ϕ ×10.4+ ϕ ×1.0	G-16G 底上12.2cm	榎目 マツ属 竜胆管束亜属	一端部わずかに残存	表裏面は平坦につくられている。残存端部は平面方向から押し切られているかのような形状を呈す。	
589 68	板状木製品	46.3×18.4+ ϕ ×2.0	G-16G 底上4.7cm	榎目 マツ属 竜胆管束亜属	一部欠損	表面には斜方向に二つの溝が入る。幅は約1.5-3.0cm、深さ約0.5cmである。裏面は平坦である。	
596 68	角材	51.0×6.0×6.0	G-16G 底上7.4cm	榎目(溝面) ヒノキ属	完形	両端部は丸みをもち、原形を保っていると思われる。一面長軸方向にJ字溝が掘られている。	
597 68	建築材?	49.8+ ϕ ×4.9×3.9	G-16G 底上8.3cm	榎目 (切込面) ヒノキ属	両端部欠損	角材の一面を両側から0.7cmほど斜めに切り込み、山形をつくり出す。端部は炭化が激しい。	
596 68	棒状木製品	32.0+ ϕ ×4.0×2.2	G-16G 底面直上	榎目 スギ	一端部欠損	表面は滑らかであるが、面取りが行われている。	
600 68	建築材	20.7+ ϕ ×5.3×5.0	G-16G 底上10.9cm	芯持 スギ	片端部分欠損	ほぼ平坦な両面のうち、一面は長軸に対して直角に切り込む。対する欠損端部は二方向から斜めに切り込み、山形の形状をつくり出す。	
599 68	くさび	22.3×4.8×3.5	G-16G 底上9.4cm	分割材 (加工) コナラ属 アカガシ亜属	完形	角材の一面を斜めに削り、両面中央を深く切り込み、端部をも浅く切り込む。裏面の平坦面に2.0×2.3cmの方形で、深さ1.6cmの軸穴らしきものがある。一端部はつぶれている。	
603 68	建築材	33.5×8.7×7.7	G-16G 底上9.0cm	芯持 スギ	一端が長軸に沿って欠損	一端部に幅3.3cm、深さ8.4cmの切り込みをつくる。表面には削り痕が残る。	

11号溝出土遺物観察表（木器） 図24

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 屑種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
601 68	建築材	78.3×6.0×5.0	G-16G 底上3.0cm	不明 ヒノキ属	完形	角材の四面は平滑に仕上げられている。端部は同一面で、左右対称3.0cm切り込まれている。	
602 68	角材	62.3+φ×3.9×1.6	G-16G 底上3.0cm	榎目 マツ属 糠糠管束系属	片端部欠損	一端部は良好な残存。長軸に沿って欠損端部に向かい薄くなる。	
604 68	建築材	133.0+φ×5.9×3.5	G-16G 底下6.0cm	榎目 オニグルミ	一端部欠損	わずかに湾曲する。表裏・側面とも平滑面をつくる。表裏面に貫通する駒と途中で止まる駒を切る。	

27号溝出土遺物観察表（陶器・磁器） 図25

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
93 64	飯碗 磁器	口縁部～底部 1/4残存 口 10.1cm 底 3.7cm 高 4.7cm	埋没土中	観察不可	高台は小さく低い。外面と底部内面は型刷削り。器縁はロクロを使用した手締り。	瀬戸・美濃系 明治後期

27号溝出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図25

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
97 64	土師器 杯	完形 口 11.0cm 高 3.3cm	埋没土中	①中砂・細砂を多く含む。ザラザラしている。 ②やや軟質。 ③橙7.5YR6/8	底部外面削削り。内面にて調整。口縁部内外面積などで。口縁端部は内湾し、小さく、丸く肥厚する。	

29号溝出土遺物観察表（陶器・磁器） 図26

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
94 64	白磁湯飲 磁器	ほぼ完形 口 6.6cm 底 3.8cm 高 6.4cm	埋没土中	白色	口縁部は小さく外反。	瀬戸・美濃系 昭和前期
96 64	蓋物 陶器	口縁部～底部 破片 口 (5.2cm)	埋没土中	こぶい橙	粘土種を螺旋状にしたつまみを貼り付ける。外面に白釉を厚く、内面に薄く掛ける。口縁端部は無釉。	製作地不詳 明治～大正
95 64	内耳信塔 軟質陶器	口縁～底部 1/4残存 口 (26.8cm) 底 (25.1cm) 高 2.3cm	埋没土中	灰白色	器高は低い。底部との境は明瞭。	在地製 19C前半～中頃

1 清出土遺物観察表

29号清出土遺物観察表 (木器) 図25

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
649 6f	曲物	14.8φ×0.8	埋没土中	榎目 マツ属 残葉管状虫属	底板残存	平坦な表面をもち、一面は中央付近が欠ける。側面には止め釘(竹)が7ヶ所確認できる。燈籠の底?	

16号清出土遺物観察表 (陶器・磁器) 図27

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
82 70	福鉢 陶器	口縁部破片	埋没土中	にぶい程	口縁部外面は3条の尖帯を巡らす。指目は密に入れる。指目部分を除き神轆。幅の広い片口を持つ。	磁子・笠間系 幕末～明治前期

16号清出土遺物観察表 (土師器・須恵器) 図27

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
83 70	土師器 杯	口縁部-底部 口 11.6cm 底 7.2cm 高 2.7cm	J-20G 底面上14.7cm	①砂粒を多く含む。 ②普通。 ③にぶい黄緑10YR7/3	左回転口クロ整形。底部回転糸切り難し。杯部内外面回転で調整。	

16号清出土遺物観察表 (石器) 図27

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
29 70	石臼	径 32.5cm ハンゲリ幅5.5cm 厚 10.6cm 重 2030.0g	埋没土中	粗粒安山岩	茶臼の下臼の破片である。はんざりのふくみは最大深約1cm、分画は8区画、副溝の間隔は6～10mmである。底部からははんざりの側面までは荒さがみられ、特に底部には工具痕を残す。	石質はやや多孔質。1/8残存

16号清出土遺物観察表 (木器) 図27

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
1123 70	曲物の底	17.8φ×0.9	埋没土中	榎目 ヒノキ属	底板のみ残存	木目が細かく、良質な板である。一面には二本平行な鋭い刀痕が観察できる。止め釘(竹か木)が側面に2ヶ所確認できる。	

2号清出土遺物観察表 (土師器・須恵器) 図30

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
18 69	須恵器 杯	口縁部-底部 1/5残存 口 (13.2cm) 底 (7.4cm) 高 3.6cm	埋没土中	①細砂・雲母を多く含む。 ②やや軟質。 ③灰白2.5Y7/1	右回転口クロ整形。底部回転糸切り難し。杯部内外面回転で調整。口縁部はやや外反する。	底部外面中央に墨書「万」。

2号清出土遺物観察表（金属器） B30

番号 PL	器種	残存 量	出土位置	重量	形状・特色・その他	備考
7	小刀	中央部の一部と 茎尻が欠損する	攪乱層内	31.4±0.9g	刀身は鍛作りである燧槍の小刀である。鋒はころあいで鍍は色から鋼の合金であると思われる。形状は鍛作りの燧槍である。全長21.4±0.0cm	

5号清出土遺物観察表（土師器・須恵器） B31

番号 PL	器種	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
66 69	須恵器 碗	高台部残存 底 7.4cm	埋没土中	①細細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白7.5Y8/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り難し。付高台。高台接合部は丁寧になてられている。杯部はやや下半が膨らむ器形を呈すとみられる。	

6号清出土遺物観察表（土師器・須恵器） B32

番号 PL	器種	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
67 69	須恵器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (12.6cm) 底 (6.6cm) 高 3.3cm	埋没土中	①細砂・中砂を多く含む。 ②硬質。 ③灰NS/	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り難し。杯部内外面回転などで調整。口縁端部は外反し、杯部下半はやや膨らむ。	
72 69	須恵器 碗	口縁部～底部 1/3残存 口 (15.0cm) 底 8.4cm 高 7.5cm	E-11G 底面上8.0cm	①細砂・中砂を多量に含む。 ②普通。 ③灰NS/	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り難し。付高台。高台接合部回転などで調整。杯部内外面回転などで調整。全体に薄く仕上げられ、口縁部は外反している。	

6号清出土遺物観察表（土師器・須恵器） B33

番号 PL	器種	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
90 69	須恵器 碗	口縁部～底部 1/3残存 口 (15.0cm) 底 6.8cm 高 5.8cm	D-9G 底面上3.0cm	①中砂・細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③灰白N7/	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り難し。付高台。高台接合部強いなどで調整。口縁端部は外反し、外面に玉縁状に肥厚する。	
73 69	須恵器 長頸壺	口縁部破片 口 (16.0cm)	E-11G 底面上6.0cm	①細砂・黒色鉱物細粒を含む。 ②硬質。 ③灰オリーブ7.5Y4/2	楕づくり。頸部接合後、右(7)回転ロクロ整形。内外面丁寧なで調整。口縁端部は大きく外反し、頸部外面には幅1cmほどの面が取られ、鋭く整形されている。	

7号清出土遺物観察表（陶器・磁器） B34

番号 PL	器種	残存 量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
80 69	灰釉陶器 瓶	体部～底部 底 8.4cm	埋没土中	明褐色	貼り付け高台。底部内面の調整は雑。外面に灰釉が薄く掛かる。	

7号溝出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図34

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・形状の特徴	備考
19 69	須恵器 杯	口縁部-底部 1/2残存 口 12.9cm 底 6.8cm 高 3.5cm	埋没土中	①砂粒を多量に含む。 ②普通。 ③灰灰2.5Y6/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り難し。内外面回転などで。口縁部内外面横などで。口縁端部は丸く肥厚し、外反する。	
20 69	須恵器 高台付杯	口縁部-底部 3/4残存 口 14.3cm 底 6.9cm 高 5.0cm	埋没土中	①中砂・細砂・雲母小片を含む。 ②やや軟質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り難し。低い付高台。高台接合部などで。内外面回転などで。口縁端部は丸くおさめられている。	
21 69	須恵器 杯	ほぼ完形 口 13.6cm 底 5.8cm 高 3.9cm	埋没土中	①砂粒・小石を多く含む。 ②やや軟質。 ③灰白2.5Y8/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り難し。杯部内外面などで調整。口縁部内外面横などで。口縁端部は丸く肥厚し、外反する。口縁端部内外面に縦が部分的に付着している。	
22 69	須恵器 高台付杯	口縁部-一部欠損 口 12.6cm 底 6.1cm 高 3.9cm	埋没土中	①細砂・雲母を多量に含む。 ②軟質。 ③灰白N8/	右回転ロクロ整形。底部静止糸切り難し。付高台。接合部などで調整。杯部内外面回転などで調整。口縁部横などで。杯部は中位から、大きく外反する。	
79 69	須恵器 杯	口縁部-底部 1/3残存 口 (13.0cm) 底 (7.2cm) 高 4.0cm	埋没土中	①細砂・小石を含むが 概ね胎土である。 ②硬質。 ③灰5Y5/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り難し。杯部内外面丁寧な調整。口縁部は、真っすぐおさめられている。	
77 69	須恵器 杯	口縁部-一部欠損 口 12.2cm 底 5.8cm 高 3.3cm	埋没土中	①細砂・中砂・黒色紅物細粒を含む。 ②普通。 ③灰5Y5/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り難し。杯部内外面回転などで。口縁端部は外反する。	

7号溝出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図34

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・形状の特徴	備考
70 69	須恵器 杯	口縁部-底部 2/3残存 口 12.0cm 底 6.0cm 高 3.2cm	埋没土中	①細砂・中砂・黒色紅物細粒を含む。 ②普通。 ③灰N5/	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り難し。杯部内外面回転などで。口縁端部は外反する。	
78 69	須恵器 杯	口縁部-底部 3/4残存 口 12.0cm 底 6.1cm 高 3.8cm	埋没土中	①微細砂・細砂を含む。 ②普通。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り難し。杯部内外面回転などで調整。杯部中位がやや膨らみ、口縁端部はやや外反する。	杯部外面と底部内面に墨書。表裏とも「7」
69 69	須恵器 蓋	縁部-一端部 1/4残存 口 14.0cm	埋没土中	①黒色紅物細粒を多く含む。②やや硬質。 ③灰白N8/	右回転ロクロ整形。切り難し技法不明。外面回転難し。内面回転などで調整。端部にカエリはなく、よくなでられている。	

7号溝出土遺物観察表(土師器・須恵器) 図34

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
71 69	須恵器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (13.2cm) 底 7.0cm 高 3.2cm	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②普通。 ③灰白5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り難し。内外面回転などで。底径が大きく。器高の小さい形態を呈する。杯部はやや膨らむ。墨書は加の可能性があり、下位に別字があることも考えられる。	杯部外面に墨書。 ^加
68 69	土師器 杯	口縁部～体部 1/4残存 口 (13.5cm)	埋没土中	①細砂・雲母を多量に含む。 ②普通。 ③橙5YR6/6	底部外面更削り。内面にて。折衝痕が残る。口縁部内外面横なで。口縁端部は丸く、強く内湾する部分もある。	
75 69	瓦 玉縁付男 瓦	破片 厚 1.5cm	埋没土中	①白色鉱物粒を含む。 ②還元・焼締 ③9KNS/	平截作り。凸面ロクロ整形。自然軸付着。玉縁の接合はA型。布目は6cmで54本。	吉井系 8C後半
74	須恵器 甕	胴部～底部 破片 底 (24.0cm)	埋没土中	①小石・白色鉱物細粒を含む。 ②練質。 ③灰白N7/	粘土経巻き上げ成形。胴部外面平行叩き整形。基部のみ、横方向なで調整。内面横方向なで後、青海波状のあて具痕が残る。内面基部から底部にかけて、裏なで調整。底部外面横なで。	
76	須恵器 瓶	底部～胴部 1/2残存 底 (6.6cm)	埋没土中	①黑色鉱物粒を少量含むが、緻密な粘土である。 ②硬質。 ③灰白10Y7/1	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り難し後、外面の周縁のみ、回転更削り。削り出し高台。胴部外面下位と底部外面周縁に幅2～3mmの沈線を削り出し、高台をつくっている。	

18号溝出土遺物観察表(土師器・須恵器) 図39

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
700	須恵器 碗	口縁部～底部 口 14.4cm 底 6.6cm 高 6.4cm	J-21G 底面上70cm	①細砂・中砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白5Y7/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り難し。付高台。内外面とも回転なで調整。高台接合部なで調整。	
88 70	須恵器 蓋	横口部欠損 1/3残存 口 (17.0cm)	埋没土中	①細砂・中砂を含む。 ②普通。 ③灰白5YR/1	右回転ロクロ整形。内外面とも、回転なで調整。	
86 70	須恵器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (12.0cm) 底 6.8cm 高 3.9cm	埋没土中	①細砂・黑色鉱物粒を含む。 ②良好。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り難し。口縁端部がやや内湾し、端部内部がやや肥厚する。	
87 70	須恵器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 (13.5cm) 底 (7.6cm) 高 3.5cm	埋没土中	①細砂を含む。 ②良好。 ③暗9KN3/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り難し。口縁部はやや外反する。	
89 70	土師器 杯	口縁部～底部 3/4残存 口 (13.2cm) 底 9.5cm 高 (4.3cm)	埋没土中	①砂粒をやや含むが、緻密な粘土である。 ②普通。 ③濃い橙5YR7/4	杯部外面横方向更削り。上半部一杯部内面丁寧なで。底部外面削り。杯部内面に、0.5～1cm間隔で縦細い縦方向の暗文が施されている。口縁端部内面は内湾する。	畿内系。

18号溝出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図39

番号 FL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形・整 形 の 特 徴	備 考
91 70	土師器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 14.2cm	H-20G 底面上10.8cm	①細砂・石英・黒雲母 を含む。②普通。 ③にぶい層7.5YR7/3	杯部外面指押さえ。上半のみ、横方向直削り。口縁部 外面から杯部内面丁寧なで調整。口縁部は内湾する。 杯部内面には、放射状の細彫り暗文が施されている。	89と同巧。
92 70	瓦	破片 厚 1.5cm	埋没土中	①白色磁物粒子を含む。 ②還元・焼締 ③灰7.5Y5/1	半截作り。凸面ロクロ整形。側面取り3回。後部 面取り3回。布目は6cmで90本。	乗附系

30号溝出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図42

番号 FL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形・整 形 の 特 徴	備 考
105	土師器 土器	体部下位～底部 破片 底 (22.7cm)	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③黒黒2.5Y3/1	体部外面斜方向直削り後、丁寧なで調整。底部外面 周縁幅1cmのみ、なで調整。体部内面丁寧なで調整。	

34号溝出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図46

番号 FL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形・整 形 の 特 徴	備 考
103 70	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (11.6cm) 高 3.4cm	L-34G 底面上61.0cm	①微細砂・雲母を多く 含む。②やや硬質。 ③橙7.5YR7/6	底部外面直削り。内面丁寧なで調整。口縁部内外面 横なで。口縁部は内湾する。	
102 70	土師器 杯	定形 口 10.9cm 高 4.0cm	L-34G 底面上44.0cm	①細砂・赤色磁物粒を 含む。②硬質。 ③橙5YR7/6	底部外面直削り。内面丁寧なで調整。指摺り痕が残 る。口縁部内外面横なで。口縁部は薄く仕上げられて いる。	
104 70	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (14.7cm) 高 4.7cm	L-34G 底面上69.5cm	①細砂・石英を含む。 ②やや硬質。 ③橙5YR6/8	底部外面幅広の直削り。内面丁寧なで調整。口縁部 内外面横なで。口縁部は内湾し、口縁部下位には、 縁やかな縁が形成されている。	
183 70	土師器 杯	口縁部～底部 1/5残存 口 (11.0cm) 高 3.5cm	埋没土中	①微細砂・赤色磁物面 粒を含むが、緻密な粘 土である。②硬質。 ③橙5YR6/8	底部外面直削り後、なで調整。内面丁寧なで。口縁 部内外面横なで。口縁部は短い後をもって立ち上がる。	
101 70	須恵器 蓋	ほぼ定形 口 11.5cm 高 4.0cm	L-32G 底面上30.5cm	①細砂・石英を多量に 含む。②普通。 ③灰白5Y7/1	右回転ロクロ整形。切り離し技法不明。内面上半回転 なで調整。天井部外面直削り。内面中央に、直削り時 に器を伏せた痕跡を調整したと思われるなどがある。 口縁部内外面横なで。	
182 70	須恵器 蓋	口縁部～天井部 1/2残存 口 (11.5cm) 高 3.7cm	K-35G 底面上33.0cm	①細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③灰白2.5Y7/1	右(?)回転ロクロ整形。切り離し技法不明。切り離し 後、外面手持ち直削り。内面なで調整。口縁部内外面 横なで。	
184 70	土師器 葉	口縁部～胴部 1/3残存 口 (22.6cm)	K-35G 底面上37.5cm	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい層7.5YR5/6	胴部外面斜方向直削り。内面横方向・斜方向直削りなで。 口縁部内外面横なで。長胴を呈し、最大径は口縁部に ある。	

36号出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図48

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
110	土師器 杯	口縁部破片 口 (16.6cm)	J-28G 底面上2.5cm	①細砂・赤色鉱物粒を 少量含む、緻密な胎土 である。②普通。 ③焼5YR7/6	内外面とも、なで調整と思われる。大形の杯で、杯部 は深い。	磨耗が激しい。

37号出土遺物観察表《陶器・磁器》 図49

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	胎 土	器形・整形・施釉の特徴	備 考
111 70	内耳罎 軟質陶器	口縁部破片	埋没土中	白色鉱物粒を多く 含む。	口縁部は直線的に外反。口縁部と作部の境に段差。	在地製 15-16世紀

37号出土遺物観察表《石器》 図49

番号 PL	器 種	大きさ・重量	出土位置	石 質	形状・調整加工の特徴	備 考
1 70	砥石	長 7.1cm 幅 4.2cm 厚 2.9cm 重 71.8g	埋没土中	砥沢石	一面は破れている。小口一面は未使用である。他面はすべて 使用面であり、多くの擦痕を残す。表面には煤が付着する。	完形。
2 70	砥石	長 7.3cm 幅 4.3cm 厚 3.2cm 重 119.3g	埋没土中	砥沢石	各面はわずかではあるが磨耗している。部分的に擦痕が残る。	上下両端欠損。

38号出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図50

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
113	須恵器 高台付椀	高台部破片 底 (9.0cm)	埋没土中	①細砂を少量含む、緻 密な胎土である。 ②やや軟質。内部まで 還元が見えていない。 ③灰白5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り難し。付高台。高 台接合部。及び胸部内面丁寧な調整。	

39号出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図52

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
108 71	須恵器 高台付椀	口縁部一底部 1/4残存 口 (14.8cm) 底 6.7cm 高 5.4cm	M-28G 埋没土中	①細砂を含む。 ②普通。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り難し。付高台。高 台接合部にて調整。胸部内外面回転にて調整。椀部下 手はやや膨らむ。口縁部はやや丸く肥厚し、外反す る。	
112	須恵器 高台付椀	高台部破片 底 8.0cm	M-32G 埋没土中	①細砂を少量含むが、 緻密な胎土である。 ②普通。③灰NS/	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り難し。付高台。高 台接合部丁寧な調整。	
114	土師器 羹	口縁部一肩部 1/3残存 口 (12.2cm)	M-32G 埋没土中	①微細砂・雲母を含む。 ②普通。 ③にぶい黒7.5YR5/4	肩部外面横方向先削り。肩部外面から内面横にて調整。 頸部内面、口縁部外面に指頭痕が残る。	

1 溝出土遺物観察表

39号溝出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図52

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
109 70	瓦 男瓦	破片 厚 1.4cm	埋没土中	①黒色粒子を含む。 ②還元・硬質 ③灰黄2.5Y6/2	半截作り。凸面単純輪条体I型を回転押捺後、ロクロ回転整形。凹面布せ目を指頭で撫で消す。頸部面取り3回。広端部面取り1回。布目は6cmで39本。	秋田系 8C後半～9 C後半

40号溝出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図53

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
117	須恵器 椀	口縁部一体部 破片 口 (20.0cm)	埋没土中	①細砂を含む。 ②普通。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。体部内外面回転で。口縁部内外面横などで調整。口縁端部はやや外反し、丸く肥厚する。	
115	土師器 羹	口縁部一部 破片 口 (20.6cm)	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	肩部外面横方向彫り。内面横方向で。頸部には輪積み痕が残るが、なでられている。口縁部内外面横などで。口縁端部は内湾している。	
116 71	瓦 女瓦	破片 厚 1.4cm	埋没土中	①白色粒子を含む。 ②還元・硬質 ③灰10Y6/1	輪巻造り。凹面に1単位2cmの寄木痕。凸面ロクロ整形後、撫で再整形。端部面取りは2回。布目は6cmで72本。	乗附系

43号溝出土遺物観察表（陶器・磁器） 図54

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
118	灰釉陶器 碗か皿	体部下位一部 破片 底 (7.8cm)	埋没土中	灰白色	貼り付け高台。口縁部のみ輪轆。	

43号溝出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図54

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
119 71	瓦 女瓦	破片 厚 1.7cm	埋没土中	①シルト粗粒を含む。 ②還元・焼締 ③明青灰5PB7/1	輪巻造り。凹面に1単位1.7cmの寄木痕・粘土板割ぎ取り痕。凸面ロクロ裏。両面自然輪付着。端部面取り3回。布目は6cmで55本。	乗附系 8C

43号溝出土遺物観察表（石器） 図54

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
54	網器	長 3.3cm 幅 4.0cm 厚 1.5cm 重 30.4g	埋没土中	黒色頁岩	下層にスクレイパーエッジを作出している。表面は自然面。	

48号溝出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図55

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
120	須恵器 杯	口縁部～底部 破片 口 (11.4cm)	埋没土中	①微細砂・白色鉱物細 粒を含む。②硬質。 ③灰7.5Y5/1	同転口クロ整形。底部切り離し技法不明。底部外面 磨り調整。杯部内外面まで調整。口縁端部は小さく外 反する。	

49号溝出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図57

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
173 71	土師器 杯	口縁部～底部 3/4残存 口 9.5cm 高 3.1cm	埋没土中	①細砂・雲母・白色鉱 物細粒を多量に含む。 ②普通。 ③橙5Y8/6	底部外面磨削。杯部内面丁寧な磨きで調整。口縁部 横などで。口縁端部はつまみ上げられている。底部は丸 底。	

51号溝出土遺物観察表（陶器・磁器） 図60

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
121	灰輪陶器 碗	体部～底部 1/5残存 底 (8.0cm)	Z 2A-60G 埋没土中	灰白色	高台端部は使用により摩滅。口縁部のみ施釉。	
122	灰輪徳利 陶器	底部 底 6.6cm	埋没土中	褐灰色	高台は低い。体部下位の輪は拭い取る。内面無釉。いわゆる 「高田徳利」。	瀬戸・美濃系 19C

51号溝出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図60

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
126	須恵器 蓋	体部～端部破片 口 (23.0cm)	埋没土中	①細砂・黒色鉱物粒を 含む。②普通。③灰N6/	天井部外面右同転口クロによる磨削。外面端部から 内面まで調整。端部は内湾し、丸くつくられている。 カエリはやや外反する。	
124	須恵器 羽蓋	口縁部～跨破片 口 (17.4cm)	埋没土中	①微細砂・雲母細片を 多く含む。②やや軟質 ③灰7.5Y6/1	内外面横などで調整。	
123 71	須恵器 羽蓋	口縁部1/5残存 口 (20.0cm)	埋没土中	①細砂・雲母細片を多 く含む。②やや硬質。 酸化焰焼成。 ③にぶい橙5YR7/4	内外面とも丁寧な横などで調整。	
125	須恵器 羽蓋	口縁部～跨下 破片 口 (20.0cm)	埋没土中	①中砂・石英粒を多量 に含む。②普通。 ③灰7.5Y6/1	内外面横などで調整。口縁部外面には成形時の粘土粒の 痕跡が残る。筒は薄く、上方につまみ上げられている。	

51号清出土遺物観察表〈金属器〉 図60

番号 PL	器種	残存	出土位置	重量	形状・特色・その他	備考
57	銅鐸	1/4残存	埋没土中	42.8g	直径9.0cmの4分の1が残る。印床に接したと思われる部分は、丸みをもち、いわゆる鏡形銅鐸といわれるものである。4分の1に切断した2辺はみごとな切れ方である。緑石には、わずかに反応するが著しくは至らない。鉄分は少ないと思われる。	

52号清出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図62

番号 PL	器種	残存	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
132	土師器 埴	口縁部破片 口 (8.0cm)	埋没土中	①微細砂・雲母細片を含む。②やや硬質。 ③灰白5Y8/1	口縁部外面縦方向差削り。内面にて調整。口縁部内外面積にて調整。端部内面は幅9mmの面取りがされている。	
131	須恵器 高台付甕	口縁部・底部 1/4残存。高台 端部欠損 口 (15.2cm)	埋没土中	①細砂・微細砂を多量に含む。 ②軟質。 ③灰白5Y8/1	回転口クロ整形。底部中央部欠損のため、切り離し技法不明。付高台。内外面回転にて調整。	
140	須恵器 台付甕	胴部1/5残存 底 (12.8cm)	埋没土中	①細砂を含む。②やや硬質。③灰白2.5Y7/1	回転口クロ整形。端部回転にて調整。	
141	須恵器 台付甕	胴部破片	埋没土中	①微細砂・赤色鉱物粒を含む。②やや軟質。 ③灰白2.5Y7/1	右回転口クロ整形。内外面回転にて調整。	
138	須恵器 甕	口縁部破片	埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白10Y7/1	口縁部内外面積にて調整。外面波状文(8条)の間に波線文1条が施されている。口縁端部は外面に幅1.4cmの面取りをし、下端には1条の波線が巡らされている。	
137	須恵器 甕	体部一端部 破片 口 (20.0cm) 高 3.0cm	埋没土中	①微細砂・黒色鉱物粒を含む。 ②軟質。 ③灰白8Y7/	天井部外面手持ち差削り。口縁部から内面回転にて整形。口縁部はなだらかに外傾し、端部は小さく外湾する。	
139	須恵器 小形甕	口縁部破片 口 (13.4cm)	埋没土中	①微細砂・黒色鉱物粒を含む。②普通。 ③黄灰2.5Y6/1	体部外面縦方向差削り。内面縦方向にて調整。口縁部内外面積にて調整。口縁部は短く外反し、端部はやや内湾する。	
133	土師器 甕	口縁部破片 口 (18.6cm)	埋没土中	①微細砂・雲母細片を含む。②やや硬質。 ②硬5Y8/6	体部外面縦方向差削り。口縁部内外面積にて調整。いわゆるコの字口縁の要形土器である。口縁端部は内湾する。	
136	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (18.4cm)	埋没土中	①細砂・黒色鉱物粒を含む。②普通。 ③灰褐7.5YR5/2	紐づくり。内外面回転にて調整。口縁部は大きく内湾し、肩は外湾して、端部は丸く肥厚する。	
135	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (20.0cm)	埋没土中	①微細砂・少量の小石を含む。②やや硬質。 ①硬砂5YR8/3	紐づくり。内外面(左)回転にて調整。口縁部は内湾し、端部は外面が肥厚する。	
130	須恵器 甕	底部破片 底 (25.8cm)	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②普通③黒褐7.5YR3/1	紐づくり。内外面丁寧な調整。端部外面はやや丸く肥厚する。	
129	土師器 羽釜	口縁部破片 口 (30.2cm)	埋没土中	①微細砂・赤色鉱物粒・雲母細片を含む。 ①やや軟質。 ②に赤い縺7.5YR6/3	紐づくり。外面にて調整。内面縦方向にて調整。口縁端部は外面に丸く肥厚する。	

52号清出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図62

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形・整 形 の 特 徴	備 考
134	須恵器 甕	口縁部～底部上 位破片 口 (35.0cm)	埋没土中	①細砂・小石を含む ②軟質。 ③灰白5Y8/1	紐づくり。外部外面平行叩き後、なで調整。内面同心 円状叩き後、なで調整。口縁部内外面横なで。端部は 外面にやや肥厚する。	
127 71	瓦 男瓦	1/5残存 厚 0.8cm	埋没土中	①黒色粒子を含む。 ②還元・硬質 ③灰オリープ5Y6/2	一枚作りか。凹面に寄木板。凸面には履位の抛削りを 施し、木目叩き整形後、縦位の撫で再整形。側面取 り1回。布目は6cmに40本。凸面に調査以後の欠損が ある。	伏間系 9Cか ある。
128 71	瓦 男瓦	破片 厚 1.7cm	埋没土中	①赤褐色粒子を含む。 ②還元・軟質 ③灰白7.5Y8/2	手載作り。凸面口クロ面。側面取り3回。布目は6 cmで39本。	伏間系

52号清出土遺物観察表《石器》 図62

番号 PL	器 種	大きさ・重 量	出土位置	石 質	形 状・調 整 加 工 の 特 徴	備 考
32 71	UF	長 4.5cm 幅 5.2cm 厚 1.2cm 重 29.7g	埋没土中	黒色頁岩	横長割片の両側縁を刃部として使用している。下端は欠損し ている。	全体にやや磨 減している。

52号清出土遺物観察表《金属器》 図62

番号 PL	器 種	残 存	出土位置	重 量	形 状・特 色・そ の 他	備 考
4 71	鉄洋		埋没土中	4.7g	約2.0×3.0×1.5cmの不定形である。表面には気泡状態 であったことがうかがえる。空気孔が認められる。礎 石にはほとんど反応しない。鉄分は少ないと思われる。	

53号清出土遺物観察表《陶器・磁器》 図64

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	胎 土	器 形・整 形・装 飾 の 特 徴	備 考
106	灰釉片口 鉢？ 陶器	口縁～底部 破片 口 (16.0cm)	埋没土中	灰白色	口縁部外面に浅い沈線が入る。口縁部に銅緑釉を流す。貫入 が入る。	瀬戸・美濃系 19C
194	内耳鍋 軟質陶器	口縁部～底部 破片 口 (32.2cm)	2D-63G 底面上7cm	にぶい赤褐色	器壁は厚く、口縁部は短い。内耳の取り付け痕が明瞭に残る。	在地製 14C後半

53号清出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図64

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形・整 形 の 特 徴	備 考
197 71	土師器 杯	口縁部～底部 2/3残存 口 11.6cm 高 4.0cm	埋没土中	①細砂・小石を含む。 ②やや硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面抛削り。内面にて調整。口縁部内外面横なで。 口縁部は横をもって大きく外反する。	

53号溝出土遺物観察表《土器・須恵器》 D964

番号 FL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
199	土師器 杯	口縁部一体部 破片 口 (14.0cm)	Z-63G 底面上8.3cm	①砂殻を含む。 ②軟質。 ③橙5YR6/8	体部外面施磨り。内面にて調整。口縁部横にて。口縁部は縦やかな稜をもって、短く内傾して立ち上がる。	
200	土師器 杯	口縁部一体部 破片 口 (19.0cm)	埋没土中	①砂殻を含むが、緻密な胎土である。②やや硬質。③橙5YR7/6	底部外面施磨り。内面にて調整。口縁部内外面横にて。口縁部は平らな体部から、縦やかな稜をもって大きく外反する。肩部は小さく外湧する。	
195	須恵器 杯	口縁部-底部 1/4残存 口 (11.2cm) 底 (5.2cm) 高 3.8cm	埋没土中	①微細砂・雲母細片を含む。 ②やや軟質。 ③浅黄橙7.5YR8/3	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り難し。無調整。体部・口縁部内外面回転にて調整。口縁端部は外反し、丸く肥厚する。	
196 71	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (19.0cm)	Z-63G 底面上1.4cm	①多量の細砂・雲母細片と少量の小石を含む。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	縦づくり。内外面右回転ロクロにて整形。	
198 71	瓦 女瓦	破片 厚 2.1cm	2D-63G 底面上4.0cm	①黒色粒子を含む。 ②遊元・焼締 ③灰10Y6/1	桶巻造り。凹面に1単位2cm程の寄木痕。凸面ロクロ面。頸部面取り1周。粘土板に接合痕があり、接合は“S”。布目は6cmで64本。	伏間系

53号溝出土遺物観察表《石器》 D964

番号 FL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
4 71	礫石	長 8.0cm 幅 4.5cm 厚 4.0cm 重 176.4g	埋没土中	礫沢石	小口に自然面が残る。使用面は5面ある。長軸方向に沿って左上から右下に擦痕が残る部分が多い。一面中央が凹状を呈す。所謂研磨減りがみられる。	1/2残存。
5 71	礫石	長 7.8cm 幅 4.8cm 厚 3.3cm 重 141.4g	埋没土中	牛伏砂岩	長軸に沿い、表裏面中央と一側面短軸方向に深い溝が切られその底面に凹凸がみられる。	
50 72	礫石	長 10.2cm 幅 5.6cm 厚 5.5cm 重 508.8g	埋没土中	ひん岩	上縁と側縁の一部に敲打痕がある。	1/2残存。下半欠損。
51 72	礫石	長 9.7cm 幅 5.2cm 厚 5.3cm 重 359.1g	埋没土中	石英閃緑岩	表面の中央部分のみ使用されている。	左右両側欠損。
52 71	軽石製品	長 6.9cm 幅 3.8cm 厚 3.4cm 重 56.8g	埋没土中	二ツ岳軽石	ノミ状工具による削り痕を残す。幅は約1.2cm。	
53 72	軽石製品	長 10.9cm 幅 7.1cm 厚 7.7cm 重 259.3g	埋没土中	二ツ岳軽石	ノミ状工具による削り痕が明瞭である。	

53号清出土遺物観察表（金属器） 図64

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	重量	形状・特色・その他	備考
3 72	不明	残りが多い。	埋没土中	0.6+αg	長さ1.7cm、直径0.5cmで中空である。両端は欠損。断面観察では方形に近い形状を呈すと思われる。	

54号清出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図65

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
142	土師器 罍	口縁部-底部 破片 口 15.3cm	埋没土中	①微細砂・玄母細片を 多量に含む。 ②普通。③準灰10R5/1	体部外面縦方向鹿削り。内面斜方向鹿なで。口縁部内外面横なで。口縁部は頸部から緩やかに、短く外反する。	

54号清出土遺物観察表（石器） 図66

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
33 72	礫石	長 7.1cm 幅 4.2cm 厚 1.2cm 重 79.6g	埋没土中	黒色片石	敲いたときに2枚に割れたものの一つ。側面に敲打痕が残る。	下縁欠損。

55号清出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図67

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
143	土師器 杯	口縁部破片 口 18.6cm	埋没土中	①細砂と少量の雲母を 含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	杯部-底部外面鹿削り。底部は丸底を呈すると考えられる。内面は丁寧なで調整。部分的に鹿磨きが施されている。口縁部内外面横なで。口縁部は弱く内湾する。	

56号清出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図70

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
157 72	土師器 杯	口縁部-底部 1/3残存 口 19.8cm 高 3.2cm	T-55G 底面上8.7cm	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③橙7.5YR7/6	底部外面鹿削り。内面なで調整。指頭圧痕が残る。口縁部内外面横なで。口縁部は緩をもって、短く外翻して立ち上がる。肩部は丸く仕上げられている。	
256 72	土師器 杯	口縁部-底部 1/2残存 口 11.3cm 高 3.8cm	S-51G 埋没土中	①細砂と少量の中砂を 含む。 ②やや軟質。 ③橙2.5YR7/6	底部外面鹿削り。内面丁寧なで調整。口縁部内外面横なで。口縁部は緩をもって外翻する。内面口縁部下位には指頭圧痕が残る。	
146 72	土師器 杯	ほぼ完成形 口 11.0cm 高 4.0cm	S-51G 底面上6.0cm	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	底部-体部外面鹿削り。内面なで調整。指頭圧痕が残る。口縁部内外面横なで。口縁部はやや膨らんだ体部からはほぼ直立し、肩部はやや外反している。	

56号湧出土物観察表（土師器・須恵器） 図70

番号 凡	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
158 72	土師器 杯	口縁部-体部 1/3残存 口 12.8cm 高 4.2cm	埋没土中	①細砂を含むが、緻密な胎土である。 ②硬質。 ③橙7.5YR7/6	底部外面削り。内面丁寧な調整。口縁部内外面横なで。口縁部は、縦やかな後をもって外傾して立ち上がり、端部はやや丸くなって外反する。	
162 72	土師器 杯	口縁部-底部 1/2残存 口 12.3cm 底 11.7cm 高 4.4cm	T-55G 底面上5.5cm	①小石・中砂・微細砂を含む。 ②軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	底部外面削り。体部外面削り後、なで調整。内面なで。口縁部内外面横なで。底部をやや平らにした杯形土器。口縁部は縦やかな後をもって、外傾して立ち上がり、端部は外反している。	
258 72	土師器 杯	口縁部-底部 1/2残存 口 13.1cm 高 4.4cm	埋没土中	①細砂・小石・赤色炭粉粒を含む。 ②やや硬質。 ③橙5YR6/6	体部-底部外面削り。内面なで調整。口縁部内外面横なで。口縁部は丸い体部から、縦やかな後をもってつけられている。端部はやや内湾する。	
152 72	土師器 杯	口縁部-体部 1/2残存 口 11.3cm 高 2.7cm	埋没土中	①細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR7/4	底部外面削り。内面丁寧な調整。口縁部内外面横なで。口縁部は後をもって外傾して立ち上がる。端部はやや丸く仕上げられている。	
154 72	土師器 杯	口縁部-底部 2/3残存 口 10.4cm 高 3.9cm	U-58G 底面上5.5cm	①微細砂・ごく少量の小石を含むが、緻密な胎土である。 ②硬質。 ③橙5YR6/8	底部外面削り。内面なで調整。指頭圧痕が残る。口縁部内外面横なで。口縁部は縦やかな後をもって外反し、端部は丸く肥厚し、やや内湾する。	
147 72	土師器 杯	口縁部-体部 1/3残存 口 11.8cm 高 4.1cm	U-57G 底面上20.7cm	①細砂を含むが、緻密な胎土である。 ②硬質。 ③橙2.5YR7/6	底部外面削り方向削り後、なで調整。内面丁寧な調整。口縁部内外面横なで。口縁部は器高中位で、後をもって外反して立ち上がる。	
156 72	土師器 杯	口縁部-底部 1/3残存 口 11.7cm 高 3.5cm	U-57G 底面上16.5cm	①細砂・微細砂を多く含む。 ②やや硬質。 ③橙2.5YR7/6	底部外面削り。内面丁寧な調整。指頭圧痕が残る。口縁部内外面横なで。浅い杯部から、口縁部は後をもって大きく外反して立ち上がる。中位には整形痕があり凹線を巡らす。	
148 72	土師器 杯	口縁部-底部 3/4残存 口 11.4cm 高 3.9cm	S-50G 底面上9.0cm	①微細砂を含むが、緻密な胎土である。 ②やや軟質。 ③橙2.5YR6/8	底部外面削り後、なで。内面なで調整。指頭圧痕が残る。口縁部内外面横なで。口縁部は後をもって、外傾して立ち上がる。	
150 72	土師器 杯	口縁部1/2欠損 1/2残存 口 11.2cm 高 3.0cm	S-51G 埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	底部外面削り。内面なで調整。口縁部内外面横なで。口縁部は縦やかな後をもって、やや反傾して立ち上がる。端部は丸く肥厚し、外反する。底部は平らに仕上げられている。	
153 72	土師器 杯	口縁部-体部 1/2残存 口 11.0cm 高 2.9cm	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②やや硬質。 ③橙2.5YR6/8	底部外面削り。内面なで調整。口縁部横なで。口縁部は縦やかに、短く内湾する。	
149 72	土師器 杯	口縁部-底部 2/3残存 口 10.0cm 高 3.5cm	S-52G 底面上7.0cm	①細砂・微細砂を多量に含む。 ②やや硬質。 ③橙5YR6/6	底部削り。内面丁寧な調整。口縁部内外面横なで。口縁部は縦やかに、短く内湾する。	

56号溝出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図70

番号 以	器種	残存 方法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
151 72	土師器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 (13.0cm) 高 3.4cm	埋没土中	①細砂・黒炭粒を多く含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	底部～体部外面削り、内面まで調整。口縁部内外面横なで。口縁部は短く、内湾する。	
165	土師器 杯	口縁部～体部下 位破片 口 (13.3cm)	T-55G 底面上10.3cm	①微細砂・雲母片・赤 色炭粒を含む。 ②やや軟質。 ③明赤相2.5YR5/6	体部外面削り後、なで調整。内面なで。口縁部内外 面横なで。体部下位は器壁が厚く、口縁部は丸く内湾 して、短くつくられている。	
159 72	土師器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 14.5cm 高 4.5cm	埋没土中	①微細砂・石英と少量 の小石を含む。 ②やや軟質。 ③橙7.5YR6/8	体部～底部外面削り後、横方向なで。内面まで調 整。口縁部内外面横なで。口縁部は丸く、深めの体部 から縁やかな稜をもって、縁短く内傾して立ち上がる。	
155 72	土師器 杯	口縁部～底部 2/3残存 口 14.0cm 高 3.9cm	T-56G 底面上4.2cm	①細砂・雲母片を多く 含む。 ②普通。 ③にぶい橙5YR6/4	底部外面削り。内面丁寧なで調整。口縁部内外面 横なで調整。口縁部は縁やかな稜をもって内傾して短 く立ち上がる。	
145	土師器 杯	口縁部～体部 破片 口 (20.5cm)	埋没土中	①細砂を含む。 ②普通。 ③明赤相5YR5/8	体部外面横方向削り。内面丁寧なで調整。口縁部 内外面横なで。口縁部は縁やかな稜をもって、内傾し て短く立ち上がる。大形の杯形土器である。	
181 72	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (15.5cm) 高 5.7cm	T-56G 底面上38.0cm	①微細砂と少量の小石 を含む。 ②普通 ③橙5YR6/6	体部～底部外面削り後、部分的に縦方向・横方向 なで。内面まで調整。口縁部内外面横なで。口縁部は 丸く、深めの体部から縁やかな稜をもって、縁短く内 傾して立ち上がる。	
257 72	土師器 杯	口縁部～底部 破片 口 (14.3cm)	埋没土中	①微細砂・黒色炭粒を 多く含む。②硬質 ③にぶい橙7.5YR7/3	体部外面削り後、なで調整。内面丁寧なで調整。 口縁部は丸く、内湾している。深めの杯形土器である。	
255 72	土師器 鉢	口縁部～体部 破片 口 (15.7cm)	U-58G 底面上9.0cm	①微細砂・中砂を含む が、軟質な胎土である。 ②硬質。③橙5YR6/8	体部外面横方向削り。内面丁寧なで調整。口縁部 内外面横なで。口縁部は幅広で、稜をもって外傾して 立ち上がり、踵部はやや肥厚している。	
169	須恵器 盤	口縁部～底部 破片 口 (21.8cm) 高 2.4cm	埋没土中	①細砂を含む。 ②普通。 ③灰N6/	縁づくり。底部外面手持ち削り。内面及び体部外面 回転で調整。	
168 72	須恵器 蓋	口縁部～底部 1/2残存 口 (11.2cm) 天 5.8cm 高 3.4cm	U-58G 底面上15.3cm	①微細砂を多量に含む。 ②普通。 ③灰N4/	右回転口クロ整形。整形は回転糸切り難し。後、周縁 のみ、手持ち削り調整。蓋部外面、及び内面回転な で。蓋部下半が凹められ、口縁部が内湾するかのよう な印象を与える。	
170 72	須恵器 壺	体部1/3残存 胴 18.0cm	T-57G 底面上22.5cm	①細砂・黒色炭粒物を 含む。②普通。 ③灰10Y5/1	縁づくり。体部回転で整形。肩部外面には二条の沈 線が走り、それより上位はカキ目調整。体部外面下半 にもカキ目調整。	肩部の一部に 自然釉。
171 72	須恵器 壺	体部～底部 1/3残存 底 6.0cm	T-54G 底面上5.5cm	①砂粒・黒色炭粒物を 多く含む。 ②硬質。③灰10Y6/1	縁づくり。外面体部下～底部は手持ち削りなで。上半 回転口クロ使用のカキ目調整。	体部内面の一 部と外面上半 に自然釉。

56号清出土遺物観察表（土師器・須恵器） B070

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
254 72	土師器 小形器台	器受部のみ残存 口 9.1cm	S-52G 底面下7.0cm	①微細砂・雲母細片を 含む。②普通。 ③にぶい黄緑10YR7/3	内外面ともで調整。器受部の小孔はやや中央からず れている。	
160 72	土師器 壺	口縁部一底部上 位1/2残存 口 14.0cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②焼質。 ③橙5YR6/6	体部外面縦方向彫削り。内面丁寧なで調整。口縁部 内外面横なで。口縁部はかすかな後をもって、ほぼ直 立して立ち上がる。肩部はやや外反し、外面は丸く肥 厚する。	
164 72	土師器 鉢	口縁部一底部 1/3残存 口 (25.3cm) 底 (6.8cm) 高 8.3cm	T-54G 底面上2.0cm	①微細砂を多量に含む。 ②普通。 ③褐灰10YR4/1	体部外面斜方向彫削り。内面斜方向なで。底部外面 彫削り。口縁部内外面横なで調整。口縁部は大きく開 き、肩部はやや外反する。	
163 73	土師器 甌	口縁部一底部 1/3残存 口 (15.5cm)	T-55G 底面上5.0cm	①砂粒・微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR7/3	体部外面斜方向彫削り後、横方向なで。内面なで調 整。口縁部横なで。底部は欠損しているが、器形と内 面整形から甌と判断した。	
167	埴輪 円筒埴輪	胴部破片	埋没土中	①細砂を含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	外面縦方向刷毛目整形(8本/1cm)。内面縦方向彫削 り。突帯は断面台形を呈し、比較的しっかりしている。 突帯上方には、焼成前、外面からの円形通し孔が穿た れている。	
168 73	埴輪	胴部破片	埋没土中	①細砂を含む。 ②軟質。 ③橙2.5YR6/8	外面縦方向刷毛目整形。表面の磨耗が激しい。突帯は 丸い。内面は指なで。	朝顔型の上位

56号清出土遺物観察表（石器） B071

番号 PL	器種	大きさ・重 量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
3 73	砥石	長 12.5cm 幅 5.2cm 厚 6.4cm 重 856.2g	U-58G 底上2.0cm	粗粒安山岩	表面と小口一面は扁平である。他面には自然面の凹凸が残る。	定形。
6 73	磨石礫石	長 7.3cm 幅 8.0cm 厚 5.4cm 重 459.1g	S-52G 埋没土中	粗粒安山岩	周辺部敲打。両面使用により若干磨減。	1/2残存。下 半欠損。全体 に焼けている。
7 73	磨石	長 18.7cm 幅 11.0cm 厚 8.1cm 重2900.0g	T-57G 底上9.0cm	粗粒安山岩	片面のみ、やや光沢をもつ。使用によるものと思われる。	定形。若干焼 けている。
8 73	磨石	長 4.8cm 幅 7.9cm 厚 8.0cm 重 345.4g	S-52G 埋没土中	雲母石英片 岩	上端面が滑らかとなっている。焼けているものと思われる。	下半部埋没で 欠損。
9 73	磨石礫石	長 6.9cm 幅 7.0cm 厚 4.9cm 重 749.1g	U-57G 底面直上	粗粒安山岩	表面の一部が磨かれている。小口一面にはわずかに敲打痕が 残る。	定形。
34 73	打製石斧	長 4.6cm 幅 6.5cm 厚 1.1cm 重 35.7g	埋没土中	砂岩	平担であり、あまり身は反らない。表面側に磨減面(使用痕) が認められる。	頭部のみ残存。 胴部以下欠損。

57号溝出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図73

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
144	土師器 杯	口縁部破片 口 (11.3cm)	埋没土中	①砂粒を少量含むが、 緻密な胎土である。 ②硬質。③橙7.5YR7/6	底部外面直削り。杯部内面丁寧なで調整。口縁部内 外面横なで。口縁部と杯部の境の境から、口縁部は外 反する。口縁端部は外へ、つままれている。	

57号溝出土遺物観察表（石器） 図73

番号 PL	器 種	大きさ・重 量	出土位置	石 質	形状・調整加工の特徴	備 考
35 73	磨石磨石	長 13.0cm 幅 7.1cm 厚 4.5cm 重 731.7g	埋没土中	溶結凝灰岩	側面に鋭い縁刃を備えたような敲打痕がある。表面及び両 側面に光沢痕が認められるが、縁状痕の方向は不明である。	完形。
36 73	軽石製品	長 5.9cm 幅 3.7cm 厚 3.5cm 重 40.2g	埋没土中	二ツ岳軽石	のみ状工具による削り痕がある。	正面左側に新 しい傷痕あり。
37 73	軽石製品	長 12.0cm 幅 8.1cm 厚 5.3cm 重 256.8g	埋没土中	二ツ岳軽石	主に表面側に、のみ状工具による削り痕及び刃ならし痕を残 す。	
38 73	軽石製品	長 6.2cm 幅 5.6cm 厚 5.5cm 重 106.8g	埋没土中	二ツ岳軽石	のみ状工具で削り込んだ痕が良く残る。	

58号溝出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図74

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
174 74	土師器 杯	口縁部～底部 4/5残存 口 (10.4cm) 底 丸底 高 3.1cm	埋没土中	①細砂・石英・雲母細 片を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	杯部外面直削り。杯部内面丁寧なで調整。一部に、 指節圧痕が残る。口縁部内外面横なで。短く、やや外 反して立ち上がる口縁は、丸くつくられている。	
172 74	須恵器 合付蓋	脚部残存 底 10.2cm	S-50G 底面上9.0cm	①微細砂・黒色鉱物細 粒を含む。②硬質。 ③灰5YR6/1	回転クワロ整形。脚部中に凹溝が一周走り、その下 位に7本溝歯の波状文が地えられている。溝部は横と沈 溝に面された面取りがされている。	

58号溝出土遺物観察表（石器） 図75

番号 PL	器 種	大きさ・重 量	出土位置	石 質	形状・調整加工の特徴	備 考
39 74	軽石製品	長 5.5cm 幅 3.2cm 厚 2.8cm 重 20.5g	埋没土中	二ツ岳軽石	表面に削り痕及び刃ならし痕がある。	部分破片。
40 74	UF	長 3.8cm 幅 4.5cm 厚 1.2cm 重 15.3g	埋没土中	埴質頁岩	横長削片の鋭い部分を使用している。打面は割断面。	右上一部欠損。
41 74	燧石	長 11.8cm 幅 6.1cm 厚 5.4cm 重 547.4g	埋没土中	粗粒安山岩	下端は鋭いたときに欠損したものである。側面から表面にか けて敲打痕がある。	
42 74	軽石製品	長 8.5cm 幅 8.1cm 厚 7.1cm 重 220.3g	埋没土中	二ツ岳軽石	のみ状工具による削り痕及び刃ならし痕がある。	

58号溝出土遺物観察表 (石器) 0075

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
289 74	磨製石鏃	長 3.3cm 幅 1.7cm 厚 0.3cm 重 1.7g	溝底栗色粘 土中	地質頁岩	薄い板状割片を素材とし、周辺部を研磨して形態を整えているものであり、表裏両面はあまり磨られてはいない。基部の穴は両側穿孔。	定形。石材は板状に割がれやすく、かなり軟質である。

59号溝出土遺物観察表 (土師器・須恵器) 0076

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
259 74	土師器 杯	口縁部・底部一 部欠損 口 12.7cm 高 4.0cm	T-45 G 埋設土中	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③橙2.5YR7/6	底部外面彫削り。杯部内面丁寧な調整。口縁部は縦やかな稜をもって杯部から外反して立ち上がる。口縁部内外面横なで。口縁部外面中に凹線を入れる。	器形に歪み。
260 74	土師器 杯	ほぼ定形 口 10.7cm 高 3.6cm	T-53・54 G 埋設土中	①細砂を含むが、顕著な胎土である。②やや硬質。③橙3YR6/8	底部外面彫削り。杯部内面丁寧な磨き。口縁部は、稜をもって底部からやや外反して立ち上がる。口縁部内外面横なで。	
176 74	須恵器 杯	口縁部・底部 1/5残存 口 (10.6cm) 底 (6.7cm) 高 3.0cm	埋設土中	①微細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③規尺5YR6/1	右回転ロクロ整形。底部切り離し技法不明。底部切り離し後、蓋なで。杯部内外面回転なで調整。	

61号溝出土遺物観察表 (土師器・須恵器) 0081

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
178 74	土師器 杯	ほぼ定形 口 10.9cm 高 3.5cm	Q-51 G 底面上9.5cm	①細砂・雲母薄片を含む。②やや硬質。 ③橙3YR6/6	底部外面彫削り。内面なで。口縁部横なで。口縁部は縦やかな稜をもって立ち上がり、端部がやや外反する。	
181 74	土師器 杯	口縁部・底部 1/4残存 口 (11.4cm)	埋設土中	①中砂・細砂を含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙5YR7/4	底部外面彫削り。内面なで。口縁部内外面横なで。底部は丸底を呈し、口縁部は、鋭い稜をもって外反する。口縁端部は丸く仕上げられている。	
179 74	土師器 杯	口縁部・底部 1/4残存 口 (11.6cm) 高 3.8cm	埋設土中	①小石・礫を多く含むが、顕著な胎土である。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	底部外面彫削り。内面なで。口縁部内外面横なで。口縁部は縦やかに直立する。底部は平らに仕上げられている。	
180 74	土師器 杯	口縁部・底部 1/3残存 口 (10.5cm) 高 3.7cm	埋設土中	①細砂・石英粒を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR6/4	底部外面彫削り。内面なで調整。丸底を呈する。口縁部内外面横なで。口縁端部は内湾し、小さく仕上げられている。	
1035	土師器 杯	口縁部・底部 破片 口 (17.0cm) 高 5.9cm	Q-51 G 埋設土中	①砂粒・細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③橙3YR6/6	体部・底部外面横方向彫削り。上半のみ滑なで調整。内面丁寧なで調整。口縁部内外面横なで。大型の杯型土器。口縁端部は小さく内湾し、内面端部は玉縁状に肥厚する。	
206	須恵器 瓶	肩部破片	埋設土中	①微細砂を含む。②やや軟質。③灰白8YR/1	紐づくり後、右回転ロクロ整形。肩部に二葉の沈線が付されている。	

61号溝出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図81

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
207 75	須恵器 壺	口縁部一部份 口 27.0cm	O-46G 底面上41.0cm	①細砂を含む。 ②軟質。 ③灰白10Y8/1	紐づくり後、内面同心円状。外面平行円錐形。口縁部から体部上半回転まで調整。	
205 75	須恵器 壺	ほぼ定形 口 11.0cm 底 9.5cm 高 16.3cm	F-46G 底面上29.0cm	①細砂を含む。 ②硬質。 ③灰10Y5/1	紐づくり後、内面にて調整。外面回転にて調整。体部下位には回転連閉り痕が残る。付台高。肩部には一条の凹線が走る。底部に不定形な孔がある。意図的な穿孔かどうか不明。	口縁部内面および体部上半に自然軸
177 75	須恵器 羽釜	口縁部一部份 破片 口 20.0cm	O-46G 底面上40.5cm	①小石・細砂・雲母を含む。②酸化焙焼成。 ③にぶい酸7.5YR7/4	紐づくり後、右回転ロクロ整形。肩部端部は内湾し、丸くなる。口縁部は内面が丸く肥厚する。	

61号溝出土遺物観察表〈石器〉 図81

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
31 75	軽石	長 49.2cm 幅 16.0cm 厚 15.0cm 重 11.2kg	F-46G 底上39.5cm	角閃石安山 岩	四角柱を呈する。下縁は欠いたままであるが、他の面は幅3cmのノミによって丁寧に削り込まれている。	

66号溝出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図83

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
204	土師器 杯	口縁部一部份 1/5残存 口 (7.0cm)	Y-62G 底上11.0cm	①砂粒・細砂を含む。 ②やや硬質。 ③橙5YR6/8	杯部外面から内面まで調整。粘土層の痕跡が残る。内面丁寧に調整。口縁部内外面横にて調整。	
202 75	須恵器 壺	口縁部一部份 1/4残存 口 (18.6cm) 高 4.6cm	埋没土中	①小石・砂粒・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰5Y5/1	右回転ロクロ整形。底部切り離し技法不明。底部切り離し後、回転連閉り。体部内外面回転にて調整。	
201	土師器 壺	口縁部破片 口 (20.2cm)	埋没土中	①細砂・石英を多量に含む。②普通。 ③にぶい酸7.5YR7/4	体部上位外面斜方向連閉り。内面横方向にて調整。口縁部内外面横にて調整。最大径を口縁部にもつ壺と思われる。口縁部内面には、整形によるわずかな凹線がみられる。	

66号溝出土遺物観察表〈石器〉 図83

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
10 75	軽石製品	長 10.1cm 幅 6.5cm 厚 4.5cm 重 184.4g	Y-62G 底上5.0cm	二ツ岳軽石	表面に閉り痕がある。刃ならし痕も認められる。砥石の可能性もある。	定形
43 75	R F	長 3.2cm 幅 2.0cm 厚 0.7cm 重 5.9g	埋没土中	頁岩	横長割片であり、上端からの数回の調整割離が認められる。	

69号清出土遺物観察表 (土師器・須恵器) 図85

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
186	須恵器 甕	体部破片	K-35G 底面上7.0cm	①細砂・黒色鉱物細粒を含む。②普通。 ③灰白7.5Y8/1	楕づくり。内面に同心円状の乱れたあて具痕が残っていることから、叩き整形と思われる。外面には叩き目は残っていないが、縁方向のなで調整が施されている。	甕体付着
185	須恵器 甕	体部破片	K-35G 底面上7.0cm	①白色鉱物粒・黒色鉱物粒を含む。②硬質。 ③灰白2.5Y7/1	外面縁方向細かいヤキ目。内面同心円状。自然輪。叩き目調整。	

70号清出土遺物観察表 (土師器・須恵器) 図86

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
193 75	土師器 杯	ほぼ完形 口 12.8cm 底 丸底 高 3.3cm	O-46G 底面上14.0cm	①微細砂・雲母細片を含む。 ②普通。 ③燈7.5Y8/6	底部外面荒削り後、なで調整。削り面の痕跡が残り、ゴツゴツしている。内面なで。指頭圧痕が顕著に残る。口縁部は後をもって、短く内傾きみに立ち上がる。底部はやや外反する。	
192 75	土師器 杯	口縁部-底部 1/4残存 口 (16.3cm) 高 5.6cm	O-46G 底面上7.0cm	①細砂・雲母細片を含む。 ②普通。 ③燈5Y8/6	底部外面荒削り。内面縁方向なで調整。口縁部内外面横なで。丸く、深めの杯で、口縁部は横やかな後をもって、極短く内傾して立ち上がる。	
251 252 75	土師器 杯	口縁部-体部 破片 口 (13.2cm) 高 4.5cm	O-46G 底面上18.0cm	①細砂・雲母片を含む。 ②硬質。 ③燈7.5Y8/6	底部外面荒削り。内面縁方向丁寧なで調整。口縁部内外面横なで。口縁部は強く折り曲げられるように内湾している。平面形型がやや歪んで、構内型を呈する。	

71号清出土遺物観察表 (土師器・須恵器) 図89

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
187	土師器 杯	口縁部-体部 破片 口 (13.0cm)	埋没土中	①細砂を少量含む。 ②硬質。 ③明赤陶2.5YR5/6	底部外面なで。内面丁寧な横方向なで調整。口縁部内外面横なで。	

73号清出土遺物観察表 (土師器・須恵器) 図91

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
188	須恵器 高台付椀	体部-高台部 破片 底 (7.6cm)	埋没土中	①細砂を少量含む。 ②酸化焙焼成。やや軟質。 ③淡黄燈10YR8/3	右(?)回転ロクロ整形。底部回転糸切り履し。付高台。高台接合部なで調整。椀部内面回転なで。	

74号清出土遺物観察表 (陶器・磁器) 図92

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
191 75	灰輪鉢 陶器	体部-底部 1/5残存 底 9.0cm	埋没土中	灰白色	外面はヘラケズリ。高台脇以下無釉。	瀬戸・美濃系 18-19C

74号清出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 B92

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
265	須恵器 甕	体部一端部 破片 口 (22.6cm)	埋没土中	①細砂・黒色鉱物粒を 含む。②やや軟質。 ③灰白N7/	右回転ロクロ整形。天井部外面回転削り。肩部から 内面回転などで調整。カエリは断面三角形を呈し、端部 は丸く仕上げられている。	
190 75	土師器 羽釜	口縁部一体部 破片 口 21.0cm	埋没土中	①濃細砂・中砂・雲母 片を含む。②やや軟質 ③浅黄橙10YR4/1	結びくり後、体部外面横方向削り。肩部接合部などで 調整。体部内面横まで。口縁部内外面横まで。	
189 75	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (16.4cm)	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②濃化暗焼成。 ③浅黄橙10YR5/3	結びくり後、内外面右回転ロクロ整形。口縁部は大き く内湾し、体部は丸くなる。	

76号清出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 B94

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
227 75	土師器 杯	口縁部一体部 1/5残存 口 (14.0cm) 底 (10.5cm) 高 3.0cm	埋没土中	①細砂を含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	底部外面削り。体部外面削りなどで調整。内面まで。 底部内面には細頸圧痕が残る。口縁部横まで。口縁部 は、一度、かるい様をもって外反するが、すぐ基部は 内湾し、小さく仕上げられている。平底の杯。	
226	土師器 杯	口縁部一体部 1/5残存 口 (13.2cm)	埋没土中	①濃細砂を含む。 ②硬質。 ③橙5YR7/5	底部外面削り。体部内面などで調整。口縁部内外面横 まで。	

76号清出土遺物観察表〈石器〉 B94

番号 PL	器種	大きさ・重 量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
14 75	軽石製品	長 12.2cm 幅 14.7cm 厚 9.8cm 重1172.9g	M-44G 成面直上	ニッ歯軽石	刃ならし痕、削り出がある。幅は11.5cmから2cmほどである。	完形。

24号清出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 B98

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
98 76	土師器 杯	口縁部一部欠損 口 12.0cm 高 5.7cm	K-26G 底面上7.6cm	①細砂・赤色鉱物粒を 含む。②普通。 ③橙7.5YR7/6	体部外面削り後、上半部横方向・斜方向の丁寧な洗 磨き。内面丁寧な調整後、やや複雑な斜方向の削 りが施されている。口縁部内外面横まで。口縁部は横 やかに短く外反する。端部は丸く仕上げられている。	
99 76	土師器 鉢	口縁部一体部下 位1/4残存 口 14.0cm	K-27G 底面上8.0cm	①小石・細砂を多量に 含む。②やや軟質。 ③橙5YR6/6	体部外面横方向削り。内面横方向まで。口縁部内外 面横まで。口縁部は横鋭く外反する。	
100 76	土師器 甕	口縁部一部 1/4残存 口 (16.0cm)	K-27G 底面上8.0cm	①小石・細砂・赤色鉱 物粒を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR6/4	胴部外面斜方向削り。内面斜方向まで。口縁部一 部内外面横まで。くの字に開く口縁部は、端部でや や外反する。胴部は丸く、中位よりやや上方に最大径 をもつと思われる。	

24号溝出土遺物観察表(木器) 図98

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
643 76	丸杖	36.7+*×5.0φ	K-25G 底面下40cm	芯持 スギ	先端部欠損	先端部分は劣化している。側部は平用である。節部は良く残る。杖を払ってあり、節が明瞭に残る。	
644 76	杖	45.0×5.0×3.3	K-28G 底面下13cm	分割材 カヤ	先端部欠損	分割材で節部の一部を削り、平用をつくる。先端部は鋭く尖らせてある。	

善勝寺遺出土遺物観察表(陶器・磁器) 図99

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	胎土	器形・整形・施物の特徴	備考
210 76	染付火入れ 磁器	口縁部一底部 1/4残存 口 10.0cm	埋没土中	白色	外面の文様は型紙刷り。内面無軸。口縁部上面に使用による敲打痕。	瀬戸・美濃系か 明治後期
208 76	瓶 磁器	体部～底部 1/2残存 底 6.7cm	埋没土中	白色	外面の文様は銅版転写。2箇所転写紙の合わせ目。高台端部無軸。内面無文。	伊万里系? 明治後期～大正
214 76	飯碗 磁器	口縁部一底部 1/3残存 口 11.0cm 底 4.0cm 高 4.8cm	埋没土中	白色	高台は小さい。体部は内凹。内外面の文様は型紙刷り。	瀬戸・美濃系 明治後期
209 76	染付皿 磁器	口縁部一底部 1/4残存 口 11.1cm 底 6.1cm 高 2.7cm	埋没土中	白色	打型成形で蓋や飛雲を浮き出させ、低い部分に溝みを入れる。口縁部は口縁。	伊万里系 19C中頃
213 76	神井 陶器	口縁部 破片 口 17.4cm	埋没土中	灰色	口縁部は内轆し玉轆状。	益子・笠間系 明治後期～大正
211 76	燈明團受 皿 陶器	口縁部一底部 1/2残存 口 9.2cm 底 4.1cm 高 2.0cm	埋没土中	観察不可	外面は口縁部下までヘラケズリ。全面に錆物を施した後、外面口縁部以下の轆を拭い取る。	瀬戸・美濃系 19C

77号溝出土遺物観察表(弥生土器) 図101

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
220 76	蓋	積み部分 口 5.0cm	Q-47G 底面下5.0cm	①白色磁物を多量 に含む②やや鈍い ③黒黒SYR3/1	積み部分のみ存在。内面を凹ませている。器内は蓋との接合部が厚い。外面は縦方向に整形。		
218 76	壺	口縁部残存	Q-47G 底面直上	①白色磁物・常母 を含む②良好③に ぶい黄褐色10YR7/3	口縁部は直線的に外反する。外面は縦方向、内面は横方向に整形が行われている。		内面に有機質が付着。

77号清出土遺物観察表（弥生土器） 図101

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
225 76	壺	1/4欠損 口 19.5cm 頸 17.4cm 胴 22.9cm 底 8.3cm 高 33.0cm	P-51G 底面上12.0cm	①白色・夾雜磁物を含む。 ②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4	胴部は丸みを持ち、口縁部はわずかに外反し、立ち上がる。口縁端部はわずかに立つ。外面は縦方向、内面は横方向に走りき痕を残す。	口縁端部に1単位、肩部に2単位の柳葉波状文を施文。頸部には9条1単位の2通止左廻りの縷状文が施文されている。	
223 76	壺	体部破片	Q-53G 底面上18.5cm	①白色磁物・雲母を含む②やや細かい ③にぶい黄橙10YR7/3	体部から頸部にかけての破片。外面は縦、内面は横方向の器面調整。	頸部には7条1単位の柳葉波状文が5段とボタン状貼付文があり、円形刺突文を7個確認。	
224 76	壺	頸部破片	埋没土中	①夾雜磁物を含む。 ②良好③にぶい黄橙10YR6/3	頸部内面は横方向の整形。	頸部は右廻りの縷状文。肩部は柳葉波状文を施文。	
222 76	壺	口縁部破片	埋没土中	①白色磁物・小礫を多量に含む②良好③橙5YR6/6	口縁部は折り返し口縁である。外面は縦方向、内面は横方向に器面調整。	折り返し口縁外面に斜方向の比線がある。	

77号清出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図101

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
219	土師器 高杯	杯部破片 口 (13.2cm)	埋没土中	①細砂・雲母片を多く含むが、緻密な胎土である。②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	杯部外面縦方向走り後、縦方向走りき。内面丁寧な調整。口縁部内外面横なで。肩部内面には幅4mmの面取りがされている。杯部は丸く、腹の大きく開く脚部が付くと思われる。	
217 76	土師器 埴	口縁部一体部 口 9.2cm	埋没土中	①細砂・石英を含む。 ②硬質。 ③橙5YR7/6	体部外面縦方向走り。口縁部内外面なで調整。体部内面縦方向指押さへ。頸部外面なで調整のあと口縁部内外面および体部外面上半に細かい走りき調整。口縁端部は内湾する。	
221 76	土師器 台付壺	脚部2/3残存 底 10.8cm	Q-47G 底面上5.0cm	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR3/6	脚部外面刷毛目(7本/1cm)整形の底、指なで調整。内面横方向走りりの後、縦方向指なで。	
212 76	土師器 台付壺	脚部残存 底 9.9cm	Q-68G 底面直上	①細砂を含む。②やや硬質。 ③灰黄橙2.5YR6/2	脚部外面斜方向刷毛目(10本/1cm)整形。内面縦方向指なで。	
215 76	土師器 小形器台	口縁部・台部一部欠損 口 (7.6cm) 底 (12.0cm) 高 8.0cm	Q-47G 底面直上	①細砂・石英粒を多く含む。 ②普通。 ③にぶい橙7.5YR7/4	器台外面縦方向刷毛目整形。上半部から、器台部内外面横なで。口縁端部は外反する。器台部内面縦方向走りり。基部内外面横なで。器台部中央には、焼成前の三孔が穿たれている。	
216 76	土師器 小形器台	脚部上半残存	Q-49G W162の上	①砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③灰黄橙10YR5/2	脚部外面縦方向走りき。内面走りり、指なでの後、横方向指なで。	
732	土製器 管玉	ほぼ完形 幅 0.9cm 長 2.4cm 重 131.0g	底面上 砂利層	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	手捏ね成形。外面なで調整。	

77号溝出土遺物観察表(石器) 図101・102

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
11 77	敲石	長 11.4cm 幅 7.0cm 厚 5.4cm 重 709.7g	埋没土中	石英閃緑岩	端部に敲打痕がある。裏面は若干滑らかであり、使用の可能性が認められる。	下半欠損。表面に煤が付着
13 77	磨石礫石	長 13.2cm 幅 9.6cm 厚 6.9cm 重 1109.9g	埋没土中	粗粒安山岩	表面頂部に敲打痕がある。裏面に磨り面がある。	下半及び右側面上半欠損。
24 77	削片	長 3.6cm 幅 2.7cm 厚 1.0cm 重 6.6g	埋没土中	頁岩	左端は削片の剥離時に割れたもの。使用痕はない。打面は剥離面。	
25 77	削片	長 4.0cm 幅 4.0cm 厚 1.2cm 重 11.3g	埋没土中	頁岩	石斧、もしくは石槌の調整の際の調整削片。打面は剥離面(2回以上の打撃により剥離されたものであり、裏面右側にも打点がある)。	
48 77	敲石	長 8.7cm 幅 7.3cm 厚 4.3cm 重 359.9g	埋没土中	粗粒安山岩	側面及び裏面中央に敲打痕を残す。表面には刃ならし痕状の細長い傷が認められる。	完形。
12 77	磨石	長 16.0cm 幅 7.0cm 厚 7.2cm 重 1026.0g	埋没土中	粗粒安山岩	石質は多孔質。表面に磨痕、側面に敲打痕を残す。裏面には凹がある。古石として利用したものか。	部分破片。
49 77	磨石	長 16.8cm 幅 10.5cm 厚 9.0cm 重 2080.0g	埋没土中	粗粒安山岩	表面及び側面に磨面を残す。裏面は強く深い楕状痕を残す。	全体に剥剝が顕著。
288 77	管玉	長 5.0cm 幅 1.1cm 厚 1.3cm 重 13.6g	底面直上	蛇紋岩	断面はやや楕円形を呈する。両側穿孔。上下両端の穴はブレによりやや楕円形を呈する。上下両端ともよく磨り出し、光沢を出している。	

77号出土遺物観察表(木器) 図103

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
203 78	糸巻	18.5×9.0×8.3	Q-49G 底上18.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ類	完形	樹皮が残る。中央の切り込みはV字形を呈す。両端部は両縁部から切断に入る。	
18 78	糸巻	14.6×8.4×8.4	Q-49G 底上16.0cm	芯持 エノキ属	完形	表皮が残る。両端部は両側から面取りを行い、中央凹部はV字に切り込む。	
15 78	くさび	7.3×6.3×3.2	P-50G 埋没土中	椴目 サカキ	完形	下端部を二方向から斜めに切り落とし、鋭く尖らす。上端部は平坦部をつくる。	
42 78	くさび	9.4×3.9×3.3	P-51G 底面直上	椴目 コナラ属 コナラ亜属 コナラ類	完形	四角に削り、一端部は平面、他端部は斜方向に面を落す。一面が尖化している。	
65 78	くさび	9.7×8.3×2.6	P-51G 底面直上	椴目 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ類	完形	刃部は二面から切り出す。頭部は平坦を呈す。	

77号溝出土遺物観察表(木器) 00103-106

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
162a 78	くさび	48.4×5.1×3.6	Q-49-50G 底上18.0cm	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	先端部分は二面から削り出される。頭部は両面から面取りが行われる。	
142 78	くさび	23.9×5.3×3.0	Q-48-49G 底上15.0cm	榎目 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形	先端部は二面から尖らせる。頭部は切り込みを入れた後、ねじり切る。表面には削り痕が残る。	
23 78	くさび	17.4×13.3×8.0	F-51G 底上4.0cm	割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	先端部は二面から45~60°角で尖らせる。表裏面には挟みつけられたような幅1.0cm、深さ0.3cmほどの溝状の痕が数本残る。	
12 78	くさび	14.9×7.5×4.5	Q-49G 底上13.0cm	割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形?	表面は全体に磨耗度が高い。表面側面には僅かな溝が斜方向に切られ、頭部は底かれて凹形である。	
63 78	容器	41.7+ ϕ ×5.6+ ϕ ×3.0 容器の底 約1.5cm	F-50G 底上22.0cm	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端・片側 端部欠損	方形の容器と推測できる。中央に挟り部分があり、深さは約1.0cmである。	
21 78	くさび?	25.0×13.8×13.8	Q-48G 底上14.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形	両端部は二方向から尖らせる。両側部は面取りを行う。	
349 78	建築材	175.0+ ϕ ×12.0×12.0 枅穴の長さ×幅×深さ 4.8~8.8×1.2~1.4×2.5	Q-48G 底上12.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	分割材の表面を削り、整形した後一面に三ヶ所の枅穴が18~30cmの間隔であけられている。	
340 78	柱(榎木)	125.0+ ϕ ×18.0×11.0 2本の榎木の太さ 7.5 ϕ	Q-49G 底上16.0cm	芯持 ヤマダツ	一部欠損	先端部は削り出し、榎木両端部は周辺部から削り出し、切断。表面にはわずかに削り痕が残る。	
343 79	建築材	138.0+ ϕ ×6.0×3.4	F-50G 底上5.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	下端部欠損	頭部は面取り。頭部から約3cm下に長さ約9.5cmのあたり痕がある。	
344 79	建築材?	208.0+ ϕ ×9.0×5.0	Q-48-49G R-49G	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	下端部欠損	みかん削りの一部を加工して部分的に角材とする。頭部付近に切り込みを入れる。	
345 79	建築材?	218.0+ ϕ ×8.0×7.6	Q-47-48G 底上7.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	先端部はつぶれている。頭部は一部が欠損。一面に枅穴が4ヶ所ある。その間隔は19.0~26.0cmで、穴の規模は長さ3.2cm、幅1.4cm、深さ1.2cmである。	

77号溝出土遺物観察表《木器》 図106・107

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 別 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
348 79	建築材?	159.0×5.0×3.0	Q-49G 底上5.0cm	分割材 (加工) コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	両端部一部 欠損	最先端部はつぶれている。側部から23cm下位に、長さ3.5cmの浅い切り部分がある。	
151 79	建築材	130.0+ ϕ ×8.4×7.2	Q-48-49G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	片端部欠損	左右対称の切り込み部分の幅は約8.4cm、深さは0.5-1cmである。側部は平坦で周囲は面取りを行う。	
352 79	杖	112.0+ ϕ ×8.0×6.0	Q-49G 底上10.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	先端部欠損	みかん割りの一部を薄くして、先端部とする。側部は斜めに切断され切り込みがある。枝払いを行う。	
171 80	建築材	105.5+ ϕ ×7.0×7.0	Q-R-48G 底上8.0cm	分割材 ケリ	一部欠損	先端部分は削り出しているが、最先端部はつぶれている。側部は切り込みをつくる。	
207 79	厚板	87.0+ ϕ ×10.0×4.0	Q-48G 底上5.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	一部欠損	側部は斜めに切断。他端部は平坦面部分からの切断面をつくるが、一部はねじり切断と思われる。製作時の削り込み痕と思われるものが中央部にある。	
210 79	建築材	42.5+ ϕ ×8.6×7.0	P-51G 埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	両端部欠損	現存部分両端部に切り込みを有する。	
161 80	角材	52.8+ ϕ ×4.7×4.7	P-51G 底上5.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	両端部欠損	しっかりした面をつくり出す。表面は削り痕が残る。	
145 80	建築材	33.7+ ϕ ×4.6×2.6	埋没土中	板目 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	両端部欠損	左右対称の切り込み部分の幅は約2.5cm、深さは0.6-0.8cmである。	
220 80	角材	46.6+ ϕ ×3.6×3.6	Q-48G 底上4.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	片端部欠損	先端部はつぶれている。表面には幅1.0-1.5cmの削り痕が残る。	
41 80	角材	21.0+ ϕ ×1.9×1.6	P-51G 底上18.0cm	板目 モミ属	片端部欠損	断面はほぼ方形を呈す。片端部は斜方向に切断している。	
179 80	建築材	79.2+ ϕ ×5.4×5.0	Q-50G 底上12.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	片端部欠損	側部は一方から斜めに切断。先端部は細くなりつつ、欠損。割材の芯近接部に長さ9.0cm、幅0.9cmの切り込み痕がある。	
121 80	角材	67.0+ ϕ ×5.2×1.4	Q-50G 底上16.0cm	板目 モミ属	両端部欠損	板材に近い。四面を成形したと考えられる。	

77号溝出土遺物観察表(木器) 図108-110

番号 PC	器種	長さ×幅×原さ×径(cm)	出土位置	木取り 術種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
197 80	板	71.0+ ϵ ×13.0×2.5	Q-47G 底上15.0cm	板目 タリ	片端部欠損	平直面は割りっぱなし。側面はわずかに面取りを行っている。	
154 80	板	51.4×10.8×4.0	P-51G 底上24.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一部欠損	みかん割りによる板目。一側面は厚く、他は薄い。両端部は切断されている。平直面の一部が割られている。	
33 80	板	49.5+ ϵ ×5.3×1.2	Q-49G 底上3.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	片端部は長軸には直角で切断。表面には削り痕が残る。厚さは1cmほどの差がある。	
6 81	板材	26.6+ ϵ ×7.0×3.2	Q-49G 底面直上	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	端部は斜めに切断。削り取ったままで削り痕はない。幅広で一定の厚さをした板材である。	
37 81	板	25.0+ ϵ ×2.9×1.0	Q-48G 底面直上	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	表裏面にわずかに削り痕を残す。	
59 81	板	26.5+ ϵ ×4.6×0.6	Q-49G 底上11.0cm	板目 スギ	側面一部欠損	平面上には削り痕が残る。片端部を欠損する。	
130 81	板	41.6+ ϵ ×6.2×1.8	P-50G 底上23.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	平面上には板目に沿って、幅2cm前後の削り痕が残る。	
185a 81	板	31.6+ ϵ ×2.9×1.5	Q-49G 底上10.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	平面上は幅1.2cm程度の削り痕をもつ。	
234 81	板	55.5+ ϵ ×4.7×2.2	Q-50G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	表面の削り痕は不明。もろい。	
156 81	板	75.0×9.5×3.0	Q-49G 底上10.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	両端部は切断。みかん割りによる板目。平面上に削り痕が残る。	
172 81	板材	71.2+ ϵ ×23.4×3.0	Q-48G 底面直上	板目 ヤマグワ	片端部欠損	多少の凹凸はあるが、しっかりした板である。	
124 81	板(用途不明)	71.0+ ϵ ×7.0×2.0	P-50G 底上35.0cm	板目 モミ属	片端部欠損	残る端部は丸みをもつ。端部から板中央部に向かい細くなる。厚さはほぼ一定である。	
341 81	板	128.8+ ϵ ×19.4×2.4	Q-47-48G 底面直上	板目 モミ属	部分欠損	扁平な板をつくり出している。端部は数回にわたり切り込み、切断している。一面は炭化している。	

77号溝出土遺物観察表(木器) 図110・111

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 割種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
339 81	厚板	93.8+ \pm ×30.5×4.8	Q-49-50G 底上10.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一部欠損	端部は長辺に対し直角と斜角に切断。両側面は偏平に加工される。	
155 82	角材	89.0+ \pm ×3.0×2.0	P-51G 底面直上	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	片端部は斜方向に削る。表面は削り痕が残る。断面は四角形。折れが多い。	
196 82	板	95.9+ \pm ×15.8×1.8	Q-48G 底上9.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	部分欠損	表面は炭化している。残存状態は悪い。端部は弧を描くように丸い。平坦面は削り痕がわずかに残る。	
160 82	板	59.4+ \pm ×6.4×3.0	P-50-51G 底上24.0cm	分割材板目 スルヤ節類	片端部欠損	枝払いを行っている。一部に削り痕が残る。	
214 82	角材	104.2+ \pm ×7.6×4.3	P-51G 底上9.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	やせて、もろい。建築材の可能性はある。	
332 82	角材	105.9+ \pm ×3.2×2.0	Q-49G 底上17.0cm	分割材 コナラ属 アカギ亜属	両端部欠損	1/4分割材であり、節部を残す。	
158 82	角材	87.8+ \pm ×5.0×3.6	P-50G 底上20.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	みかん割りの一部を調整し、断面が平行四辺形を呈すところがある。表面には削り痕がある。	
320 82	板	53.6+ \pm ×12.7×1.1	Q-48G 底上6.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一部欠損	一端部は長辺に対し直角に切断。切断方向は板表裏面からで、表面は偏平に薄く仕上げられ、加工痕が残る。	
120 82	角材	54.7+ \pm ×5.2×2.6	Q-50G 底上12.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	切断部分は斜めに切り落とす。平坦面を四面つくる。削り痕の幅は約2cmである。	
198 82	角材	51.2+ \pm ×3.9×2.6	Q-49G 底上2.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	みかん割りで、節部を残す。表面の加工痕はとらえられない。	
58 82	角材	37.2+ \pm ×2.0×1.5	Q-50G 埋没上中	板目 モミ属	片端部欠損	下端部は丸みをもち、わずかに薄くなる。	
19 82	角材	24.3+ \pm ×3.5×3.5	P-50G 底上8.0cm	分割材 モミ属	片端部欠損	端部は斜方向の切口をもつ。表面の約1/2と一端部が炭化している。	
17 82	角材	26.2+ \pm ×5.0×2.1	P-51G 底上24.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	表面には削り痕が残る。端部は斜方向に切り落とすとしてある。	

77号溝出土遺物観察表(木器) 図111-113

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
70 82	板	13.7+ ϕ ×5.6×2.9	F-50G 埋没土中	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	分割材を加工して板材としている。 平滑面をつくり出しているが劣化 が進んでいる。	
216 82	板材	26.0+ ϕ ×4.5×1.2	Q-48G 底面直上	榎目	片端部欠損	端部は丸みをもつ。	
10 83	角材	27.9+ ϕ ×4.3×1.5	F-51G 底上5.0cm	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	表面には一定幅の榎目痕が長軸方 向に残る。厚さは一方がわずかに 細くなる。	
68 83	板	18.5+ ϕ ×5.0×1.5	F-51G 底上12.0cm	榎目 モミ属	両端部欠損	幅は一定し、側面もしっかりして いる。	
4 83	数珠	51.2×13.5×2.4 納 16.2×4.0×2.4	Q-48G 埋没土中	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	刃部の片側 先端部分を 欠く。	片面は平州につくれ、反対側は 丸みをもつ。着柄部には決り部分 があり、紐の痕跡が残る。	
50 83	数珠	18.5+ ϕ ×3.4×1.6	Q-49G 底上15.0cm	榎目 コナラ属 アカガシ亜属	一部残存	数珠の一片の破片と考えられる。 断面から一側部が薄い。	
25 83	着柄軸・楯	15.0+ ϕ ×10.2+ ϕ ×0.5	Q-49G 底上13.0cm	榎目 トチノキ	先端部付近	表面には長軸方向に削り痕が残る。 刃部は一方から面取りを行う。	
114 83	横槌	17.7+ ϕ ×5.0×2.7	F-51G 底上15.0cm	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	柄の端部と最打部端部を欠損する。 この境部は削り出し後やかな曲線 をもつ。	
66	丸棒状木製品	21.0+ ϕ ×2.7×2.7	F-50G 底上9.0cm	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	榎材を削り出し丸棒をつくる。農 具直柄になる可能性がある。	
64 83	横槌	24.9×7.4+ ϕ ×1.3	F-51G 底上24.0cm	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	着柄部欠損	刃部付近が残る。長軸方向に削り 痕が残る。	
201 83	丸棒状木製品	30.6+ ϕ ×2.4×2.4	F-50G 底上6.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	上端部欠損	表面を整形し、丸くする。下端部 付近に左右対称のあたり部分があ る。	
318 83	材	52.6+ ϕ ×7.6×4.1	F-51G 底上2.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	先端部欠損	みかん削り。端部が残る。側部分 は両辺から削り、わずかな丸みをつ くる。	
244 83	石斧磨柄	48.0+ ϕ ×4.0×4.0	Q-49G 底面直上	榎木 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	柄の一部を 欠損	斧台部はわずかに中央が高く、両 側に向かい低くなる。偏平につく られている。装着部分は段をつく る。装着部先端裏側にわずかな凸 部をつくり出す。	

77号溝出土遺物観察表（木器） 図113～115

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 樹 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
117 84	横槌	33.4+ ϵ ×9.0×4.8	Q-50G 底上20.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	柄の一部を 欠損	表面は炭化している。三面の敲打 部分には使用痕があり、表面がつ ぶれている。	
1 84	横槌	23.7×5.5×4.6 柄 10.8×3.6~2.2	P-51G 底上23.0cm	不明 ケンボナシ 類似種	完形	榫部を削り出す。槌部先端と榫部 部分には削り取りを行っている。使用 痕が残る。	
183 84	梯子	91.0+ ϵ ×19.1×9.6	Q-48-49G 底面直上	分割材 (手続) コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	上部欠損	基部から二段分が存在。一段分は 約29cmである。足掛部は直角の切 り込みと緩やかな削り面とでなる。 裏面は縦長に削りを入れた痕が残 る。基部は削り出さない。	
241 84	梯子	103.2+ ϵ ×14.8×9.6	Q-50G 底面直上	分割材 タリ	二段分確認	破損部分が多いが段の間隔は29.6 cm、段の切り込みの深さは6.3cm 基部の長さ48.5cm、厚さ約9.5cm で、段から緩やかに削り、薄い部 分は2.2cmである。	
125 84	棒状木製品	59.0+ ϵ ×3.5×1.4	Q-49-50G 底上24.0cm	柾目 モミ属	両端部欠損	先端部は細く、先がつぶれている。 側部に向かいわずかに太くなる。 一面が炭化している。	
45 84	段鋸	18.5+ ϵ ×5.8×1.0	Q-50G 底上18.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	刃部の破片	段鋸刃部分の破片と考えられる。	
101 84	杖?	29.4+ ϵ ×6.8×4.3	P-51G 底面直上	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	状態は悪い。杖を落としている。 制材であり、無整形?	
2 84	刀状木製品	71.0×3.0×3.0	Q-50G 底上91.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	刀身部から切先部付近までは直線 的に削り出し、切先は削り込みが 鋭い。柄部には削り込みがある。	
170 85	杖	48.7+ ϵ ×7.3×4.9	Q-50G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	一端部は細く平坦になる。他部は 欠損。みかん削り材を一端部のみ わずかに加工したと思われる。	
342 85	板状杖	121.0×11.2×4.0	Q-47G 底面直上	柾目 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	一部欠損	先端部を尖らせるが、使用時につ ぶれる。頭部は一部欠損するが平 坦をつくる。表面には削部が残る。	
305 85	杖	12.7+ ϵ ×6.0×1.6	P-Q-50G 底面直上	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	平面には削り痕がある。一端部分 はわずかに尖らすように削り出し 炭化している。	

77号演出土遺物観察表(木器) 頁116・117

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
88 85	杖	21.6+φ×3.3×2.1	F-51G 底面直上	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	下端部欠損	杖頭部は崩かれ、つぶれた状況を呈す。	
193 85	丸棒状杖?	25.3+φ×2.6×2.4	Q-50G 底上12.0cm	芯持 ウコキ属	両端部欠損	杖を括っている。	
199 85	丸杖	25.0+φ×4.2×3.0	F-51G 底上16.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	上端部欠損	先端部は一方から斜めに切断する。表皮が残る。	
185 b 85	棒状木製品	26.7+φ×2.8φ	Q-49G 底上10.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端部欠損	杖を括っている。	
28 85	杖	27.4+φ×4.5×4.2	F-51G 底上18.0cm	芯持 ウコキ属	上半部欠損	先端部を鋭く削り出すが、わずかにつぶれる。側面に約1/2の範囲で浅い抉りがある。	
75 85	杖	34.0+φ×2.9×2.6	F-51G 底上11.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	上端部欠損	先端部は二方向から切り尖らせるが最端部は欠損する。	
152 85	角杖	65.0×10.0×10.0	Q-48G 底上12.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形	下端部分は削り出して尖らせている。頂部は段状に切られている。平直部分は幅1.5-2.0cmで削られている。	
368 85	くさび?	29.4×7.5×7.5	Q-49G 埋没土中	芯持 広葉樹 (散孔材)	完形	両端部を周辺から切断。樹皮を残す。	
162 b 86	杖杖	24.1+φ×2.5×2.0	Q-50G 底上18.0cm	芯持 広葉樹 (散孔材)	両端部欠損	側面の一部にあたり部分がある。先端部に向けて削り痕がある。	
127 86	杖?	33.5+φ×5.5×5.5	F-50G 底上4.0cm	芯持 広葉樹 (散孔材)	両端部欠損	一部に工具痕が残り、節部面を整形している。	
134 86	丸杖?	61.4+φ×2.5×1.5	Q-49G 底上13.0cm	分割材 ウコキ属	両端部欠損	1/2に分割。わずかに先端部を削り出しているが欠損。頭部には歯取り部分がみられるが欠損が多い。	
116 86	角杖	71.0+φ×8.5×7.2	Q-48G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	先端部一部欠損	節部を残す。頭部は面取りを行う。先端はわずかにつぶれている。	
223 86	杖	81.6+φ×8.8×5.6	Q-47G 底上9.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	片端部欠損	最先端部分はつぶれている。先端部分に削り痕が残る。	
119 86	角杖	46.0+φ×7.3×6.5	Q-47G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	最先端部と頭部の一部欠損	先端部付近は炭化している。	

1 溝出土物観察表

77号溝出土遺物観察表(木器) 図117・118

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 樹 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
123 86	杖	55.2×8.6×6.3	Q-50G 底上23.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	ほぼ完形	杖の頭を切り込んであたり部分をつくる。先端部はつぶれる。	
140 86	丸杖	20.4+φ×5.2×4.5	R-49G 底上9.0cm	芯持 コナラ属 アカシヤ属	頭部欠損	先端部分がつぶれている。先端部を多面で削り尖らせている。半面が炭化している。	
218 86	杖	109.8+φ×6.6×5.2	Q-49G 底上16.0cm	芯持 ヤマグワ	片端部欠損	節部が残る。曲状を呈す。先端部分は斜めに切断している。	
224 86	杖杖	101.7+φ×3.3×3.3	Q-49G 底上20.0cm	芯持 ヤマグワ	両端部欠損	太い部分の先端部を切断しているが、最端部分を欠損しているため詳細は不明。杖を払う。炭化部分がある。	
159 87	杖杖(丸)	106.0+φ×5.0×3.0	Q-50G 底上33.0cm	芯持 ウコギ属	両端部欠損	杖杖としているが、先端部分には割れとつぶれがある。杖払い、節部の整形痕がある。	
364 87	不明	135.8+φ×7.4×5.0	Q-49G 底上6.0cm	芯持 ヤマグワ	両端部欠損	節部に削り痕が残る。	
168 87	丸棒状杖?	66.0+φ×4.0×3.0	埋没土中	芯持	片端部欠損	先端部は斜方向から切断。他端部は欠損。	
52 87	丸棒	36.7+φ×4.0×4.0	Q-49G 底上15.0cm	芯持 ムクロジ	両端部欠損	杖払いを行い、道具として使用したものと考えられる。	
202 87	棒状木製品?	39.3+φ×2.2×0.9	Q-49G 底上4.0cm	分割材 ヤマグワ	両端部欠損	杖を払っている。	
60 87	棒状木製品	50.4+φ×3.5×1.2	P-51G 底上20.0cm	分割材 モミ属	片端部欠損	下端部は丸みをもつ。一部欠損。側面は削り痕をもつ。	
122 87	丸棒状木製品	50.9+φ×2.3×2.3	P-50G 底上18.0cm	芯持 広葉樹 (櫻材)	両端部欠損	表面は荒れているが、節部が残る。	

85号溝出土遺物観察表(弥生土器) 図119

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形・整 形 の 特 徴	文 様	備 考
264 88	甕	体部破片	埋没土中	①白色磁物・雲母を含む②やや緑い③灰黄2.5YR/2	内外面とも横方向の器面調整。		棒状工具による沈線文がある。三角連繋文の可能性ある。固体?
283 88	甕	体部破片	埋没土中	①白色磁物・雲母を含む②器面が荒れる③灰黄陶10YR 5/2	内外面とも横方向の撫で。		棒状工具により、2条1単位で沈線文がある。
282 88	甕	肩部破片	埋没土中	①白色磁物・雲母を含む②やや緑い③褐灰10YR6/1	内外面は横方向の撫で整形。		棒状工具による沈線文が横方向に3条、斜方向に1条見られる。

85号溝出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図119

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
261 88	土師器 甕	口縁部破片 口 (23.0cm)	埋没土中	①中砂・細砂・雲母 片を含む。 ②普通。 ③にぶい橙7.5YR6/4	胴部外面斜方向のなで整形。内面横方向刷毛目(6本 /1cm)整形。口縁部内外面横なで。口縁は受け口状 を呈し、上面縁部には幅6.5mmの面取りをする。口縁 部外面中位は縦い線をなし、楯状工具による刺突を 5mmおきに施している。	

85号溝出土遺物観察表（石器） 図119

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
44 88	石鏃	長 3.1cm 幅 4.3cm 厚 1.9cm 重 14.8g	埋没土中	黒色頁岩	横長削片先端に短い尖頭部を作出している。その両側の調整 は粗く、鋭角縁状を呈する。打面は自然面。	
45 88	R F	長 5.7cm 幅 5.0cm 厚 1.5cm 重 42.1g	埋没土中	黒色頁岩	左側縁は刺離時のヒビのため欠損。縁部部に二次加工を施し ている。	

86号溝出土遺物観察表（弥生土器） 図121

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
671	壺	頸部-口縁部 破片 口 (14.4cm) 頸 (9.0cm)	M・N-41G 埋没土中	①白色灰質底物を含 む。②良好。 ③残黄橙10YR8/3	口縁部は大きく外反する。外面 は横・縦方向刷毛目整形後、磨 磨きが行われる。内面には 横・斜方向に刷毛目整形痕が 残る。	口縁部には横文が施文される。 頸部には比喩による横線文と 波状文が交互に施文される。	口縁付近に 円形の穴を 穿つ。
672	小形甕	胴上半部破片 口 11.2cm 頸 9.7cm 胴 11.2cm	M・N-41G 埋没土中	①小礫を含む。 ②良好。③にぶい 黄橙10YR7/3	口縁部は外反する。外面は横 後、縦方向に刷毛目整形が入る。 内面には横後で整形痕が残る。	頸部には8条1単位の横線 線文が入る。口縁部と頸部 に縦方向の整形を重ねた文様 が入る。	
670	小形甕	口縁部欠損 頸 4.7cm 胴 11.5cm 高 14.0cm残	M・N-41G 埋没土中	①夾雑物を含む。 ②良好。 ③黄橙10YR8/8	最大幅は胴中位付近にある。頸 部は細くしまり、口縁へと開き はじめる。外面胴下半は縦方向 の磨整形、上半は斜方向の刷毛 目整形が行われている。	頸部には比喩による横線文が 施文される。	
249 88	甕	頸部付近の破 片	M・N-42G 埋内面	①白色底物・雲母 を含む②良好③黄 灰2.5Y5/1	内面は横方向の磨面調整が行 われ、光沢をもつ。	頸部に右まわりの横線文が あり、上下に横線波状文がある。	横線文施 文後波状 文(上)
248 88	壺	頸部破片	塚下	①小礫を含む②良 好③灰白7.5Y8/2	内面は横方向の磨で整形。	8条1単位の横線波状文と横 線横線文がある。	
250 88	壺	頸部破片	埋内面	①白色底物を多量 に含む②やや縦い ③黄灰5YR5/1	頸部付近と考えられる。磨面 は荒れており、整形状況は不明。	棒状工具による沈線文がある。 比喩側に丸形の刺突文が2列 並ぶ。	
673	甕	胴部破片	M・N-41G 埋没土中	①白色底物を含む。 ②良好。 ③黄橙2.5Y8/4	胴上半部はわずかに丸をもつ。 内面は横方向に磨面調整を行 っている。	比喩によるコの字重文が施文 されている。	

86号溝出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図121

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
675	土師器 鉢	口縁部-体部下 部破片 口 (10.5cm)	M・N-41G 埋没土中	①細砂・雲母細片を含 む。 ②やや硬質。 ③灰黄緑10YR6/2	体部外面縦方向刷毛目(7本/1cm)整形。下半斜方向・横方向施削り。肩部外面横方向なで。口縁部は貼り付け下縁部をそのまま残し、体部と同じ工具で縦方向刷毛目調整。体部内面なで。口縁部内面横なで。口縁端部外面には幅3mmの面取りをしているが、無調整。	
676	土師器 用	口縁部-頸部 破片 口 (9.0cm)	M・N-41G 埋没土中	①微細砂を含むが、緻 密な胎土である。 ②やや硬質。 ③にぶい黄緑10YR7/3	口縁部外面なでの後、縦方向施削り。口縁端部外面横方向施削り。口縁部内面なで後、上半横方向、下半横方向施削り。口縁内面端部には幅7mmの面取りがされている。口縁部全体が縦やかに内湾する。頸部内面には指頭圧痕が残る。	
1124	土師器 用	口縁部-体部下 半1/4残存 口 (8.6cm)	O-43G 底面上15.3cm	①微細砂・雲母細粒を 含む。②良好。 ③灰黄緑2.5Y7/2	体部外面なで調整の後、縦方向施削り。口縁部外面横方向施削り。内面口縁部-体部上半横方向施削り。	
674	土師器 壺	頸部破片	M・N-41G 埋没土中	①小石・細砂・微細砂 を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい黄緑10YR6/3	内外面ともなで調整。有段の壺形土師の頸部破片と思われる。頸部外面には断面内角の突起が残り、上面と側面に鋸歯状工具による刺突文が2-3mmおきに施されている。	
247 88	土師器 合付葉	脚部残存 底 10.2cm	埋没土中	①細砂を含む。②普通 ③にぶい黄緑10YR7/2	脚部外面斜方向刷毛目(6-7本/1cm)整形後、指なで。内面横方向施削りなで。端部周辺指なで。	
246 88	土師器 合付葉	脚部残存 底 7.6cm	N-42G 底面上3.0cm	①細砂・石英粒を多量 に含む。②やや軟質。 ③明緑灰7.5YR7/2	脚部外面指なで調整の後、上半部に斜方向の刷毛目(7本/1cm)文様。ザツクリした強い刷毛目である。内面横方向指なで。	
244 88	土師器 葉	口縁部-体部 3/4残存 口 15.9cm 胴 11.4cm	N-42G 埋没土中	①細砂を多く含む。 ②やや硬質。 ③灰黄緑10YR6/3	体部外面下半斜方向刷毛目(5本/1cm)整形後、体部外面上半斜方向刷毛目(5本/1cm)整形。さらに上半部には刷毛目による横線文が施されている。体部内面なで調整。かすかに指頭圧痕が残る。口縁部内外面横なで。	

86号溝出土遺物観察表（石器） 図121

番号 PL	器 種	大きさ・重 量	出土位置	石 質	形状・調整加工の特徴	備 考
46 88	石鎌	長 5.3cm 幅 5.0cm 厚 1.7cm 重 39.7g	埋没土中	黒色安山岩	剃片の末端部中央に尖頭部を作出している。両側の調整は粗く、側面縁状を呈する。	
220 88	打製石斧	長 7.4cm 幅 3.9cm 厚 1.2cm 重 62.7g	埋没土中	硬質泥岩	薄手。表面に自然面を残すが、身はあまり反らない。短脚もしくは撥形を呈するものと思われる。	刃部欠損。

86号溝出土遺物観察表（木器） 図122

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
312 89	杭	55.6+±×6.6×2.8	N-42G 底下10.0cm	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ目	頭部欠損	側面二方向から削り、先端部をつくる。最先端部はつぶれる。平坦面は縦長に段があり、削り込んだ痕と考えられる。	

86号清出土遺物観察表(木器) 図122-124

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 材 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
355 89	角杖	54.3+ ϕ ×5.0×3.9	M・N-42G 埋没土中	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部残存	頭部は磨かれ、丸みをもつ。先端部は欠損。表面は劣化している。	
292 89	杖	43.1+ ϕ ×6.1×4.3	N-42G 埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一部欠損	みかん割り。節部が残る。頭部付近が欠損し、長さ9.0cm、深さは0.5-1.0cmの切り込み部がある。先端部は四方向から切断している。	
249 89	角杖	44.0+ ϕ ×5.6×4.0	N-42G 底面直上 正立	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部欠損	先端部は二面から削り、細い。形状は一方から力を受け湾曲する。	
273 89	角杖	29.3×6.1×5.9	N-42G 8cm深を出し以下地中	分割材 (加工) コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	ほぼ完形	先端部は削り出し、尖らせる。最先端部はつぶれる。節部が残存。頭部は磨かれ、つぶれている。	
311 89	杖	76.5+ ϕ ×3.2×3.9	N-42G 埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部欠損	みかん割りした後部二ヶ所と一面を削り、杖先としている。頭部は節で折れている。	
338 89	板	71.1+ ϕ ×8.0×3.0	N-42G 底面直上	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部と他 一部分を欠 損	端部を斜めに切断。他端部は欠損。分割材の一部は板状に加工する。加工痕はあるが不明瞭な点が多い。	
325 90	角材 (杖)	106.8+ ϕ ×5.1×3.9	N-42G 埋没土中	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一部欠損	先端部が欠損していると思われる。しっかりした角材であり、削り痕が残る。	
354 90	建築材	134.0+ ϕ ×8.0×5.5	N-42G 底上40.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端一部欠 損	端部が一部に残る。先端部は数回に渡り削られている。端部からわずかに入った所あたりがある。	
360 90	角材	236.5+ ϕ ×12.8×6.8	N-42G 埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	一部に節部が残る。割材の一部を平坦にし、角材とする。裏面に鋭利な傷(長さ約2cm)が十数個付く。	
329 89	杖	63.6+ ϕ ×11.6×4.0	N-42G 底面直上	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部欠損	先端部を二面から削り出す。出土状況は先端部が埋の横木の上に横たわるように出土。	
275 90	杖	51.3+ ϕ ×4.0×4.0	N-42G 埋没土中	分割材 (板目) モミ属	頭部欠損	分割材を加工して長い杖をつくる。扁平な面の一部に削り痕が残る。先端部は二方向から尖らせている。	
230 90	杖	54.9+ ϕ ×7.2×3.4	N-42G 埋没土中	分割材 モミ属	先端部欠損	頭部は二方向から斜めに切断される。わずかに節部が残る。	

1 溝出土遺物観察表

85号溝出土遺物観察表(木器) 図124-125

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 樹 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
233 90	板	53.4+ ϵ ×33.0×2.0	N-42G 埋設土中	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損 側面一部欠損	板材であり、厚さは平均2cmである。一部は筋があるため厚くなる。	
259 90	枕	28.0×5.1×3.0	N-42G 埋設土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	みかん割り。端部を残す。先端部分は削り、最先端部はつぶれる。	
229b 90	枕	31.0+ ϵ ×5.5×5.5	N-42G 埋設土中	芯持 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	先端部欠損	表面を削っている。頭部は両面から削り成形する。片面炭化。	
306 90	角材	39.3+ ϵ ×8.8×5.7	M-43G 底上3.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	みかん割り。樹皮の一部と節部が残るが、削り痕は認められない。炭化が激しい。	
274 91	棒状木製品	66.5+ ϵ ×4.0×2.4	N-42G 底面直上	分割材 (加工) コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	表面は扁平であり、削り痕がわずかに残る。	
266 91	枕	67.0+ ϵ ×8.0×8.0	N-42G 埋設土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	端部を残す。枝を払っている。先端部に向かい細くなる。頭部は一部を欠損する。	
313 91	枕	37.9×7.7×3.7	M-42G 底上4.5cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	先端部は細く削られている。最先端部から約10cm上に一面にあたり部分がある。あたりの幅は約7cmである。頭部は敲かれつぶれる。	
296 91	丸枕	35.3×6.8 ϕ	N-42G 底面直上	芯持 ヤナギ属	完形	先端部は斜方向から切断する。頭部は平たく切断。樹皮が残る。	
272 91	角枕	36.3+ ϵ ×7.0×4.0	M-N-43G 埋設土中	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	先端部は両側面から切断する。	
323 91	枕	56.6×5.4×1.8	埋設土中	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	ほぼ完形	先端部分を突らせる。頭部は敲かれ、つぶれている。	
308 91	角枕	51.9+ ϵ ×3.4×2.4	M-42G 底上9.0cm	分割材 (加工) コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部欠損	先端部は突らせ、一面だけ炭化している。平ら面に削り痕が残る。	

86号溝出土遺物観察表(木器) 頁126-128

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 材 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
335 91	丸杖	96.4×6.0×5.2	M・N-42G カヤ上21cm	芯持 モミ属	完形	先端部の切断は二方向からであり一方から大きく切る。頭部はつぶれる。先端部から約24cmの表面と、頭部付近に一ヶ所あたり痕がある。	
353 92	杖	93.2×4.0×4.0	M-42G 底面直上	芯持 モミ属	完形	先端部を尖らせる。飾部を残すが六面で面取りを行う。途中で折れ曲がる。頭部は面取りは行わない。炭化している。	
326 92	杖	82.6+ ϕ ×5.2×3.8	N-42G 埋没土中	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスノ属	先端の一部 と頭部欠損	先端部は削り出して尖らせている。平坦部は割材を面取りして八角形に近い形状をつくり出している。	
293	楕状木製品	22.5+ ϕ ×2.1+ ϕ ×0.7	N-42G 埋没土中	板目 モミ属		板状の先端部が4cmほど削られる。最先端部はわずかにつぶれている。全体の形状は不明である。	
246 92	杖	28.7+ ϕ ×3.0×1.7	M・N-42G 埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ属	両端部欠損	みかん削りであるが、先端方向に向かい細くなる。表面の一部は炭化している。	
229 a 92	柄?	24.1+ ϕ ×7.9×5.6 1.8 ϕ	N-42G 埋没土中	芯持 ヤナギ属	枝部の多く を欠損	枝を利用した用具と考えられる。用途は不明。	
359 92	角材	149.0+ ϕ ×10.0×7.0	M・N-42-18G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノ属	両端部欠損	分割材の表面を削っている。	
358 92	建築材?	151.8+ ϕ ×11.0×9.9	M-42G 床上40cm	分割材1/4 コナラ属 コナラ亜属 クスノ属	片端部欠損	頭部と思われる部分が残る。分割材の一面を削って平坦につくっている。	
361 93	楕状木製品	84.6+ ϕ ×16.0×4.0	M・N-42G 底面直上	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスノ属	両端部欠損	板材であるが、表面に1.5cmの段をつくっている。裏面は平坦である。	
300 93	角材?	28.7+ ϕ ×9.0×6.0	N-42G 埋没土中	分割材 カエデ属	両端部欠損	1/4のみかん削り。飾部を残す。	
347 93	杖	125.0+ ϕ ×13.0×12.1	N-42G 底上2.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クスノ属	先端部分の 多くを欠損	先端部は尖らせた痕跡がある。頭部は面取りを行い、一面は斜めに面を落し、反対面は抉りを入れる。	
267 93	杖	70.3×10.5×8.5	N-42G 埋没土中	分割材1/2 コナラ属 コナラ亜属 クスノ属	完形	上部部は二股に枝が分かれる一様を使用。先端部は尖らせている。年輪は読み取れないが丸木の平截と思われる。	

86号溝出土遺物観察表(木器) 図29・130

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
310 83	杖?	75.6+ ϵ ×7.4×3.8	M-42G 底上5.5cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	両端部欠損	1/3のみかん割り。節部が残る。 杖を払っている。	
265 94	杖	75.8×5.0×4.8	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	先端の一部 が欠損	割材を加工し、杖をつくる。先端 部はつぶれて丸みをもつ。頭部も つぶれている。	
328 94	杖	57.5+ ϵ ×5.0×6.0	M-43G 底上10.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	頭部欠損	みかん割り。節部をもつ。杖先を 尖らせているが、最先端部はつぶ れている。状態が悪い。	
224 94	杖	67.8+ ϵ ×5.5×2.6	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	頭部欠損	先端部は二面から倒れており、 最先端部はつぶれている。	
290 94	角棒状木製品	33.2+ ϵ ×3.0×2.4	N-42G 底上10.0cm	分割材 モミ属	両端部炭化	断面はほぼ四角形を呈す。両端部 とも炭化している。本来は長かつ たものと考えられる。	
286 94	棒状木製品?	35.8+ ϵ ×2.8×1.2	埋没土中	分割材 コナラ	両端部欠損	手載されている。	
278 94	丸棒	56.6+ ϵ ×4.0×3.6	N-42G 底面直上	芯持 カエデ属	両端部欠損	樹皮・輪部を残し、一部が炭化し ている。	
287 b 94	丸棒	46.0+ ϵ ×3.4×1.6	N-42G 底面直上	芯持 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	端部欠損	現存する端部付近はわずかに削り 細くしている。削り部分は断面が 長方形を呈す。	
387 a 94	杖	31.4+ ϵ ×2.6×1.8	N-42G 底面直上	芯持 ウコギ属	頭部欠損	先端部は斜方向から削り出してい る。	
222 85	杖	55.6+ ϵ ×7.7×4.9	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	両端部欠損	みかん割り。節部が残る。頭部は 腐り、先端部は欠損している。	
289 95	杖	14.5+ ϵ ×5.5×2.7	M-42G 底上23.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	先端部のみ 残存	杖の先端のみかん割りを利用して、 わずかに削り尖らせている。	
276 85	杖	31.0+ ϵ ×3.5 ϕ	N-42G 底面直上	芯持 エゴノキ属	頭部欠損	先端部を削る。最先端部はつぶれ ている。	
257 85	杖	34.9+ ϵ ×4.9×3.5	N-43G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	両端部欠損	一部が炭化している。節部が残る。 表面は劣化している。	

86号溝出土遺物観察表(木器) 頁130-133

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 術種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
255 95	角材	21.4+ ϵ ×4.6×2.5	M-42G 底面直上	分割材 (榫目) コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	両端部欠損	表面の削りは一部のみられる。	
248 95	杖	26.4+ ϵ ×4.5×3.2	N-42G 底上5.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	みかん削り。節部を残す。	
334 95	角材 建築材?	69.5+ ϵ ×9.0×7.5	M-42G 底上3.0cm	榫目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部存在 中間部欠損	表面に一部加工痕が残る。長軸に沿いにし字の切り込みをもつ。	
291 95	棒状木製品	47.6×4.0×1.6	M・N-42G 底上31.0cm	分割材 モミ属	完形	断面が三角形を呈す。一端部は丸みを帯びる。	
221 95	板	63.1×9.9×4.8	M-42G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	表面は炭化している。両端部は斜めに切断される。平面には削り痕が残る。	
314 96	角材	58.8+ ϵ ×5.6×3.8	M-42G 底上10.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	みかん削りであり、一部に節部が残る。部分的に面を加工し、四角の断面にする。	
336 96	板	83.0×10.0×4.0	N-42G 底上14.0cm	榫目 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形	片端部は斜めに切断する。頭部は段に切られている。表面には削り痕が残る。	
252 96	板	22.3×6.6+ ϵ ×0.8	M-42G 底上2.0cm	榫目 スギ	両側面欠損	木目の細かい榫目取りの板である。両木口は残るが、側面は欠損。	
307 97	板	51.9+ ϵ ×12.2×4.1	M-42G 底上26.0cm	榫目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	縦方向に削り込んでいるかのように表裏面に長い段ができる。表面に削り痕が残る。	
242 97	軸	67.2+ ϵ ×11.0×2.5	M-42G 底上1.0cm	榫目 コナラ属 アカシヤ属	柄の一部 と節部欠損	スコップ状の柄を呈し、握り部分を抉り出している。全体に表面を削っている。	
302 97	段楯	42.0+ ϵ ×3.7+ ϵ ×0.7	N-42G 埋没土中	榫目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	着柄の一部 と片刀欠損	破損の割合が多い。断面では外側の刃部が厚くなる。	
288 97	棒状木製品	23.6+ ϵ ×2.3×2.2	M-42G 底面直上～ 底上40.0cm	分割材 (加工) スギ	両端部欠損	角材を削り、丸棒状の製品にしているものと考えられる。	
243 97	軸	36.2+ ϵ ×9.2+ ϵ ×2.2	N-42G 埋没土中	榫目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	着柄の一部 と身先端部 半分欠損	柄と身を分ける肩部は緩やかである。身の上面は丸みをもち、下面は扁平である。	

86号溝出土遺物観察表(木器) 図134~136

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 割種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
227 97	数珠	52.2+ π ×9.0×0.9	M-42G 埋没土中	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	柄部欠損	刃部はつぶれる。上面は曲面をもち下面は扁平である。刃部付近で薄くなる。	226と接合
5 97	数珠	40.5+ π ×16.0×2.4	N-43G 底上4.0cm	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	柄部欠損	左右対称の刃部を成し、鍔先は鋭利につくられている。着柄部には両方からくびれが入り、柄には緊縛がみられる。	
3 98	着柄鎌	28.8+ π ×14.2×0.9	M-43G 底上5.0cm	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	先端部分のみ残存	全体を扁平に削る。側端部へ向かうにつれて薄く削られている。	
261 97	鎌	26.4+ π ×10.9×2.4	N-42G 底面直上	榎目 トチノキ	柄と柄の装着部分欠損	上面は中央部が高く、周辺が低い。下面はほぼ平直である。先端部は薄くなる。鎌の可能性が高い。	
259 98	数珠	20.7+ π ×4.75×0.6	M-42G 底上17.0cm	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	二枚数の片刃の身の先端部は欠損し、身の前部の緩やかな状態が残る。	
262 98	横槌	24.0+ π ×9.5×7.0 柄 3.0 ϕ	M-42G 底上38.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	柄部欠損	身先端部分は一方から斜めに切断されている。柄と身の境は劣化しており、形状を崩す。	
253 98	糸巻	14.3×9.5×7.8	M-42G 底上10.0cm	芯持 ヤマグワ	一部欠損	両端部は周辺から削りが入り、切断する。中央にV字状の浅い溝を切り込む。	
245 98	板状木製品	24.0×13.2×0.5	M・N-42G 底面直上	榎目 ヒノキ属	完形	側面は左右とも緩やかな斜めをつくる。上下に2穴を穿ち、糸を通した磨耗痕がある。	
260 98	建築材?	27.4+ π ×5.1×2.7	N-43G 底上5.0cm	榎目 ヒノキ属	両端部欠損	全体の形状を推定することができない。一平面をきれいに削り、幅0.9cm、深さ1cmの切り込みによる溝をつくる。この溝周辺は炭化する。	
350 98	作業台	34.6×16.9×8.8	M-42G 底上20.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	下面を平坦にし、側端面を削り、丸みをもたせてある。上面には置き傷があり、中央が凹面になる。側端面部中央に深さ1cmほどの凹穴を四角に掘る。	
309 98	くさび状木製品	7.9×6.8×2.7	N-42G 底上20.0cm	榎目 トチノキ	完形	断面は三角形を呈している。側材を転用したくさび形をしているが、木目が逆である。	
256 98	くさび	17.4×5.0×4.0	M-42G カヤ上3cm	分割材 カヤ	完形	両端部は任意方向から斜めに切断している。西面とも削り痕が残り、一部は炭化している。	

86号溝出土遺物観察表（木器） 図136

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
251 91	肴柄部?	20.1+φ×3.6×2.0	M-42G 底上2.0cm	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	両端部欠損	鎌か楯の肴柄部の木片と考えられる。下面は平坦で、上面は面取りが行われ、丸みをもつ。	
232 98	板	15.1×14.7×4.9	埋没土中	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	完形	三角形を呈している。3.0~4.5cmの厚さをもつ。両り痕が平面部と側面部で観察できる。	

87号溝出土遺物観察表（弥生土器） 図137

番号 PL	器種	残存 法 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
230	甕	口縁部破片	埋没土中	①黒雲母・白色灰物を含む②良好 ③灰白10YR8/1	口縁部は外反する。口縁端部は欠損。内面には輪積痕と撫で痕が残る。	頸部に左まわりの垂状文、口縁部には6条1単位の横波状文2段が施文される。	下の波状文は垂状文を切る。
228	壺?	胴部破片	F-47G 底面上6.0cm	①白・黒色灰物を含む②良い。器面摩耗③灰白10YR8/2	器面は変れている。整形状況は不明瞭である。	胴上半部分の一部であり、わずかに横波状文が確認できる。	

87号溝出土遺物観察表（石器） 図137

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
15 88	敲石磨石	長 11.9cm 幅 5.7cm 厚 2.9cm 重 254.3g	N-45G ピット内	砂岩	上下両端に敲打痕がある。表裏両面中央に磨面がある。細長く、浅く凹む。	一部欠損。
16 88	門石	長 11.8cm 幅 8.6cm 厚 7.2cm 重 874.6g	N-47G 底面直上	粗粒安山岩	平坦面は磨かれている可能性がある。	完形。

87号溝出土遺物観察表（木器） 図137

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
327	杭	96.8×9.0×4.8	N-46G 底面直上	分割材1/4 ヤマグワ	ほぼ完形	頸部はつぶれ、先端部は削り出されている。	
316	丸杖	52.5+φ×6.3φ	N-46G 底面直上	芯持 コナラ属 アカザシモ属	片端部欠損	先端部は両端から削られている。最先端部はつぶれている。	

95号溝出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図140

番号 PL	器種	残存 法 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
236 88	土師器 高杯	脚部残存 裾部1/5残存 底(12.2cm)	X-55G 底面上8.0cm	①微細砂を多量に含む。 ②普通。 ③橙2.5YR6/6	脚部外面縦方向縦毛目整形の後、縦方向の磨き。裾部外面縦で。脚部内面上指などで、下半横方向磨で。裾部内面磨で。	

95号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図140

番号 FL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
235 88	土師器 杯	口縁部～底部 2/3残存 口 14.0cm 高 (5.8cm)	X-55G 底面上11.0cm	①細砂・赤色鉱物粒を 多量に含む。 ②普通。 ③におい堀7.5YR6/3	底部一杯部外面削削り。内面丁寧なで調整。口縁部 横なで、底部中央には直径2mmほどの凹みがあり、平 底を意識しているとも考えられる。	
237 88	土師器 高杯	胴部破片	X-55G 底面下3.0cm	①細砂・雲母片を多量 に含む。 ②硬質。 ③黄灰2.5Y4/1	外面なでの後、2条の沈線文帯の間に、5mmおきに推 衝状工具による長さ6mmの刺突文が、羽状に施されて いる。4単位の沈線文+刺突文の内側には、沈線文4 条が確認できる。端部から3単位目の沈線文には、 文様施文後、焼成前の一孔が穿たれている。肩部外面 には幅7mmの面取りがされている。内面なで、端部の み横なで。	

96号溝出土遺物観察表《弥生土器》 図141

番号 FL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
241 88	甕	胴上半部	埋没土中	①細砂粒混入。 ②良好。 ③明度灰7.5YR7/2	頸部付近に移行する破片である。 内外面とも縦方向に器面調整が 行われている。	頸部には右廻りの櫛状文。こ の下位に沈線による副衝文の 中に平行沈線文を斜方向に施 文。ボタン状貼付文が各文様 の接点に位置する。	ボタン状 貼付文に は凹形刺 突文が4 つ施文。
243 88	甕	胴上半部	埋没土中	①小礫混入②良好 ③黄灰2.5YR/3	器面は荒れており、表面の一部 に横方向の整形痕がある。	副衝文の中に円形刺突文が施 文。	
242 88	甕	口縁部破片	埋没土中	①白色鉱物混入② 良好③におい堀7. 5YR7/4	折り返し口縁である。口縁端部 は断面三角形を呈す。外面は縦 方向、内面は横方向に器面調整	折り返し口縁部に棒状工具に よると考えられる刺突文が整 然と並んでいる。	

96号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図141

番号 FL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
240	土師器 杯	口縁部～底部 破片 口 (10.4cm)	埋没土中	①細砂・雲母片を含 む。②やや軟質。 ③橙2.5YR6/6	体部外面下半横方向削削り。上半横方向・斜方向荒磨 き。内面荒磨き調整。口縁部内外面横なで。口縁部は 小さく反外し、端部はやや内湾する。	

97号溝出土遺物観察表《石器》 図142

番号 FL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
47 88	燧石	長 5.2cm 幅 4.7cm 厚 3.3cm 重 112.7g	埋没土中	砂岩	表面には極小、両側面には尖端の鋭い工具痕が残る。小口部 はつぶれた状態が確認できる。	

下り櫛12号溝出土遺物観察表《土器器・須恵器》 図151

番号 Pl.	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形・製 形 の 特 徴	備 考
730	須恵器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 12.2cm 底 7.3cm 高 3.9cm	埋没土中	①微細砂・黒色炭微粒 を含む。 ②硬質。 ③灰白7.5V7/I	右回転ロクロ整形。底部切り難し技法不明。底部切り 難した後、手持ちなどで調整。底面は大きく凹んでいる。 口縁部一体部内外面回転で調整。口縁端部はやや内 湾する。	

2. 井戸出土遺物観察表

井戸出土遺物観察表〈金属器〉 図165

番号 PL	器種	残存	出土位置	重量	形状・特色・その他	備考
1 89	接管	瓶首・ラウ连接部を欠損		3.2 + α g	火皿の直径は1.4cmで、碗状を呈す。ラウ付近が欠損しているため形状は不明であるが、首部の湾曲は小さい。	
2	銅銭	3/5残存		1.0 + α g	左下部分を欠損する。種類は不明である。判読できる文字は□□通□である。縁が出ており、青白色である。	

1号井戸出土遺物観察表〈木器〉 図166

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
1127	板	29.4×2.9×0.4	埋没土中	榎目 ヒノキ属	完形	両端部付近にわずかな切り込みがある。上端に二つの穴を穿つ。	

4号井戸出土遺物観察表〈陶器・磁器〉 図170

番号 PL	器種	残存 法	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
678	播鉢 陶器	口縁-底部1/2 口 (27.0cm) 底 (10.6cm) 高 11.0cm	埋没土中	灰白色	播目は14本単位。内外面に団子状の目薬が3カ所残る。全面に焼結。	瀬戸・美濃系 19C末

10号井戸出土遺物観察表〈陶器・磁器〉 図174

番号 PL	器種	残存 法	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
679	長頸型 桃繪陶器	口縁部破片	埋没土中	灰色	口縁部は小さいN字状。頸部外面に浅い沈線。	常滑系 14C後半

13号井戸出土遺物観察表〈木器〉 図178

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
1116 89	竹筒	8.8 + α × 3.4 ϕ	埋没土中	竹	わずかに残存		

14号井戸出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図179

番号 PL	器種	残存 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
680 99	瓦 残瓦 (片二寸)	破片 厚 1.7cm	埋没土中	①粗・白微粒子を含む。 ②焼成成・赤質 ③幅5cm/	整作り成形後、上端“二寸”を切り落とす。外面は無で整形(ミガキ)を施し、面化する。背面は粗い塊で整形。背面磨砂は残瓦にしてはややく、粗いシルトを用いる。	畿内系 大正以前か

14号井戸出土遺物観察表 (石器) 図179

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
221 99	砥石	長 19.9cm 幅 7.1cm 厚 1.7cm 重 470.0g	埋没土中	珪質頁岩	板状を呈し、薄手。表面ともに長軸に対して、やや斜めに線状微が認められる。仕上げ。	

14号井戸出土遺物観察表 (木器) 図180

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
1118 99	桶	14.5φ×1.8	埋没土中	榎目 スギ	底板残存	表面とも平滑に仕上げられている。わずかに工具痕が残るがカンナと思われる。周辺は面取り行う。	
1119 99	桶	17.0φ×1.2 (短径 16.6)	埋没土中	榎目 スギ	底板残存	2枚を隠し釘(竹)で合わせている。一面はきれいに仕上げている。周辺は面取りを行っている。	

18号井戸出土遺物観察表 (土師器・須恵器) 図184

番号 PL	器種	残存 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
681	土管	破片 厚 1.6cm	埋没土中	①白色灰物粒子を含む。 ②酸化・炭質 ③概規	縄作り乃至製作り成形。焼成以前の孔一孔がある。土管片と考えられる。	

19号井戸出土遺物観察表 (石器) 図185

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
222 99	板碑	長 24.2cm 幅 13.6cm 厚 2.5cm 重1800.0g	埋没土中	緑色片岩	二条線・枠線・天蓋なし。種子のみ確認できるが、蓮座の有無は不明。種子は竹彫り。表面の加工は、のみ頂がなく凹凸が著しいため未調整と考えられる。	15世紀末 廃棄か? 下半部欠損

20号井戸出土遺物観察表 (陶器・磁器) 図186

番号 PL	器種	残存 法	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
682	土師質土器 皿	体部1/2欠損	埋没土中	に深い橙	底部左回転糸切り無調整。口縁部は直む。	在地製 16C

20号井戸出土遺物観察表 (石器) 図186

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
223 100	石鉢	口(21.0cm)底(15.7cm) 高 13.3cm 重1210.0g	埋没土中	粗粒安山岩	底部から口縁部にかけて丸みをもち、立ち上がる。口縁部は丸みをもち、わずかに薄くなる。外面底部中央は上げ底状を呈す。器面はほぼ平行に尖端の鋭利な工具で調整している。	

21号井戸出土遺物観察表（陶器・磁器） 図187

番号 PL	器種	残存 法	残存 量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
683	白釉小碗 陶器	口縁-底部1/4 底部残存		埋没土中	灰白色	高台脇以下は無釉。細かへ貫入の入る白釉を掛ける。高台内に「久吉」の朱書。	瀬戸・美濃系 19C前半

23号井戸出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図189

番号 PL	器種	残存 法	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
693	瓦 女瓦	破片 厚 1.2cm		埋没土中	①黒色粒子を含む。 ②還元・硬質 ③灰7.5Y5/1	桶巻造り。西面に1単位2cmほどの寄木痕。凸面に口クロ痕。側部面取り1回。布目は6cmで74本。横断面の曲率は少ない。	秋間系 8C前半か

27号井戸出土遺物観察表（陶器・磁器） 図193

番号 PL	器種	残存 法	残存 量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
684	内耳鍋 軟質陶器	口縁-底部1/6		埋没土中	にぶい黄橙	底部は平底。口縁部内面はわずかに段差を有する。口縁部のみ横溝で。体部外面のみ窪付着。	在地製 15C

27号井戸出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図194

番号 PL	器種	残存 法	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
686	須恵器 高台付碗	底部1/4残存 底 (8.5cm)		埋没土中	①細砂を含む②やや軟質 ③灰白2.5Y7/1	右回転口クロ整形。底部回転系切り後、付高台。	
687	土師器 要	口縁部破片		埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい赤褐2.5YR5/4	体部上位外面横方向彫削り。内面横方向で調整。口縁部内外横溝で。	
685 99	瓦 男瓦	狭端部割3分尺 1残存 厚 1.3cm		埋没土中	①シルト粒子を含む。 ②還元・並質 ③灰白2.5Y7/1	半載作り。凸面口クロ溝で整形(左回転)。黒傷がある。凹面粘土板刺ぎ取り痕。布合わせ目(左右を繋ぎ合わせた状態)がある。側部面取り1回。端部面取り1回。布目は6cmに58本。	

27号井戸出土遺物観察表（石器） 図194

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
226 100	板碑 完形	長 60.8cm 幅 20.5cm 厚 3.5cm 重7400.0g	埋没土中	緑色片岩	二条線・枠線・天蓋なし。種子・運車の刻字法は断面がU字形を呈す竹彫りで浅い。裏面と表面側部の端部に備方向よりののみ痕が残る。	15世紀 産葉か?
225 100	板碑 種子下欠損	長 20.5cm 幅 19.6cm 厚 3.3cm 重2900.0g	埋没土中	緑色片岩	二条線・枠線・天蓋なし。種子及び運車の刻字法は断面がU字形を呈し、竹彫りに近い。裏面の加工はないものと考えられる。	15世紀 産葉か?
224 100	石臼	直 29.6cm 高 9.5cm 重1839.5g 上縁幅 3.1cm 上縁の高 2.7cm	埋没土中	粗粒安山岩	上臼である芯穴の直径は約4.4cm、供給口の直径は約3.7cm、挽き手穴の直径は約4.5cm、深さ約4.9cmである。磨り合わせ面は磨耗が激しく、副溝がわずかに残るだけである。表面にはわずかに削り痕が残る。	石質は多孔質。

28号井戸出土遺物観察表(土師器・須恵器) 図195

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
694	須恵器 台付壺	底部破片 底 (11.8cm)	埋没土中		①砂粒・黒色鉱物粒を含む。②焼質。内面に自然軸付着。③灰白NT/	左回転口クロ整形。体部下位外面積方向回転廻削り。付高台。
688	須恵器 高台付壺	底部1/2残存 底 9.6cm	埋没土上層	①砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③灰白2.5Y8/1	右回転口クロ整形。底部回転糸切り後、付高台。	
689	須恵器 高台付壺	体部下位～底部 底 (7.2cm)	埋没土上層	①砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③黄灰2.5Y6/1	右回転口クロ整形。底部回転糸切り後、付高台。内外面回転で調整。	
692 J01	瓦 女瓦	破片 厚 1.9cm	埋没土中	①黒色粒子を含む。 ②還元・焼締 ③灰N6/	凸面は粗い平行印きを織紗状に施す。一枚作りか。凹面寄木痕?・粘土板割き取り痕・布合わせ目痕。布目は6cmで52本。秋間窯群の焼造製品としては比重が重い。	秋間系 8C
691	瓦 男斗瓦	破片 厚 1.7cm	埋没土中	①黒色粒子を含む。 ②還元・焼質 ③灰7.5Y6/1	布目側に粘土板割き取り痕が顕著。布背面側も粘土板割き取り痕が認められ、未調整である。側面面取り1回。布目は3cmで32本。	兼附系
690 J01	瓦 女瓦	破片 厚 1.5cm	埋没土中	①黒色微粒子を含む。 ②還元・焼質 ③灰白2.5Y8/2	極巻造り。凸面口クロ痕。凹面寄木痕。両面粘土板割き取り痕。凹面の布目の圧痕は後一部のみ。側面面取り1回。伏縁部面取り1回。布目の本数は2cmで14本。	秋間系8C 横断面の曲率は少ない。
728 J01	瓦 女瓦	破片 厚 1.6cm	埋没土中	①黒色粒子を含む。 ②還元・焼締 ③灰7.5Y6/1	凹面に木骨痕・粘土板割き取り痕がある。凸面は単筋縁全体1廻とを縦目に回転する。一枚作りか。横断面の曲率は少ない。布目は3cmで37本。	秋間系

29号井戸出土遺物観察表(陶器・磁器) 図196

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
695	内耳調 軟質陶器	口縁部破片	埋没土中	浅黄橙	器壁は厚く、口縁部は短い。体部外面みの残付着。	在地製 14C後半
698	播鉢 軟質陶器	体部下位破片	埋没土中	橙	内面に筋目は認められない。内面は使用により摩滅。	在地製 14-15C

29号井戸出土遺物観察表(土師器・須恵器) 図196

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
696 J01	土師器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 (14.3cm) 高 5.1cm	埋没土中	①砂粒・石英を含む。 ②普通。 ③明赤褐5YR5/6	体部外面積方向廻削り。内面積方向丁寧な調整。口縁部内外面線まで。	
697 J01	瓦 女瓦	破片 厚 2.2cm	埋没土中	①白色鉱物粒子を含む。 ②酸化・硬質 ③灰黄褐10YR6/2	凹面に木骨痕。端部側に撫でが施されている。凸面口クロ回転痕でか。部分的に布目痕が認められる。極巻造りか。横断面の曲率は少ない。布目は6cmで57本。	兼附系 7C後半～8C前半

2 井戸出土遺物観察表

32号井戸出土遺物観察表〈石器〉 図200

番号 PL	器 種	大 き さ ・ 重 量	出 土 位 置	石 質	形 状 ・ 調 整 加 工 の 特 徴	備 考
227 100	磨石	長 16.2cm 幅 13.5cm 厚 9.0mm 重2090.0g	厩込土中	粗粒安山岩	両面に磨面及び溝状痕がある。全体に敲打痕が点々と認められる。	

36号井戸出土遺物観察表〈陶器・磁器〉 図204

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出 土 位 置	胎 土	器 形 ・ 整 形 ・ 施 軸 の 特 徴	備 考
699	青磁碗 磁器	口縁部破片	厩込土中	灰色	外面にわずかに縞を有する蓮弁文。輪はやや灰色味を帯びる。	龍泉窯系 14C

3. 河川跡出土遺物観察表

1号河川跡出土遺物観察表(縄文土器) 08207

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
319 102	縄文土器 深鉢	口縁部破片	L-27G 埋没土中	①多量の砂粒を含む。 ②良好。 ③褐7.5YR4/4	口縁部破片で、直立ぎみに閉口する。R L縄文を横位に施した後に、断面カマボコ状の隆帯により、渦巻文や楕円区画文が施文され、隆帯に沿って半軟竹管による沈積が認められる。ローリングによる風化が著しい。加曽利E 2式に比定される。	
346 102	縄文土器 深鉢	頸部破片	N-30・31G 埋没土中	①多量の砂礫を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙10YR6/3	頸部の破片。L R縄文を施した後に、口縁部には隆帯による区画文を、また体部には、半軟竹管の背面を使った2本単位を平行懸垂文を施す。体部の縄文は縦位施文である。ローリングによる風化が著しい。加曽利E 3式に比定される。	
306 102	縄文土器 深鉢	体部破片	K・L-25G 埋没土中	①多量の砂粒を含む。 ②良好。 ③褐7.5YR4/4	体部の破片。R L縄文を縦位に施文し、絶行する隆帯の懸垂文を貼付する。ローリングによる風化が著しい。加曽利E 2式に比定されると思われる。	
347 102	縄文土器 深鉢	口縁部破片	N-30G 埋没土中	①多量の砂礫を含む。 ②良好。 ③浅黄橙10YR8/3	舌状の突起を持つ口縁部破片。幅広い沈積により区画文が施され、区画内には縄文が充填される。器面の風化が著しく、原体の種類は不明である。加曽利E 3式に比定される。	
295 102	縄文土器 鉢形	口縁部破片	K-27G 埋没土中	①多量の砂礫を含む。 ②良好。 ③灰白10YR7/1	口縁部の破片で内溝が著しい。口唇下に、断面が半円形状の刺突文を巡らせ、その下位に凹線状の幅広い沈積を横位に施す。加曽利E 3式に比定される。	
320 102	縄文土器 深鉢	口縁部破片	L-27G 埋没土中	①多量の砂粒を含む。 ②良好。 ③灰黄橙10YR5/2	口縁部の破片で、内溝する。隆帯と、それに沿った凹線状の幅広い沈積により区画文が施される。区画内に縄文が充填されているが、器面の風化が著しく、原体は不明である。加曽利E 3式に比定される。	
311 102	縄文土器 深鉢	体部破片	L-24G 埋没土中	①多量の砂礫を含む。 ②良好。 ③褐灰10YR4/1	大形深鉢土器の体部破片。凹線状の幅広い沈積を縦位に2本施した後に、L R縄文を充填する。ローリングによる風化が著しい。加曽利E 3式に比定される。	
335 102	縄文土器 深鉢	口縁部付近の破片	M-25・26G 埋没土中	①多量の砂粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙10YR6/3	口縁部付近の破片である。L R縄文を横位に施文する。ローリングによる風化が著しい。加曽利E 3式と思われる。	
299 102	縄文土器 深鉢	体部破片	K-27G 埋没土中	①多量の砂粒を含む。 ②良好。 ③褐7.5YR4/4	体部の破片であるため、文様構成は不明。L R縄文を不規則に施す。加曽利E 4式-称名寺1式に比定されると思われる。	
325 102	縄文土器 深鉢	体部破片	M-28G 埋没土中	①多量の砂粒を含む。 ②良好。 ③灰7.5Y4/1	体上半部の破片。棒状工具により細い沈積区画文を施し、区画内には縄文が充填される。器面の風化が著しく、原体は不明。称名寺1式に比定される。	
345 102	縄文土器 深鉢	体部破片	N-30・31G 埋没土中	①多量の砂粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙10YR6/4	体部下半の破片である。棒状工具による細い沈積で区画文が施され、その区画内に縄文が充填される。器面が風化しているために、原体は不明。称名寺1式に比定される。	

1号河川跡出土遺物観察表 (縄文土器) 図207

番号 PL	器種	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
331 102	縄文土器 深鉢	口縁部破片	M-31G 埋没土中	①かなり多量の砂粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙10YR6/4	突起をもった口縁部の破片。突起の頂部には棒状工具により両端部に割突を加えたC字状文が施される。突起部中央には最大径15mmの孔があり、中空状となる。称名寺Ⅱ式に比定されよう。	
344 102	縄文土器 深鉢	口縁部破片	N-30・31G 埋没土中	①多量の砂粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙10YR6/3	外縁の著しい口縁部の破片。体部上半に矢羽根状の細沈線文が彫出される。口唇内側には一本の沈線文が回り、その区画内にはL R縄文が充填されている。また、口唇上には小突起が付される。加曾利B 2式に比定される。	
341 102	縄文土器 浅鉢	口縁部破片	N-29G 埋没土中	①結晶片質の砂礫を多量に含む。 ②良好。 ③黄7.5YR5/1	内縁の著しい口縁部の破片。口唇下に細い沈線文を、さらにその下位に、細沈線の伴走する隆線を各々巡らせて横位に区画する。口唇下にはL R縄文が充填され、下位の隆線には短み目が加えられる。器内は5mmと薄手である。加曾利B 2式に比定される。	
315 102	縄文土器 深鉢	体部破片	L-28G 埋没土中	①多量の砂礫を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙10YR7/2	体部の破片。手続竹管による沈線型文を施し、その区画内にR L縄文を充填する。ローリングによる風化が著しい。	

1号河川跡出土遺物観察表 (弥生土器) 1 図207

番号 PL	器種	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
339 102	弥生土器 壺	胴部破片	M-30G 埋没土中	①小礫が混入する。 ②良好。 ③灰白10YR7/1	器面には円柱状の突起が付く。器内は6.5mmである。	地に縄文を施した後、三重沈線文を施文している。	
329 102	弥生土器 壺	胴部破片	L・M-25G 埋没土中	①小礫・雲母を含む。 ②良好。 ③灰白5YR/1	器内は7.0mmの厚さである。	胴部中位の文様と考えられる。地に縄文L Rを施した後、コの字重文を施文している。	
324 102	弥生土器 壺	破片	L-32G 埋没土中	①小礫・白色鉱物を含む②やや粗い ③灰白2.5YR/2	器面は荒れている。器内は6mmの厚さである。	棒状工具によりコの字重文と思われる文様を施文。一部に縄文L Rが施文される。	
334 102	弥生土器 壺	胴部破片	M-29G 埋没土中	①小礫・雲母を含む②わずかに粗い ③灰白2.5YR/2	土器表面には鉄分が付着し、赤褐色になっている部分が多い。	沈線による平行沈線文が4本施文された各沈線間にわずかに太い沈線が施文されている。沈線の下位には縄文R Lが充填される。	
316 102	弥生土器 鉢?	口縁部-胴部破片	L-28G 埋没土中	①白色鉱物を多量に含む②良好 ③灰7.5Y5/1	口縁部に向い外反する。口縁部は断面三角形を呈す。	胴部には沈線によるコの字重文と思われる文様が施文される。コの字重文の中心と口縁部には縄文R Lが充填される。	
303 102	弥生土器 壺	胴上半部破片	M-27G 付近 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好 ③暗灰黄2.5Y5/2	胴部から胴部にかけての破片である。内面は荒れている。	胴部付近に沈線文を横方向に5-6本施文後、黒点文が下位に配置される。わずかに縄文R L充填部を挟み、沈線による波状文7-9本が施文される。沈線間にも縄文は施文されており、沈線施文後に施文していることがわかる。	

1号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 1 図207

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形・整 形 の 特 徴	文 様	備 考
352 102	弥生土器 鉢	胴部破片	N-31G 埋没土中	①砂粒子を含む。 ②良好。 ③灰黄2.5Y4/1	器形は内湾している。内外面とも酸化鉄が付着している。	表面には櫛状工具による沈線文が縦・横・斜めに施文され、横方向の平行沈線文の間は、わずかに隆起している。	

1号河川跡出土遺物(弥生土器) 2 図208

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形・整 形 の 特 徴	文 様	備 考
351 102	弥生土器 壺	口縁部破片	N-31G 埋没土中	①赤褐色・小礫・白色鉱物粒を含む。 ②縦い。 ③黄灰2.5Y4/1	口縁部はわずかに厚みをもつ。外面は縦、内面は横方向に器面調整を行っている。	口縁部には縄文を施文。	
322 102	弥生土器 壺	口縁部破片	L-32G 埋没土中	①夾雑鉱物を含む。 ②縦い。 ③黄灰2.5Y4/1	受口状口縁を呈す。内外面とも器面は荒れている。	口縁部には縄文、口縁部には2本の沈線による波状文、胴部には櫛状横線文を施文。	
332 102	弥生土器 壺	口縁部破片	M-32G 埋没土中	①砂質であり、白色鉱物・雲母を含む。②良好。 ③明黄7.5YR5/6	口縁部は大きく外反し、横撫で整形が行われている。	口縁部には縄文、胴部には櫛状工具による羽状文が施文されている。	
317 102	弥生土器 壺	口縁部から胴部上位の破片	L-28G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。②縦い。 ③黒褐10YR2/2	口縁部は大きく外反する。器面は荒れており、口縁部のみ、横撫で整形痕がみられる。	胴部には6条1単位の櫛状波状文、胴部には櫛状工具による羽状文が施文されている。	
304 102	弥生土器 壺	口縁部破片	K-L-25G 埋没土中	①夾雑鉱物・雲母を含む。②良好。 ③にぶい橙5YR6/4	口縁部は大きく外反する。器面は荒れており、口縁部の横撫で整形痕が残るのみである。	口縁部には刻み目を入れる。	
314 102	弥生土器 壺	口縁部破片	L-31G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。④やや縦い。⑤にぶい黄橙10YR7/3	口縁部は外反する。器内はやや厚く、横方向に器面調整が行われている。器面は荒れている。	口縁部は押捺。	
326 102	弥生土器 壺	口縁部破片	L-M-27G 埋没土中	①夾雑鉱物を含む。②やや縦い。 ③淡黄橙10YR8/3	受口状口縁を呈す。口縁部は丸く、内面は横方向の撫で整形。	口縁部には羽状の波状文が施文されている。	
330 102	弥生土器 壺	胴部破片	M-29G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。②良好。 ③灰黄褐10YR5/2	器面がわずかに荒れている。	沈線による横線文間に、縄文と縦長の点文を施文。	
312 102	弥生土器 壺	胴部破片	L-24G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む②やや縦い ③黄灰2.5Y4/1	器面は内外ともかなり火を受けており、荒れている。	点文が充填されている。	
336 102	弥生土器 壺	口縁部破片	M-25・26G 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③灰黄褐10YR4/2	口縁部はわずかに外反する。口縁上位に2つの円形の穴が貫通する。内外面とも横方向の撫で整形を行っている。	7条1単位の櫛状波状文を、2段分施文している状況は確認できる。	

1号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 2 図208

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
321 J02	弥生土器 壺	口縁部破片	L-26G 埋没土中	①白色灰物・雲母 を含む。②良好。 ③にぶい黄褐色10YR 7/3	折返し口縁を有し、口縁部は 大きく外反する。外面は縦、内面 は横方向に器面整形を行う。	口縁部には横溝波状文を施文。	
343 J02	弥生土器 壺	頸部破片	埋没土中	①白色灰物を含む。 ②緩い。 ③灰白5Y7/2	上位はわずかに外反をはじめ、 全体的に火をかなり受けている と思われる。器面は荒れている。	頸部には縦長の列点文を2段 施文していることが、確認で きる。	
305 J02	弥生土器 壺	頸部破片	K・L-25G 埋没土中	①細砂粒子を含む。 ②良好。 ③灰白10YR8/2	口縁部に向けて、大きく外反す る。外面頸部は縦方向の器面整 形、口縁部は横溝で整形を行 っている。	頸部には沈線による横線文が 施文されている。	
294 J02	弥生土器 壺	頸部破片	K-28G 埋没土中	①白色灰物・雲母 を含む②良好③に ぶい黄褐色10YR5/3	内面は荒れている。外面の一部 に横方向の刷毛目整形が行われ ている。	8条1単位の縦状文が施文さ れている。	外面にわず かに煤が付 着。
327 J02	弥生土器 壺	頸部-胴部 破片	L・M-27G 埋没土中	①白色灰物・雲母 を含む。②良好。 ③褐7.5YR4/6	器面は酸化鉄分付着により観察 しにくい。頸部はわずかにくび れる。	胴部にはボタン状貼付文。頸 部には右廻りの横方向、胴部 には上から下方向に縦状文が 施文されている。	
310 J02	弥生土器 壺?	胴部破片	L-33G 埋没土中	①水滸灰物を含む。 ②良好。 ③淡黄2.5YR/3	わずかに内湾みである。	横溝波状文が充填され、標状 工具による垂下文がこれを切 っている。	
660 J02	弥生土器 壺	胴部-肩部 破片	M-30G 埋没土中	①小礫・雲母を含 む。②良好。③に ぶい黄褐色10YR6/3	頸部はわずかにくびれる。外面 には斜方向の刷毛目、内面には 横方向の磨き痕がある。	頸部には右廻りの縦状文が等 間隔に施文。肩部から胴部 には5条1単位の横状文、4条 1単位の波状文が垂下文とし て施文されている。	
338 J02	弥生土器 壺	肩部-胴部破片	M-30G 埋没土中	①白色灰物・雲母 を含む。②やや緩 い。③にぶい黄褐 10YR6/3	外面は荒れている。内面は横方 向に器面が磨かれている。肩部 はわずかに張っている。	4条1単位の横溝波状文と縦 状文が垂下文として施文され、 後者は頸部に、左廻りに施文 された一部が確認できる。	
292 J02	弥生土器 壺	胴部破片	K-28G 埋没土中	①白色灰物・雲母 を含む②やや緩い。 ③灰白2.5Y7/1	内面は荒れている。	沈線による平行線文が施文さ れている。	
296 J02	弥生土器 壺	胴部-胴部 破片	K-27G 埋没土中	①白色灰物・雲母 を含む。②良好。 ③褐灰10YR4/1	頸部はわずかにくびれる。外面 は荒れており、内面には有機物 が付く。	頸部には4条1単位の右廻り の横状文、胴部には羽状文を 施文。	
349 J02	弥生土器 壺	胴部破片	N-31G 埋没土中	①白色灰物・雲母 を含む。 ②やや緩い。 ③黄褐色2.5Y5/3	内面は横方向に器面整形を行 っている。	地文に縄文を施文後、沈線に よる横線文・斜向線文を施文。	
323 J02	弥生土器 壺	胴部破片	L-32G 埋没土中	①雲母を含む。 ②やや緩い。 ③灰黄褐色10YR6/2	内面は横方向に器面整形を行 っている。	4条1単位の縦状工具により 羽状文が施文される。	外面には煤 が付着。

1号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 2 06206

番号 PL	器種	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
297 102	弥生土器 壺	胴部破片	K-27G 埋没土中	①小礫・白色鉱物を少量、雲母を含む②良好③にぶい黄緑10YR7/3	胴部最大幅部分で大きく張っている。内面は荒れ、外面は横方向の磨きが行われている。	横方向に3本の沈線が確認できる。	
333 102	弥生土器 壺?	胴部破片	M-32G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。②良好。③にぶい黄緑10YR5/4	わずかに内湾する。	底面に施文された横方向の波状文が磨状工具による縦方向の磨下文を切って施文される。	
313 102	弥生土器 壺?	胴部-前部破片	L-24G 埋没土中	①砂質。小礫を含む②やや緑い③にぶい黄7.5YR7/3	頸部はわずかにくびれる。内面は横方向の器面整形が行われている。	沈線による横線文が平行に施文されている。	
308 102	弥生土器 壺	胴部破片	K-L-25G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む②やや緑い③灰白5Y7/2	器内はやや厚い。	沈線による斜向線文と平行線文が施文される。	
300 102	弥生土器 壺?	胴部破片	K-L-35G 埋没土中	①白色鉱物を含む。②緑い。③にぶい黄2.5YR6/3	わずかに内湾している。器面は荒れているが、内面は横方向の器面整形を行っている。	明瞭な文様ではないが、格子目文が施文されている。	
288 102	弥生土器 壺	胴部破片	K-27G 埋没土中	①白色鉱物粒を含む。②良好。③オリーブ黒5Y3/1	わずかに内湾する。内面は横方向に整形されている。	9条1単位の間隔波状文が施文されている。	外面に煤が付着。
358	弥生土器 手捏	口縁部欠損 底 2.8-3.3cm	M-27・28G 埋没土中	①白色・夾雑物を含む。②良好。③灰白2.5YR/2	器面には凹凸が残っている。外面は磨削りを多方向に行い、内面は横方向の横で整形痕が残る。		
282 102	弥生土器 蓋	蓋口部1/3 欠損 口 (14.5cm) 幅み部上端径 4.0cm 高 8.4cm	M-28G 底面上1.0cm	①白色鉱物・雲母を含む。②やや緑い。③にぶい黄緑10YR7/3	幅みを有する蓋である。内外面とも磨状工具による器面調整を主に行っている。		
357 102	弥生土器 円盤	底部残存 底 4.1cm	M-30G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。②良好。③灰白2.5YR/1	底部を転用して使用するかのように、周辺部分を打ち削っている。		
337 102	弥生土器 円盤	底部残存 底 3.0cm	M-28・29G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。②良好。③灰黄2.5Y7/3	胴部下部分を打ち削り、円盤状に作り変えている。		
307 102	弥生土器 壺or蓋	底部破片	K-L-25G 埋没土中	①白色鉱物・小礫を多数混入。②やや緑い。③灰黄2.5YR/3	底部と胴部接合部分は磨状工具で押さえている。器面はわずかに荒れている。	底部外面に木葉痕がある。	
342 102	弥生土器 紡錘車	定形 直 3.0-3.5cm	M-30・31G 埋没土中	①白色鉱物を多量に含む。②良好。③褐灰10YR4/1	壺の転用による紡錘車未製品。内外面から穿孔を行っている。内面には2ヶ所穿孔場所がある。	磨状工具による波状文が残る。	

1号河川跡出土遺物観察表(土師器・須恵器) 図209

番号 JL	器種	残存 方法	出土位置	①動土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
287 J03	土師器 鉢(手控)	口縁部-底部 3/4残存 口 8.4cm 底 4.1cm 高 4.4cm	L-27G 底面上6.0cm	①細砂粒を含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR6/4	外面撫で。内面焼付工具による撫で、焼痕残る。口縁部は外湾ぎみに立ち上がり、口唇部は薄く突る。底部は平底。	
286 J03	土師器 埴	口縁部欠損 底 3.3cm	L-28G 底面直上	①細砂粒・微量の白色 灰物を含む。②良好。 ③にぶい灰黄2.5Y6/2	外面口縁部横撫で、体部上半部撫で、体部下半部撫で、底部近くは磨き、頸部の一部は縦方向の撫で。内面撫で、磨き。底部は平底。	
286 J03	土師器 埴	ほぼ完形 口 8.4cm 底 3.0cm 高 8.8cm	L-28G 底面直上	①細砂粒・微量の白色 灰物を含む。②良好。 ③にぶい黄橙10YR7/4	外面口縁部横撫で、体部磨撫で。内面口縁部横撫で、体部磨撫で。口縁部は直線状に外傾する。底部は丸底状くはみ底。	
271 J03	土師器 埴	体部上半残存 体 9.7cm	L-29G 底面直上	①細砂粒・微量の白色 灰物を含む。②良好。 ③焼丸10YR6/1	外面撫で。内面指頭状撫で。体部は球状を呈する。	
274 J03	土師器 埴	口縁部-底部 5/6残存 口 (11.5cm) 底 4.0cm 高 11.0cm	L-27G 底面上48.0cm	①細砂粒・白色灰物を含 む。②良好。 ③にぶい橙7.5YR7/3	外面口縁部横撫で、体部磨撫で。内面口縁部横撫で、体部磨撫で。口縁部は直線状に外傾し、口唇部はわずかに内傾に屈曲する。底部は平底。	
340 J03	土師器 埴	口縁部1/2残存 口 12.4cm	M・N-28G 埋没土中	①細砂粒・白色灰物を含 む。②良好。 ③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部内外面撫で後、磨き。口縁部は内湾ぎみに外傾する。	
273 J03	土師器 埴	体部残存	埋没土中	①粗砂粒・白色灰物を含 む。②良好。 ③橙7.5YR6/8	外面磨撫で、体部下半部粗い磨撫で。内面磨撫で。体部は扁平な球状を呈する。	
272 J03	土師器 壺	口縁部-底部 一部欠損 底 3.2cm	K-27G 底面上20.0cm	①細砂粒・微量の白色 灰物を含む。②良好。 ③浅黄橙10YR8/3	外面撫で後、磨き。内面磨撫で。胴部は球形、底部は平底を呈する。	外面は朱塗り。
278 J03	土師器 小甕	口縁部-体部 1/3残存	L-25G 底面直上	①細砂粒・白色灰物を含 む。②良好。 ③灰白2.5Y8/2	外面撫で後、磨き。内面磨撫で。頸部は別み目が深る。	
293 J02	土師器 小広口壺	口縁部-体部 1/5残存 口 (12.0cm)	K-28・29G 埋没土中	①粗砂粒・白色灰物を含 む。②良好。 ③浅黄5Y7/3	外面口縁部横撫で、体部磨撫で。内面撫で。口縁部は高く内傾する。	
291 J02	土師器 小形甕	口縁部-底部 3/4残存 口 (12.6cm) 底 6.0cm 高 8.7cm	N-31G 埋没土中	①粗砂粒・白色灰物を含 む。②良好。 ③にぶい橙5YR6/3	外面口縁部横撫で、胴部磨撫で。内面口縁部横撫で、胴部磨撫で。口縁部は外側へ湾曲し、最大径は胴部中位となる。底部は平底。	
350 J02	土師器 鉢	口縁部-体部 破片 口 (19.4cm)	J・M-28G 埋没土中	①粗砂粒・白色灰物を含 む。②良好。 ③橙5YR6/6	外面口縁部横撫で、体部磨撫で。内面口縁部横撫で、体部撫で。口縁部は内湾し、屈曲する。	
318 J02	土師器 杯	口縁部破片 口 16.1cm	L-27G 埋没土中	①細砂粒・白色灰物を含 む。②良好。 ③黄緑2.5Y5/3	外面口縁部横撫で、体部磨削り。内面磨き。口縁部は屈曲し、直立する端部は尖る。	

1号河川跡出土遺物観察表(土師器・須恵器) 図209

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形・変 形 の 特 徴	備 考
328 103	土師器 高杯	裾部欠損	L・M-26G 埋没土中	①細砂粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄褐色10YR7/2	外面磨き。内面撫で、しほり痕が残る。脚部中位は弱く膨らむ。3孔。	
356 103	土師器 器台	口縁部-底部 1/2残存 口 (8.0cm) 底 (10.8cm) 高 8.4cm	埋没土中	①細砂粒・白色鉱物を含む。 ②良好。 ③灰白7.5YR8/2	外面磨き。内面撫で。器受部口縁部は弱く内湾する。3孔。	
279 103	土師器 器台	口縁部-底部 1/2残存 口 (9.2cm) 底 (12.5cm) 高 9.4cm	K-27G 底面上3.0cm	①細砂粒・白色鉱物を含む。 ②良好。 ③灰白7.5YR8/2	外面磨き。内面撫で。器受部口縁部は稜をもち、直立する。3孔。	
284 103	土師器 高杯	口縁部-底部 4/5残存 口 13.4cm 底 15.4cm 高 11.2cm	M-29G 底面直上	①細砂粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄5YR7/4	外面器受口縁部横撫で。体部・脚部磨き。内面器受部磨き。脚端部横撫で。器受口縁部は内湾して立ち上がる。脚端部は外側へ広がる。3孔。	未修理。
301 103	土師器 高杯	脚部1/3残存 底 (12.9cm)	K・L-25G 埋没土中	①細砂粒・白色鉱物を含む。②良好。 ③にぶい黄7.5YR6/3	外面磨き。内面撫で。脚端部横撫で。脚は端部で開き端部先端に断面をもつ。	
353 103	土師器 高杯	脚部1/2残存 底 (4.0cm)	N-31G 埋没土中	①細砂粒・白色鉱物を含む。②良好。 ③にぶい黄5YR7/4	外面撫で。内面磨きで、しほり目痕が残る。脚部に3孔。	
267 102	土師器 高杯	ほぼ定形 口 20.7cm 高 12.2cm	L-28G 底面直上	①細砂粒・白色鉱物・金雲母を含む。 ②良好。③褐色5YR6/6	内外面撫で。器受部内面底部磨き。口縁端部は凹面状の断面。内外面に稜をもつ。	未修理。
269 102	土師器 高杯	杯部残存 口 18.6cm	L-28G 底面上4cm	①細砂粒・白色鉱物・金雲母を含む。 ②良好。③褐色5YR6/6	外面器受部上平横撫で後、放射状に研磨。下半削り。内面横撫で後、放射状に研磨。底面は磨き。器受部は稜をもち、口唇部は内湾する。	
280 102	土師器 高杯	杯部3/4残存 口 19.0cm	L-28G 底面直上	①細砂粒・白色鉱物・金雲母を含む。②良好 ③にぶい黄5YR6/4	内外面撫で。器受部は弱い稜をもち、弱く外反さみに外傾する。	
281	土師器 高杯	杯部下位残存	L-25G 底面直上	①細砂粒・白色鉱物・金雲母を含む。②良好 ③明褐色5YR7/2	外面撫で。内面磨き。外面は器壁の剥落が著しい。	内外面未修理。
270 102	土師器 高杯	杯部残存 口 19.3cm	M-30G 底面直上	①粗砂粒・白色鉱物・金雲母を含む。②良好 ③にぶい黄褐色10YR6/4	外面口縁部横撫で。体部撫で後、放射状に研磨。内面口縁部横撫で。体部撫で。器受部は稜をもち、外反さみに外傾する。	
258 102	土師器 高杯	杯部1/2残存 口 20.0cm	M・N-28G 埋没土中	①粗砂粒・白色鉱物を含む。②良好。 ③にぶい黄5YR6/4	外面口縁部横撫で。体部撫で。内面口縁部横撫で。体部磨き。口縁部は弱く外反しながら外傾する。	
288 103	土師器 壺	口縁部1/2残存 口 22.3cm	L-27G 底面上13.0cm	①細砂粒。微量の白色 鉱物・金雲母を含む② 良好③黄褐色10YR8/3	外面口縁部上平横撫で。下半方向磨き。内面横撫で。有段口縁。口縁端部は面をもち、沈みが深る。	

1号河川跡出土遺物観察表(土器・須恵器) 図209・210

番号 PL	器種	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
283 J03	土器 甕	口縁部一体部 1/5残存 口 (8.4cm)	K-28G 底面上直上	①粗砂粒・白色鉱物・ 黒色輝石粒を含む②良好 ③④にふい燻5YR6/4	外面口縁部横撫で、胴部磨削り。内面口縁部横撫で、 胴部横撫で。口縁部は弱く直立さみで、胴部は長筒を 呈す。	
277 J03	土器 甕	口縁部一体部上 半残存 口 17.0cm	L-28G 底面上1cm	①粗砂粒・白色鉱物を 含む。②良好。 ③明燻67.5YR7/1	外面口縁部横撫で、胴部横撫で。内面口縁部横撫で、 胴部横撫で。口縁部は弱く外反して、外唇する。	
276 J03	土器 甕	体部～底部 3/4残存 底 6.7cm	K-25G 底面上19.0cm	①粗砂粒・白色鉱物を 含む。②良好。 ③④にふい燻10YR6/3	外面前り状の横撫で。内面撫で。底部平底。	
309	土器 甕	口縁部一体部上 位破片 口 (17.2cm)	K・L-25G 埋没土中	①粗砂粒・白色鉱物・ 金雲母を含む。②良好 ③④にふい燻7.5YR7/4	外面口縁部横撫で、胴部刷毛目。内面口縁部横撫で、 胴部横撫で。口縁部はS字状を呈し、胴部は横線が施さ れる。	
348 J03	土器 甕	口縁部一体部上 位破片 口 (18.3cm)	N-31G 埋没土中	①粗砂粒・微量の白色 鉱物を含む。②良好。 ③④にふい燻10YR7/2	外面口縁部横撫で、胴部刷毛目、肩部に横線。内面口 縁部横撫で、胴部横撫で。口縁部はS字状を呈する横線 の上に部分的に斜め刷毛目が重なる。	
290 J03	土器 甕	口縁部～胴部 1/3残存 口 (13.4cm)	N-24G 埋没土中	①粗砂粒・白色鉱物を 含む。②良好。 ③灰燻7.5YR4/2	外面口縁部横撫で、胴部刷毛目。内面口縁部横撫で、 口縁部はS字状を呈する。	
285 J02	土器 台付甕	体部下位～脚部 残存 底 9.5cm	L-25G 底面上15.0cm	①粗砂粒・白色鉱物・ 金雲母を含む。②良好 ③④にふい燻7.5YR6/3	外面刷毛目、脚部上半刷毛目。内面磨き状撫で。内面 脚端部は折り返し、指頭状撫でを行っている。	
289 J03	土器 台付甕	脚部一部欠損 底 9.3cm	M-30G 底面上3cm	①粗砂粒を含む。 ②良好。 ③明燻67.5YR7/2	外面脚部上半刷毛目。内面撫で。内面脚端部に折り返し がある。	
275 J03	土器 台付甕	脚部残存 底 12.0cm	L-28G 底面上6cm	①粗砂粒・白色鉱物を 含む。②良好。 ③④にふい燻7.5YR7/4	外面撫で。内面撫で、接合部指頭状撫で。内面脚端部 は折り返し。	

1号河川跡出土遺物観察表(石器) 図212

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
186 J04	削片	長 7.3cm 幅 3.2cm 厚 1.5cm 重 38.1g	M-29G 埋没土中	蛇紋岩	両側縁を調整している。管玉、あるいは剣形の未成品の可能 性がある。	石材はかなり 滑石質で、軟 らかい。
178 J04	削片	長 5.5cm 幅 4.0cm 厚 1.1cm 重 34.3g	M・N-28G 埋没土中	蛇紋岩	石目を利用して板状に削ったものである。	石材はかなり 滑石質。
164 J04	削片 (研ぎ痕 有り)	長 5.5cm 幅 2.2cm 厚 0.8cm 重 12.4g	埋没土中	蛇紋岩	表面には敲打痕を多く残し、その上を研磨している。裏面は のみ状工具により削り込んでいる。研磨痕がある。	石材は滑石質。
181 J04	削片	長 4.2cm 幅 1.2cm 厚 0.6cm 重 3.4g	M-30G 埋没土中	蛇紋岩	右側は折れている。	石材は滑石質。
255 J04	削片	長 3.1cm 幅 2.1cm 厚 1.1cm 重 8.4g	M-32G 埋没土中	蛇紋岩	表面に自然面を残す。裏面は割離面。	滑石質。

1号河川跡出土遺物観察表《石器》 IN212-214

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
189 104	刮片	長 2.6cm 幅 2.7cm 厚 0.5cm 重 5.9g	N-30G 埋設土中	蛇紋岩	一部に自然面を残す。調整はない。のみ状工具による割り込み痕がある。	滑石質。
206 104	刮片	長 3.0cm 幅 2.7cm 厚 1.1cm 重 10.7g	L-24G 埋設土中	蛇紋岩	打面は節理面である。一面に自然面を残す。	滑石質。
190 104	刮片	長 2.7cm 幅 2.9cm 厚 0.7cm 重 4.0g	N-30G 埋設土中	蛇紋岩	左側は割り取って全体を三角形にしている。調整痕はなし。	滑石質。
257 104	刮片	長 2.1cm 幅 3.5cm 厚 0.8cm 重 6.8g	N-31G 埋設土中	蛇紋岩	横長刮片であるが、二次加工はない。表面側に二ヶ所の割り込み痕を残す。	滑石質。
182 104	刮片	長 2.6cm 幅 4.1cm 厚 1.1cm 重 8.1g	M-30G 埋設土中	蛇紋岩	打面は自然面である。調整はない。	滑石質。
183 104	刮片	長 2.4cm 幅 3.6cm 厚 1.0cm 重 8.6g	M-32G 埋設土中	蛇紋岩	表面に自然面を残す。端部にのみ状工具による割り込み痕を残す。	滑石質。
209 104	刮片	長 2.5cm 幅 3.8cm 厚 0.6cm 重 9.8g	L-26G 埋設土中	蛇紋岩	板状刮片の周辺部を割り取っている。割り込み痕を残す。	滑石質。
250 105	刮片	長 1.9cm 幅 3.9cm 厚 0.5cm 重 5.5g	L-M-29-30G 黒色土下溝 埋設土中	蛇紋岩	横長薄手。調整はない。	かなり滑石質。
337 105	刮片	長 1.5cm 幅 3.4cm 厚 0.7cm 重 3.5g	埋設土中	蛇紋岩	横長刮片の周辺部を若干調整している。	滑石質。表面磨滅。
338 105	刮片	長 1.3cm 幅 3.3cm 厚 0.8cm 重 4.1g	埋設土中	蛇紋岩	横長刮片であり、上端に割り込み痕を残す。調整刻痕は施されていない。表面は自然面である。	
246 105	刮片	長 1.3cm 幅 3.2cm 厚 0.6cm 重 2.4g	L-27G 埋設土中	蛇紋岩	のみ状工具による割り込み痕を残す。表面下縁には節理面が残る。	滑石質。
174 105	刮片	長 3.1cm 幅 1.4cm 厚 0.9cm 重 4.6g	M-N-28G 埋設土中	滑石	縦長で、上端にのみ状工具による割り込み痕がある。表面は平坦であり、自然面あるいは節理面である。	全体に磨滅している。
216 105	刮片	長 2.9cm 幅 1.0cm 厚 0.8cm 重 3.4g	L-29G 埋設土中	蛇紋岩	割り込み痕を良く残す。	滑石質。
254 105	刮片	長 2.0cm 幅 1.2cm 厚 0.5cm 重 1.4g	M-30G 埋設土中	変質蛇紋岩	表面に2本の割り込み痕を残す。裏面上端にも残る。	滑石質。
194 104	刮片	長 3.0cm 幅 1.1cm 厚 0.4cm 重 1.9g	N-32G 埋設土中	蛇紋岩	両側打法によると思われる割り込み痕を残す。	滑石質。
335 105	刮片	長 1.5cm 幅 1.5cm 厚 0.3cm 重 1.4g	埋設土中	珪質頁岩	打面は割離面。玉制作途中でできる小刮片。裏面には上端と右端の二ヶ所に打点認められる。	
242 107	刮片	長 3.2cm 幅 1.8cm 厚 1.2cm 重 10.7g	L-27G 埋設土中	緑色珪質岩	管玉の素材と考えられるものである。裏面が平坦であり、横断面形状は台形状を呈する。	
146	形削刮片	長 2.5cm 幅 1.6cm 厚 1.0cm 重 8.4g	L-27G 埋設土中	蛇紋岩	研磨を開始した段階のもの。側面及び裏面に研磨痕が認められる。	未成品。石材は滑石質。
149	形削刮片	長 2.4cm 幅 0.9cm 厚 0.8cm 重 3.8g	L-M-29-30G 埋設土中	蛇紋岩	表裏両面に研磨痕を残す。左側面上端にのみ痕を残す。左側面は鋭く研磨され、右側面は割離面のままである。	石材は滑石質。

1号河川跡出土遺物観察表(石器) 0214・215

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
147	形割削片	長 2.8cm 幅 0.9cm 厚 0.8cm 重 5.3g	L-28G 埋没土中	蛇紋岩	表面両面は研磨後、形割したもの。左側面にノミ痕を残す。両側面は剥離面のままで、研磨は施されていない。	石材は滑石質。
148	削片	長 1.4cm 幅 0.8cm 厚 0.4cm 重 0.9g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	一部研磨されている。側面に剥離面を残す。	石材は滑石質。
150	削片	長 3.3cm 幅 0.9cm 厚 0.4cm 重 2.4g	M-30G 埋没土中	蛇紋岩	右側面及び上下両端を除き、ほぼ全面研磨している。薄手であり、管玉には成り得ないものである。	石材は滑石質。
144	管玉	長 1.7cm 幅 0.9cm 厚 0.6cm 重 2.2g	N-32G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残す。部分的に剥離面を残し、全体の形状はあまり整えられていない。上下両端は研磨後を残す。	未成品。石材は滑石質。
143	管玉	長 (1.7cm) 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 1.3g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	剥離面を残す。研磨後は明瞭。端面は研磨していない。左下部に新しい欠損がある。	未製品。石材は滑石質。
134	管玉	長 (1.8cm) 幅 — 厚 0.8cm 重 1.0g	L-27G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残すが、線状痕はあまり深くない。全体に光沢をもつ。	欠損品。石材は硬質。
145	管玉	長 1.5cm 幅 0.6cm 厚 0.4cm 重 0.9g	埋没土中	蛇紋岩	研磨後是不明瞭。一部に若干剥離面を残す。上下両端には弱い研磨後を残す。後を取り始めた段階のもの。	未成品。石材は滑石質。
136	管玉	長 1.4cm 幅 0.8cm 厚 0.8cm 重 2.0g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残す。上下両端にも研磨面がある。一部剥離面を残す。割り口はやや斜めである。	未成品。石材は滑石質。
139	管玉	長 1.3cm 幅 0.7cm 厚 0.6cm 重 1.1g	L-M-29-29G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残す。上下両端は線状痕が明瞭で、後が残さない。一部剥離面と自然面がある。	未成品。石材は滑石質。
138	管玉	長 1.8cm 幅 0.7cm 厚 0.8cm 重 1.2g	L-M-29-29G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残す。上下両端は線状痕が明瞭で、後はない。一部剥離面がある。新しい欠損がある。	未成品。石材は滑石質。
141	管玉	長 1.8cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 2.0g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残す。上下両端はほぼ一定方向に研磨、後はないが線状痕は明瞭である。	未成品。石材は滑石質。
135	管玉	長 1.6cm 幅 0.7cm 厚 0.8cm 重 1.3g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残す。上下両面の研磨面では、後はやや不明瞭であるが、線状痕を深く残す。割り口はやや斜めである。	未成品。石材は滑石質。
137	管玉	長 1.9cm 幅 0.8cm 厚 0.8cm 重 2.0g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残す。上下両端は線状痕を深く残すが、後はない。	未成品。石材は滑石質。一部欠損。
126	管玉	長 1.7cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 1.6g	L-M-29-29G 埋没土中	蛇紋岩	側面の研磨後には、明瞭な部分と不明瞭な部分がある。上下両端は研磨後を残す。一部傷取りを開始し、上端から穿孔途中のもの。	未成品。石材は滑石質。
142	管玉	長 2.1cm 幅 0.8cm 厚 0.7cm 重 2.4g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残す。上下両端はほぼ一定方向に研磨し、後を若干残す。長軸に対して、割り面はやや斜めとなっている。	未成品。石材は滑石質。
125	管玉	長 2.3cm 幅 0.8cm 厚 0.8cm 重 3.0g	L-M-29-29G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残す。上下両面では研磨面はほぼ一面であり、後はない。上端から穿孔を開始したところ。側面に剥離面を残す。	未成品。石材は滑石質。
83	管玉	長 1.2cm 幅 0.6cm 厚 0.6cm 重 0.6g	L-M-29-29G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を残す。上下両端は両側を穿孔後に研磨。光沢はない。	完成品。石材は滑石質。

1号河川跡出土遺物観察表〈石器〉 図215

番号 PL	器 種	大きさ・重 量	出土位置	石 質	形状・調整加工の特徴	備 考
106	管玉	長 1.1cm 幅 0.8cm 厚 0.8cm 重 1.1g	L-27G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を明瞭に残す。下端からのものは穴の開け直しである。	未成品。石材は滑石質。
97	管玉	長 1.3cm 幅 0.6cm 厚 0.6cm 重 0.9g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨前をほとんど残さない。光沢をもつ。出べその量による両側穿孔。両端は研磨されていない。断面は円形である。	完形。石材は滑石質。
124	管玉	長 1.6cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 1.1g	L-M28・29G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残す。穴は上端からのみ。側面の欠損は穿孔時のものである。断面は多角形。上下両端の研磨後を明瞭に残す。	未成品。石材は滑石質。一部欠損。
110	管玉	長 1.4cm 幅 0.9cm 厚 0.9cm 重 1.8g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を明瞭に残す。	完形。石材は滑石質。
121	管玉	長 1.7cm 幅 0.8cm 厚 0.7cm 重 1.6g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	側面及び上下両端に、研磨後を明瞭に残す。穿孔途中で、貫通寸前のもの。下端の穴は開け直している。	未成品。石材は滑石質。
114	管玉	長 1.7cm 幅 0.9cm 厚 0.8cm 重 2.0g	L-M28・29G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を明瞭に残す。一部に割離面を残す。	完形。石材は滑石質。かなり滑石質。
140	管玉	長 1.8cm 幅 0.7cm 厚 一重 0.6g	L-M28・29G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残す。下端の一部割離面を残す。	石材は滑石質。欠損品。
127	管玉	長 1.7cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 2.0g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残す。上下両端に研磨面は一面である。穿孔途中で貫通していない。断面はまだ四角形に近い。	未成品。石材は滑石質。
129	管玉	長 1.6cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 1.6g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残す。一部割離面を残す。穿孔は上端からのみ。断面は四角形に近い。穿孔途中で欠損。	未成品。石材は滑石質。
118	管玉	長 2.0cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 2.0g	M-27G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残すが、やや光沢をもつ。上下両端は穴開けの途中であり、貫通していない。上端のものは穴の開け直しである。	未成品。石材は滑石質。
120	管玉	長 1.9cm 幅 1.0cm 厚 1.0cm 重 3.2g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	側面に研磨後を明瞭に残す。上下両端も研磨後を明瞭に残し、穿孔途中の穴が認められる。若干光沢をもつ。	未成品。石材は滑石質。
104	管玉	長 1.9cm 幅 0.8cm 厚 0.8cm 重 2.9g	L-25G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を明瞭に残す。	完形。石材は滑石質。
117	管玉	長 1.8cm 幅 0.8cm 厚 0.8cm 重 2.4g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残す。断面は、まだかなり四角っぽい。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を明瞭に残す。一部割離面を残す。	完形。石材は滑石質。
122	管玉	長 1.8cm 幅 0.8cm 厚 0.7cm 重 1.9g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残す。断面は歪んだ楕円形を呈する。穴は両側穿孔であるが、途中ですれちがって、上からのものは横に開いている。	未成品。石材は滑石質。
111	管玉	長 1.8cm 幅 0.9cm 厚 0.8cm 重 2.9g	N-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を明瞭に残す。	完形。石材は滑石質。
133	管玉	長 2.2cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 2.3g	L-27G 埋没土中	蛇紋岩	研磨後が一部不明瞭な部分がある。上半部はかなり歪んだ楕円形。上下両端面はやや丸みをもつ。穿孔は下からのみ。	未成品。石材は滑石質。
128	管玉	長 2.0cm 幅 0.8cm 厚 0.9cm 重 2.6g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	全体に研磨後を明瞭に残す。断面はやや歪んだ多角形。両側穿孔であり、穴は貫通寸前で止まっている。	未成品。石材は滑石質。

1号河川跡出土遺物観察表(石器) B0215・216

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
116	管玉	長 1.9cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 1.9g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕を明瞭に残す。側面の縦状痕は縦、もしくはそれに近い斜方向の長いものとなっている。上下両端は両側穿孔後に研磨、縦状痕を明瞭に残す。削り口が鋭めになっている。	定形。石材は滑石質。
119	管玉	長 1.9cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 1.7g	L-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、縦状痕を残す。一部剥離面がある。	定形。石材は滑石質。
115	管玉	長 2.0cm 幅 0.9cm 厚 0.8cm 重 2.6g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、縦状痕を明瞭に残す。	定形。石材は滑石質。
109	管玉	長 2.1cm 幅 0.8cm 厚 0.9cm 重 2.5g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、縦状痕を明瞭に残す。	定形。石材は滑石質。
105	管玉	長 2.0cm 幅 0.8cm 厚 0.8cm 重 2.4g	L-26G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、縦状痕を明瞭に残す。	定形。石材は滑石質。
113	管玉	長 1.9cm 幅 0.8cm 厚 0.6cm 重 2.2g	L-M28・29G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕を残すが、あまり明瞭ではない。上下両端は両側穿孔後に研磨、縦状痕は明瞭である。傷取り開始段階のもの。	定形。石材は滑石質。
70	管玉	長 2.1cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 1.5g	L-26G 埋没土中	蛇紋岩	横断面は楕円形を呈する。出べそ形の縁によって両側から穿孔されており、上下とも欠の周辺が窪む。研磨痕は全く残していない。若干光沢をもつ。	定形。石材は滑石質。
72	管玉	長 1.9cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 1.5g	N-27G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕を残さない。両側穿孔後に両端を研磨し、その縦状痕が残る。若干光沢がある。断面は円形に近い。	定形。石材は滑石質。
130	管玉	長 2.2cm 幅 0.8cm 厚 2.0cm 重 2.4g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕を明瞭に残す。上下両面には研磨痕はほとんど残さない。両側穿孔。上端から穴開けの際に一部欠損。	未成品。石材は滑石質。
132	管玉	長 2.1cm 幅 0.8cm 厚 0.8cm 重 2.2g	N-32G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕を明瞭に残す。上下両端の研磨面は一面。両側穿孔、貫通寸前に一部欠損。	未成品。石材は滑石質。
112	管玉	長 2.0cm 幅 0.8cm 厚 0.7cm 重 1.5g	L-M29・30G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、縦状痕を明瞭に残す。	石材は滑石質。一部欠損。
108	管玉	長 2.6cm 幅 0.8cm 厚 0.8cm 重 2.9g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、縦状痕を明瞭に残す。	定形。石材は滑石質。
123	管玉	長 2.0cm 幅 - 厚 0.9cm 重 1.4g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕はやや不明瞭であるが、縦状痕は残る。上下両端は縦状痕を残す。両側穿孔であり、貫通している。傷取り途中で欠損したものである。	欠損品。石材は滑石質。
98	管玉	長 1.3cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.5g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕をほとんど残さない。上下両端は出べそ形の縁による両側穿孔。全体に光沢をもつ。断面円形。	定形。石材は滑石質。
86	管玉	長 1.5cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.6g	L-M29・30G 埋没土中	蛇紋岩	側面に研磨痕をほとんど残さない。光沢をもつ。上下両端は両側穿孔後に研磨、縦状痕を残す。断面円形。	定形。石材は滑石質。
87	管玉	長 1.5cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.7g	L-M29・30G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕はほとんど残さない。やや光沢をもつ。上下両端は両側穿孔後に研磨、縦状痕を残す。断面円形。	定形。石材は滑石質。
89	管玉	長 1.7cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.7g	M-30G 埋没土中	蛇紋岩	ほとんど研磨痕を残さない。上下両端は両側穿孔後に研磨。内面も含め、全体に光沢をもつ。断面円形。	定形。石材は滑石質。
78	管玉	長 1.6cm 幅 0.6cm 厚 0.5cm 重 0.8g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕はほとんど残さないが、光沢はない。上下両端は穿孔後に研磨。断面円形。	定形。石材は滑石質。

1号河川跡出土遺物観察表(石器) 図216

番号 FL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
81	管玉	長 1.7cm 幅 0.6cm 厚 0.6cm 重 0.9g	I-M28・29 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕はほとんど残さない。やや光沢がある。上下両端は両側穿孔後、研磨。線状痕を残す。断面円形。	完形。石材は滑石質。
103	管玉	長 1.6cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.8g	廃土 埋没土中	蛇紋岩	側面に横方向の線状痕を残す。上下両端は両側穿孔後、研磨している。全体に強い光沢をもつ。断面円形。	完形。石材は滑石質。
99	管玉	長 1.7cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.7g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	ほとんど研磨痕を残さない。かなり強い光沢をもつ。出べその痕による両側穿孔。断面円形。	完形。石材は滑石質。
80	管玉	長 1.7cm 幅 0.6cm 厚 0.6cm 重 0.7g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕をほとんど残さない。光沢はない。上下両端は両側穿孔後に研磨。線状痕が残る。断面円形。	完形。石材は滑石質。
85	管玉	長 1.8cm 幅 0.6cm 厚 0.5cm 重 0.8g	I-M29・30 埋没土中	蛇紋岩	研磨による線状痕を若干残す。上下両端は両側穿孔後に研磨し、さらにつや出しをしている。側面も光沢をもつ。断面円形。新しい衝撃により欠損。	ほぼ完形。石材は滑石質。
101	管玉	長 1.8cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.9g	N-32G 埋没土中	蛇紋岩	側面に若干研磨痕が残るが、光沢をもつ。上下両端は両側穿孔後に研磨。線状痕は残らず、若干光沢をもつ。断面は楕円形。	完形。石材は滑石質。
71	管玉	長 1.8cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.6g	M-27G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕を残さない。断面も円形に近い。やや光沢をもつ。上下両端が割めになっている。出べその痕による両側穿孔。	完形。石材は滑石質。
73	管玉	長 2.0cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.7g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕を残さない。断面円形。出べその痕による両側穿孔。上端は穿孔後、研磨。ほとんど光沢はない。	完形。石材は滑石質。
77	管玉	長 1.8cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.7g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕をほとんど残さず、光沢をもつ。出べその痕による両側穿孔である。上下両端は割めのままで、研磨してはいない。	完形。石材は滑石質。
102	管玉	長 2.1cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.9g	N-32G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕はないが、線状痕は残る。上下両端は両側穿孔後に研磨。線状痕を明瞭に残す。光沢はない。	完形。石材は滑石質。
94	管玉	長 1.9cm 幅 0.6cm 厚 0.6cm 重 1.1g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕はないが、線状痕を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨。研磨痕を残す。光沢はない。断面円形。	完形。石材は滑石質。
75	管玉	長 0.9cm 幅 0.5cm 厚 0.6cm 重 0.7g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕をほとんど残さない。光沢をもつ。上下両端は穿孔後に研磨しているが、光沢はない。穴がずれて、横にぬけている。断面円形。	失敗品。石材は滑石質。
76	管玉	長 2.1cm 幅 0.6cm 厚 0.5cm 重 0.9g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕をほとんど残さない。光沢をもつ。上下両端は穿孔後研磨し、線状痕が明瞭に残る。断面円形。	完形。石材は滑石質。
91	管玉	長 2.1cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 1.0g	M-30G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕をほとんど残さないが、上下両端は線状痕が明瞭に残る。側面は光沢をもつ。両側穿孔。断面円形。	完形。石材は滑石質。
96	管玉	長 1.9cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.8g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕をほとんど残さない。若干光沢をもつ。上下両端は両側穿孔後に研磨。線状痕を残す。断面円形。	完形。石材は滑石質。
131	管玉	長 2.0cm 幅 一 厚 0.8cm 重 1.3g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕を明瞭に残す。上下両端の研磨面はほぼ一面。両側穿孔で、上からの穴は先端が鋭になっている。	欠損品。石材は滑石質。
79	管玉	長 2.3cm 幅 0.6cm 厚 0.5cm 重 1.1g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕をほとんど残さない。上下両端は穿孔後に研磨して、線状痕を消している。部分的に光沢がある。	完形。石材は滑石質。
88	管玉	長 2.0cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.9g	M-30G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕を残さないが、線状痕は残る。光沢はない。上下両端は両側穿孔後に研磨。線状痕を残す。研磨時に側面に穴が開いている。	失敗品。石材は滑石質。

1号河川跡出土遺物観察表(石器) 図216・217

番号 PL	器 種	大きさ・重量	出土位置	石 質	形状・調整加工の特徴	備 考
92	管玉	長 2.2cm 幅 0.5cm 厚 0.6cm 重 1.1g	M-30G 埋設土中	蛇紋岩	研磨痕はないが、縦状痕を残す。上下両端は両側穿孔後、研磨。光沢はない。穴は中央部でずれる。断面円形。	完形。石材は滑石質。
74	管玉	長 2.2cm 幅 0.6cm 厚 0.6cm 重 1.4g	M-28G 埋設土中	蛇紋岩	研磨痕は全く残らないが、若干縦状痕は残る。両側穿孔後、上下両端研磨。若干光沢をもつが、つや出し磨き以前のもの。	完形。石材は滑石質。
82	管玉	長 2.3cm 幅 0.6cm 厚 0.5cm 重 1.1g	L-M28・29G 埋設土中	蛇紋岩	研磨痕は残さないが、若干縦状痕を残す。上下両端は両側穿孔後、研磨。光沢はない。	完形。石材は滑石質。
100	管玉	長 2.0cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.8g	N-31G 埋設土中	蛇紋岩	側面はほとんど研磨痕を残さない。やや光沢をもつ。上下両端は両側穿孔後に研磨。縦状痕を残す。断面円形。	完形。石材は滑石質。
107	管玉	長 1.9cm 幅 — 厚 0.7cm 重 0.7g	L-27G 埋設土中	蛇紋岩	研磨痕を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨。縦状痕を残す。縁の光澤は尖らない。	石材は滑石質。縦割れの片方。
84	管玉	長 2.1cm 幅 0.5cm 厚 0.4cm 重 0.6g	L・M-28・29G 埋設土中	蛇紋岩	研磨痕はないが、縦状痕を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後、研磨。穿孔がずれて、側面に穴が開いている。光沢はない。	失敗品。石材は滑石質。
95	管玉	長 2.2cm 幅 0.4cm 厚 0.4cm 重 0.8g	N-31G 埋設土中	蛇紋岩	研磨痕をほとんど残さない。やや光沢をもつ。上下両端は両側穿孔後に研磨。縦状痕を残す。断面円形。	完形。石材は滑石質。
93	管玉	長 2.6cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 1.2g	M-30G 埋設土中	蛇紋岩	研磨痕はないが、縦状痕を若干残す。やや光沢をもつ。上下両端は穿孔後に研磨。光沢はない。断面はほぼ円形。	完形。石材は滑石質。
90	管玉	長 2.4cm 幅 0.4cm 厚 0.4cm 重 0.6g	M-30G 埋設土中	緑色珪質頁岩と思われる。	研磨痕をほとんど残さない。上下両端は両側穿孔。研磨後、つや出し磨きが行われている。側面も光沢をもつ。他のものにくらべて磨きである。	穿孔時に下端一部欠損。
55 106	丁字頭勾玉	長 2.5cm 幅 0.8cm 厚 — 重 2.9g	N-29G 埋設土中	蛇紋岩	やや胴長ぎみのC字形を呈し、頭に三条の刻みをもつ。両側穿孔。全体に光沢をもつ。断面形は丸に近い。	完形。石材は深緑色。
60 106	勾玉	長 1.6cm 幅 0.5cm 厚 — 重 1.4g	M-30G 埋設土中	蛇紋岩	扁平小形。研磨痕を明瞭に残す。全体に若干の光沢をもつ。両側穿孔。	石材は滑石質。
59 106	勾玉	長 1.8cm 幅 0.7cm 厚 — 重 1.7g	L-28G 埋設土中	滑石	頭は幅が狭く薄手で、腰から尾が幅広く厚手となっている。研磨痕は背と腹に良く残るが、光沢も背と腹に認められる。	完形。
58 106	勾玉	長 1.6cm 幅 0.4cm 厚 — 重 0.8g	L-27G 埋設土中	蛇紋岩	扁平小形。全体に研磨痕を残し、後もしっかりしているが、やや光沢をもつ。両側穿孔。	一部欠損。石材は滑石質。
61 106	勾玉	長 1.3cm 幅 0.3cm 厚 — 重 0.5g	N-31G 埋設土中	蛇紋岩	扁平小形。背と腹に研磨痕を明瞭に残す。両側面の研磨痕はあまり明瞭ではなく、やや光沢をもつ。両側穿孔。	石材は滑石質。
57 106	勾玉	長 1.4cm 幅 0.3cm 厚 — 重 0.6g	L-27G 埋設土中	蛇紋岩	扁平小形。研磨痕を残す。頭の部分には残るが、全体に若干光沢をもつ。両側穿孔。	完形。石材は滑石質。
56 106	勾玉	長 1.1cm 幅 0.2cm 厚 — 重 0.2g	M-30G 埋設土中	滑石	非常に小形で扁平である。腹と背側に研磨痕を残す。表裏両面は研磨痕不明であり、あまり光沢はない。	完形。
62 106	勾玉	長 1.7cm 幅 0.6cm 厚 — 重 1.4g	L・M28・29G 埋設土中	滑石	腹側が厚く、背側が薄い。研磨痕を明瞭に残す。穿孔以前の段階のもの。	
63 106	勾玉	長 1.9cm 幅 0.5cm 厚 — 重 2.0g	L-27G 埋設土中	蛇紋岩	研磨痕を明瞭に残し、全体の形状も角張り、頭と尾も明瞭ではない。裏側面がやや平坦で、表側が若干盛り上がる。	石材は滑石質。
64 106	勾玉	長 1.5cm 幅 0.3cm 厚 — 重 0.7g	N-31G 埋設土中	蛇紋岩	扁平小形。頭と尾は丸みをもつ。研磨痕を残す。光沢はほとんどない。穿孔以前の段階のもの。	石材は滑石質。

1号河川跡出土遺物観察表(石器) 図217・218

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
68 106	勾玉素材	長 2.3cm 幅(1.3cm) 厚 0.4cm 重 3.0g	L-M-29-30 埋没土中	蛇紋岩	両面とも平坦であり、背面には研磨痕が明瞭に残る。	石材は滑石質。
66 106	勾玉素材	長 (1.9cm) 幅(1.3cm) 厚 0.3cm 重 1.1g	N-32G 埋没土中	蛇紋岩	両側面は平坦であり、研磨痕を明瞭に残す。研磨途中に下端が欠損したものの、穿孔以前の段階のもの。	下端欠損。石材は滑石質。
67 106	勾玉素材	長 1.9cm 幅(1.0cm) 厚 0.3cm 重 1.1g	N-32G 埋没土中	蛇紋岩	内側が厚く、外側が薄い。研磨痕を明瞭に残す。特に裏面側の方が厚く、深い研磨傷が認められる。	石材は滑石質。
65 106	勾玉未成品	長 1.8cm 幅(1.1cm) 厚 0.5cm 重 1.9g	L-M-28-29 埋没土中	蛇紋岩	平片状素材に穿孔したものの、穿孔後、両側面研磨。一部に剥離面を残す。背面の研磨痕は明瞭である。	石材は滑石質。
69 106	白玉	長 1.1cm 幅 1.2cm 厚 0.3cm 重 0.6g	L-M-28-29 埋没土中	蛇紋岩	表裏両面は平坦で、縁縁部には研磨痕を明瞭に残す。全体にやや光沢をもつ。	石材は滑石質。
151 106	石製模造品	長 1.7cm 幅 1.0cm 厚 0.8cm 重 1.8g	M-28-29G 埋没土中	蛇紋岩	つまみ部分は、研磨によって削り減らされて作成されている。底面も研磨され、丸く整えられている。何を模したものが不明である。	完形。石材は滑石質。
177 106	石鏃	長 3.5cm 幅 2.0cm 厚 0.6cm 重 4.2g	M・N-28G 埋没土中	砂岩質頁岩	横長削片の一端に尖頭部を作出しているものである。石鏃未成品の可能性もある。	石材は黒色を呈する。
188 106	石鏃	長 3.1cm 幅 1.8cm 厚 0.7cm 重 4.3g	N-30G 埋没土中	黒色安山岩	片面周辺調整。歪んだ二等辺三角形を呈する。石鏃の可能性もある。	
336 106	石鏃	長 1.7cm 幅 1.3cm 厚 0.3cm 重 0.8g	埋没土中	砂岩(?)	小削片の一端に尖頭部を作出している。調整加工は粗い。左側縁は折り取った後に、表裏両面より調整している。	
247 106	石鏃	長 3.9cm 幅 4.0cm 厚 1.0cm 重 17.2g	L-27G 埋没土中	黒色安山岩	削片の先端部に尖頭部を作出したものであり、その調整加工は鋭歯縁状を呈する。打面は除去されている。	
230 106	石鏃	長 2.0cm 幅 2.0cm 厚 0.3cm 重 1.0g	M-30G 埋没土中	チャート	平面形はほぼ正方形を呈し、二側縁は直線的で、底辺のみやや外湾する。第一次剥離面を残す。	完形。
234 106	石鏃	長 1.8cm 幅 1.3cm 厚 0.4cm 重 0.8g	L-27G 埋没土中	黒色安山岩	平面形は二等辺三角形であり、底辺が若干内湾する。	先端欠損。
232 106	石鏃	長 2.0cm 幅 1.3cm 厚 0.5cm 重 0.9g	L-M-28-29 埋没土中	チャート	平面形は二等辺三角形を呈し、底辺は若干内湾する。	完形。
229 106	石鏃	長 2.3cm 幅 1.2cm 厚 0.3cm 重 1.0g	M-28G 埋没土中	黒色頁岩	基部の両側及び底辺に抉入部を有する。薄手であるが、第一次剥離面を残す。	左側縁の一部と先端部欠損。
228 106	石鏃	長 2.3cm 幅 1.9cm 厚 0.3cm 重 1.1g	N-31G 埋没土中	赤色珪質頁岩	有脚石鏃。比較的薄手であり、調整利難も奥まで入っていて第一次剥離面は残らない。	
236 106	石鏃	長 2.1cm 幅 1.4cm 厚 0.4cm 重 1.3g	埋没土中	珪質珪岩	平面形は魚形を呈する。両側のかえし部分は一回の剥離によって抉り込んでいる。部分的に第一次剥離面を残す。	先端一部欠損。
233 106	石鏃	長 1.5cm 幅 0.9cm 厚 0.3cm 重 0.6g	N-32G 埋没土中	黒色頁岩	有基と思われるが、基部とかえし部分が欠損しているため、全体の形状は不明である。	新しい欠損が右側縁に並ぶ。
235 106	石鏃	長 1.5cm 幅 1.7cm 厚 0.3cm 重 0.8g	L-27G 埋没土中	チャート	有基であるが231のようにかえし部分は反りかえらない。	
231 106	石鏃	長 3.7cm 幅 2.4cm 厚 0.6cm 重 2.6g	L-31G 黒色土下溝 埋没土中	黒色頁岩	有基であり、かえしもしっかりしている。	完形。

1号河川跡出土遺物観察表(石器) 図218・219

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
256 107	削片	長 3.2cm 幅 2.7cm 厚 1.1cm 重 11.3g	M-30G 埋設土中	玉髄 メノウ	一部扁平に歪んでいる。その他は半透明でやや白っぽい。玉の素材と考えられる。	
175 107	削片	長 1.7cm 幅 3.1cm 厚 1.1cm 重 6.7g	M・N-28G 埋設土中	珪質頁岩	節理を利用して板状に割り、周辺部を調整している。管玉の材料と思われる。	石材は緑色。
251 106	削片	長 3.8cm 幅 2.0cm 厚 0.9cm 重 7.3g	M-30G 埋設土中	頁岩	右側縁上半部から先端にかけて調整跡が認められる。	
193 106	磨製石器	長 3.2cm 幅 3.0cm 厚 0.5cm 重 5.6g	N-31G 埋設土中	粗粒安山岩	板状破片を研磨しているものである。破片のため全体の形状は不明である。石包丁にしては薄すぎる。	三辺は欠損している。
172	石斧?	長 2.8cm 幅 2.2cm 厚 1.1cm 重 7.7g	M-27・28G 埋設土中	粗粒安山岩	表面側に研磨痕もしくは使用痕と考えられる縁状痕が認められる(研磨痕、もしくは使用痕)。	刃部破片?
198 107	石鏃未成品	長 5.3cm 幅 4.6cm 厚 2.0cm 重 47.2g	K-27G 埋設土中	黒色頁岩	全体としては楕円形を呈する。一つ一つの割離は粗く、交互割離により鋭い縁辺部を作出している。	
184 107	石鏃未成品?	長 3.2cm 幅 2.7cm 厚 0.9cm 重 7.6g	M-32G 埋設土中	黒色安山岩	上部は調整加工中に欠損したものであると思われる。しかしその後も、極細かい割離を若干加えている。小形の打製石斧の可能性もある。	上部欠損。
212 107	楔形石器	長 2.8cm 幅 3.9cm 厚 1.2cm 重 14.5g	L・M-26G 埋設土中	珪質頁岩	上端は鋭いた痕跡が残る。下端は縁辺に沿って割離痕が並ぶが、曇り潰れている感じであり、調整痕とは違い認められる。	
240 107	楔形石器	長 2.5cm 幅 3.5cm 厚 1.0cm 重 9.6g	M-30G 埋設土中	頁岩	左側縁に帯状に自然面を残す。上下両端に潰れがある。	
243 107	削器	長 2.9cm 幅 5.2cm 厚 0.6cm 重 8.7g	M-28G 埋設土中	黒色安山岩	横長削片の上縁部を両面とも丁寧に調整している。打面にも調整が見え、下縁部の割離は非常に細かく、やや不規則であり、使用痕と思われる。	
192 107	削器	長 5.2cm 幅 3.5cm 厚 1.0cm 重 31.7g	N-31G 埋設土中	黒色安山岩	両側縁を良く調整している。上端には帯状に自然面を残す。下端左側は欠損している。小形石斧の可能性もある。	
237 107	磨製石斧	長 4.5cm 幅 4.3cm 厚 1.0cm 重 30.9g	L-28G 埋設土中	黒色頁岩	偏平小形定角式石斧。周辺部に割離面を残すが、研磨はほぼ全面に及ぶ。刃部縦断面は片刃型を呈する。	
238 107	磨製石斧	長 6.0cm 幅 3.7cm 厚 1.0cm 重 30.4g	埋設土中	黒色頁岩	刃部を中心に研磨が施され、胴部のものは弱い。両側縁は全く磨いていない。偏平薄手小形。	刃端は新しい欠損。
248 107	磨製石斧	長 4.6cm 幅 3.2cm 厚 0.7cm 重 11.0g	L・M-29・30G 黒色土下溝 埋設土中	黒色頁岩	表面側に研磨面が認められる。磨製石斧の部分破片であるが、部位は不明である。	破片。
173 107	打製石斧	長 4.0cm 幅 3.5cm 厚 1.1cm 重 20.7g	M-27・28G 埋設土中	黒色頁岩	薄手。小形。下半部は折れたものと思われる。上端に部分的に自然面を残す。	刃部破片。
213 107	打製石斧	長 5.2cm 幅 3.5cm 厚 1.0cm 重 29.5g	L-28G 埋設土中	粗粒安山岩	薄手。両側縁を良く調整している。刃部には自然面を残す。短冊形を呈するものと思われる。	刃部欠損。
180 107	打製石斧	長 11.0cm 幅 6.8cm 厚 1.5cm 重126.2g	M-30G 埋設土中	黒色頁岩	素材は横長削片であり、両側縁に挟りを入れて分銅形に仕上げている。表面側上下両端に使用による磨減が認められる。	完形。
201 107	打製石斧	長 6.2cm 幅 3.1cm 厚 0.9cm 重 17.7g	K-28G 埋設土中	黒色頁岩	両側縁を調整している。打面は割離面。刃部は無調整。	完形。

1号河川跡出土遺物観察表(石器) 図219-221

番号 PL	器 種	大きさ・重量	出土位置	石 質	形状・調整加工の特徴	備 考
218 107	石核	長 7.7cm 幅 8.7cm 厚 2.9cm 重 281.0g	L-29G 埋没土中	硬質泥岩?	上半部より剥離が施されているものであり、比較的鋭い縁辺部を残している。礫石としても使用可能な形態を有する。	
249 108	UF	長 2.5cm 幅 3.5cm 厚 0.8cm 重 4.4g	L・M-29-30G 埋没土中	白色硬質頁岩	横長割片下縁を使用しているものであり、微細な剥離が認められる。	
175 108	UF	長 4.2cm 幅 5.0cm 厚 0.8cm 重 15.3g	M・N-28G 埋没土中	珧質頁岩	縁辺部に不規則な剥離痕がある。使用痕と思われる。	上部欠損。
211 108	UF	長 3.8cm 幅 2.0cm 厚 0.9cm 重 3.9g	L・M-26G 埋没土中	頁岩	両側縁及び下端部にかけて、微細な剥離痕が認められる。使用痕のみではなく、加工痕の可能性もある。打面は剥離面。	
162 108	UF	長 2.2cm 幅 3.3cm 厚 5.5cm 重 6.2g	埋没土中	頁岩	下縁にやや不規則な剥離痕がまぶ。	上半部欠損。
215 108	UF	長 4.0cm 幅 4.5cm 厚 0.9cm 重 15.3g	L-29G 埋没土中	黒色頁岩	下縁に微細な剥離痕がまぶ。使用痕の可能性もある。右側部分は節理面によって欠損している。	風化が顕著。
210 108	UF	長 5.4cm 幅 3.0cm 厚 1.0cm 重 13.8g	L・M-26G 埋没土中	黒色安山岩	右側縁の微細な剥離痕は使用痕の可能性もある。打面は自然面であり、細長く残る。	
302 108	UF	長 3.5cm 幅 3.5cm 厚 0.7cm 重 7.0g	K-28G 埋没土中	黒色頁岩	左側縁の挿入部分を使用している。	
199 108	UF	長 3.4cm 幅 2.5cm 厚 0.5cm 重 3.7g	K-27G 埋没土中	黒色頁岩	左側は割片剥離時に欠けたもの。右側縁に微細な剥離痕を有する。	
197 108	UF	長 5.9cm 幅 4.7cm 厚 1.1cm 重 31.9g	K・L-25G 埋没土中	黒色頁岩	打面は自然面であり、上端に帯状に残る。両側縁に微細な剥離痕を残す。下縁は欠損しているものと思われる。	
163 108	UF?	長 4.5cm 幅 4.2cm 厚 0.9cm 重 17.5g	埋没土中	黒色安山岩	下縁の一部と右側縁に微細な剥離痕が認められるが、これは使用痕の可能性もある。	
217 108	UF	長 3.2cm 幅 7.3cm 厚 1.3cm 重 28.6g	L-29G 埋没土中	黒色頁岩	横長割片の下縁を刃部として使用している。打面部は節理面より割れている。	
166 108	UF	長 4.5cm 幅 4.8cm 厚 0.7cm 重 12.9g	埋没土中	黒色頁岩	打面部以外は縁辺部すべてに使用痕が認められる。打面部は剥離時に欠損したものと思われる。	
253 108	UF	長 5.3cm 幅 5.1cm 厚 2.2cm 重 61.1g	M-30G 黒色土下溝 埋没土中	珧質頁岩	両側縁を若干調整し、下縁を刃部として使用している。表出下半部には磨痕が認められる。	
244 108	UF	長 4.8cm 幅 6.5cm 厚 2.2cm 重 62.9g	N-31G 埋没土中	珧質頁岩	縦長割片の左側縁を使用している。刃部には不規則な剥離痕が認められる。	
165 108	UF?	長 6.3cm 幅 6.0cm 厚 1.3cm 重 42.6g	埋没土中	黒色安山岩	下縁部を刃部として使用しているものと思われる。微細な剥離痕が残る。その表面には横方向に節理面が認められる。	
214 108	RF	長 3.0cm 幅 4.4cm 厚 1.2cm 重 17.0g	L-28G 埋没土中	黒色頁岩	両側縁に挿入状の剥離が認められる。打面は剥離面。	下縁部欠損。
195 108	RF	長 2.3cm 幅 3.1cm 厚 0.9cm 重 7.1g	K・L-25G 埋没土中	黒色安山岩	表面右下に一部自然面を残す。両側縁に剥離痕が認められる。部分破片のため、全体の形状は不明である。	部分破片。
200 108	RF	長 2.7cm 幅 2.7cm 厚 0.7cm 重 5.4g	K-28G 埋没土中	黒色頁岩	両側縁にわずかに剥離が施されている。石盤未成品の可能性もある。打面は自然面であり、平坦である。	

1号河川跡出土遺物観察表〈石器〉 図221~223

番号 PL	器 種	大きさ・重量	出土位置	石 質	形状・調整加工の特徴	備 考
252 108	R F	長 2.1cm 幅 4.2cm 厚 1.0cm 重 8.8g	M-30G 黒色土下透 埋没土中	黒色安山岩	下縁に裏面からのみ、調整刻線が施される。全体の形状は不明である。	破片。
203 108	R F	長 4.3cm 幅 4.1cm 厚 0.9cm 重 16.8g	K・L-35G 埋没土中	黒色頁岩	右側に執入部を作出している。打面は刺離面であり平坦である。	
205 108	R F	長 5.8cm 幅 3.6cm 厚 0.8cm 重 21.0g	L-24G 埋没土中 601	黒色頁岩	下縁に調整刻線が並ぶ。	
245 108	R F	長 2.8cm 幅 4.5cm 厚 0.7cm 重 10.6g	N-31G 埋没土中	頁岩	横長削片の下縁部に調整加工が施されているものである。	
195 108	R F	長 4.7cm 幅 4.2cm 厚 1.1cm 重 29.6g	K・L-25G 埋没土中	黒色頁岩	下端部に、尖頭部を作出するように粗い刻線が施される。打面は平坦で、自然面である。	
187 108	R F	長 4.6cm 幅 6.0cm 厚 1.3cm 重 36.1g	N-30G 埋没土中	珉質頁岩	下縁部に交互刻線による調整加工が認められる。右側に細長く自然面を残す。	
179 108	R F	長 5.8cm 幅 4.8cm 厚 2.3cm 重 56.2g	M-29G 埋没土中	黒色頁岩	削片剥離時に左端は欠けたものである。周辺部に若干の調整刻線を施している。打面は自然面である。	
171 108	R F	長 6.7cm 幅 9.8cm 厚 1.3cm 重 112.3g	M-27・28G 埋没土中	黒色頁岩	横長削片の縁辺部の一部に調整を加えて、縁辺部周辺すべてを使用している。特に左側縁は磨滅している。右側部分は節理面であり欠損している。	
191 108	砥石	長 5.7cm 幅 10.1cm 厚 0.6cm 重 60.6g	N-30・31G 埋没土中	点紋緑色片 岩	扁平な板状破片を砥石として用いている。表裏両面とも非常に平らであり、面が平らなものを採りだものと思われる。	右端欠損。
258 109	磨石	長 6.8cm 幅 6.1cm 厚 6.0cm 重 371.7g	埋没土中	粗粒安山岩	表裏両面は比較的平坦であり、使用された可能性がある。	風化がすすむ。
241 109	砥石	長 2.3cm 幅 5.9cm 厚 1.0cm 重 18.1g	M-30G 埋没土中	雲母石英片 岩	片岩の破片を利用した砥石であり、器面は砂岩製のものより滑かであり、仕上げ用と思われる。	左右両端欠損。
207 109	磨石	長 10.1cm 幅 7.1cm 厚 3.2cm 重 429.2g	L-24G 埋没土中	粗粒安山岩	平坦な三面は軟質なものを潰した可能性がある。下端部1/3が両面とも黒っぽく変色し、上2/3は焼けてやや赤く変色している。	
259 109	砥石	長 14.5cm 幅 11.1cm 厚 6.2cm 重1298.5g	埋没土中	砂岩	表面には筋が明瞭に認められ、断面は丸く凹凸ことからすると、玉砥石と考えられる。裏面及び下面の砥石面は比較的付着しており、金属を研いだものと考えられる。	全体に鉄分が付着。
204 109	砥石	長 5.9cm 幅 4.5cm 厚 3.0cm 重 142.0g	L-24G 埋没土中	粗粒安山岩	正面及び右側面は平坦であり、使用面と思われる。縦状筋は風化のため認められない。	全体に風化している。
239 109	砥石	長 7.5cm 幅 4.9cm 厚 1.1cm 重 58.4g	N-31G 埋没土中	牛伏砂岩	いくつかの面によって構成されるが、縦状筋の方向は不明である。面はいずれも平坦であり、玉砥石ではない。石斧用の可能性が高い。	上部欠損。
185 109	砥石	長 13.1cm 幅 10.9cm 厚 6.9cm 重 971.0g	埋没土中	粗粒安山岩	ほぼ全面を使用している。左側面には刃ならし痕が残る。表裏面と右側面は縦い凹面となっている。	
167 110	砥石台石 凹石	長 22.0cm 幅 16.5cm 厚 12.7cm 重4200.0g	M-32G 底上1.0cm	粗粒安山岩	裏面及び右側面には最打面が明瞭に残る。ほぼ全面に研いだ筋が残る。筋は幅が狭い。	凹を有する。
168 110	砥石台石 凹石	長 33.5cm 幅 20.3cm 厚 7.8cm 重5500.0g	M-28G 底上2.0cm	粗粒安山岩	表裏面に凹を残すが、表面は深く凹転により面が滑かであり、裏面は浅く最打によりザラザラしている。	

1号河川跡出土遺物観察表(石器) 図224

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
169 110	磨石?	長 13.0cm 幅 15.5cm 厚 11.2cm 重3050.0g	埋設土中	粗粒安山岩	表面と側面にやや光沢をもつ平坦面があり、使用された可能性がある。	下半欠損。
208 110	凹石	長 11.0cm 幅 8.1cm 厚 3.6cm 重 266.4g	L-24G 埋設土中	粗粒安山岩	表裏両面に凹みが多くある。大きさ等は不規則であり、回転による深い凹みはない。加熱を受けているものと思われる。	完形。表面風化。
219 111	磨石・敲石	長 13.4cm 幅 6.5cm 厚 3.7cm 重 456.2g	L-27G	黒色頁岩	両側縁に磨り面を、表面上部に敲打痕を残す。	
170 111	磨石	長 28.4cm 幅 18.0cm 厚 9.5cm 重3830.0g	埋設土中	粗粒安山岩	表・裏面に磨り面を残すが、あまり強いものではない。	完形。

1号河川跡出土遺物観察表(木器) 図225・226

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
408 112	くさび (杭状木製品)	17.6×6.7×4.0	L-26G 底上4.0cm	椎目 クリ	完形	先端部はきれいに一面から削り出す。平坦部には一部削り痕が残る。	
425 112	杭	22.3+●×4.7×3.6	L-27G 底上2.0cm	分割材 サカキ	頭部欠損	先端部は四方方向から削られ、尖っている。	
423 112	杭	26.0+●×5.0×3.5	L-27G 底上17.0cm	分割材 モミ属	頭部欠損	先端部は削り出されている。最先端部分はつぶれている。	
405 b 112	杭	50.4+●×5.5×4.2	M-29G 底上24.5cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	頭部欠損	先端部は細く削り出している。最先端部はわずかにつぶれている。	
430 112	杭	46.1+●×5.5×4.5	L-26G ピット内	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部欠損	先端部を尖らせている。表面は炭化している。	
432 112	杭	43.6+●×5.3×4.5	L-26G 埋設土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	頭部欠損	頭部はねじ切れている。先端部は尖らせている。表面は炭化している。	
394 112	杭	43.0×7.2×3.4	L-27G 底上13.5cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	一部欠損	頭部は二方向から斜めに切断している。先端部は一部が欠損し、最先端部分はつぶれている。	
385 112	杭?	15.2+●×7.2×3.3	L-25G 底上6.0cm	椎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	二側面から削り尖らせている。	
436 112	杭	18.4+●×4.2×3.4	K-28G 埋設土中	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	先端の一部 が残存	先端部は尖らせている。最先端部はわずかにつぶれている。頭部は欠損し、劣化が激しい。	
431 112	杭	40.0+●×6.6×4.0	L-26G 埋設土中	分割材 モミ属	頭部欠損	頭部はねじ切れている。先端部は削り尖らせる。節部が残る。	

1号河川跡出土遺物観察表《木器》 図226-228

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 材 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
418 112	杖	66.6×11.3×3.9	M-31G 底上9.5cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	完形	先端部は尖らせている。平面に削り痕が残る。	
437 112	杖	8.9+φ×3.5×2.8	L-28G 埋没土中	芯持 コナラ属 アカギシ亜属	先端の一部 が残存	先端部分は尖らせている。最先端部はわずかにつぶれている。頭部部は欠損し、劣化が激しい。	
396 113	角杖	36.7+φ×3.5×3.0	L-28G 底上5.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	頭部欠損	先端部は尖らせている。	
438 113	杖	19.7+φ×2.0φ	L-26G 埋没土中	芯持 広葉樹 (散孔材)	頭部欠損	杖杖である。先端部分は周辺から削られ尖っている。最先端部はつぶれている。杖には打ったときの折部がある。	
411 113	丸杖?	75.5+φ×3.6φ	L-26G 底上18.0cm	芯持 コナラ属 アカギシ亜属	両端部欠損	杖が広がっている。	
403 113	杖	62.7+φ×4.3φ	K-29G 底上4.0cm	芯持 コナラ属 アカギシ亜属	頭部欠損	先端部はきれいに削り出され、失っている。節部は残る。最先端部はつぶれている。	
425 113	杖	32.8+φ×4.7φ	L-27G 底下8cm	芯持 サクラ属	先端の一部 と頭部欠損	先端部は周辺から削り尖らせている。樹皮が残る。	
435 113	杖	15.3+φ×3.7×3.0	L-31G 底下2cm	芯持 モミ属節部	先端の一部 が残存	先端部分は四面から切断されるが一面から大きく切り込んでいる。頭部部は劣化が激しい。	
397 113	杖	62.8+φ×5.5φ	L-28G 底上13.5cm	芯持 コナラ属 アカギシ亜属	頭部欠損	先端部分は四面から切断される。樹皮を残す。	
420 b 113	杖	33.2+φ×3.4φ	M-31G 底上14.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	頭部欠損	先端部は四面から切断されている。最先端部はわずかにつぶれている。	
404 113	杖	44.7+φ×7.2φ	K-30G 底上1.5cm	芯持 コナラ属 アカギシ亜属	先端部付近 が残存	先端部は四面から切断し尖らせる。節部が残る。	
422 113	杖	38.4×4.2φ	L-28G 底上1cm	芯持 コナラ属 アカギシ亜属	完形	先端部は削り出し、尖っている。頭部はつぶれている。	
414 113	丸棒	50.0+φ×2.2×1.7	M-30G 底上14.0cm	芯持 モミ属	両端部欠損	わずかに尖っている。	
400 114	杖?	72.6+φ×5.7×4.3	L-28G 底上3.0cm	芯持 コナラ属 アカギシ亜属	両端部欠損	節は落としてあり、節部は残る。	

1号河川跡出土遺物観察表(木器) 図228-230

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
409 114	杭	166.7+ ϕ ×7.2 ϕ	L-26G 底上16.0cm	芯持 サクラ属	頭部欠損	先端部は削り尖らせている。最先端部はつぶれ、枝は払ってある。樹皮は残っている。	
398 114	杭	155.2×5.0 ϕ	L-28G 底上10.0cm	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	完形	先端部は尖らせている。頭部は面取りをしている。枝を払ってある。	
428 114	丸杭	121.0+ ϕ ×4.5 ϕ	L-28G 底上19.0cm	芯持 カエデ属類 似種	頭部欠損	先端部は周辺から尖らせている。枝は払ってあり、樹皮が残る。	
402 114	角杭	104.0×4.2×3.4	M-28G 底上28.0cm	分割材 クリ	頭部の一部 欠損	先端部を尖らせている。頭部は剥離している。	
413 114	角材	88.0+ ϕ ×4.0×2.8	L-28G 底上4.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	両端部欠損	分割材の一部を削っている。	
412 114	杭	78.1×7.8×5.2	L-26G 底上10.5cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形	先端部は削り尖らせている。頭部はつぶれ、一部剥離している。	
410 114	杭	90.2×9.8×6.0	L-26G 底上16.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	頭部一部欠 損	先端部は尖らせている。頭部は一部つぶれている。削り痕が残る。	
381 114	丸杭	97.3+ ϕ ×3.0 ϕ	K-25G 底上16.5cm	芯持 広葉樹 (散孔材)	先端部わず かに欠損	頭部は面取りされ、先端部は尖らせている。枝は落としている。	
399 114	丸棒	136.9+ ϕ ×3.6 ϕ	L-28G 底上3.0cm	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	両端部欠損	わずかに樹皮が残る。節部がある。両端部欠損のため、成作痕不明。	
1130 114	建築材?	122.5+ ϕ ×11.0×7.0	L-28G 底上8.0cm	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	一端部欠損	一端部は切断され、工具痕が残る。節部が残る。	
385 114	棒状木製品	46.8+ ϕ ×3.5×2.8	L-25G 底上16.0cm	分割材 (加工) モミ属	両端部欠損	表面は丸く仕上げられている。農具の柄の可能性がある。	
429 115	柄?	57.9+ ϕ ×6.0×5.1	L-26G 底上10.0cm	分割材 コナラ属 アカガシ亜属	両端部欠損	一端部は細く、他端部は太めになる。加工木であり、石斧直柄になる可能性をもつ。	
392 115	農具部材	着装部 20.2+ ϕ ×2.8 ϕ × 削り部1.6 ϕ 柄部 6.8+ ϕ ×2.4 ϕ	K-28G 底上15.5cm	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	股木部分の み残存	枝分れ部分を利用する。一端部は長さ3cm程の間に削り込まれている部分がある。全体に劣化が進む。	
393 115	板	43.0+ ϕ ×7.7+ ϕ ×3.8	L-27G 底面直上	板目 モミ属	長辺・短辺 とも欠損	板身の内側に節部がくる。各面は欠れている。柄を装着する部分は隆起しており、断面は台形である。	

1号河川跡出土遺物観察表(木器) 図290~292

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 材 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
389 115	台形木製品	20.2×15.2×8.4	L-26G 底上10.5cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	両端部分に作成時の工具痕が残る。 使用痕は認められない。	
387 115	くさび状木製品	16.2×5.4×4.0	L-25G 底上4.5cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形	先端部は三面から切断されている。 須部は面取りを行っている。	
417 115	不明木製品	24.0+ ϕ ×2.0×0.9	M-31G 底上12.0cm	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	板状を呈す。榎身からわずかにひ ろがりをもつ。表面には削り痕を 残す。	
416 115	柄?	22.8+ ϕ ×3.2×2.6	M-31G 底上15.0cm	芯持 ウコ木属	柄の一部残 存	柄から敲打部に移るわずかなカー ブがあるが、他は欠損の為不明。	
415 115	横棧	22.5+ ϕ ×8.4×(7.5) 柄 2.5 ϕ	M-31G 底上19.0cm	分割材加工 コナラ属 アカシヤ属	柄と敲打部 先端部欠損	敲打部の長さは19.0cmで先端部に 向かい太くなる。柄との接点は緩 やかな丸みをもつ肩部であり、丁 家なつくりである。	
407 115	くさび?	15.5×10.5×4.7	L・M-28G 底上38.0cm	分割材 ヤマグワ	完形	先端部分は二側面から切断。頭部 は平坦である。節の部分を使っ ている。	
433 115	くさび?	16.5+ ϕ ×5.5×3.5	L-26G 断面直上	分割材 カヤ	一端部欠損	一面は曲面、他面は平面を呈す。 曲面は真上から切り込み、斜め から削った部分をつくる。平面部 には細かな削り痕がある。	
382 115	くびれ状 木製品	27.8+ ϕ ×7.5×4.8	K-25G 底上16.5cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	くびれを入れた木製品であり、く びれに近い端部は斜めに切断する。 他端部は欠損、表面は炭化してい る。	
391 115	丸枕	22.7+ ϕ ×5.7 ϕ	K-27G 底上6.0cm	芯持 広葉樹 (軟孔材)	頭部欠損	一部に樹皮が残る。先端部は削り 尖らせている。	
420a 116	板	21.5×3.7×2.2	M-31G 底上14.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	端部の一部 欠損	ほぼ形状を保つ板材である。端部 は斜方向と水平方向から切断され ている。	
383 115	糸巻器具	13.5×8.2 ϕ くびれ部径 3.5 ϕ	K-25G 底上20.5cm	芯持 ヤマグワ	長軸方向に 1/3欠損	両端部は面取りを行っている。く びれは深い。	
424 116	角材	16.0+ ϕ ×3.3×3.2	L-27G 底上17.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	一端部欠損	端部は一方から切断される。断面 はほぼ四角形を呈し、削り痕を 残す部分がある。	
405a 116	?	45.0+ ϕ ×5.3×3.7	M-29G 底上24.5cm	分割材 クリ	一端部欠損	一端部は残存し、斜めに切断され ている。一部にコの字状の切り込 みがある。工具痕が残る。	
401 116	丸棒	56.8+ ϕ ×2.7×2.3	L-28G 底上7.0cm	芯持 コナラ属 アカシヤ属	一端部欠損	端部は両面から面取りされている。 端部から約6cmの部分は削られ、 くびれている。	

1号河川跡出土遺物観察表《木器》 図232-233

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×採(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
427 116	厚板	68.5+φ×10.5×4.6	L-26G 底下1.0cm	分割材 カヤ	両端一側欠損	平滑面をつくり出している。	
388 116	板	4.8+φ×2.1+φ×1.4	L-26G 底上3.5cm	柱目 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	一部残存	分割材を加工してつくられた板の残片である。	
439 116	板状木製品	19.5+φ×2.9×1.6	K・L-25G 埋没土中	柱目 ヒノキ属	一端部欠損	平滑面をつくり出している。一面には鋭い稜縁とあたり面がある。	
434 116	不明木製品	19.0+φ×4.5×3.4	L-20G 底下11.5cm	分割材 クリ	一端部欠損	一端部は大きく欠損し、他端部はわずかに欠損する。四面をつくり他端部分はわずかに薄くなり、幅の狭い溝(長さ7.0cm、深さ1.6cm)が残る。	
390 116	板	28.8+φ×6.0×2.2	L-26G 底上23.0cm	柱目 モミ属	一端部欠損	分割材を加工し、板材としている。あたり部分が残る。	
406 116	板	56.7+φ×5.5+φ×2.1	M-29G 底上4.5cm	柱目 モミ属	一端部がわずかに残存	現存する端部は一面方向から斜めに切断する。原板は不明。	
384 116	板	40.0+φ×5.8+φ×1.1	L-25G 底上21.5cm	柱目 スギ	一側面のみ残存	全体の形状は不明。平滑な板材である。	
421 116	板	40.2×6.7+φ×0.7	M-32G 底上18.5cm	板目 スギ	一側面を欠損	平滑な二面をつくり出す。一側面に斜めに面を落とす部分がある。一端部付近に円形の小孔を穿つ。	

2号河川跡出土遺物観察表《縄文土器》 1 図237

番号 PL	器種	残存 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
635 117	縄文土器 深鉢	口縁部付近の破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①砂礫を多量に含む。 ②良好。 ③明赤褐色2.5YR5/6	口縁部近くの破片。やや幅広い沈線により、逆U字状の区画文が描出されるものと思われる。帯部に網目目を加えている。加曽利E3式に比定される。	
643 117	縄文土器 深鉢	口縁部破片	2D-64G 12層	①砂礫を多量に含む。 ②良好。 ③黄褐色10YR5/6	大形土器の口縁部破片。凹線状の幅広い沈線と起伏の小さな幅広い隆帯により、文様構成される。隆帯上にはR L縄文が施されている。加曽利E3式に比定される。	
409 121	縄文土器 ミニチュア	口縁部欠損 縦 3.8cm	2C-63G 底面上90.0cm	①かなり多量の粗砂を含む。 ②良好。 ③灰黄2.5YR6/2	脚台付きのミニチュア土器と思われる。横位の刺突文列が重帯施文される。脚台部の付根には、右手の第1指-第4指を使った押え痕が残る。刺突文の施文後に行われている。加曽利B式形所の所産と思われる。	
626 117	縄文土器 深鉢	口縁部付近の破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①砂礫を多量に含む。 ②良好。 ③明褐色5YR7/2	口縁部近くの破片である。凹線状の幅広い沈線で、精巧な区画文が描出されるものと思われる。区画内にはR L縄文が充填される。加曽利E3式に比定される。	
644 117	縄文土器 深鉢	体部破片	2C-64G 12層	①砂礫を多量に含む。 ②良好。 ③淡黄2.5Y7/3	大形土器の体部破片。凹線状の幅広い沈線で懸垂状の区画文、縦手状文が施される。区画内にはR L縄文が充填される。加曽利E3式に比定される。	

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》1 10237

番号 札	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
642 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫が混入。 ②良好。 ③灰褐色5YR5/2	内面は荒れている。	外面には沈線による区画の中を、交互に縄文と無文部をつくり出す。沈線文が直角に曲がる部分に円形竹管の刺突文がつく。	縄文施文部分に造形を行う。
623 117	弥生土器 鉢	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色磁物を多量に含む。 ②良好。 ③灰黄褐色10YR6/2	内面は横撫で整形。	外面口縁部は縄文しRを施文し、下位には沈線による平行線文が明瞭に残る。内面口縁部下位に棒状工具による横線文が一条施文される。	
625 117 117	弥生土器 壺?	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①尖状磁物を含む。 ②良好③にぶい黄褐色10YR5/4	内外面とも横方向の整形を行っている。	表面には縄文しRが施文されている。	表裏面とも酸化鉄が付着。
624 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫を含む。 ②良好。 ③照耀5YR2/1	口縁残部は鋭く外傾する口唇部である。内面は横撫で整形が行われている。	口唇部を含め、外面には縄文しRを施文。	煤が付着。
640 117	弥生土器 壺?	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫を含む。 ②良好。 ③褐色5YR4/1	内面は荒れている。	外面には沈線の中に縄文しRが施文される。	外面の一部に造形。
622 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色磁物を多量に含む。	内面は横方向に器面整形を行い、光沢がある。	外面は横方向に刷目目整形後、縄文しRを施文。これを棒状工具による横線文が切る。	煤が付着。
630 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色磁物を混入。②良好。 ③灰褐色5YR5/2	内面は荒れている。	外面は多くの部分が縄文しRで施文される。3本1対の横線文が棒状工具により施文。	一部造形されている。
629 117	弥生土器 壺	胴部破片	埋没土中	①白色磁物を含む。 ②やや硬い。 ③灰白10YR7/1	内面は横方向に器面調整。	棒状工具による平行沈線文下に縄文しRを施文している。	
632 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色磁物を多量に含む。②良好。 ③褐色7.5YR5/1	内面は横方向の整形。	縄文しRを施文後、平行沈線文を施文している。	外面に煤が付着。
641 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色磁物を含む。 ②良好。③暗赤褐色2.5YR3/2	外面の一部は磨削き、内面は横撫で。	縄文しRを施文後、横方向に棒状工具による沈線文を施文。	外面に煤が付着。
627 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色磁物を少量含む。②良好。 ③灰褐色7.5YR5/2	口縁部は外傾する。	口縁部は縄文施文後、造形される。頸上位は2～3重の沈線区画内に縄文しRを施文。	
638 117	弥生土器 壺	胴部破片	埋没土中	①白色磁物を含む。 ②良好。 ③灰褐色5YR4/2	内面胴部は荒れている。	縄文をしR施文後、横方向に平行沈線文を配す。	縄文の一部に造形。
636 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色磁物を含む。②良好。 ③黒10YR1.7/1	外面は磨削きが行われている。	沈線による平行線・斜線が施文される。	沈線内に造形。

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 1 頁237

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
634 117	弥生土器 壺	胴部破片	2C-64G 引層	①白色・黒色鉱物 を含む②やや硬い ③黄灰2.5Y5/1	わずかに外に張りをもつ。内面 は横方向に整形。	棒状工具による沈線文と縄文 光塊部を区画。縄文はLR。	
638 117	弥生土器 壺	胴上半破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①黒色鉱物を含む。 ②良好。 ③灰黒7.5YR5/2	外面は縦方向に器面整形。	下位には沈線による斜向沈線 文を施文する。	外面一部損 彩。
628 117	弥生土器 壺?	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫を含む。 ②良好。 ③黄7.5YR4/3	内面は横方向に荒磨きが行われ ている。	縄文を地文に施文後、沈線文 を施す。下位には沈線による 斜向沈線文を施文する。	
631 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫を含む。 ②良好。 ③灰黒7.5YR6/2	外面に大きく張りをもつ。内面 は横方向に撫でによる整形痕が 残る。	縄文LR地文後、棒状工具に よる平行沈線文を施文。	
637 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③暗赤灰10R3/1	内面は荒れている。	縄文LR地文後、棒状工具に よる沈線文を施文。一部、横 方向の沈線文の間に無文。	

2号河川跡出土遺物観察表(土師器・須恵器) 頁237

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
645	須恵器 羽釜	口縁部破片 口(25.0cm)	埋没土中	①微細砂・黒色鉱物粒 を含む。②普通。 ③灰7.5Y5/1	縁づくり。ロクロ整形。内外面回転 などで調整。罫は、 やや内湾して付されている。		
478	須恵器 羽釜	口縁部破片	埋没土中	①砂粒・石英粒を多く 含む。②酸化焙焼成。 ③にぶい黄橙10YR7/2	縁づくり。内外面回転などで調整。		
449	土師器 壺	口唇部欠損	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②普通③黄灰2.5Y8/3	有段口縁の壺形土器の口縁部破片。段上の外面には凹 形の押型文を付した凹形付文を貼付している。		
407 121	土師器 小形高杯	胴部破片	埋没土中	①小石・細砂を多量に 含む。②普通。 ③橙5YR6/6	外面などで調整。杯部内面丁寧な磨き調整。胴部中位に は、焼成前に外面から4孔が穿たれている。		
438	土師器 高杯	杯部下半・胴部 上半残存	埋没土中	①細砂・石英粒を多量 に含む。②やや軟質。 ③黄橙7.5YR8/4	内外面ともなでられているが、磨耗が著しく、整形痕 の単位は着取できない。		
667	土師器 小形高杯	胴部1/2残存	埋没土中	①細砂・雲母細片を含 む。②やや硬質。 ③にぶい橙5YR7/3	胴部外面縦方向荒磨き。内面横・斜方向剛毛目調整の 後、横方向磨きなど。頸部はなだらかに、大きく開く。 胴部上半には、焼成前に外面から4孔が穿たれている。		

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 2 頁238

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
593 117	弥生土器 壺	口縁付近の破 片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物・雲母 を含む②やや硬い ③黄灰10YR6/1	口縁部付近は厚く、文様をもつ。 頸部にかけては縦方向に荒 磨き。内面は荒れている。	口縁部付近には縄文が施文さ れている。縄文はLRである。	

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 2 D628

番号 PL	器 種	残 存 状 態	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
458 117	弥生土器 甕	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒子・糠を 含む。②良好。 ③黒褐色5YR3/1	口縁部は受口状を呈す。内外面 頸部は、匙磨きが横方向に行わ れている。	口縁部から口縁端部にかけて 地文に縄文を施した後がタン状 貼付文と波状沈線文を施文。	外面に篋が 付着。
419 117	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G 12層	①白色夾雑鉱物を含 む。②良い。 ③灰黄2.5YR/3	口縁部は受口状を呈す。内外面 とも口縁部は、横方向の撫で整 形。頸部寄りには縦方向の磨き。	口縁部は、薄波状文と円形 刺突文施文のボタン状貼付文 を付している。	
433 117	弥生土器 甕	口縁部破片	2C-64G 12層	①小糠・雲母を含 む。②良好。③に ぶい橙10R6/4	口縁部は受口状を呈す。外面は 磨状工具による横方向の整形。 内面は撫でによる変形痕を残す。	口縁部は削り目、口縁部は 2本の波状沈線文を施文して いる。	外面は他形。
584 117	弥生土器 壺?	口縁部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物粒を含 む。②良好。 ③灰白10YR8/1	口縁部は受口状を呈し、内外面 とも横方向の撫で。頸部は斜方 向に器面調整を行っている。	口縁部から口縁端部にかけて 地文に縄文を施した後、波状沈 線文を施文。	外面口縁部 は他形。
594 117	弥生土器 甕	口縁部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物を多量 に含む。②良好。 ③細灰7.5YR6/1	口縁部はわずかに受口状を呈し ている。内面は横方向に器面整 形を行い、先沢をもっている。	口縁部は縄文、口縁部は2 本の沈線による波状文を施文。	
464 117	弥生土器 甕	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色夾雑鉱物を含 む。②やや細かい。 ③浅黄褐色10YR8/3	口縁部は外反する。内外面とも 横方向に器面整形を行う。	口縁部は縄文、頸部と肩部 に磨波状文を施文。	3条1単位 の溝。
558 117	弥生土器 甕	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①夾雑物・雲母 を含む②やや細かい ③黒褐色7.5YR3/1	口縁部は外反する。外面は荒れ ている。口縁部は外面横撫で、 内面は匙磨きが行われている。	口縁部は刺突文、頸部は磨 波状文が右廻りで施文されて いる。	
447 117	弥生土器 甕	口縁部破片	2C-63G 12層	①白色鉱物粒・雲 母を含む。②良好 ③灰黄褐色10YR4/2	口縁部は外反し、外面は横撫で、 内面は磨き痕が残る。	口縁部は削り目、頸部は磨 波状文(磨状文?)を施文し ている。	
659 117	弥生土器 甕	口縁部-肩部 破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物・小糠 を含む。②良好。 ③灰黄7.5YR4/2	口縁部は外反する。口縁部外面 は横方向に撫で、内面も横方向 に整形されている。	口縁部は縄文、肩部には磨 波状文が施文されている。	
595 117	弥生土器 壺?	頸部破片	埋没土中	①小糠・雲母・白 色鉱物を含む②細 い③黒褐色10YR2/3	内面は荒れている。	棒状工具による横線文間に、 縄文を施文している。	
570 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物粒を多 量に含む。②良好。 ③灰黄2.5Y6/2	胴部外面と内面の一部は斜・横 方向に棒状工具による器面調整。 内面の一部に裏(棒)状工具によ り器面整形が行われている。	沈線による横線文がほぼ等間 隔で配され、地文に縄文を施 文後には波状沈線文、他は斜 方向に沈線文を配す。	591と同一 個体
590 117	弥生土器 壺?	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物・雲母 を少量含む。② やや細かい。 ③細灰10YR6/1	内外面とも横方向の器面整形。 外面の一部は斜方向の器面調整 を行っている。	地文に縄文を施文後、2本の 沈線による平行縄文と曲線文 を施文している。	
617 117	弥生土器 壺?	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物・雲母 を含む。②良好。 ③にぶい黄橙10YR 7/2	内面は撫でによる変形と思われ る。	沈線内に縄文を施文している。	

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 2 0828

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
619 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色胎物を少量 含む②やや緩い。 ③にぶい黄橙10YR 7/4	胴部はわずかに丸みをもつ。外 面は横方向に器面調整、内面は 不明瞭である。	沈殿内に縄文R Lを充填して いる。縄文は不明瞭である。	
565 117	弥生土器 壺	胴部破片	2C-63 G 底面上46.0cm	①多量の白色胎物 と雲母を含む。 ②良好。 ③黒10YR2/1	外面は斜方向の朝毛目整形、内 面は横方向の器面整形を行っ ている。	沈殿による横線文の間に、沈 線による副歯文(地文に縄文 L R)と帯指横線文を施文。	
579 117	弥生土器 壺?	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色胎物 雲母を含む②良好 ③黒7.5YR2/1	二次的な火を受けて、表面が免 泡したかのようにみられる。内 面も荒れている。	沈線による横線文と副歯文が が施文され、後者の地文に縄 文がみられる。	
566 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色胎物・小礫 を含む。②良好。 ③にぶい橙2.5YR 6/4	やや長めの頸部の一部である。 外面は斜、内面は縦・横方向の 器面調整を行っている。	平行沈線文が4本確認でき、 間隔の広い部分には地文に縄 文R Lを充填させ、2本の沈 線による副歯文を施文。	
585 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①小礫・雲母を少 量含む②やや緩い ③灰黄褐10YR6/2	胴部内面は横方向に器面整形が 行われている。	地文に縄文R Lを施文し、平 行沈線文間に沈線による副歯 文を施文している。	外面は帯が 付着。
597 117	弥生土器 壺	胴部破片	埋没土中	①白色胎物・雲母 を含む。②良好。 ③R3Y4/1	内面は横方向に器面調整を行っ ている。	沈線による横線文と舌状文が あり、後者内を縄文R Lで充 填している。	
582 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①砂粒子を含む。 ②良好。 ③灰白7.5Y7/1	内外面とも横方向に器面調整を 行っている。	沈線による横線文を境とし、 上位に縄文L Rを施文する。	
606 117	弥生土器 壺	頸部破片	埋没土中	①小礫・白色胎物 を多量に含む。 ②良好。 ③灰黄褐10YR4/2	内面は荒れている。	縄文施文後、沈線による横線 文を施文。口縁部付近の縄文 は磨消している。	
575 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色胎物 を多量に含む。 ②やや緩い。 ③灰黄褐10YR5/2	器面は荒れており、整形箇所を 読み取ることが不可能である。	地文に縄文L Rを施文し、沈 線による横線文を施文。	
616 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色胎子・雲母 を含む②良好③に ぶい黄橙10YR7/2	外面は斜方向・内面は横方向に 器面調整を行っている。	平行沈線文間に縄文L R、帯 指横線文により充填している。	
589 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①夾層胎物を多量 に含む②やや緩い ③灰白7.5YR6/2	器面が荒れている。胴部中位付 近の破片である。	地文に縄文L Rを施文した後 に、沈線による連弧文を施文 する。	
583 117	弥生土器 壺	口縁部～胴部 破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色胎物粒を多 量に含む。②良好。 ③R3Y5/1	口縁部は大きく外反する。外面 は斜方向、内面はほぼ横方向に 器面整形を行っている。	頸部は沈線による横線文の下 位に、縄文L Rで施文した後、 沈線による副歯文を施文。	
448 117	弥生土器 壺	胴部破片	2C-63 G 12層	①白色胎物粒・雲 母を含む。②良好。 ③灰黄2.5Y7/2	内面は横方向の器面整形を行っ ている。	帯指横線文と縄文R Lを施文 している。	

3 河川跡出土遺物観察表

2号河川跡出土遺物観察表〈弥生土器〉2 図238

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器 形・整 形 の 特 徴	文 様	備 考
572 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色灰物・小礫 を含む。②良好。 ③灰白5Y7/1	やや内湾し、内外面とも斜方向 に器面調整を行っている。	沈殿による横線文と遠弧文が あり、部分的に規則的な縄文 R L充気がある。	
485 117	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・雲母を含 む。②やや細かい。 ③灰白5Y8/1	内外面とも横方向の器面調整を 行っている。	沈殿による横線文の上位に、 帯橋波状文が施文される。	
471 117	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色灰物・雲母 を含む②やや細かい ③灰黄2.5Y7/2	わずかに内湾し、外面は縦方向、 内面は横方向の器面調整を行っ ている。	6条1単位の間隔波状文と比 線による横線文が施文される。	
633 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色灰物・雲母 を含む。②細かい。 ③灰白2.5Y7/1	形状はわずかに内湾している。 外面は一部に刷毛目整形が行わ れており、内面は荒れている。	沈殿による曲線と縄文L Rが 施文されている。	
599 117	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色灰物粒を含 む。良好。 ③黒褐2.5Y3/1	口縁部は内湾で横方向の磨き が行われている。	口縁部・口縁端部は縄文L R が施文されている。	外面は煤が 付着。
403 117	弥生土器 壺	肩部破片	3C-63G 底面直上	①小礫・白色灰物 を含む②良好③ ぶい④10YR6/3	外面文様部は縦方向に刷毛目、 文様下部は磨き、内面は横方 向に器面調整を行っている。	帯橋波状文、沈殿による横線 文が施文されている。	
602 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色灰物粒を含 む。②細かい。 ③灰白5Y8/1	胴部は輪線痕が内外面とも残る。 器面は内外面とも荒れている。	縄文L Rが施文される。	
568 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色灰物 を含む。②良好。 ③黒褐5YR2/1	内面は横・斜方向に器面整形が 行われている。	縄文L Rが施文されている。	外面は煤が 付着。
578 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色灰物を含む。 ②良好。 ③褐灰5YR5/1	内面は横方向の器面調整が行わ れている。	縄文L R系(絡糸体同転圧痕) が施文されている。	外面は煤が 付着。

2号河川跡出土遺物観察表〈弥生土器〉3 図239

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器 形・整 形 の 特 徴	文 様	備 考
580 117	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・雲母を含 む。②良好。 ③明褐9Y.5YR7/1	胴部付近の破片である。	平行沈殿文が胴部に4本確認 され、下位に斜方向の沈殿文 が施文されている。	内面は炭素が 付着。
603 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色灰物粒・雲 母を含む②やや細 い③明褐灰5YR7/1	わずかに外反する。内面は荒れ が激しい。	沈殿による平行線文と斜行線 文が施文されている。	沈殿の一部 に炭素。
569 117	弥生土器 壺	肩部破片	埋没土中	①小礫・白色灰物 を含む②やや細 い③灰褐10YR5/1	胴部付近はやや外反する。内面 は荒れている。	沈殿文は平行に施文され、間 隔の広い部分に縄文を施文。	
445 117	弥生土器 壺	胴部破片	3C-63G 12層	①白色灰物を多量 に含む②やや細かい ③ぶい④7.5YR7 /3	胴部最大幅部分から肩部にかけ て、内湾しながら立ち上がる。 内面は横線で整形が行われてい る。胴部最大幅部分に突起をもつ	沈殿による平行線文の間に刷 毛文が入る。突起部分は土器 表面との接点で円形の穴を有 している。	

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 3 図239

番号 Pl.	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
613 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①細砂粒子をわずかに混入。②良好。③灰白5Y5/1	表面は斜方向に器面調整が行われ、内面は横方向にわずかの器面調整が行われている。	平行沈線文が施文されている中に、沈線による副帯文が数条に1回の割合で施文される。	
573 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色灰物を含む。②良好。③にぶい 褐7.5YR5/3	くびれ部は外反し、内面は横方向に器面調整を行っている。	平行沈線部に副帯文が施文されている。	
452 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①砂粒子・雲母を少量含む。②良好。③灰白2.5YR/2	くびれ部外面は縦方向に近い刷毛目調整、内面は横方向の刷毛目調整が行われている。	2条1単位の波状沈線文2組4本が、平行沈線文内にある。下位の直線文に波状沈線最下段は切られている。	
604 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色灰物を少量含む。②良好。③にぶい黄褐10YR6/3	外面胴部は斜方向の刷毛目、肩部と内面は横方向の器面調整を行っている。	平行沈線文内に2条1単位の波状文2組4本が施文、平行線上下に発達副帯文内斜方向の平行沈線文が施文される。	
574 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色灰物・雲母を含む。②やや細かい。③灰白5YR/1	胴部は丸身をもつ。内面は横方向に整形が行われている。	平行沈線文と波状文が施文されている。	
586 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫が混入する。②良好。③灰褐7.5YR6/2	くびれ部内面は横方向の器面調整が行われている。	沈線による平行線文や波状文の他に、刺突文が施文される。	
577 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色灰物・小礫が混入。②良好。③褐灰10YR6/1	内面は黒く炭化し、器面がくずれやすい状況である。	沈線による平行垂下文と波状垂下文が施文されている。	
576 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒物を多量に含む②やや細かい③灰黄2.5Y7/2	全体に二次的な火を受け、内面は黒くなっている。	平行沈線文の一区画に、刺突状の割み目を入れる。	
596 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒子をわずかに含む②良好③褐灰7.5YR6/1	内面が変れている。	波状沈線文内に刺突文を施文する。	
474 117	弥生土器 壺?	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色灰物を含む。②良好。③明褐灰5YR7/2	内外面とも横方向に器面調整が行われている。	先の突った波状工具使用と思われる刺突文が施文。	
620 117	弥生土器 壺	胴部・肩部 破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒子・雲母を含む②良好③にぶい黄褐10YR7/2	外面胴部は縦方向の刷毛目、内面は横撫で、外面肩部は磨きが行われている。	3条の平行沈線文が施文されている。	
567 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①砂質、白色粒子が多い。②良好。③にぶい 褐7.5YR5/4	外面は縦方向の磨き、内面は横方向の器面調整が行われている。	沈線による横線文が施文されている。	
571 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色灰物・小礫を含む。②良好。③灰褐7.5YR6/1	外面は縦方向に磨き、内面は幅1cm前後の工具で器面調整。	沈線による横線文を施文。	
454 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫を含む。②良好。③にぶい 褐5YR7/3	内外面とも横方向の器面調整。	沈線による横線文を施文。	

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 3 図239

番号 PL	器 種	残 存 状 態	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
614 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色臍物を多量 に含む。②良好。 ③灰緑5YR8/3	二次的な火を受けているため、 整形方法は不明。	沈殿による平行線文が施文さ れている。	
610 117	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫を含む。②良好。③に ぶい黄緑10YR7/2	外面は縦方向、内面は横方向の 器面調整を行っている。	胴部には沈殿による横線文が 施文されている。	
607 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・雲母を含 む。②良好。③灰7.5Y4/1	内外面とも横方向に器面調整 を行っている。	沈殿による横線文が施文され ている。	
581 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色臍物を含む。②良好。 ③灰黄緑10YR4/2	胴部内面は輪軸直が残る、横方 向に器面整形を行う。外面は斜 方向に器面調整を行っている。	沈殿による流状文と思われる 文様が残る。	
609 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色臍物粒・雲 母を含む。②良好。③灰黄緑 10YR6/2	胴部外面は斜方向、内面は横方 向に器面調整が行われている。	沈殿による垂直文が施文され ている。	
605 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色臍物粒・小 礫を含む。②良好。③褐灰 10YR4/1	胴部内外面は幅1cm内外の木口 状工具により、横方向の器面調 整。	平行沈線文を施文。	
618 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・雲母を含 む。②良好。③に ぶい黄緑10YR7/3	胴部は縦方向の磨りき。内面は 荒れが激しい。	平行沈線文を施文。	
615 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①雲母を少量含む。 ②良好。③褐灰 10YR4/1	胴部の破片であり、外面は斜方 向の磨りき、内面は横方向の刷 毛目調整が行われている。	沈殿による連弧文が施文され ている。	
612 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①砂質、雲母を含 む。②良好。③灰黄緑 10YR6/2	内外面とも横方向の器面調整が 行われている。	平行沈線文が施文されている。	
598 117	弥生土器 壺	胴部破片	埋没土中	①白色臍物粒・雲 母を含む。②良好。③灰黄緑 10YR5/2	胴部大部分であり、外面は横 方向の磨りき、内面は横線で整 形。	沈殿による連弧文が施文され ている。	
611 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色臍物粒・小 礫を含む。②良好。③黄灰 2.5Y5/1	胴部は横方向の磨りき。内面は 荒れているが、横方向の撫で痕 が残る。	沈殿による連弧文が施文され ている。	
608 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色臍物粒を多 量に含む。②良好。③黒緑 7.5YR3/1	外面は横方向の磨りき、内面は 横撫で。内外面とも黒い炭化物 が付着。	沈殿による連弧文が施文され ている。	
592 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色臍物・雲母 を含む。②良好。③灰白 7.5Y7/1	内外面とも横撫でが行われてい る。	沈殿による平行線文と連弧文 が施文されている。	
470 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色臍物 粒を含む。②良好。③灰 7.5YK5/2	胴下半部の破片と思われる。外 面は磨りき、内面は横撫でが行 われている。	沈線文の間に縦文が施文され た後、磨りきで文様が消され ている。	

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 3 B239

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
587 117	弥生土器 壺	頸部破片	埋没土中	①砂質。小礫が混入。 ②良好。 ③灰青5Y5/1	外面は縦方向に刷毛目整形、内面は横撫でが行われている。	櫛掻波状文の下に沈線による横線文が施文されている。	
658 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道埋没土中	①小礫・白色粒子を少量含む②良好 ③赤黒2.5YR2/1	くびれ部内面は、横方向の器面調整が行われている。	沈線による横線文の中を垂状工具による羽状文が施文されている。	
509 117	弥生土器 壺	頸部付直の破片	第Ⅱ河道埋没土中	①白色泥物・雲母を含む。②良好。 ③浅黄褐7.5YR8/3	口縁部は大きく外反する。内外面とも横方向の刷毛目整形を主としている。	頸部には櫛掻横線文が施文され、肩部には平行沈線文がある。	516と同じ固体と考える。
516 117	弥生土器 壺	頸部一肩部の破片	第Ⅱ河道埋没土中	①小礫・雲母を含む。②良好。③にぶい 褐7.5YR7/3	頸部は大きく、くびれる。内外面とも横方向の刷毛目整形が行われている。	頸部には櫛掻横線文が施文され、肩部には平行沈線文がある。	509と同じ固体と考える。

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 4 B240

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
663 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道埋没土中	①白色泥物・雲母を含む。②良好。 ③黒褐2.5Y3/1	胴上半部はわずかに内湾する。内面は横方向に器面調整が行われている。	櫛状工具により、細かく羽状文が施文されている。	二次的な火を受けている。
559 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道埋没土中	①白色泥物・雲母を含む。②良好。 ③褐灰10YR5/1	頸部に径接する。外面は横方向に刷毛目、内面は横方向に垂磨きが行われている。	6条1単位の櫛状工具により羽状文を密に施文している。	
662 117	弥生土器 壺	頸部一肩部破片	第Ⅱ河道埋没土中	①白色泥物・雲母を含む。②良好。 ③褐灰5YR4/1	頸部はわずかにくびれる。内面は横方向に磨きかけられている。	頸部は櫛状文、肩部から胴部にかけては櫛状工具により、羽状文が施文されている。	外面に煤が付着。
522 117	弥生土器 壺	頸部破片	埋没土中	①白色泥物・雲母を含む。②良好。 ③灰黄褐10YR6/2	器内はやや厚く、内湾している。外面は縦方向の刷毛目、内面は横方向の器面調整痕が残る。	4条1単位の櫛状工具による羽状格子目文が施文されている。	
396 117	弥生土器 壺	頸部破片	2C-63G 底面直上	①夾雑泥物を含む。 ②良好。 ③灰褐7.5YR5/2	胴部最大幅部分はわずかに丸みをもち、内面は横方向に垂磨きが行われ、光沢をもっている。	7条1単位の櫛状工具による羽状格子目文が施文されている。	外面に煤が付着。
660 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道埋没土中	①白色泥物・雲母を含む。②良好。 ③灰黄褐10YR6/2	胴部は内湾しており、内面は横方向に磨き痕が残る。	5条1単位の櫛状工具による羽状文が施文されている。	外面に煤が付着。
446 117	弥生土器 壺	頸部破片	2C-63G 12層	①小礫を多量に含む。 ②良好。 ③灰褐5YR5/1	外面は櫛状工具、内面は撫でによる横方向の整形。	4条1単位の櫛状工具による羽状文が施文されている。	
468 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道埋没土中	①白色泥物・雲母を少量含む。②良好。 ③灰5Y6/1	内外面とも器面整形が行われ、刷毛目痕が横走する。	肩部に櫛掻波状文を施文後、櫛状工具による格子目文が胴部に施文されている。	
557 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道埋没土中	①白色泥物・雲母を含む。 ②良好。 ③黒5Y2/1	胴上半部は丸みをもつ。内面は横方向の器面整形。	肩部に櫛掻波状文、胴部は櫛状工具による羽状文を施文。	外面に煤が付着。

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 4 図240

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器 形・整 形 の 特 徴	文 様	備 考
521 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅱ河道 埋設土中	①白色泥物粒を少量含む。②良好。 ③灰黄褐10YK5/2	内面は横方向に器面調整を行っている。	頸部は右廻りの縞状文、胴部に6条1単位の帯縞波状文を施している。	
402 117	弥生土器 甕	胴部破片	2C-63G 底面上35.0cm	①白色泥物粒・雲母を含む。②良好。 ③黒褐5YK3/1	頸部はわずかにくびれる。内面は器面整形され、光沢がある。	棒状工具によりコの字重文を施した後、ボタン状附付文を配す。	
601 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅱ河道 埋設土中	①白色泥物・雲母を含む。②良好。 ③黄灰2.5Y6/1	胴中位の破片は丸みをもち、内外面とも横方向の器面調整を行っている。	棒状工具により、コの字重文を施文している。	
600 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅱ河道 埋設土中	①白色泥物を含む。②良好。③Lにぶい 橙7.5YR7/4	胴中位は内湾している。外面は縦、内面は横方向の器面整形を行っている。	棒状工具により、横縞文が施文されている。コの字重文になる可能性がある。	
473 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅱ河道 埋設土中	①砂質。白色泥物を多量に含む。 ②良好。③Lにぶい 赤褐5YR5/3	内外面とも横方向の器面調整を行っている。	匙状工具にて、直線文が描かれている。	
523 117	弥生土器 小形甕	口縁部-胴部 の破片	第Ⅱ河道 埋設土中	①白色泥物・雲母を含む。②良好。 ③灰黄褐10YK5/2	口縁部は大きく外反し横方向の整形。内面胴部は棒状工具・棒状工具による横方向の器面整形が行われている。	頸部から胴下部まで波状文が施文され、2本の青緑区画として垂下文がある。	
666 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅲ河道 埋設土中	①小礫・砂粒子を含む②良好③Lにぶい 赤褐2.5YR4/4	胴部は内湾する。内面は横方向の器面調整が行われている。	胴部上位に帯縞横文と、胴部に垂下文を配れ、周を帯縞波状文で充填している。	
588 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅲ河道 埋設土中	①白色泥物を含む。 ②良好。 ③灰白5YR8/1	口縁部は大きく外反する。口縁外面は横溝で、内面は匙形。	棒波状文施文後、棒状工具による垂下文を施文。	
465 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅲ河道 埋設土中	①白色泥物・雲母を含む。②良好。 ③黒褐7.5YR3/1	胴下部はわずかに内湾する。外面胴部は横方向の横毛目、下位と内面は磨かれ、光沢がある。	帯縞波状文による垂下文施文後、同文様を横方向に充填している。	外面には煤が付着する。
398 117	弥生土器 壺	胴部破片	2D-63G 底面上	①白色泥物・植物灰を含む。②良好。 ③暗褐7.5YR3/3	頸部はわずかにくびれ、外反する。外面文様部分は横方向に歪く器面調整、他は多方向へ弛磨し、内面は横方向の器面調整。	頸部は帯縞横文、肩部は引き続いて棒状工具により縦衝文に平行波状文を施文、ボタン状附付文を配す。	
543 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋設土中	①小礫をわずかに含む。②良好。 ③灰白5Y7/1	外面は縦横に器面整形が行われている。	頸部には右廻りの縞状文を施文される。匙状工具による平行波状文を直下の縦衝文内に充填。	
545 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅱ河道 埋設土中	①白色泥物・雲母を含む。②良好。 ③灰白10YR8/1	外面は斜方向、内面は横方向に器面調整が行われている。	7条1単位の縞状文が右廻りで施文。匙状工具による平行波状文を直下の縦衝文内に充填。	
532 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋設土中	①夾雑泥物を含む。 ②良好。 ③橙7.5YR7/6	胴部外面は横、内面は斜方向に器面整形が行われている。	波状文の上下を、匙状工具により縦衝文内を平行波状文で充填。	

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 4 図240

番号 PL	器種	残存 方法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
461 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色黏物・雲母を含む。②良好。 ③にぶい。径7.5YR7/3	外面は縦方向に器面整形が行われる。内面は荒れている。	頸部には櫛状文が左廻りに施文。直下に、捲状工具により鋸歯文を施文。内側に斜向波状文を充填。	
457 117	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色黏物・小礫を含む。②良好。③にぶい。径7.5YR7/4	外面は縦方向に荒磨き、内面は横撫でが行われている。	頸部には櫛状文、直下の腹先による鋸歯文内に斜格子目文を施文している。	
491 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色黏物を多量に含む。②良好。③にぶい。径7.5YR6/3	頸部内面は横方向の器面調整を行っている。	頸部には右廻りの櫛状文が施文。直下に、腹先による斜格子目文を施文。	
536 117	弥生土器 壺	肩部破片	2C-63G 底面±10.0cm	①白色黏物を少量含む。②良好。③にぶい。黄緑10YR7/2	内外面とも櫛状工具により、器面調整を行っている。	波線による鋸歯文内に円形刺突文を施文している。	
535 117	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・雲母・白色黏物を少量含む。 ②やや硬い。 ③明緑灰5YR7/2	外面は縦方向の器面調整、内面は横方向の撫で整形を行っている。	頸部には櫛状波状文、直下に、腹先による鋸歯文を施文し、頂点にボタン状貼付文、尚文様内に円形刺突文を充填。	

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 5 図241

番号 PL	器種	残存 方法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
554 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫や白色黏物を含む。②焼きまわっている。③にぶい。径5YR7/3	折返し口縁をわずかに認める。口縁端部は丸みをもつ。内面は横撫でによる整形痕がある。	折返し口縁部とその下には6条1単位の櫛状波状文が施文されている。	
664 118	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①白色黏物を含む。 ②良好。 ③灰白5Y7/2	折返し口縁を有す。外面は横方向に荒磨き痕がある。内面は横方向に撫で痕がある。	口縁端部は縄文R.L(2本の付加条)を施文。	
477 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2D-64G 12層	①雲母を多量に含む。②良好。 ③明緑灰7.5YR5/1	折返し口縁を有す。口縁端部は丸みをもつ。	外面は6条1単位の櫛状波状文を有す。	
564 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色黏物・雲母を含む。②焼きまわっている。③明緑灰7.5YR4/1	折返し口縁を有す。口縁端部はわずかに丸みをもつ。外面は縦、内面は横方向に器面調整。	折返し口縁外面に5条1単位の櫛状波状文を施文。	外面に煤が付着。
412 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G 12層	①夾雑物を含む。 ②焼きまわっている。③明緑灰10YR5/1	折返し口縁を有す。口縁端部は丸みをもつ。内面は横方向の撫で整形。	6条1単位の櫛状波状文が施文されている。	
528 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色黏物をわずかに含む。②良好。 ③明緑灰2.5Y5/2	折返し口縁を有す。口縁端部は丸みもち、部分的に粗みを入れる。内面は横方向の撫で整形。	外面口縁部は櫛状波状文を施文。	内面は変形。
482 118	弥生土器 壺	口縁部-胴部 破片	2D-64G 12層	①雲母をわずかに含む。②やや硬い。 ③灰白10YR8/2	折返し口縁を有す。外面は縦、内面は横方向に器面調整を行っている。	折返し口縁部に櫛状波状文が施文されている。	

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 5 図241

番号 凡	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
551 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色鉱物・ 雲母を含む。②良好。 ③にぶい黒7. 5YR6/3	口縁部は大きく外反し、折返し を有した上に棒状付文がある。 外面上位は横、下位は縦方向に 器面調整され、内面は横撫で。	口縁部には1本の棒状付文が 見られる。	
539 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③灰黒5YR6/2	折返し口縁を有す。口縁端部は 丸みをもつ。折返し部分には棒 状付文が貼付されている。	口縁部には棒状付文が2本あり、 髷横波状文が施文されて いる。	内面は彫形。
529 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③灰黄2.5Y6/2	折返し口縁を有す。外面は横撫 で、内面は光沢をもつ整形である。 る。	口縁端部は縄文R.Lの任侠を 施文している。	
481 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2D-64G 12層	①小礫を多量に含む。 ②やや緑い。 ③淡黄5YR8/3	折返し口縁を有す。外面口縁部 付近は横撫で、下位は縦方向、 内面は横方向の器面調整。	口縁端部は削み目を入れる。	
483 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2D-64G 12層	①白色鉱物・雲母 を含む。②良好。 ③灰黄2.5Y7/2	折返し口縁を有す内面と外面口 縁部付近は横撫で、外面下部に は横方向の磨き痕がある。	内面は彫形が行われている。 折返し口縁部は削み目を入 れる。	
425 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G 12層	①白色鉱物・雲母 を含む。②良好。 ③灰白7.5Y7/1	折返し口縁を有す。口縁端部は 尖っている。内外面とも斜方向 に刷毛目調整痕がある。	折返し口縁に長さ1.3cm、幅 1.5mmの櫛(歯)状工具によ る押圧文がある。	
434 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G Ⅵ層	①砂質。白色粒子 を含む。②緑い。 ③黄灰2.5Y4/1	折返し口縁を有す。口縁断面は 三角形に近い形状をしている。 外面は斜方向の刷毛目、内面に は横方向の整形痕がある。	口縁部は削み目をもつ。	
429 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G 12層	①白色鉱物を含む。 ②やや緑い。 ③灰白10YR8/2	折返し口縁を有す。内外面とも 横、斜方向に器面整形を行っ ている。	折返し口縁部に横方向の沈線 を施文後、斜方向に刷毛目状 の沈線を施文している。	
413 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G 12層	①白色・夾雑鉱物 を含む。②やや緑 い③黒期7.5YR5/1	折返し口縁を有す。口縁部は丸 みをもつ。内外面とも横方向の 器面調整を行っている。	頸部から口縁部にかけて髷横 波状文を施文している。	
439 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-62G Ⅵ層	①白色鉱物を含む。 ②緑い。③にぶい 橙7.5YR7/4	折返し口縁を有し、大きく外反 する。内外面とも器面は荒れて いる。	折返し口縁部外面には櫛状工 具による押圧文が入る。	
432 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G 12層	①白色鉱物を含む。 ②やや緑い。 ③橙7.5Y7/6	折返し口縁を有す。口縁端部は わずかに丸みをもつ。内面と外 面折返し部付近は横撫で、下位 は縦方向の器面調整。	折返し口縁部外面に縦方向の 浅く、広目の刷毛目が入る。	
431 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G 12層	①白色粒子を含む。 ②良好。 ③灰白2.5Y8/2	折返し口縁を有す。内面と外面 口縁部は横方向の整形、外面頸 部は縦方向の刷毛目整形が行わ れている。	口縁端部は削み目を入れる。	
422 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G 12層	①白色鉱物をわず かに含む②やや緑 い③灰黄2.5Y7/2	口縁部は外反し、口縁端部は尖 っている。外面は櫛状工具によ る斜、内面は横方向の器面整形。	口縁部寄りには細かな髷横波 状文を施文。以下は寬く7条 1単位の髷横波状文を施文。	外面にわず かに髷が付 着。

2号河川跡出土遺物観察表〈弥生土器〉5 図241

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
400 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-63G 底面上8.0cm	①白色磁物・小礫 を含む②良好③に ぶい灰7.YR7/4	折返し口縁を有す。外面整形は 横方向の刷毛目後、縦方向の磨 磨る。内面は横方向の器面調整。	外面折り返し口縁部に文様が あるが器面が荒れており不明。	
399 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G 底面上79.0cm	①白色磁物を含む。 ②やや緩い。 ③相灰10YR4/1	頸部から口縁部にかけてわずか に外反する。口縁端部は丸みをも つ。内外面とも横方向の整形。	7条1単位の間接波状文が4 段施文。頸部には縷状文が施 文されている。	47と接合。 同一器体。
553 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2D-63G 底面上16.0cm	①白色磁物を含む。 ②良好。 ③灰黄褐10YR4/2	頸部から口縁部にかけて外反す る。内面は黒色で光沢を帯びて おり、横方向の器面調整を行っ ている。	間接波状文が口縁部から頸部 にかけて施文。さらに下部へ と施文されている。	外面に灰が 付着。
517 118	弥生土器 壺	口縁部・胴部 破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色磁物を含む。 ②良好。 ③灰白10YR8/1	口縁部は外反し、口縁端部は丸 みをもつ。内面は横方向の器面 調整を行っている。	頸部に右廻りの縷状文を施文 後、口縁部・胴部に間接波状 文を施文。	
420 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G 12層	①白色磁物を含み、 堅緻。②良好。 ③にぶい黄緑10YR 6/3	口縁部は外反し、口縁端部は尖 っている。内面は横方向の器面 整形を行っている。	間接波状文が口縁部から頸部 方向に向け、順次施文されて いる。	
480 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2D-64G 12層	①輝石・白色磁物 を含む。堅緻②良 好③黄灰2.5Y5/1	口縁部は外反しながら、わずか に内湾する。内面横撫で整形。	5条1単位の細かい間接波状 文が上位から下位へ施文。	外面にわず かに灰が付 着。
556 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①輝石・小礫を含 む。②やや緩い。 ③黒褐10YR3/1	口縁部は外反する。内面は横方 向の器面調整が行われている。	5条1単位の間接波状文を施 文。4段確認ができる。	
560 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色・夾雑磁物 を含む。②良好。 ③暗赤灰2.5YR3/1	口縁部は外反する。口縁端部は 丸みをもつ。内外面とも刷毛目 による器面整形が行われている。	口縁部付近に3段の間接波状 文が施文されている。施文は 荒れている。	外面に灰が 付着。

2号河川跡出土遺物観察表〈弥生土器〉6 図242

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
561 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色磁物を含む。 ②良好。 ③黒褐5YR3/1	内面は横方向に磨磨る。口縁部 付近にボタン状貼付文(円形刺 穴4個)がある。	間接波状文が外面全体と口縁 端部に施文されている。	外面に灰が 付着。
563 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色磁物・雲母 を含む。②良好。 ③黒褐10YR3/1	口縁部は外反する。口縁端部は 丸みをもつ。内面は横方向の器 面整形を行っている。	間接波状文が口縁部から胴中 位まで施文されている。(3 段分)	外面に灰が 付着。
459 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色磁物粒を含 む。②良好。③オ リーブ黒5Y3/1	口縁部は外反しながら立ち上 がり、端部は立つ。内外面とも横 方向の器面整形を行っている。	6条1単位の縷状工具により 波状文を施文。曲面が多く、 縷状工具の当たらない場所が 多い。	内外面に灰 が付着。
479 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2D-64G 12層	①小礫・雲母を含 む。②やや緩い。 ③暗赤灰2.5YR3/1	内外面とも横方向に器面整形が 行われている。	4条1単位の間接波状文が施 文されている。3段分確認。	

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 6 10242

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
488 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2D-64G 12層	①白色粒子・雲母 を含む。②良好。 ③黒褐2.5Y3/1	口縁部は外反し、端部外面はわずかに立つ。内面は横方向の撫で。	口縁部から頸部にかけて帯指波状文が施文されている。	
486 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物粒を多量に含む砂質土。 ②良好。 ③黄灰2.5Y6/1	口縁部は外反し、端部は丸みをもつ。内外面とも横方向の器面整形痕が残る。	8条1単位の帯指波状文が口縁部に施文されている。	
416 118	弥生土器 甕	口縁部破片	2C-64G 12層	①小礫が混入。 ②良好。 ③黄灰2.5Y5/1	頸部から口縁にかけ外反し、口縁部では受口状に変化する。外面口縁と内面は撫で、外面頸部は縦方向の器面整形を行っている。	帯指波状文が口縁端部に細かく行われ、頸部には大きな波状で施文されている。	
482 118	弥生土器 甕	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・雲母を含む。 ②良好。 ③明褐色7.5YR7/2	口縁部は受口状を呈す。外面頸部上位は斜方向の器面整形を帯指工具で行い、内面は縦方向に磨きが行われている。	口縁端部は磨状工具により刻み目を入れ、口縁部には6条1単位の帯指波状文、頸部は等間隔の右廻り。	外面にわずかに煤が付着。
397 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-63G 底面上21.0cm	①多量の白色鉱物と小礫を含む。 ②良好。③オリーブ 褐7.5Y3/1	口縁部は大きく外反する。外面口縁は横撫で。以下頸部は縦方向の刷毛目、内面は縦方向の磨きが行われている。	口縁端部付近に帯指波状文が施文され、頸部には2連止の櫛状文が右廻りで施文されている。	内外面に煤が付着。
427 118	弥生土器 甕	口縁部破片	2C-64G 12層	①白色粒子・小礫を含む②やや緑い ③灰褐5YR6/2	焼成後、器面が荒れている。外面は縦方向の刷毛目、内面は横撫で整形が行われている。	口縁端部付近は帯指波状文、頸部は帯指横文(櫛状文と考えられる)が施文。	
469 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①わずかに白色粒子を含む②良好 ③灰白2.5Y8/2	口縁部はわずかに受口状を呈す。外面は横方向の撫で、内面は磨きが行われている。	口縁部に3箇にわたり、帯指波状文が施文されている。	
404 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-63G 底面上20.0cm	①雲母・礫を含む。 ②良好。 ③黒褐2.5Y4/1	頸部から口縁部に向けて外反し、口縁端部は立ち上がる。外面は縦方向に帯指工具による整形、内面は横方向に磨き整形。	口縁端部付近は帯指工具による波状文を施文。頸部は櫛状文が右廻りに施文されている。	外面にわずかに煤が付着。
466 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒子を含む 砂質土②やや緑い ③灰黄褐10YR4/2	口縁部はわずかに内湾する。外面口縁と内面は縦方向、外面頸部までは縦方向の器面調整。	口縁端部は刷毛目状文が施文されている。	
548 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①雲母・小礫を含む。②やや緑い。 ③褐灰10YR4/1	口縁部は外反する。口縁外面は横撫で、内面は帯指工具による器面整形を行っている。	口縁端部は櫛指波状文を施文後、円形刺突文6穴を持つボタン状付文、頸部は櫛状文を施文している。	内外面にわずかに煤が付着。
455 118	弥生土器 甕	口縁部破片 口(11.6cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物粒を多量に含む。②良好。 ③黒褐5YR3/1	口縁部は受口状を呈す。外面は刷毛目磨き、内面は横方向に磨きがかけられている。	頸部には右廻りの櫛状文が施文されている。	外面に煤が付着。
411 118	弥生土器 甕	口縁部破片	2C-64G 12層	①白色粒子・雲母を含む。②良好。 ③黄灰2.5Y4/1	内外面とも横方向に撫で整形後、内面口縁部は磨きを行っている。	頸部は7条1単位の右廻りの2連止櫛状文を下位の帯指波状文を切って施文。	外面に煤が付着。
526 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物粒を多量に含む。②良好。 ③赤7.5R4/5	折返し口縁を有し、口縁端部は丸みをもつ。内外面とも横方向の器面調整を行っている。	折返し口縁部に縦方向の刷毛目を入れている。	内外面とも整形。

2号河川跡出土遺物観察表〈弥生土器〉6 図242

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形・整 形 の 特 徴	文 様	備 考
520 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色鉱物を多量に含む。 ②良好。 ③明赤黒2.5YR5/6	折返し口縁を有す。内面は荒磨き。焼成後、器面が見れる。	口縁端部に細かな刻み目を入れている。	内外面とも塗彩。
519 118	弥生土器 高杯	坏部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫が多量に入る。 ②良好。 ③赤10R4/6	口縁端部は大きく外反する。外面は縦方向、内面は横方向に器面調整を行っている。	内外面とも塗彩が行われている。	
525 118	弥生土器 高杯?	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物粒を多量に含む。②良好。 ③赤黒10R4/4	口縁部は立ち上がる。内面は磨きによる整形で、光沢をもつ。	口縁部に磨擦横線文を入れる。	内外面とも塗彩。
518 118	弥生土器 高杯	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物粒を含む砂質土。②良好。 ③赤10R4/6	内湾しながら外反し、口縁端部は平坦をつくる。器面は荒磨き。	口縁端部に細かな刻み目が入る。	内外面とも塗彩。
489 118	弥生土器 高杯	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②やや緑い③にぶい橙7.5YR7/3	口縁部は大きく外反する。外面は荒れてる。	口縁端部は刻み目を入れる。	内面は塗彩。
555 118	弥生土器 壺	口縁部→胴部 破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②やや緑い。 ③灰黄2.5Y7/6	外面は横撫で、内面は横方向の荒磨き整形。内面は黒い。	口縁部は細い工具により、刻み目を入れる。	
437 118	弥生土器 高杯	口縁部破片	2C-64G 12層	①小礫を含む。 ②良好。 ③橙5YR6/6	口縁部は筒冠状を呈し、口縁付近で外反する形状である。外面は横撫で。		内面は塗彩。
527 118	弥生土器 高杯	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物・小礫を含む。②良好。 ③黄6.5YR4/1	口縁部は筒冠状を呈し、口縁付近で外反する形状である。内外面とも荒磨き。	内面全体と外面の一部に塗彩が行われている。	
540 118	弥生土器 壺	胴部上半部 破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小砂を含む砂質土。②良好。③にぶい黄緑10YR7/2	肩部から胴部にかけて丸身をもつ。外面は縦方向に縦毛目整形。塗彩部分は荒磨き。内面は横方向に器面調整。	胴部寄りには磨擦波状文が施文。胴部に磨擦による羽状文を施文。羽状文下位には中彩が行われている。	

2号河川跡出土遺物観察表〈弥生土器〉7 図243

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形・整 形 の 特 徴	文 様	備 考
467 118	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物・雲母・小礫を多量に含む。 ②良好。 ③黄緑5YR6/1	内面は横方向の撫で、外面は不明。	胴部には左廻りの等間隔止葉状文が施文されている。	

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 7 図243

番号 PL	器種	残存 状況	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
480 118	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒子・雲母 を含む。②良好。 ③黒褐色10YR4/1	外面頸部は横方向の撫で、内面 は横方向に器面整形が行われ、 光沢をもつ。	8条1単位の帯状工具により 右廻りの等間隔止帯状文と波 状文が施文されている。	外面にわず かに傷が付 着。
440 118	弥生土器 壺	頸部破片	2C-62G Ⅱ層	①砂粒子が混入。 ②やや粗い。 ③灰白5Y7/2	内外面とも磨耗を受けている。 内面の一部に横方向の磨耗が 行われている。	口縁部下に帯描波状文、頸 部に帯状文が施文されている。	
430 118	弥生土器 壺	頸部破片	2C-64G Ⅱ層	①白色鉱物・雲母 が混入。②良好。 ③灰5Y4/1	口縁部は大きく外反する。内面 は横方向に細かく磨耗が行わ れている。	頸部には右廻りの等間隔止 帯状文、肩一胴部には帯描波 状文が施文。9条1単位の。	
487 118	弥生土器 壺	頸部破片	2D-64G 12層	①白色鉱物粒・雲 母を混入。②良好。 ③黒黒2.5Y3/1	内面口縁部は横撫で、頸部から 下位は磨耗が行われている。	頸部は帯状文と思われ帯描 横線文と、肩部以下には帯描 波状文が施文されている。	外面に傷が 付着。
538 118	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物を多量 に含む。②良好。 ③明褐色5YR7/2	内面は横方向の器面調整を行っ ている。	頸部には11条1単位の等間隔 止帯状文、肩部には帯描波状 文が施文されている。	帯状文は右 廻り。
537 118	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物粒をわ ずかに含む②良好。 ③浅黄緑10YR8/3	頸部付近の破片は外反し、内外 面とも一部に器面調整が残る。	7条1単位の帯状文が右廻り に施文されている。	
415 118	弥生土器 壺	肩部破片	2C-64G 12層	①白色鉱物を含む。 ②やや粗い。 ③灰白10YR8/2	頸部から肩部にかけての破片で ある。外面は斜、内面は横方向 の器面調整が行われている。	帯状工具により右廻り帯状文 を頸部に施文後、波状文が下 位に一段分施文。	
475 118	弥生土器 壺	頸部-肩部破 片	2D-64G 12層	①白色粒子をわず かに含む②良好 ③黒N2/	頸部から肩部にかけての破片で あり、外面は縦、内面は横方向 に器面調整が行われている。内 面の一部に輪轡痕を残す。	頸部には右廻りの帯状文が等 間隔に施文されている。この 下に6条1単位の帯描波状文 が施文されている。	外面に傷が 付着。
421 118	弥生土器 壺	肩部-胴部上 位破片	2C-64G 12層	①砂質っぽい。 ②やや粗い。 ③灰白10YR8/2	内面は幅2cmの輪轡痕を残す。 外面は帯状工具により横方向に 整形後、縦方向の調整痕が残る。 内面胴部は横方向の撫で、頸部 は縦方向の調整痕が残る。	頸部には右廻りの帯状文、こ の下部に帯描波状文が1単位 分施文されている。施文技術 は乱れた感が強い。	
524 118	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①雲母・小礫を含 む。②良好。 ③明褐色5YR7/2	くびれ部内外面ともいわゆる刷 毛目整形を行っている(厚さの 薄い弾力のある工具を使用)。	頸部には8条1単位の右廻り帯 状文を施文。この下部に帯描 波状文を施文。	
463 118	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物と雲母 を含む。②良好。 ③灰褐7.5YR5/2	外面は横方向の撫で整形、内面 は横方向に器面調整を行って いる。	頸部は8条1単位の2連止 帯状文を施文後、下段の帯状文 を描く。肩部には2段分の帯 描波状文を施文。	
544 118	弥生土器 壺	頸部-肩部破 片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物をわず かに含む②良好 ③にぶい黄緑10Y 7/2	頸部はくびれる。外面は斜方向 の刷毛目整形後、磨耗。内面 は横方向の刷毛目整形後頸部付 近に横方向の磨耗痕が残る。	頸部には2段分の2連止帯状 文が施文され、肩部から胴部 にかけて2段分の帯描波状文 を施文している。	

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 7 B243

番号 PL	器 種	残 存 状 態	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形・変 形 の 特 徴	文 様	備 考
542 118	弥生土器 壺	頸部付近の破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色磁物を多量 に含む。②良好。 ③黒紺2.5Y3/1	頸部はくびれ、口縁部は外反す る。外面は横撫で、内面は斜方 向に磨きが行われている。	頸部は2連止線状文が2段、 肩部から胴部に横撫波状文を 施す文、円形刺突文を6個施 したボタン状貼付文がある。	外面頸部に は煤が付着。
534 118	弥生土器 壺	頸部-肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①雲母を含む。 ②良好。 ③黒紺10YR3/1	頸部はくびれ、口縁部は外反す る。外面は縦方向に磨状工具に よる器面整形、内面は横方向に 刷毛目整形。	口縁部付近と肩部には横撫 波状文を施す。頸部には等間 隔止線状文を施す。波状文下 部にボタン状貼付文がある。	外面に煤が 付着。
395 118	弥生土器 壺	頸部破片	2D-63G 底面上9.0cm	①白色磁物を多量 に含む。②良好。 ③灰白5Y7/1	頸部はくびれ、口縁部に向けて 大きく外反。外面は縦、内面は 横方向に器面調整を行っている。	頸部には2連止線状文が施文 されている。	内面頸部に は幅7mmの 縦筋確認。
472 118	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色磁物・雲母 を含む②良好③に ぶい黄帯10YR6/3	内面は横方向に器面調整を行っ ている。	頸部には2連止線状文、肩部 から胴部にかけて8条1単位 の横撫波状文を施す。	
476 118	弥生土器 壺	頸部破片	2D-64G 12層	①白色粒子・雲母 を含む。②良好。 ③灰帯5YR6/2	くびれ部内面は輪軸を残す。 外面は斜方向に刷毛目調整、内 面は横方向に磨きが行われて いる。	頸部には横撫波状文が右廻り で2連止施文され、口縁部と 肩部には横撫波状文が施文さ れている。	肩の一部に 煤が付着。
490 118	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色磁物粒を含 む。②良好。③に ぶい帯7.5YR6/4	頸部はわずかにくびれている。 内面は横方向に器面調整される。	頸部は右廻り2連止線状文、 肩部は横撫波状文を施す。	
444 118	弥生土器 壺	肩部破片	2C-63G 11層	①細砂粒子を含む。 ②やや硬い。③に ぶい帯5YR7/3	頸部の一部と肩部の破片であり 整形或等は不明。	頸部は横撫波状文に横撫の丁 字文を入れ、肩部は横撫波状 文を施す。	
562 118	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒子をわず かに含む②良好 ③灰帯5YR4/2	頸部はくびれ、外面は斜方向に 刷毛目調整、内面は横方向に磨 きが行われている。	頸部は磨状工具による丁字文 が施文されている。	546と同一 団体?外面 に煤が付着。
546 118	弥生土器 壺	頸部-胴部破片	埋没土中	①白色粒子を僅か に含む。②良好。 ③黒紺5YR4/1	肩部から胴部にかけては内湾す る。外面は斜・横方向に刷毛目。 内面は横方向に磨きが行われる。	頸部は磨状工具による丁字文 が施文され、下に円形刺突 文を施したボタン状貼付文 がある。	外面に煤が 付着。562 と同じ破片 ?。
552 118	弥生土器 壺	頸部-肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒子・雲母 を含む。②良好。 ③にぶい黄帯10YR 6/3	頸部は大きく、くびれる。外面 頸部は縦方向に器による調整。 内面は横方向に磨状工具による 器面調整が行われている。	頸部は磨状工具による線状文 が2連右廻りで施文。肩部 は4段分横撫波状文が施文さ れ、最下段にボタン状貼付文 がある。	
531 118	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色磁物粒を含 む。②良好。 ③灰白7.5YR8/2	くびれ部であり、内面は横方向 に整形されている。	磨状工具による丁字文が頸部 にある。	
453 118	弥生土器 壺	肩部付近破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫をわずかに 含む②良好③にぶ い黄帯10YR7/3	頸部から肩部にかけての破片で ある。	頸部は線状文が右廻りに施文 され、肩部は磨状工具による 丁字文が施文されている。	内面に煤が 付着する。
414 118	弥生土器 壺	肩部破片	2C-64G 12層	①細砂粒子を含む。 ②良好。③灰白7. 5YR/2	くびれ部の破片であり、器面が 厚い。内面は荒れている。	数段の横撫波状文と1条、な いし2条の波線による丁字文 の施文がみられる。	

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 7 図243

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
423 118	弥生土器 壺	胴部破片	2C-64G 12層	①白色磁物粒を含む ②やや穢い ③にぶい黄緑10YR7/3	くびれ部と思われる破片であり 内面は荒れている。	帯掻波線文に沈線による下字 文が施文されている。	

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 8 図244

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
410 118	弥生土器 壺	胴部破片	2C-64G 12層	①白色磁物を含む。 ②良好。 ③規尺5YR4/1	胴部付近で外反する。外面は斜 方向に刷毛目、内面は横方向に 磨きによる器面調整を行う。	7条1単位の帯掻波状文を施 文。	外面の一部 に煤が付着。
484 118	弥生土器 壺	胴部破片	2D-61G 12層	①白色磁物粒を含む。 ②良好。 ③規尺7.5R4/1	胴部付近の破片と考えられる。 内面は斜方向に器面調整を行う。	帯掻波状文が乱雑に施文され ている。	内外面の一部 に煤が付着。
435 118	弥生土器 壺	胴部破片	2C-64G 12層	①白色磁物粒を含む。 ②良好。 ③規尺2.5Y7/3	胴部の破片であり、わずかに内 湾する。外面は縦、内面は横方 向に器面調整が行なわれている。	帯掻波状文が胴部中に施文 されている。	外面に煤が 付着。
428 118	弥生土器 壺	胴部破片	2C-64G 12層	①白色粒子・小礫 を混入する。②や や穢い。③にぶい 黄緑10YR7/2	内外面とも横方向の器面調整 を行っている。	帯掻波状文が施文されている。	
677 118	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・雲母を含 む。②良好。 ③黒10YR2/1	内面は横方向に整形。	帯掻波状文を施文後、櫛状工 具による羽状文を施文。	外面に煤が 付着。
443 118	弥生土器 壺	胴部破片	2C-63G 12層	①白色磁物粒を含 む。②良好。 ③灰黄緑10YR6/2	外面は縦方向に刷毛目、内面は 横横で整形が行われている。	帯掻波状文が胴部に施文され た下位に、ボタン状貼付文を 施文。	
450 118	弥生土器 壺	胴部破片	2C-63G 11層	①白色磁物を含む。 ②良好。③にぶい 緑7.5YR6/4	内面は横方向の器面調整を行っ ている。	帯掻波状文を施文後、ボタン 状貼付文を貼り、円形刺突文 (13個)を施文する。	
456 118	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色磁物を含む 砂質土②良好③に ぶい黄緑10YR7/2	外面は櫛状工具による横方向の 整形後、斜方向に磨き。内面 は横方向の無で整形。	胴部には帯掻波状文を施文後 波状文下部にボタン状貼付文 がある(6個の円形刺突文)。	
533 118	弥生土器 壺	胴部破片	埋没土中	①白色磁物・雲母 を含む。②良好。 ③暗赤灰10R4/1	外面は斜方向に櫛状工具により 整形後、多方向に磨き。内面 は横方向に無で整形。	帯掻波状文を施文後、ボタン 状貼付文を施文(横線文を入 れる)。	
424 118	弥生土器 壺	胴部破片	2C-64G 12層	①白色磁物・雲母 を含む。②良好。 ③黒緑5YR2/1	外面は斜方向の櫛状工具による 器面調整、内面は横方向の調整 により光沢がある。	7条1単位の帯掻波状文が施 文されている。	外面に煤が 付着。
442 118	弥生土器 壺	胴部破片	2C-62G 11層	①白色粒子を多量 に含む。②良好。 ③灰黄緑10YR5/2	外面文様部分は器面を櫛状工具 により調整。下位は縦方向に磨 き。内面は横方向に整形。	帯掻波状文を胴中位から上位 に施文している。	
418 118	弥生土器 壺	胴部破片	2C-64G 12層	①小礫を含む砂質 土。②良好。③に ぶい黄緑10YR6/3	外面は縦方向の磨き。内面は 横方向の無による整形。木口 状工具の使用痕が見られる。	胴部には4段分の帯掻波状文 を上位から下位へ施文。5条 1単位。	

2号河川跡出土遺物観察表〈弥生土器〉8 図244

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
661 118	弥生土器 円盤	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物を少量 含む。②良好。 ③灰白10YR5/1	土器を転用したもので、周りを打ち 割り、円形に成形している。 内外面とも同一方向の磨き。		
665 118	弥生土器 特種車	1/2欠損 直径 4.3cm 器内中心部 1.0cm 外径部 0.8cm	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒子を多量 に含む。①良好。 ③黄灰2.5Y4/1	円盤形を呈し、中心に同形の穴を 穿つ。		器面には条 痕がある。
653 118	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒子・夾雑 鉱物を含む②良好 ③黄灰10YR6/1	僅かに外反する。内外面とも磨 拭工具による器面整形を行って いる。	外面の器面整形が明確なため、 文様のようにも思われる。	656と接合 同一個体。
654 118	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・雲母・夾雑 鉱物を含む②良 好③灰白10YR8/2	幅約2cmの工具により、内外面 とも横方向の器面調整が行われ ている。	外面の器面整形が明確なため、 文様のようにも思われる。	
657 118	弥生土器 壺?	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色の夾 雑鉱物・雲母を含 む。②良好。 ③明黄灰5YR7/2	外面は磨拭工具、内面は外面よ り幅広い工具により横方向に器 面整形している。	外面の器面整形が明確なため、 文様のようにも思われる。	
655 118	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物粒・夾 雑鉱物を含む。 ②良好。 ③明黄灰7.5YR7/2	外面は斜方向、内面は横・斜方 向に磨拭工具により器面整形を 行っている。	外面の器面整形が明確なため、 文様のようにも思われる。	
428 118	弥生土器 壺	胴下部破片	2C-64G 12層	①白色鉱物・雲母 を含む。②やや硬 い。③灰5Y4/1	外面は縦方向に磨き、内面は横 斜方向に、多方向に器面調整を 行う。	縄文R Lを施文している。	

2号河川跡出土遺物観察表〈弥生土器〉9 図245

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
361 119	弥生土器 甕	口縁部-頸部 1/3残存 口 (25.2cm)	2D-64G 底面上20.0cm	①白色鉱物・小礫 を含む。①良好。 ③明黄灰5YR7/2	口縁部は大きく外反し、折返し してある。折返し部には2本1単 位の棒状付文がある。外面は縦 方向の磨き、内面は横横で整 形が行われている。	折返し口縁部には棒状波状文、 くびれ部には縷状文が施文さ れている。	内面は縷形。
494	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (29.6cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物粒をわ ずかに含む。②や や硬い。③にぶい 橙7.5YR7/3	口縁部は大きく開き、折返し してある。折返し部には2本1単 位の棒状付文がある。器面は荒 れており、外面に磨きか縦方向 に行われている。	折返し口縁部には棒状波状文 が施文されている。	内面は縷形。
508 119	弥生土器 甕	口縁部1/4残 存 口 (20.0cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色鉱物 を含む。①良好。 ③灰白10YR7/1	口縁部は大きく外反する。口縁 端部は折返し口縁を呈し、2本 1単位の棒状付文がある。口縁 部は横横で、外面は木口工具 による器面整形、内面は横方向 の磨きが行われている。		内面は縷形。

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 9 図245

番号 凡	器 種	残 存 法 量	出土位置	①粘土 ②地成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
499 119	弥生土器 壺	口縁部1/2残 存 口 (20.0cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色灰物・雲母 を含む砂質土。 ②良好。③にぶい 橙7.5YR7/3	口縁部は外反し、折返す。外面 は縦、内面は斜方向に器面整形 を行っている。	口縁部には刻み目を施文する。	
379 119	弥生土器 壺	口縁部破片 口 (19.2cm)	2C-63G 底面上66.0cm	①白色灰物・雲母 を含む。②良好。 ③にぶい黄橙10YR 7/2	口縁部は外反し端部は折返す。 外面は縦方向の撫で整形後、横 方向に一部磨く。内面は横方向 に撫で整形後、磨きを行う。	折返し口縁外面は寛状工具と 思われる鋭い先で、縦方向に 直線文を入れる。	
371 119	弥生土器 壺	口縁部一頸部 口 14.7cm 頸 8.4cm	2C-64G 底面上37.0cm	①白色灰物・雲母 を含む砂質土。 ②良好。 ③灰白2.5YR8/2	口縁部に向けて、大きく外反す。 外面口縁端部付近は、横撫で、 他内外面とも磨状工具により 器面整形を行っている。	7条1単位の磨状工具による 磨状文が、等間隔で右廻りに に施文。肩部に一部に波状文 が認められる。	
495 119	弥生土器 壺	口縁部一肩部 1/3残存 口 (16.3cm) 頸 10.3cm	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色夾雑物・雲母 を含む。②良好。 ③黄灰2.5Y6/1	口縁部に向けて、大きく外反す。 外面は横方向の撫で整形後 磨き、内面は横方向の器面整 形を行っている。	頸部は磨状工具により右廻り の磨状文、肩部寄りに2段分 の横線波状文を施文している。	
502 119	弥生土器 壺	口縁部一頸部 破片 口 (21.8cm) 頸 (8.4cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・雲母を含 む。②やや黄い。 ③にぶい黄橙10YR 7/3	頸部から受口状を呈す口縁部ま で、大きく開く。端部付近は横 撫で、以下頸部まで縦方向の整 形。		内面は整形。
383 119	弥生土器 壺	口縁部一頸部 1/3残存 口 (18.0cm) 頸 (10.6cm)	2D-63G 底面上21.0cm	①白色灰物・雲母 を含む。②良好。 ③にぶい黄橙10YR 7/3	口縁部に向けて大きく外反する。 口縁部には丸みをもち、横方向 に磨き、他は縦方向に同様な 整形を行う。	頸部は右廻りの2連止磨状文 が施文されている。	
648 119	弥生土器 壺	口縁部一頸部 2/3残存 口 14.5cm 頸 (7.8cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色夾雑物を 含む。②良好。 ③黄灰2.5Y6/1	口縁部は大きく外反する。内外 面とも横方向の磨きによる整 形を行っている。	口縁部には横文、頸部には 太い沈線による横線文を施文 している。	
391	弥生土器 壺	口縁部一頸部 破片 頸 (12.0cm)	2C-63G 底面上34.0cm	①白色灰物粒を多 量に含む。②良好。 ③灰黄橙10YR6/2	口縁部は大きく外反する。磨状 工具により器面調整後、外面は 縦方向に磨きを行う。	右廻りの2連止磨状文が施文 されている。	
497 119	弥生土器 壺	口縁部付近一 頸部破片 頸 (11.5cm)	第Ⅱ河道	①白色灰物を多量 に含む。②やや黄 い。③にぶい黄橙 10YR5/4	口縁部は大きく外反する。内外 面とも、一部器面整形を確認す ることができる。	頸部には2連止磨状文が施文 されている。	内面は整形。
507 119	弥生土器 壺	頸部一胴部 1/3残存 頸 (8.8cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色灰物 など、粒が大きい のものを含む。 ②良好。③にぶい 黄橙10YR6/3	縁なつくりである。器面調整は 磨削りを縦方向に行っている。		
496 119	弥生土器 壺	口縁部付近一 頸部1/4残存 頸 10.0cm	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色灰物・雲母 を含む②良好③に ぶい黄橙10YR7/3	口縁部に向けて外反する。頸部 上位は斜、肩部は縦方向に器面 整形を行っている。	頸部は8条1単位の右廻り等 間隔止磨状文、肩部は磨削波 状文を2段施文。	
370 119	弥生土器 壺	頸部一胴下半 部1/3残存 頸 9.4cm 胴 (25.0cm)	2C-63G 底面上15.0cm	①白色夾雑物を 含む。②良好。 ③灰白5Y7/1	胴最大幅部はそろばん玉状を呈 す。外面は磨状工具による調整 後、磨きが行われている。	頸部に9条1単位の磨状工具 による右廻り等間隔止磨状文、 接着で下位に同単位の波状文 を施文している。	

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 10・11 図246・247

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
394 119	弥生土器 壺	頸部-胴部 1/4残存 頸 (15.0cm) 胴 (40.1cm)	2D-64G 底面上70.0cm	①白色灰物粒を含む砂質土。②やや軽い。 ③明褐色7.5YR5/6	胴部は丸みをもち、頸部から口縁部にかけて、大きく外反する。外面は縦方向に器面調整を行っている。全体に荒れている。	頸部は右廻りの櫛状文、肩部は4段の帯縁波状文が施文されている。	
492	弥生土器 壺	頸部-胴部 1/4残存 頸 12.4cm 胴 (40.0cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①夾雑物粒を含む。 ②良好。 ③淡赤褐色2.5YR7/3	胴部は丸身をもつ。頸部は暗まり、口縁部に向かいわずかに開きはじめている。内外面ともわずかに器面調整痕が残る。胴中位には線彫。胴上位の三角形文様部分は線彫はない。	9条1単位位の2連止櫛状文が右廻りに施文。肩部はボタン状貼付文を沈着で結び、櫛状文との間を3段の帯縁波状文で充填。胴上位は円形刺突文により三角形の文様を施文している。	
505	弥生土器 壺	口縁部-胴部 1/4残存 口 (17.6cm) 胴 (14.6cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色灰物粒を含む。②良好。 ③黒5YR1.7/1	口縁部は外反し、肩部でわずかに受口状を呈す。外面口縁から頸部にかけては櫛状工具により縦方向、内面は磨きかけ横方向に行われている。	7条1単位位の櫛状工具により、頸部は等間隔止右廻り櫛状文、口縁部と肩部は波状文が施文されている。	外面には煤が付着。
498	弥生土器 壺	肩部-胴部 破片 頸 (11.2cm) 胴 (14.4cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①雲母・白色の夾雑物粒を含む。 ②良好。③にぶい黄褐色10YR6/3	頸部はくびれ、胴部は丸みをもつ。外面は刷毛目調整、内面は磨きかけられている。	6条1単位位の2連止櫛状文を右廻りに施文後、帯縁波状文が直下に施文されている。	
367 119	弥生土器 壺	頸部-胴部 1/2残存 頸 (10.8cm) 胴 22.8cm	2C-63G 底面上17.0cm	①白色灰物を含んだ砂質土。②良好。 ③にぶい褐色7.5YR5/4	胴上位に最大幅をもち、丸い。頸部は棒より、口縁部に向かい開く。内外面とも刷毛目調整痕が残る。外面はその後、磨きかけを上下に行っている。胴部より上位は調整段階の刷毛目が残る。	頸部には9条1単位位の等間隔止櫛状文が右廻りに施文。直下の肩部に括弧して、2-3段分の帯縁波状文が施文されている。磨きかけ後に行われている。	胴最大幅部分に4cm幅で煤が付着。
363	弥生土器 壺	口縁部欠損 頸 10.4cm 底 (7.2cm) 胴 18.4cm	2D-63G 底面直上	①白色の夾雑物粒を含む。②良好。 ③にぶい褐色7.5YR6/4	胴上位に最大径があり、丸みをもつ。外面は刷毛目調整、内面は刷毛目状の整形痕が残る。	頸部は9条1単位位の等間隔止櫛状文が右廻りに施文。直下の肩部に帯縁波状文を施文。	
373	弥生土器 壺	口縁部-胴部 1/6残存 口 (15.4cm) 胴 (11.6cm)	2C-64G 底面上80.0cm	①夾雑物・雲母を含む。②良好。 ③にぶい褐色7.5YR5/3	口縁部は外反し、肩部はわずかに受口状を呈す。内外面とも横方向の調整を行っている。	口縁部は刷毛目、肩部は右廻り2段の等間隔文、口縁と肩部に帯縁波状文、肩部から胴部は刷毛目状文を施文。	
368	弥生土器 壺	口縁部-胴部 2/3残存 口 16.7cm 口 13.6cm 胴 20.8cm	2C-63G 底面上23.0cm	①白色灰物・雲母を含む。②良好。 ③黒褐色7.5YR3/1	胴部は丸みをもち、口縁部は外反する。内外面とも櫛状工具と思われる器面整形痕を残す。	櫛状工具により頸部に2連止右廻り櫛状文、口縁に1段、肩部に2段の波状文を施文。	外面に煤が付着。
387	弥生土器 壺	頸部-胴部 上1/4残存 頸 (13.2cm) 胴 (24.0cm)	2C-63G 底面上16.0cm	①白色の夾雑物粒を含む。②良好。 ③明褐色5YR7/2	胴は丸みをもつ。器面が荒れている。内外面の一部と内面には刷毛目状の整形痕が残る。	頸部は右廻りの櫛状文、肩部から胴部にかけては帯縁波状文を数段施文している。	
506	弥生土器 壺	頸部-胴部 破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①細砂粒子・雲母を含む。②良好。 ③灰白2.5Y7/1	胴部から頸部にかけての破片であり、内外面とも横方向の器面整形。整形道具は幅約2cm。	頸部は右廻りの櫛状文、肩部は4段の帯縁波状文を施文後、円形刺突文をもつボタン状貼付文が直下或は文上に施文。	

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 11 図247

番号 PL	器 種	残 存 状 態	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
396	弥生土器 甕	胴部上半部 1/2残存 口 13.9cm 頸 12.2cm 胴 15.4cm	2C-64G 底面上53.0cm	①白色夾雑雑物を 含む。②良好。 ③黒褐色10YR3/1	口縁端部がわずかに直立する。 内外面とも口縁部は横方向の撫で、 外面胴部は斜方向の刷毛目 整形。	8条1単位の櫛状工具により 頸部は右廻りの櫛状文を2段 施した後、胴部に2段の波状文。	外面に煤が 付着。
501	弥生土器 甕	口縁部-頸部 2/3残存 口 12.5cm 頸 9.6cm	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒子・夾雑 雑物を含む。② 良好。 ③灰白2.5Y7/1	口縁部は外反する。外面は斜方 向に刷毛目状整形痕の上に施文。 内面は横方向に磨き痕が残る。	口縁部には6条1単位の櫛状 波状文を4段、頸部に右廻り の2連2櫛状文を施文。	
500	弥生土器 甕	口縁部-頸部 破片 口 17.0cm 頸 14.2cm	第Ⅱ河道 埋没土中	①夾雑雑物を含む。 ②良好。 ③褐色5YR4/1	口縁部は外反する。外面には幅 1.2cmの刷毛目状工具痕が残る。 内面は横方向の整形。		
378	弥生土器 甕	口縁部-底部 3/4残存 口 12.0cm 底 6.5cm 高 13.2cm	2C-64G 底面上63.0cm	①小礫・白色夾雑 雑物を混入する。 ②良好。③にぶい 橙10YR7/2	口縁端部はわずかに内湾する。 外面胴下半部には整形痕が残る。 胴中位は刷毛目、下半部は磨 き、内面は横・斜方向に磨き 痕が残る。	櫛状波状文が口縁部から胴 部まで施文されている。 櫛状波状文は5段分である。	
451	弥生土器 甕	底部付近の破 片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫を含む。 ②良好。 ③橙7.5YR7/6	底部と胴部の接合部分には外面 では押押え、摺押さえ。内面は横 方向に摺押さえ痕がある。	底面には横・溝の圧痕が 残る。	
385	弥生土器 甕	口縁部の一部 と底部欠損 口 12.7cm 底 (6.0cm) 高 14.9cm 頸 10.2cm 胴 11.7cm	2C-64G 底面上53.0cm	①白色夾雑雑物を 含む。②良好。 ③褐色10YR4/1	胴中に張りもち、口縁部は 外反する。内外面とも口縁部は 横撫で、胴部外面は縦、内面は 横方向に刷毛目整形痕を残す。		
374	弥生土器 甕	胴部-底部 3/4残存 胴 (20.8cm) 底 8.0cm	2C-64G 底面上57.0cm	①白色底物・小礫 を含む。②良好。 ③明黄褐色10YR7/6	胴部は丸みをもち、内外面とも 刷毛目状の整形痕が明確に残る。		
372	弥生土器 甕or甕	胴下半部-底 部1/3残存 底 10.3cm	2C-63G 底面上16.0cm	①白色夾雑雑物を 含む。②良好。 ③にぶい黄褐色10YR 7/2	胴部に向かい、大きく開く。内 外面とも櫛状工具による器面調 整後、磨きを行っている。		
547	弥生土器 甕	底部残存 底 5.2cm 孔 2.0cm	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色夾雑雑物を 含む。②良好。 ③黄灰2.5Y4/1	底部付近のみ残存する。胴部と の境は推おさえ、内面は横方向 に磨きが行なわれている。		
549	弥生土器 甕or甕	底部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫を含む。 ②破い。 ③灰黄褐色10YR6/2	櫛状工具痕が外面に残る。	底面には木葉痕が残る。	
550	弥生土器 甕or甕	底部残存 底 9.3cm	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色底物粒・砂 質土を含む。② 良好。 ③明褐色5YR7/2	大型の甕小、甕の底部である。 外面は櫛状工具で底部接合部分 を成形。底部外面には12円形の 石か、先の丸い圧痕が残る。		

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 11・12 06247・248

番号 凡	器 種	残 存 法 量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
541	弥生土器 甕?	底部2/3残存	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物・小礫 を含む。②良好。 ③灰黒7.5YR4/2	外面底部は墓状圧痕が残る。内 面は磨き面が残る。		底部に煤が 付着。
647	弥生土器 甕	口縁部一部 1/3残存 口 (11.0cm) 頸 (10.3cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③黒黒7.5YR3/2	口縁部はわずかに外反。胴部平 部分は縄文を施した後、縦方向に 磨き。内面は横方向の磨き。	口縁部と頸部は縄文O段多 条L R、胴部最大幅部分は付 加状L Rを施文。	
375	弥生土器 甕	胴部一部 1/4残存 頸 (22.3cm) 胴 (30.2cm)	2D-63G 底面上15.0cm	①白色鉱物・雲母 を含む。②良好。 ③明灰7.5YR7/2	胴部は丸みをもち、大きく張る。 内外面とも幅1.7cmの櫛状工具 により整形を行っている。	9条1単位の櫛状工具により 頸部に右廻りの等間隔止帯文 を施文、直下に波状文を1 段施文。	胴中央部に 煤が付着。
651	弥生土器 甕	口縁部一部 1/4残存 口 (13.0cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③黒黒7.5YR3/1	胴は丸く張りをもち、口縁部は 外反する。内外面とも櫛状整形 痕を残す。外面胴下部は縦方 向に磨き面を残す。	7条1単位の櫛状工具により 頸部に右廻りの等間隔止帯文 を施文、胴部から胴部 にかけて波状文を施文。	外面に煤の 付着。
649 120	弥生土器 甕	胴下部一部 残存 底 8.0cm	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物・雲母 を含む。②良好。 ③灰5Y4/1	内面は荒れており、一部横方向 の器面調整痕が残る。外面は縦 方向に磨きかけられている。	胴部に刻み目が一廻し、その 上位に波状文の一部が施文さ れている。	
364 120	弥生土器 甕	胴下部一部 残存 底 7.2cm	2D-64G 底面上27.0cm	①白色粒子・雲母 を含む。②良好。 ③にぶい黄橙10YR 7/2	胴下部は胴部に向かいわずか な丸みをもち、立ち上がる。外 面は縦方向に刷毛目・磨き、 内面は横方向の整形痕が残る。		
376 120	弥生土器 甕	胴下部一部 残存 底 8.0cm	2D-64G 底面上57.0cm	①白色鉱物・雲母 を含む。②良好。 ③灰白2.5YR/2	器面は二次的な火を受け、一部 が荒れている。外面は縦、内面 は横方向の整形痕が残る。	内面に灰白色 の有機物が 付着。	
515 120	弥生土器 手捏	完形 口 2.7-3.2cm 底 2.7-2.9cm 高 1.9cm	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒子を含む。 ②良好。 ③灰黒7.5YR5/2	小形の手捏土器で、深さ約6mm である。内面は横撫で、外面は 指頭、又は棒状工具による押さ え痕が残る。		
390 120	弥生土器 ミニチュ ア	完形 口 6.2cm 底 3.8cm 高 4.0cm	2C-63G 底面上32.0cm	①白色鉱物・雲母 含む。②良好。 ③灰黒7.5YR6/2	手捏による作成後、器面調整 を行っているため歪みがある。撫 で、押さえによる整形痕が残る。		
381 120	弥生土器 鉢	口縁部一部 1/2残存 口 13.8cm 底 (3.8cm) 高 7.8cm	2D-64G 底面上54.0cm	①白色鉱物・砂粒 が混入。②良好。 ③赤10R4/8	器面は部分的に荒れている。内 外面とも磨きを主に整形。		
650 120	弥生土器 鉢	口縁部一部 1/5残存 口 (18.3cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色・夾雑物 を含む。②良好。 ③赤10R5/6	器面はわずかに荒れる。内外面 とも横撫で、外面下部は尾調整。		内外面塗色。
362 120	弥生土器 鉢	口縁部一部 1/2残存 口 (17.3cm) 底 6.0cm 高 13.2cm	2D-64G 底面上30.0cm	①白色・夾雑物 を含む。②良好。 ③黄赤2.5YR/3	底部からはほぼ直線的に口縁まで 開き、口縁部は丸い。外面口 縁は横撫で、能は木口状工具等 による調整痕が残る。		

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 12 図248

番号 No.	器 種	残 存 方 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
377 120	弥生土器 高坏	完形 口 13.2cm 底 9.3cm 高 14.2cm	2C-64G 底面上56.0cm	①夾雑鉱物・雲母を含む。②良好。 ③淡褐色YR8/3	脚部・坏部ともに直線的に開く。脚端部は平たい。坏内外面と脚内面は髷目状の調整痕。坏下半部と脚部外面は縦方向の磨きが行われている。		坏内部は塗彩。
504 120	弥生土器 高坏	坏部1/2残存 口 (18.0cm)	第Ⅱ河道 埋設土中	①白色・夾雑鉱物を含む。②良好。 ③赤10R5/6	口縁部付近で僅かに内湾する。器面は内外面とも寬れ、整形痕が僅かに残る。	口縁部に帯指波状文が施文されている。	
510 120	弥生土器 小形合付 甕	口縁部一側下 半部1/4残存 口 (12.3cm)	第Ⅱ河道 埋設土中	①白色鉱物・砂粒子を含む。②良好。 ③赤10R5/8	口縁部は大きく外反する。口縁端部は割れ目をもつ。器面は寬れており、口縁縁部で整形痕のみ確認できる。		内外面塗彩。
503 120	弥生土器 高坏	脚部1/3残存 底 15.4cm	第Ⅱ河道 埋設土中	①白色鉱物・雲母を含む。②良好。 ③灰赤10R6/2	脚底部は平たい。外面は縦、内面は横方向に髷目調整痕、外面脚部上位は磨き痕を行っている。		脚内面以外塗彩。
406 120	弥生土器 高坏	口縁部一脚部 上位1/3残存 口 (13.3cm)	2D-64G 12層	①白色鉱物を含む。②良好。 ③赤褐10R4/4	坏部は大きく開き、口縁付近で僅かに立つ。内面下半部は塗彩が割られている。内面と外面口縁部は横、外面下部は縦方向に磨き痕が残る。		内面下半部は火を受けて黒色化している。内外面塗彩。
511 120	弥生土器 高坏	坏部1/2残存 口 (10.2cm)	第Ⅱ河道 埋設土中	①白色鉱物粒・雲母を含む。②良好。 ③赤褐10R4/4	坏部は直線的に口縁まで開く。内外面とも磨き痕が残る。		内外面塗彩。
401 120	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (12.2cm)	2D-64G 底面上27.0cm	①小礫・白色鉱物を含む。②良好。 ③赤10R5/6	口縁部は大きく外反する。内外面とも横方向の器面調整を行い、光沢をもつ。	口縁端部には割れ目を入れる。	内外面塗彩。外面に帯が付着。
386 120	弥生土器 ミニチュ ア高坏	完形 口 3.6cm 底 4.0cm 高 5.0cm	2C-64G 底面上50.0cm	①白色鉱物粒・夾雑鉱物を含む。②良好。 ③灰黄2.5Y7/2	手捏土器である。脚部は一部整形を行っている。脚端部は平たい。		
385 120	弥生土器 高坏	脚部残存 短部1/2欠損 底 7.5cm	2D-63G 底面上18.0cm	①白色鉱物を含む砂質土②良好③赤褐10YR5/4	高坏脚部の可能性があるが、脚内面は僅かに凹める手法である。内面は整形を行っている。		外面塗彩。
384 120	弥生土器 高坏	脚部残存 短部欠損	2D-63G 底面上9.0cm	①白色鉱物・雲母を含む②良好③赤い赤橙10R5/4	外面は縦方向を主に整形、脚内面は横方向に髷目が残る。坏内面は塗彩が割れる。		脚内面以外塗彩。
512 120	弥生土器 高坏	脚部2/3残存 底 (8.2cm)	第Ⅱ河道 埋設土中	①白色粒を含む細砂粒土②良好③赤い赤橙10YR5/4	器面は磨耗を受けている。外面は縦方向の磨き、内面は横縁部で。		脚内面以外塗彩。
392 120	弥生土器 高坏	脚部上位一坏 下半部残存	2D-64G 底面上4.0cm	①夾雑鉱物を含む砂質土。②良好。 ③赤7.5R4/6	脚部はやや棒状を呈し、裾で広がりをもち、坏内面と脚内面には棒状工具で整形、外面は磨き整形を行っている。		脚内面以外塗彩。

2号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 12 図218

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形・装 形 の 特 徴	文 様	備 考	
514 120	弥生土器 ミニチュ ア高杯	脚部一坏下半 部残存 底 4.0cm	第Ⅱ河道 埋没土中		①夾雑雑物を含む 砂粒土。②良好。 ③にぶい楕7.5YR7 /3	脚部は短く、腹に向かいわずかに広がる。坏内面は横溝で、脚部外面は磨き方が縦方向に行われている。		脚内面以外は薄く塗彩。
408	弥生土器 高杯	坏部下位一脚 部2/3残存 底 9.4cm	2C-62G Ⅱ層		①白色底物粒を含む 砂粒土。②緩い。 ③にぶい楕5YR7/4	脚部は平たい。内外面とも器面は荒れている。接合部付近に縦方向の磨き痕が残る。		
389	弥生土器 高杯	脚部残存 底 9.0cm	2D-63G 底面直上		①夾雑雑物を含む 細砂粒土。②良好。 ③灰白5YR8/2	脚部は平たい。端部付近は横方向の磨きが行われている。		
382	弥生土器 高杯	脚部3/4残存 底 (8.8cm)	2D-63G 底面上9.0cm		①白色底物が混入 する砂質土。②良好。 ③赤10R4/6	脚部は縦でわずかに開き、端部は平たい。脚外面は縦方向に磨き、内面は横溝で整形。		
388	弥生土器 高杯	脚部残存 底 8.6cm	2C-64G 底面上12.0cm		①夾雑雑物・小礫 が混入②良好③に ぶい楕7.5YR6/4	外面は縦方向、内面は明瞭な飾状工具による器面調整痕を残す。		脚部の一部にも塗彩。
380	弥生土器 高杯	坏部3/4残存 口 10.0cm	2C-64G 底面上15.0cm		①白色底物・砂粒 子を含む②緩い。 ③にぶい黄緑10YR 7/2	坏部である。内面の調整が横方向の磨きである。外面は横溝で、磨き痕を残す。		
513	弥生土器 高杯	脚部残存 坏部欠損	第Ⅱ河道 埋没土中		①白色底物を含む。 ②良好。 ③赤7.5R4/6	接合部付近に突帯がある。脚外面は縦方向の磨き面を有す。		外面と坏内面に塗彩が付着。
652	弥生土器 台付鉢	完形 口 13.2cm 底 6.8cm 高 11.0cm	第Ⅱ河道 埋没土中		①白色・夾雑雑物 を含む。②良好。 ③にぶい楕5YR7/3	脚部は大きく縮みろがりを呈す。内外面とも細かく磨き痕が残る。杯部は直線的に外反する。		
369	弥生土器 台付鉢	胴部一底部 底 8.0cm	2D-64G 底面上70.0cm		①白色底物・小礫 を含む。②良好。 ③明黄緑10YR6/6	脚部は厚い。鉢外面は縦、脚部と鉢内面は横方向に磨きが行われている。底部は荒れている。		鉢外面に塗彩が付着。

2号河川跡出土遺物観察表(石器) 図249

番号 PL	器 種	大きさ・重 量	出土位置	石 質	形 状・調 整 加 工 の 特 徴	備 考
260 121	石鎌	長 2.2cm 幅 1.2cm 厚 0.4cm 重 1.0g	2C-63G 底上62.0cm	珧質頁岩	剥片を素材とし、周辺部に浅い調整斜線を施し、左側縁部を横磨している。	先端部一部欠損。
297 121	磨製石鏃	長 3.0cm 幅 1.5cm 厚 0.2cm 重 1.4g	2B-64G 埋没土上層	珧質頁岩	扁平な小剥片を素材として、横磨している。尖頭部が丸く、左右非対称であり、未完成と考えられる。	
302 121	磨製石鏃	長 3.5cm 幅 1.6cm 厚 0.3cm 重 2.1g	2C-63G 底上44.0cm	珧質頁岩	扁平で薄い。全体を良く横磨しているが、上部と左側部に一部調整斜線を残す。	右側1/3欠損
325 121	剥片	長 1.5cm 幅 3.6cm 厚 0.5cm 重 1.8g	第Ⅱ河道 埋没土中	準頁岩	玉頸製作時の調整剥片である。	石材は滑石質。

2号河川跡出土遺物観察表(石器) 図249・250

番号 札	器 種	大きさ・重量	出土位置	石 質	形状・調整加工の特徴	備 考
328 121	剥片	長 1.8cm 幅 1.6cm 厚 0.9cm 重 4.5g	埋設土中	準片岩	右側縁を部分的に研削している。上下両端は節理面で割かれる。	滑石質。
323 121	剥片	長 7.1cm 幅 2.7cm 厚 0.9cm 重 18.5g	第Ⅱ河道 埋設土中	黒色頁岩	風化が激しく、表面観察が困難であるが、形の整った縦長剥片であるので、使用した可能性はある。	風化が顕著。
309 121	剥片	長 5.4cm 幅 2.0cm 厚 1.7cm 重 28.0g	第Ⅱ河道 埋設土中	珪質頁岩	自然面の左側面に研削痕が認められる。砥石もしくは玉の素材と思われる。下縁は折り取った痕跡がある。	暗緑色を呈する。
307 121	磨石	長 6.0cm 幅 2.4cm 厚 0.9cm 重 12.7g	第Ⅱ河道 埋設土中	頁岩	表面側に磨面を残す。磨石から使用中に割れたものと思われる。	部分剥片。
329 121	剥片	長 3.9cm 幅 2.7cm 厚 0.6cm 重 12.1g	2C-64G 12層	準片岩	節理面や石の目に沿って板状に割がしたもので、磨製石礫の素材と思われる。	石質は滑石質。
321 121	石製円板	長 4.5cm 幅 4.0cm 厚 1.4cm 重 8.7g	第Ⅱ河道 埋設土中	頁岩	板状剥片の周辺部を若干調整して、円形に仕上げたものである。磨製石礫の素材の可能性はある。	完形。薄く板状に割れる石材を使用。
319 121	錐形石器	長 5.7cm 幅 7.1cm 厚 1.8cm 重 71.1g	第Ⅱ河道 埋設土中	頁岩	横長剥片の側縁部に、尖頭部を作出している。右側縁の調整加工は微細であり、やや不規則である。	
294 121	錐形石器	長 3.8cm 幅 4.7cm 厚 1.8cm 重 20.9g	第Ⅱ河道 埋設土中	砂石	先端中央部に幅広い鈍い尖頭部を作出している。そのための調整加工は無い。	
324 121	錐形石器	長 3.5cm 幅 3.7cm 厚 1.5cm 重 17.3g	第Ⅱ河道 埋設土中	頁岩	剥片の下端に尖頭部を作出している。打点部は鈍角の調整によって除去されている。尖頭部は幅広く、使用によるものと思われる。	
305 121	磨石	長 4.9cm 幅 5.2cm 厚 1.8cm 重 78.3g	第Ⅱ河道 埋設土中	頁岩	表面に自然面を大きく残す。裏面周辺に比較的整った調整面が並ぶ。上半部欠損後、割離が施され、引き抜いて使用されている。	
330 121	磨石	長 2.2cm 幅 3.1cm 厚 0.8cm 重 12.9g	2C-64G 12層	緑色片岩	表面側に部分的に砥打痕を残す。両側縁は両面に比べて良く磨かれている。	上下両端欠損。
333 121	砥石	長 4.2cm 幅 3.0cm 厚 0.9cm 重 16.9g	2D-64G 12層	緑色片岩	左側縁に磨り面を有する。きめは細かい。	下部欠損。
288 122	UF	長 5.0cm 幅 6.1cm 厚 1.7cm 重 36.3g	2C-63G 底上45.0cm	黒色頁岩	下縁に、微細で不規則な割離痕を有する。打面は自然面である。	
291 122	UF	長 3.1cm 幅 1.1cm 厚 6.4cm 重 14.5g	2C-64G 底上7.0cm	黒色頁岩	横長剥片の縁辺部を使用している。左側には数個の割離面がある。	
293 122	UF	長 5.2cm 幅 3.9cm 厚 1.2cm 重 21.7g	2C-64G 底上54.0cm	黒色頁岩	縦長剥片の両側縁を使用している。打面は割離面である。	下縁は折れている。
304 122	UF	長 5.4cm 幅 7.9cm 厚 1.7cm 重 65.7g	第Ⅱ河道 埋設土中	珪質頁岩	横長剥片の下縁を刃部として使用しており、不規則な割離痕が並ぶ。	
271 122	UF	長 7.2cm 幅 6.9cm 厚 1.7cm 重 100.4g	2D-63G 底上28.0cm	頁岩	下縁に帯状に自然面を残す。裏面左側の一部に割離が施されている。刃縁は比較的鋭い。打面は割離面である。	
306 122	RF	長 4.2cm 幅 4.7cm 厚 1.1cm 重 23.6g	第Ⅱ河道 埋設土中	頁岩	縁辺部に、比較的同じくらい大きさの小割離が並ぶ。打面は自然面である。	

2号河川跡出土遺物観察表(石器) 図250-252

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
322 122	R F	長 4.9cm 幅 6.2cm 厚 1.5cm 重 36.0g	第Ⅱ河道 埋没土中	頁岩	横長切片であり、左肩と右肩に部分的に自然面を残す。右肩の自然面をはきんで、両側を調整している。	
320 122	R F	長 6.7cm 幅 5.8cm 厚 1.6cm 重 51.8g	第Ⅱ河道 埋没土中	頁岩	楔形を呈する切片の周辺部に、小刻離が施されている。打面は剥離面である。	右下端は折れている。
292 122	R F	長 4.7cm 幅 6.1cm 厚 1.6cm 重 48.7g	2C-64G 底上63.0cm	黒色頁岩	右上周縁部は、鈍く敲き潰している感じであり、左下周縁部は鋭く、細かい刻離も認められ、使用したことがわかる。	
300 122	R F	長 2.7cm 幅 2.7cm 厚 0.6cm 重 4.9g	2C-63G 底上97.0cm	黒曜石	縦長切片の両側縁に、微細な刻離が認められる。打面は自然面である。	
303 127	R F	長 6.2cm 幅 4.2cm 厚 1.9cm 重 50.1g	第Ⅱ河道 埋没土中	頁岩	裏面同右下半部に調整刻離が認められる。その他の両側縁には使用痕が残る。	下端欠損。
312 122	R F	長 6.5cm 幅 7.5cm 厚 2.7cm 重 167.5g	第Ⅱ河道 埋没土中	砂岩	両側縁から上縁にかけて、鋭い角度の調整刻離が施される。表面は自然面を大きく残す。上端からの刻離が一番新しく、本末は鐘状に尖頭部が突出していたものかもしれない。	
266 122	打製石斧	長 8.0cm 幅 4.0cm 厚 1.2cm 重 50.0g	2D-64G 底上17.0cm	細粒安山岩 (色調は黒色)	薄手のつくりである。素材は横長切片とし、両側縁を潰し、短冊形に仕上げられている。	刃部欠損。全体に煤が付着 暗褐色を呈す。
326 122	打製石斧	長 10.5cm 幅 6.7cm 厚 3.4cm 重 212.9g	K-28G 埋没土中	かんらん岩	両側分銅形であり、両側縁の持ち込みもほぼ対称的である。	金面が煤化に 風化している。
296 122	打製石斧	長 9.7cm 幅 6.5cm 厚 1.8cm 重 126.1g	第Ⅱ河道 埋没土中	頁岩	分銅形を呈するが、両面ではない。刃縁は直線的となっているが、使用によって若干内湾きみとなっている。両側縁の持ち込みも対称的となっている。	
284 123	砥石	長 12.0cm 幅 2.8cm 厚 2.2cm 重 81.8g	2C-63G 底上12.0cm	細粒安山岩	側面は剥離面である。表裏両面を砥石として使用している。使用面は鋭い凹面をもつ。対象は石器ではないと思われる。	
318 123	砥石	長 8.3cm 幅 4.2cm 厚 1.2cm 重 65.4g	第Ⅱ河道 埋没土中	砂岩	鋭い研磨痕を残すが、研磨方向を示す線状痕は不明瞭である。両側縁は打ち欠きにより整形している。	
331 123	砥石	長 4.0cm 幅 6.8cm 厚 1.8cm 重 74.0g	2D-64G 12層	砂岩	両側縁及び上端部には敲打痕が残る。欠損後も使用されているものと思われる。表裏両面には擦痕だけでなく、敲打痕も認められる。	上半部欠損。
311 123	砥石	長 5.4cm 幅 4.2cm 厚 2.0cm 重 58.9g	第Ⅱ河道 埋没土中	砂岩	上端は敲石として、裏面は砥石として使用されている。	下半部欠損。 全体に煤が付着し 黒変する。
295 123	砥石	長 21.3cm 幅 10.4cm 厚 6.8cm 重280.0g	第Ⅱ河道 埋没土中	石英閃緑岩	表裏両面及び側面に線状痕が認められる。右側面上部に幅1mm程度の鋭い鋸状の傷が残る。使い部分も削られているので、金属を研いでいるものと思われる。	
272 124	石核	長 7.8cm 幅 10.0cm 厚 3.2cm 重 265.2g	2D-64G 底上32.0cm	砂質頁岩	切片を素材とする石核であり、裏面は自然面を大きく残す。石材は煤が不規則に入り込む粗いものであり、あまり良好ではない。	
270 124	石核?	長 6.2cm 幅 6.4cm 厚 2.8cm 重 127.7g	2C-63G 底上42.0cm	塊質頁岩	上部に自然面を残す。主に縁辺部に新しい剥離痕が認められる。左縁は鋭い縁辺を有する。	下半部欠損。
332 124	石核?	長 6.4cm 幅 8.2cm 厚 3.1cm 重 155.6g	2D-64G 12層	塊質頁岩	切片を素材とし、側面に剥離痕が認められる。切片の打面には帯状に自然面を残す。石核としての打面は剥離面を用いる。	煤が付着する。

2号河川跡出土遺物観察表(石器) 図252~254

番号 Pl.	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
334 124	石槌	長 9.0cm 幅 12.7cm 厚 5.8cm 重 682.8g	第Ⅱ河道 埋没土中	黒色頁岩	表裏両面に自然面を残す。横長割片を目的として、刺刺作業を行っている。作業面は上端から両側縁であり、下端からの刺刺はない。	全体にローリングを受け、光沢をもつ。
286 124	石槌?	長 4.0cm 幅 6.4cm 厚 2.1cm 重 46.8g	第Ⅱ河道 埋没土中	頁岩	上半部は節理面で欠損しているが、欠損後にも上端からの調整が認められる。縦断面をみると、下縁は鋭い刃角をもつことがわかる。	
290 124	石槌	長 7.0cm 幅 9.4cm 厚 5.3cm 重 321.5g	2D-64G 底面直上	黒色頁岩	表面右下部に自然面を残す。裏面には大きく第一次刺刺面を残す。素材となる割片を刺刺した際に、二つに欠けた面を作業面として、数枚の小形横長割片を作出している。	
313 123	磨石?	長 6.7cm 幅 5.6cm 厚 1.4cm 重 82.6g	第Ⅱ河道 埋没土中	粗粒安山岩	硬い粒子が削られていないし、縁状も不明瞭であるが、若干光沢をもつ。あまり硬くないものと思ったと思われる。	表面風化剥剝。
317 123	磨石	長 8.1cm 幅 4.8cm 厚 1.9cm 重 122.7g	第Ⅱ河道 埋没土中	粗粒安山岩	表面は削い磨面であり、光沢はない。裏面は良く磨かれており、やや光沢をもつ。両側縁に敲打痕はない。	
267 123	磨石	長 7.4cm 幅 4.3cm 厚 6.7cm 重 270.9g	2C-63G 底上57.0cm	粗粒安山岩	自然面の一部を磨いているものであり、正面に残るものは強く光沢をもち、右側面のは弱く、光沢はない。	部分的に煤が付着。裏面と上下両端欠損。
327 123	磨石	長 6.9cm 幅 5.7cm 厚 2.5cm 重 171.7g	第Ⅱ河道 埋没土中	粗粒安山岩	表裏両面は磨面が明瞭に付き、やや光沢をもつ。裏面の縁状痕は特にはっきりとしている。	側面から裏面は黒変し、やや光沢をもつ。
310 123	敲石	長 6.1cm 幅 2.7cm 厚 1.4cm 重 33.4g	第Ⅱ河道 埋没土中	雲母石英片岩	両側縁に敲打痕を残す。側面の刺刺は敲打の際にできたものである。	下半部欠損。
274 123	敲石	長 10.1cm 幅 5.4cm 厚 2.1cm 重 163.0g	2C-63G 底上55.0cm	黒色片岩	左側縁は下端に、右側縁は上部に打撃を加えた際にできた刺刺痕を有する。	下半部欠損。
262 123	敲石	長 5.9cm 幅 5.2cm 厚 1.9cm 重 102.2g	2C-63G 底上92.0cm	雲母石英片岩	左側縁から上端にかけて敲打痕が残る。表裏両面ともに滑らかであり、敲石もしくは磨石として使用された可能性がある。	下半部欠損。
261 125	磨石	長 11.0cm 幅 9.1cm 厚 6.7cm 重1042.2g	2C-63G 底上84.0cm	粗粒安山岩	右側面及び下面は非常に良く磨かれていて、両者の境は様をなす。それに比べると表裏両面は粗面であり、敲打痕を残す。	
263 125	磨石	長 12.0cm 幅 6.9cm 厚 6.5cm 重 657.5g	2C-64G 底上71.0cm	粗粒安山岩	かなり明確な縁状痕が付く。裏面は平坦で、表面が山形に盛り上がる。上部両側縁、右側面を調整し、使用している。	左半部欠損。
273 125	磨石	長 8.2cm 幅 6.4cm 厚 5.8cm 重 355.0g	2C-63G 底上57.0cm	花崗岩	自然面の凹面を利用して、磨石として使用している。	割裂が顕著。
289 125	敲石?	長 13.1cm 幅 8.3cm 厚 2.0cm 重 252.7g	2C-64G 底上4.0cm	粗粒安山岩	偏平角縁の下縁部に刺刺痕が施される。全体がローリングを受け、磨滅しており、縁状痕は不明である。	全面磨滅。
277 125	砥石敲石	長 7.4cm 幅 6.8cm 厚 3.5cm 重 281.9g	2D-64G 底面直上	粗粒安山岩	多面により構成され、面の境界は明瞭である。面は比較的平坦であるが、鋭いカーブを有する。両側縁及び表面・上面に敲打痕を残す。	一部に煤が付着。
278 123	磨石敲石	長 7.7cm 幅 4.8cm 厚 1.7cm 重 105.1g	2D-64G 底上3.0cm	凝灰岩質砂岩	表裏両面は磨石として、両側縁は敲石として使用されている。硬質の粒子が削られていないので、比較的軟質のものと思ったと思われる。	
282 125	磨石敲石	長 10.6cm 幅 4.7cm 厚 3.7cm 重 279.5g	2C-63G 底上23.0cm	ひん岩	上部及び左側縁の一部に敲打痕を残す。表面側には磨面を残す。かなり良く磨かれており、やや光沢をもつ。	

2号河川跡出土遺物観察表(石器) 図254-256

番号 No.	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
316 125	磨石礫石	長 12.5cm 幅 5.5cm 厚 4.3cm 重 441.2g	第Ⅱ河道 埋没土中	石英閃緑岩	硬い部分が削られており、硬質なものを磨ったと思われる。 左側縁下端と上端部に敲打痕を残す。	下半部欠損。
308 125	磨石礫石	長 8.9cm 幅 4.9cm 厚 2.6cm 重 113.5g	第Ⅱ河道 埋没土中	頁岩	下半部は上下両端から最き折っている。表面の自然面には細長い傷が残る。鉄器もしくは石器の刃部を潰したものと思われる。両側面は滑らかであり、磨石として使用された可能性がある。	
314 125	磨石礫石	長 8.5cm 幅 5.0cm 厚 3.0cm 重 209.4g	第Ⅱ河道 埋没土中	粗粒安山岩	表裏両面は良く磨られていて、削り痕をもつ。上端及び右側縁には敲打痕を残す。下半部損後も使用していると思われる。	下半部は打撃により欠損。
288 126	磨石	長 11.9cm 幅 5.6cm 厚 7.1cm 重 611.4g	2D-64G 底上26.0cm	安山岩	表面は非常に滑らかに磨られている。裏面は表皮が剥がれていて、一部に自然面を残す。	上下両端及び両側縁は削がれている。
279 126	敲石	長 8.7cm 幅 7.0cm 厚 5.0cm 重 349.9g	2D-64G 底上37.0cm	粗粒安山岩	敲いた跡に一部欠損している。風化しているため、敲打痕の範囲は不明瞭である。	風化が顕著。
315 126	凹石	長 7.0cm 幅 7.1cm 厚 3.8cm 重 174.0g	第Ⅱ河道 埋没土中	粗粒安山岩	表面の凹みは深く、明瞭であるが、裏面の三つの凹みは浅く形も不明瞭である。裏面中央のものはやや深い。	石材は多孔質。
301 126	凹石	長 9.4cm 幅 6.6cm 厚 6.2cm 重 305.7g	2C-64G 底上90.0cm	粗粒安山岩	断面は三角形を呈する。三面に一つづつ、しっかりした凹みを有する。その凹みは回転によるものと思われる。	正面のみ、鉄分はほとんど付着しない。
264 126	磨石	長 9.7cm 幅 10.4cm 厚 10.2cm 重 1960.8g	2D-64G 底上15.0cm	はんれい岩	平らな面はすべて磨石として使用され、側縁部には敲打痕が明瞭に残る。良く磨られている左側面は部分的に光沢をもつ。	欠損品。割裂面がある。
269 126	磨石礫石	長 10.1cm 幅 7.5cm 厚 4.6cm 重 469.5g	2D-64G 底上17.0cm	溶結凝灰岩	表裏両面の凹みは敲打によるものであるが、裏面の中央は回転による。側面には良く敲打痕が残るが、その上を磨痕(使用痕)が覆う。	
281 127	磨石礫石	長 10.7cm 幅 5.6cm 厚 5.9cm 重 455.3g	2D-64G 底上33.0cm	石英閃緑岩	上下両端及び側縁部に敲打痕が残る。表裏両面及び側面には磨痕が残る。	
276 126	磨石礫石	長 14.1cm 幅 8.2cm 厚 4.2cm 重 687.2g	第Ⅱ河道 埋没土中	細粒安山岩	表裏両面の磨面は凹む。側面の敲打痕は明瞭であるが、右側面は敲打後、磨られている。	下半部欠損。 窪が付着。
275 126	磨石礫石	長 9.7cm 幅 7.4cm 厚 1.9cm 重 247.4g	2D-64G 底上34.0cm	細粒安山岩	表裏両面は非常に滑らかになっている。上下両端及び側縁に敲打痕が残る。	
265 127	磨石凹石	長 7.5cm 幅 8.0cm 厚 4.7cm 重 373.5g	2D-64G 底上14.0cm	粗粒安山岩	裏面中央に敲打による凹みを有する。表裏両面を磨っており強い部分はやや光沢をもつ。	全体に黒化。 下半部欠損。
287 127	磨石礫石	長 13.1cm 幅 10.9cm 厚 8.7cm 重 1474.4g	2C-63G 底面直上	石英閃緑岩	断面は三角形を呈し、左右両側面及び底面に磨面を有する。底面のものは磨面が明瞭に残る。左側面及び後部に敲打痕が残る。	定形。
285 127	磨石礫石	長 9.4cm 幅 8.1cm 厚 4.2cm 重 492.2g	2D-63G 底面直上	粗粒安山岩	表裏両面には磨石として使用した際の磨痕が残るが、裏面が強く、裏側が弱い。ほぼ全周縁に敲打痕が残る。	
283 127	磨石礫石	長 15.9cm 幅 8.9cm 厚 4.1cm 重 699.2g	2C-63G 底上20.5cm	砂岩	スタンプ状を呈し、尖出部三ヶ所とも良く磨かれて、潰れている。表裏両面とも磨れている。	
280 127	磨石礫石	長 12.3cm 幅 8.2cm 厚 3.4cm 重 536.8g	2D-64G 底上12.0cm	粒状岩?	表裏両面ともよく磨られている。特に裏面は長軸に対し、やや斜め横方向に幅2mm前後の磨痕が付く。側面に敲打痕を残す。	

2号河川跡第Ⅰ・Ⅱ河遺出土遺物観察表(木器) 00258-260

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 割 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
1125 J28	棒状木製品	27.2+ ϕ ×1.9×1.0	埋設土中	板目 カヤ	片端部欠損	欠損する端の断面は正円に近く、他端部は扁平状に近い楕円形の断面をもつ。	
1126 J28	杖櫛	6.6+ ϕ ×4.8×1.1	2D-64G 埋設土中	不明 ヒヤキ製	一部欠損	全長は概ね7cm前後と推定される。両切り半月形を呈し、歯間0.4cm、歯厚0.2cmである。	
975 J28	杖	38.9×6.6×5.2	2D-63G 底上4.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	頭部がわずかに割れている。先端部は割られ、細くなっている。	
940 J28	杖?	30.7+ ϕ ×3.2×2.1	2C-63G 底上6.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	一部にあたり痕が残る。	
991 J28	杖櫛	44.7+ ϕ ×5.7×2.3	3C-63G 底上2.0cm	板目 ヌルデ	一刀部残存	両面とも平滑に割られており、上側側部と先端部は薄く割られる。	
960 J28	杖櫛	36.5×9.3×2.8	2D-63G 底上1.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	柄穴付近は厚くなる。両側部と刃部付近は薄く仕上げられている。	
933 J28	杖	31.2×6.8×3.0	2C-63G 底上3.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	一端部は炭化している。端部は丸くつぶれ、表面には割り痕が残る。	
777 J28	板材	26.9+ ϕ ×3.5×1.4	2D-63G 底上2.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	平面にはわずかに削り痕が残る。	
927 J28	容器状木製品 (未製品)	18.6×15.2×5.0 底径 6.0×5.7	2D-63G 底上6.0cm	分割材 (加工) ケヤキ	完形	上面は平滑に削られ、一端部が木取り時の切断部分を残す。底面は円形に近く平滑である。上面から下面にかけては大きく、11筋に渡る割り痕が残る。	
928 J28	容器状木製品 (未製品)	16.2×14.7×4.0 底径 6.5×5.4	2D-63G 底上10.0cm	分割材 (加工) ケヤキ	完形	上面は平滑に削られ、底面は丸く平滑である。上面から下面にかけてはきれいに削られ、八角形を呈している。	
971 J28	容器状木製品 (未製品)	41.0×25.2×9.6	2C-63G 底上3.0cm	板目 ケヤキ	完形	上面は平滑に削られ、底面は楕円形で平滑である。上面から底面にかけては丁寧に削られた割り痕が残る。突起状の柄が一体ある。	
773 J28	容器状木製品	18.5×11.7×5.0	2C-63G 底上32.0cm	板目 ケヤキ	完形	両端部は切断されている。平面及び側面は平滑である。底面は丸く周辺は斜めに細かく削られている。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表(木器) 図260-263

番号 FL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
926 129	容器状木製品 (未製品)	22.8×21.0×7.6 底径 8.4×6.8	2C-63G 底面直上	分割材 (加工) ニレ属	完形	上面は平滑に削られ、削り痕が残る。底面は丸く平滑である。上面から下面にかけては、きれいに削り痕が残る。	
959 129	容器状木製品 (未製品)	27.0×25.2×7.8 底径 9.5×8.2	2C-63G 底上8.0cm	椀目 ケヤキ	完形	上面は隅丸方形、底面は円形に近く、ともに平滑に削られている。上面から下面にかけて丁寧な削り痕が残る。	
929 129	容器状木製品 (未製品)	26.7×17.6×6.2 底径 9.4×8.4	2C-63G 底上10.0cm	分割材 (加工) ケヤキ	完形	上面は平滑に削られ、ほぼ八角形を呈す。底面はほぼ円形に近く平滑に削られている。上面から底面にかけては細かく削り痕が残る。	
333 129	環状木製品	31.8×29.0φのドーナツ形 最大幅約6.0cm、厚さ約2.0cm	2D-63G 底面直上	葦	?	鍋敷状を呈す。葦を20-30本ままとめて輪をつくる。わずかにねじりをかける。全体につぶれている。	
855 129	容器?	30.6+φ×4.3×2.3	2D-63G 底上11.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	一端部欠損	一端部は炭化している。一端部はし字状に高くなっている。表面は平坦に仕上げられている。	
1077 130	容器状木製品	48.8×8.8×4.5	2D-63G 底上38.0cm	分割材 タリ	一部欠損	半截した木材の中心をえぐる。一端部は中を細くえぐり、注口状のものを作出している。この為容器の壁は注口部分が厚くなっている。	
1063 130	容器?	49.0+φ×16.2×5.3	2D-63G 底上12.0cm	椀目 トチノキ	一端部欠損	端部・両側面はわずかに薄くなり角底状を呈す。内面は中央が削られ凹状を呈す。	
932 129	杵?	29.8+φ×6.1×4.6	2C-63G 底上3.0cm	分割材 (加工) コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	一端部が残存	端部は切断部分がわずかに残る。端部中央はつぶれている。分割材の表面は一部が削られている。	
995 130	杵状木製品	48.8+φ×7.0×5.1	埋没土中	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	一端部欠損	端部が薄くなり、握り部分が細くなる。杵の先が細くなっている為杵以外の可能性もある。	
1059 130	弓?	54.0+φ×1.0φ×1.1	2C-64G 底上4.0cm	芯持 イヌガヤ	両端部欠損	表面は削っている。	
825 130	弓	8.6+φ×1.4×0.6	埋没土中	椀目 カヤ	一端部残存	弓弦を削り出している。わずかに湾曲している。	
1086 130	広楕	16.0+φ×15.8+φ×1.3	2D-63G 底上37.0cm	椀目 コナラ属 アカガシ亜属	刃部・着柄部が部分的に欠損	装着部と握身部とははっきり分かれ、装着部分が隆起している。着柄部分は丸く、斜めに筋目が貫通している。刃部は欠けている。	
982 131	着柄杵 (未製品)	96.2×21.9×7.4	2D-63G 底上4.0cm	椀目 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	完形	広口楕の未製品であり、両端部は着柄の装着部になる。表面には工具痕が残る。二分割して使うものと考えられる。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表 (木器) IN263~266

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	未 取 り 費 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
937 130	弓	34.9×1.5×1.3	2C-63G 底上24.0cm	芯持 イヌガヤ	一端部欠損	両側面から二段階に削られている 弓管部分を残す。弓管部分に向か い表面を削り調整している。	
962 131	農具彫削	82.3+ ϵ ×2.8 ϕ ×22.0+ ϵ	2D-64G 底上4.0cm	芯持 クリ	各端部とも 欠損	枝を彫り部とし、幹を分割して平 坦面づくり、装着部とする。	
694 131	棒状木製品	9.5×2.7 ϕ ×2.6	2D-63G 底上24.0cm	分割材 (加工) コナラ属 コナラ亜属 クスノ属	一部欠損	両端部を削り出している。分割材 を丸棒状に加工している。	
979 131	杖	32.2×3.6×2.3	2C-63G 底上35.0cm	分割材 スギ	ほぼ定形	頭部はつぶれ、先端の一部は欠け ている。	
724 131	板(用途不明 木製品)	15.3+ ϵ ×9.8×2.2	2C-63G 底上22.0cm	柾目 カヤ	一部欠損	各辺は切断されており、一部が細 く延びる接点で欠損。切断面には 多くの工具痕が残る。	
935 131	板	24.3×10.9×0.7	2C-63G 底上22.0cm	柾目 スズナ属	一側面が欠 ける。	両面とも平滑に仕上げられている。 一端部は両面から斜めに削られ、 切り落とされる。下端部は一方 向から切られている。	
970 131	板材	57.2+ ϵ ×8.3×2.4	2C-63G 底面直上	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスノ属	一部欠損	両面は平らにつくられている。端 部には切断痕が残る。	
967 131	横板 (未製品)	67.1×18.0×3.8	2C-63G 底上20.0cm	柾目 コナラ属 アキダレ属	定形	平滑な両面である。板穴穿孔の 状態であり、隆起部が作出される。	
961 132	横板 (未製品)	59.0×14.8×2.7	2C-63G 底面直上	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスノ属	定形	表面はすべきれいに仕上げられ ている。	
1073 131	角材	75.0×12.0×8.4	2C-63G 底上3.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノ属	定形	両端部は斜めに切断され、節部が 残る。製品前段階の材料であると 考えられる。	
726 132	用途不明木製 品	15.5×9.1 ϕ ×7.5	2C-64G 底面直上	分割材 (加工) ケヤキ	定形	両端部をきれいに切断している。 表面は幅約2cmの工具できれいに 削り出している。	
945 132	柄?	79.4+ ϵ ×4.0 ϕ 80.4×3.0 ϕ	2C-64G 底上41.0cm	芯持 ヤマグワ	端部欠損	二段に分かれた芯持の材である。 付根部は直径5.8cmである。端部 が延びる。	
779 132	二股敷木	26.0×2.6 ϕ 枝部 19.2+ ϵ ×2.4 ϕ	2D-63G 底上14.0cm	芯持 広葉樹 (敷孔材)	枝は一部残 存	幹の部分は両端部が削り取りされ、 枝は途中から欠損する。	

2号河川跡Ⅱ河道出土遺物観察表(木器) 図267~270

番号 凡	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 材 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
957 132	板 (未製品)	55.3×6.7×2.4	2C-63G 底面直上	榎目 コナラ属 アカギシ亜属	完形	両面両側ともきれいに削られている。	
948 132	板	32.0+ π ×10.4×3.5	埋没土中	榎目 ヤマグワ	多くを欠損	一面は扁平、中央長軸方向に突起があり、隆起する。割り痕が残る。	
983 133	クレウチ	68.7+ π ×3.5 ϕ 31.0×10.3×3.8-3.0	2D-64G 底上22.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	枝は端部で 欠損	枝折りをした柄と幹を利用した扁平・幅広い身からなり、枝分かれする部分を細かく削っている。枝には割痕が残る。工具痕が全体に良く残る。	
981 133	長柄鋸	124.3×20.5×3.2	2C-63G 底上8.0cm	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一部欠損	鋸身の部分に割ができ、柄との区別が明瞭である。柄の先にはグリップエンドが作出される。鋸身の先は両側面から削り、先端は細くなる。側面からみて厚みは変わらず、先端部でわずかに薄くなる。	
955 133	長柄鋸 (未製品)	74.2×20.3×5.8	2C-63G 底上6.0cm	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	装着の為の鋸身の部分と刃先の部分の山形のつくりは大ざっぱである。側面に向かい薄くなり、柄の部分が増厚になる。細かな調整痕がある。	
1088 134	鋸先?	7.0+ π ×4.0+ π ×1.6	2D-63G 底上37.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	刃部の一部 残存	刃部の角が残存する刃部部分は薄く削られている。刃部から中央にかけて徐々に厚くなる。	
966 134	不明(材料)	75.4×22.8×10.0	2C-63G 底上10.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	一面は平滑、他面は丸みをもつ。両端部は切断され、切断面には細かく工具痕が残る。製品をつくるものと考えられる。	
954 134	板状木製品	34.0+ π ×12.7×3.0	2C-63G 底上10.0cm	榎目 カヤ	両端部欠損	表裏面とも平らに削られる。表面の一部が炭化する。ほぼ中央部と割れ口の一部に方形の穴が貫通するが表裏両面から穿孔している。	
1050 134	板状木製品	35.4+ π ×4.0×1.8	2D-63G 底上4.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	一端部は炭化している。	
976 134	板状木製品	40.2×4.8×1.6	2C-63G 底面直上	榎目 クリ	わずかに欠損	両面は平滑で、端部には丸みを持たせている。一側面端部付近は斜めに切り落とされている。	
1110 134	板材	21.4+ π ×6.6×2.4	埋没土中	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	両面は平滑に仕上げられている。両側面は端部である。	
1053 134	板	37.5+ π ×6.3×3.4	2C-63G 底上13.0cm	榎目 ケヤキ	両端部欠損	片端部は炭化している。表面に割り痕が残る。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表《木器》 図270-272

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 材 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
997 134	板	52.1×5.7×1.6	2C-64G 底面直上	榎目 コナラ属 アカガシ亜属	完形	表面は加工され、きれいに整えられている。両端部は斜めに切断されている。	
1068 134	棒状木製品	60.5×7.1×2.1	2D-63G 底上10.0cm	榎目 コナラ属 アカガシ亜属	完形	両端部は斜めに切断され、一端部最先端は平面方向から切られている。表裏面とも細かく削られる。	
1065 134	不明	45.1+*×4.3×1.7	2C-63G 底上13.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端一側部 欠損	分割面に割り痕が残る。	
861 134	不明	28.9+*×6.1×3.0	2D-64G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	一面が炭化している。節部を残す。	
1060 134	不明	43.4+*×5.8φ×5.8	2D-64G 底上8.0cm	分割材 ヤマグツ	一端部欠損	分割材を丸く削り出している。表面には割り痕がある。	
828 135	不明 (未製品)	31.6×7.2×7.5	2C-63G 底上3.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	端部は細かく削り、切断されている。節部を残す。	
1081 135	角材	51.8+*×11.7×8.8	2C-64G 底上9.0cm	分割材 (加工) クリ	一端部欠損	端部には切断痕が残る。	
1072 135	角材	59.0×5.6×4.8	2C-63G 底上5.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	端部は斜めに切断されている。	
1064 135	角材	90.7×10.5×9.6	2C-64G 底上43.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	分割痕が残る。両端部は斜めに切断され、節部が残る。製品前後の材料であると考えられる。	
985 135	角材	41.9+*×7.3×3.8	2D-63G 底上21.0cm	榎目 カヤ	一端一側欠 損	数カ所の切り込みが見られる。表面は平滑である。上面は長軸方向に沿い、長く段をもつ。	
986 135	角材	39.0+*×2.2×1.4	2C-63G 底上36.0cm	榎目 モミ属	両端部欠損	角材は加工している。	
1089 135	杭	23.6×6.5×3.2	2D-63G 底上30.0cm	分割材 ケンボナシ	先端の一部 と両部欠損	頭部は炭化して欠損したと考えられ、両辺部分が割離している。	
947 135	棒状木製品	65.0+*×3.1×2.8	2D-63G 底上5.0cm	芯持 クリ	一端部欠損	一端部は二股に分かれ、それぞれ端部は丸みをもつ。	
1004 135	棒状木製品	43.7+*×2.4×2.1	2C-63G 底上30.0cm	分割材 カヤ	両端部欠損	一部に加工痕が見られる。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表(木器) 図273

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
656 J35	板	16.0+ ϕ ×4.6×1.9	2D-63G 底上10.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	端部は炭化している。割りっぱなし。一面はわずかに平滑にする。鑿部が残る。	
660 J35	板状木製品	16.0+ ϕ ×6.8+ ϕ ×1.6	2D-63G 底上3.0cm	板目 コナラ属 7カガシ亜属	一端一端部 がわずかに 残存	鑿部は太く、欠損端部方向に向かい薄くなる。	
662 J36	板	11.0+ ϕ ×5.5+ ϕ ×1.3	2C-63G 底上25.0cm	板目 モミ属	両端と一端 面欠損	一面が炭化している。表面にはわずかに鑿が残る。	
664 J36	板	19.4+ ϕ ×4.3+ ϕ ×0.9	2D-63G 底上11.0cm	板目 モミ属	一端一個が 一部残存	真人中に折れが残る。	
666 J36	板	22.5+ ϕ ×8.5+ ϕ ×2.0	2C-64G 底上13.0cm	板目 クリ	一端一個が わずかに残 存	端部は一平面方向から斜めに切断。切断面には工具痕が残る。裏面は平滑である。	
668 J36	板	14.0+ ϕ ×6.2+ ϕ ×2.3	2C-63G 底上14.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端一個欠 損	表裏面にわずかに割り痕が残る。	
670 J36	杖	18.7+ ϕ ×5.3×2.4	2C-63G 底上3.0cm	分割材 ムクロジ	頭部欠損	先端部は削られ、尖っている。	
688 J36	板状木製品	20.2+ ϕ ×6.7×1.7	2C-63G 底面直上	板目 カツラ	一端部欠損	表面は炭化が激しい。側面と一端部も炭化する。裏面には鋭利な工具痕が残る。用途不明。	
695 J36	板	15.3+ ϕ ×5.5×1.8	2C-63G 底上13.0cm	板目 ヤマグワ類 似種	一端部欠損	端部は斜方向に切断。両平面にはわずかな割り痕が残る。	
700 J36	板	12.8+ ϕ ×4.3+ ϕ ×0.7	2D-63G 底面直上	板目 モミ属	両端と一端 面欠損	薄い板材をつくり出している。	
701 J36	板状木製品	16.2+ ϕ ×3.3+ ϕ ×1.2	2D-64G 底上3.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端一個欠 損	表面にはわずかに割り痕が残る。	
712 J36	板	20.8+ ϕ ×19.5×2.0	2C-64G 底上71.0cm	板目 クリ	両端部がわ ずかに残存	端部は平直面から斜めに切断している。鑿部が残る。	
723 J36	板	13.6+ ϕ ×5.7×2.3	2C-63G 底面直上	分割材 (加工) コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	一端部欠損	端部は炭化している。表面はわずかに加工されている。	
731 J36	板	19.3+ ϕ ×7.2×2.8	2D-63G 底上4.0cm	分割材 (板目) クリ	両端部欠損	一面は割りっぱなし。他面にはわずかに割り痕が残る。鑿部が一部に残る。	
733 J36	板	21.0+ ϕ ×2.7×0.9	2D-64G 底上23.0cm	板目 コナラ属 7カガシ亜属	両端部欠損	一辺が薄く、ヘラ状を呈す。表面に割り痕を残す。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表(木器) B274・275

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 樹 種	遺存状態	加 工 形 状 の 特 徴	備 考
735 136	板状木製品	16.5+ \pm ×3.4×1.0	2D-64G 底面直上	板目 ヤナギ属	両端部欠損	一部が炭化している。表面の一部が削られている。	
739 136	板	19.9+ \pm ×3.3×1.3	2C-63G 底上37.0cm	板目 ヒノキ属	片端部欠損	削りっぱなし。	
770 136	板	12.7×2.5+ \pm ×0.5	2C-63G 底上3.5cm	不明 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	一側面が欠損	非常に薄い。両端部及び側面は削られている。	
778 136	板	29.3+ \pm ×4.9×2.0	2D-63G 底上7.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	両端部欠損	薄い割材であり、節部が残る。	
780 136	板	25.8+ \pm ×4.6×1.4	2C-63G 埋没土中	分割材 広葉樹 (散孔材)	一端部欠損	削り痕が残る。一端部は丸みをもつ。	
809 136	板	27.4+ \pm ×2.9×1.1	2D-64G 底面直上	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	両端部欠損	薄く仕上げられているが、表面が荒れていて調整痕は見当たらない。	
807 137	板	21.7+ \pm ×4.8×2.6	2D-63G 底上29.5cm	板目 マツ属 糠葉目亜属	両端部欠損	表面は平滑に削られ、仕上げられている。	
810 137	板	28.8+ \pm ×3.7×2.1	2D-64G 底上4.5cm	分割材 広葉樹 (散孔材)	片端部欠損	一端部は炭化している。削り痕が残る。一面をわずかに削る。	
822 137	板	22.4+ \pm ×3.1×1.3	2D-63G 底上24.0cm	板目 カヤ	両端部欠損	薄く仕上げられている。中央部分で撥ね上がっている。	
829 137	板	28.6+ \pm ×7.7×2.1	2D-63G 底面直上	板目 エノキ属	片端部欠損	一端部は一平面から切り落とされ段状に切り痕が残る。	
827 137	板	32.5+ \pm ×9.5×2.8	2C-64G 底上43.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	端部は一部 残存	一面・両端部は炭化している。削り痕がある。	分割材を加工。
832 137	板	24.8+ \pm ×3.4×0.6	2D-63G 底上23.0cm	板目 ケヤキ	両端部欠損	平滑に仕上げられている。	
834 137	板(横綱)	25.7+ \pm ×8.7×1.3	2C-64G 底上58.0cm	板目 コナラ属 アカガシ亜属	一端一側を 欠く。	端部は斜めに切り落としてある。平面は平滑に仕上げられている。	
826 137	板	12.3+ \pm ×6.0×1.4	埋没土中	板目 オニグルミ	片端部欠損	分割面をわずかに削っている。	
835 137	棒状木製品	26.0+ \pm ×3.2×1.1	埋没土中	板目 カヤ	一端部欠損	薄く仕上げられている。先端部は丸みをもつ。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表(木器) 66275・276

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
839 J37	板	18.3+ ϵ ×5.5×1.9	2C-62G 底上5.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	分割材を平滑にしている。	
859 J37	板	26.1+ ϵ ×3.8×2.1	2D-63G 底上27.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	一面には縁部が残る。端部は約2 面に波り切断されている。	
856 J37	板	28.6+ ϵ ×7.6×1.8	2D-64G 底上62.0cm	板目 モミ属	両端部欠損 側面も欠損	一面が全面炭化している。	
963 J38	板	72.0×3.3×2.0	2C-64G 底上20.0cm	分割材 モミ属	ほぼ完形	一端部は三方向から切断されている。 他端部は薄くわずかに割れて いる。一面には縁部が残る。両端 部ともわずかにつぶれている。	
858 J37	板	43.3+ ϵ ×3.5×1.4	2D-64G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	割り痕が一面に残る。	
860 J38	板	28.5×9.4×3.6	2C-64G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	端部が一部 欠損	一端部は炭化している。他端部 には切断痕、平面には割り痕がある。	
931 J38	板状木製品 (不明)	14.1×18.2×2.6	2C-63G 底上28.5cm	板目 コナラ属 アギダシ亜属	わずかに欠 損部がある	表裏面は平滑に削られている。各 辺には加工痕を残す。	
951 J38	板状木製品	12.6+ ϵ ×6.5+ ϵ ×2.0	2C-63G W969の下	板目 キリ	形状不明	各辺と一面が炭化している。他面 に割り痕がわずかに残る。	
952 J38	板状木製品	10.7+ ϵ ×5.7×1.4	埋没土中	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端一側欠 損	一面は平らに仕上げられている。 一辺は中央から徐々に薄くなる。	
974 J38	板	70.7+ ϵ ×4.0×1.5	2C-64G 底面直上	板目 カバノキ属	一端両側欠 損	表面は削られ平滑面をつってい るが、欠損部が多く形状は不明。	
1057 J38	板	54.2+ ϵ ×6.7×2.8	2C-63G 底面直上	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	両平面を削る。一面は平滑で、他 面はわずかに丸みをもち、側面 部分は薄くなる。数線の刃部?	
1074 J38	板材	52.1+ ϵ ×8.9×2.7	2D-63G 底上33.0cm	分割材 ケンボナシ	両端部欠損	筋部を残す。割り痕を残す。	
1079 J38	板	11.9+ ϵ ×2.1×0.9	埋没土中	板目 ケヤキ	両端部欠損	切断面は斜めに切断されている。	
1097 J38	板	6.2+ ϵ ×3.0×0.3	埋没土中	板目 カヤ	両端部欠損	両側端部は薄くされている。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表《木器》 図276・277

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
1111 J38	板	23.7+ ϵ ×4.8×1.8	埋没土中	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部と一 側一面欠損	平面には削り痕が残る。	
655 J39	角材	13.3+ ϵ ×5.4×4.1	2C-63G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	端部が残る。端部は炭化している。 木芯寄出は削りっぱなし。	
684 J39	角材	13.0+ ϵ ×7.4×4.9	2C-63G 底上23.0cm	分割材 モミ属	片端部欠損	一面が炭化している。	
686 J39	角材	8.8+ ϵ ×5.1×4.1	2D-63G 底上9.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	頭部がわずかにつぶれている。	
742 J39	杭	21.0×3.2×1.8	2D-63G 底上18.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	ほぼ完形	頭部はつぶれている。	
1114 J39	不明	15.8+ ϵ ×5.1×3.7	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	大部分を欠 損する。	割材を利用したし又はU字形の削 り込みをもつ木製品である。	
823 J39	丸棒状木製品	27.2+ ϵ ×1.9×1.6	埋没土中	分割材 (加工) モミ属	一端部欠損	割材を削り出してつくっている。 残存する端部と端部付近は加工さ れ、わずかに凹む。柄?	
830	棒状木製品	26.3+ ϵ ×2.3×1.6	2C-63G 底上26.0cm	分割材 (加工) 広葉樹 (散孔材)	一端部欠損	端部は細かく削り出される。端部 を残す。	
1054 J39	不明	26.7+ ϵ ×2.4×1.9	2D-63G 底上1.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	工具痕が表面にわずかに残る。	
1094 J39	丸棒状木製品 (柄?)	70.9+ ϵ ×2.7 ϕ ×2.2	2D-63G 底上15.0cm	分割材 ケヤキ	両端部欠損	割材を面取りして、丸くつくり出 している。	
988 J39	棒状木製品	41.0+ ϵ ×2.4×2.5	2D-63G 底上8.0cm	分割材 カヤ	一端一側欠 損	二面に削り痕が残る。一端部と一 部分が炭化している。	
1098 J39	不明	8.9+ ϵ ×4.2×3.8	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	筋部が残る。	
746 J39	角棒	16.2+ ϵ ×1.8×1.2	2C-63G 底上32.0cm	分割材 カヤ	両端部欠損	分割面は分割後、削っている。	
749 J39	丸棒	20.0×2.8×2.2	2C-63G 底上29.0cm	芯持 スギ類節種	完形	割痕がわずかに残る。両端部は焼 けている。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表〈木器〉 図277・278

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 樹 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
776 139	棒状木製品	28.4+ ϕ ×4.3×2.4	2D-63G 底面直上	分割材 モミ属	両端部欠損	分割材を加工し、平頭をつくっている。	
1096 139	不明木製品	29.0+ ϕ ×13.0×7.2	2D-63G 底上15.0cm	芯持 カヤ	一部欠損	断面が変形を呈し、長軸に沿い、半分を斜めに切断、残り半分を円錐状に加工。調整痕はしっかりと残る。用途不明。	
747 139	角棒	16.2+ ϕ ×1.4×1.7	2C-63G 底上21.0cm	分割材 モミ属	両端部欠損	分割面一面は分割後、削っている。	
710 139	角材	13.9+ ϕ ×2.5×2.9	2C-64G 底上39.0cm	分割材 タリ	一端部欠損	一端部が炭化している。	
871 139	角材	25.5+ ϕ ×5.5×4.2	2C-63G 底上43.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	表面がわずかに削られている。	
774 139	角材	22.4×4.4×4.8	2D-63G 底上24.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	両端部は切られている。工具痕が細かく残る。	
783 139	角材	28.4+ ϕ ×3.7×2.8	2C-62G 底上15.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	表面には削り痕が残る。先端部は斜めに削られている。	
745 139	角材	12.4+ ϕ ×6.3×3.6	2C-63G 底上35.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	節部を残す。両側面は削り痕を残す。	
808 139	角材	14.4+ ϕ ×2.4×2.1	2C-63G 底上10.0cm	分割材 (加工) ケヤキ	両端部欠損	分割材を面取りしている。各面は平滑である。	
821 140	角材	25.8+ ϕ ×5.3×3.1	2C-63G 底面直上	分割材 カエデ属	両端部欠損	節部・削り痕を残す。	
936 140	角材	24.5+ ϕ ×7.5+ ϕ ×3.4	2D-64G 底上38.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端一側欠損	分割材の一部加工し、断面四角形に近い形状をとる。	
1084 140	角材	25.5+ ϕ ×3.9×2.6	埋没土中	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	表面は炭化している。	
812 140	不明木製品	23.4+ ϕ ×3.2×3.2	2D-63G 底上22.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	節部を残す。	
734 140	不明木製品	15.4+ ϕ ×3.1×1.7	2D-64G 底上16.0cm	分割材 サクラ属	両端部欠損	表面にはわずかに工具痕が残る。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表《木器》 図276・279

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 材 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
738 140	不明木製品	13.2+ \pm ×3.0×1.6	2C-64G 底上2.0cm	分割材 オニグルミ	一端部欠損	一面に端部が残り、割った面は炭化している。	
736 140	不明木製品 錫白	19.7+ \pm ×3.2×1.8	2D-63G 底上2.0cm	分割材 (加工) クリ	両端欠損	断面三角形。両端部を削り止まる。三角形の頂点に三方所の凹みが確認できる。	
696 140	棒状木製品	9.1×3.4×2.9	2D-64G 底上57.0cm	芯持 モミ属	完形	両端部を両端から削り出し、尖らせている。表面は磨部である。	
718 140	木片	8.2×4.5×2.8	埋設土中	分割材 クリ	完形	両端部には切り落とされた痕跡が残る。部分的に炭化している。	
719 140	木片	5.1×4.8×2.9	埋設土中	板目 広葉樹	完形	全面炭化している。一面は平滑で他面は丸みをもち、端部は斜めに切断された痕跡を残す。	
737 140	木片(板)	12.5×6.0×2.2	2C-63G 底面直上	板目 ヤマダツ	ほぼ完形	両端部は切断されている。表面は磨耗が激しい。	
743 140	木端	11.8×7.5×4.5	2C-63G 底上29.0cm	分割材 クリ	完形	両端部を数回に渡り切断した痕跡がある。	
775 140	木片	11.2×9.3×6.1	2D-64G 底上20.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形	一端部には数回に渡る切断痕がある。他端部と一面は炭化している。	
819 140	木端	14.1+ \pm ×5.8×4.8	2C-63G 底上3.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	一端部は炭化している。一面は磨部である。	
820 140	木端	8.9×7.0×3.3	2D-64G 底上35.0cm	分割材 モミ属	完形	両端部は斜めに切り落とされている。一端部は炭化している。	
838 140	木片 (用途不明)	6.0×3.6×2.7	埋設土中	分割材 コナラ属 アカガシ亜属	完形	端部は斜めに切断されている。	
836 140	木端	10.8+ \pm ×4.1×3.7	埋設土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	端部は炭化している。磨部を残す。	
946 140	木端	10.1+ \pm ×2.8×2.4	2C-64G 底上41.0cm	分割材 カツラ	一端部欠損	一面を削り、一端部は両面から削り薄くさせている。	
864 140	木端	10.3+ \pm ×4.5×3.6	2C-63G 底上27.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	一面(磨部側)は炭化している。	
1106 140	木端	9.0×5.2×4.0	2D-64G 底上28.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形	分割材の両端部が数回に渡り、切り落とされている。磨部を残す。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表(木器) 図279~281

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
707 140	密材	16.0+φ×4.7×1.7	2D-63G 底上18.0cm	分割材 クナ	両端部欠損	一部が炭化している。	
725 140	丸棒状木製品 (丸杖?)	14.5+φ×3.1φ×3.5	2D-64G 底上7.0cm	芯持 ケンゴナシ	一端部欠損	頭部がつぶれている。	
714 140	棒状木製品	21.3+φ×2.7×1.5	2D-63G 底上14.0cm	分割材 モミ属	両端部欠損	一面は平坦で割りっぱなし。	
833 140	くさび	29.4×9.3×5.7	2D-63G 底上8.0cm	建築材 トチノキ	完形	先端部は三面から削り出される。 頭部は断面四角形で、一側面中央 から頭部に向かい切断されている。	
677 140	くさび (板状木製品)	11.0×12.0×2.1	2C-63G 底上15.0cm	柱目 コナラ属 コナラ亜属 クスノ属	完形	両端部は斜めに切られている。切 断面の工具痕の幅は約1cmである。 表面には一カ所円形の作業痕と平 滑にした工具痕が残る。	
682 140	くさび状木製 品	11.6×11.7×6.0	2C-63G 底上25.0cm	分割材 カヤ	完形	先端部と頭部は二面から切断され ている。表面には鋸部が残る。節 を利用している。	
744 140	杖	13.4+φ×6.6×4.3	2C-63G 底上3.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノ属	頭部欠損	分割材を加工し、杖にする。先端 部及び両側面は削り痕を残す。	
925 141	杖状木製品	28.5×11.8×6.7	2C-63G 底上45.0cm	分割材 (加工) ケヤキ	完形	一端部は丸めに加工され、他端部 は杖の先状に切られている。	
969 141	不明(材料)	86.0×28.4×15.3	2C-63G 底面直上	分割材 ムクノキ	完形	一面は平坦、他面は丸みをもつ。 両端部は切断され、切断面には細 かく工具痕が残る。製品をつくる ものと考えられる。鋸部が残る。 平面には割り痕が残る。	
964 141	くさび	39.6×4.2×5.3	2C-63G 底上10.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノ属	刃部一部欠 損	先端部は幅広で、平坦に削られて いる。頭部には斜めに割り痕が残 る。	
1070 141	杖状木製品	45.6×9.6×3.4	2C-63G 底上37.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノ属	一部欠損	頭部はつぶれ、先端部は削り失ら せている。	
661 141	杖	21.6+φ×4.6φ×3.5	2D-64G 底面直上	芯持 コナラ属 アサギ属	頭部欠損	先端部が細かく削られている。鋸 部が多く残る。	
669 141	杖	23.7×5.7φ×4.3	2C-64G 底上15.0cm	芯持 カバノキ属	頭部一部欠 損	先端部を両辺から失らせている。 一面は炭化している。頭部は偏平 を呈す。	
702 141	杖	25.5+φ×2.8φ×1.9	2D-63G 底上20.0cm	芯持 オニグルミ	ほぼ完形	先端部は両辺より削り出されてい る。頭部と最先端部はつぶれる。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表《木器》 図281~283

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 樹 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
857 141	杭	55.8+ ϕ ×3.4×3.2	2D-64G 底上42.0cm	芯持 ヤマグワ	頭部欠損	先端部は三方向から削り出されている。	
729 141	丸杭	17.3+ ϕ ×2.4 ϕ ×2.3	2C-63G 底上5.0cm	芯持 コナラ属 アカシヤ属	頭部欠損	先端部はわずかに削り突らしているが、欠損部分が約1/2ある。	
732 141	杭	17.0+ ϕ ×4.4 ϕ ×3.6	2C-63G 底上18.0cm	芯持 ハンノキ属	頭部欠損	先端部は炭化している。	
768 141	杭	23.2×2.3×2.1	2C-63G 底上34.0cm	芯持 サクラ属	完形	先端部は一方から切断され、部分的に炭化している。頭部面には浅い沈跡が2本入る。	
978 141	杭?	33.2×3.5×3.0	2C-63G 底上30.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ類	頭部一部欠損	一端部は炭化している。	
740 141	丸杭	11.6×3.2 ϕ ×3.1	2C-63G 底上5.0cm	芯持 イヌガヤ	一端部欠損	頭部を残す。端部は削られた後に表面が炭化している。	
784 141	杭	34.0+ ϕ ×3.8 ϕ ×2.7	2C-63G 底上11.0cm	芯持 オニグルミ	一端部欠損	先端部は斜方向に一方から切断されている。	
781 141	杭	25.3+ ϕ ×5.2×4.8	2C-63G 底上11.0cm	芯持 ヤマグワ類 榎類	頭部欠損	一端部は削っている。	
1055 142	杭	32.7+ ϕ ×4.9 ϕ ×5.1	埋没土中	芯持 タリ	最先端部と 頭部一部欠損	先端部は二面から削られ、頭部はつぶれている。	
1061 142	杭	51.4×4.9×3.4	2C-63G 底上4.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ類	頭部一部剥離	両面にあたり痕がある。	
1069 142	杭?	56.5+ ϕ ×7.0 ϕ ×6.0	2C-63G 底上30.0cm	芯持 ニワトコ	一端部欠損	端部は斜めに切り落とされ、1/4が炭化している。	
1083 142	杭	87.6+ ϕ ×4.9 ϕ ×4.2	2D-63G 底上26.0cm	芯持 ヤマグワ	一端部欠損	一端部の頭部がつぶれ、周辺が剥離している。	
1051 142	杭	28.0×11.5 ϕ ×9.2	2D-63G 底上10.0cm	芯持 ヤマグワ	完形	柱が仏つである。両端部は斜めに切断され、工具痕が多数残る。周辺部は頭部がほとんどであり、一部に長さ3.5cm、幅3cm、深さ0.7cmほどの切り込みがある。	
691 142	杭?	25.0+ ϕ ×5.4×2.7	2D-64G 底上19.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ類	一端部欠損	頭部が残る。一端部は節付近を切断している。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表(木器) 図283・284

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
727 142	杖?	12.7+ ϕ ×4.0×3.3	2D-63G 底上37.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端部欠損	表面の一部が炭化している。	
728	杖?	17.2+ ϕ ×4.0×3.0	2D-64G 底上17.0cm	分割材 カエデ属	両端部欠損	一面で傾り痕が明確に残る。	
730 142	杖?	14.5+ ϕ ×3.5×2.6	2D-64G 底上14.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	一端部欠損	端部が残る。分割部は割りっぱなしで、調整痕は認められない。	
757 142	杖	19.1+ ϕ ×4.3×2.5	2D-63G 底上17.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	頭部欠損	先端部はつぶれている。端部が残る。	
741 142	丸杖	15.7×4.5 ϕ ×4.1	2C-63G 底上21.0cm	芯持 ウコギ属	ほぼ完形	両端部は斜めに切られている。端部は炭化し、後には広がっている。	
782 142	杖	24.0+ ϕ ×4.8×4.9	2C-63G 底上9.0cm	分割材 ウコギ属	一端部欠損	一端部は炭化している。端部を残す。	
846 142	杖	27.3+ ϕ ×2.8×2.7	2D-63G 底上8.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	頭部欠損	端部を残す。先端部は一方から削られている。	
956 142	杖	93.8×6.5×5.8	2C-63G 底上11.0cm	芯持 ヤナギ属	頭部一部欠損	先端部は削られ、最先端部はつぶれる。全体的に劣化している。	
934 142	杖	36.7+ ϕ ×4.2×3.6	2C-63G 底上47.5cm	分割材 ヤナギ属	頭部は割れ 先端部欠損	一面が焼けている。端部にはわずかに削り痕が残る。	
767 142	杖	9.4+ ϕ ×3.8×2.6	2D-64G 底上15.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	頭部欠損	先端部は傾り尖らされている。	
950 142	杖杖木製品	20.5+ ϕ ×9.4×8.7	2C-63G W969の下	分割材 クリ	頭部残存	劣化が激しい。端部にはわずかに切断痕がある。	
831 142	杖	27.6×3.2×2.1	2D-63G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	ほぼ完形 先端部欠損	頭部がつぶれている。	
973 142	杖	73.0+ ϕ ×8.8×5.8	2C-63G 底上13.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	頭部と先端 の一部欠損	頭部はつぶれている。先端部は一部が尖らされ、欠損している。	
984 142	杖?	35.6×3.2×2.0	2D-64G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	表面が一部 欠損	削り痕がある。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表(木器) 図284・285

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 材 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
996 143	杭	38.8×8.5×4.4	2D-63G 底面直上	分割材 (半截) コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一部欠損	先端部は失われ、頭部付近は斜めに切断されている。	
987 143	杭	36.9×3.9×2.9	2C-63G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	頭部は炭化している。一面にわずかに加工痕が残る。	
990 a 143	杭	46.1+*×7.4×4.9	2C-63G 底上6.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	先端部欠損	頭部周辺は一部割れし、あたり痕がある。頭部は敲かれ、つぶれている。表面には割り痕が残る。	
994 143	杭	37.6×3.5×2.3	2D-63G 底上10.0cm	忌持 広葉樹 (散孔材)	頭部欠損	頭部は炭化している。先端部は周辺から削られ、尖っている。両側面は節部である。両面には割り痕が残る。	
990 b 143	建築材	25.0+*×6.0×2.8	2C-63G 底上6.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	両面とも平滑に削られている。一面に特欠がある。	
993 143	杭	45.0×7.6×2.3	2D-63G 底上27.0cm	分割材 クナリ	最先端部欠損	先端部に向かい細くなる。頭部は敲かれている。	
999 143	杭	38.1+*×3.0×2.7	2D-64G 底上15.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部欠損	先端部はつぶれている。	
1000 143	杭	37.0+*×5.5×3.7	2C-64G 底上25.0cm	分割材 クナリ	先端部欠損	頭部は周辺から切断されている。	
1071 143	杭	51.2+*×5.4×3.3	2D-63G 底上46.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部欠損	先端部はつぶれ、わずかに欠損する。先端部から16cm上位に、幅2cm長さ0.5cm程のあたり痕がある。	
1056 143	杭	54.2+*×3.8×2.0	2D-64G 底面直上	分割材 モミ属	一端部欠損	先端部は削り出して、細くしている。頭部は欠けている。	
1062 143	杭	48.9×5.4×3.7	2C-63G 底上7.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	ほぼ完形	先端部は細く、全体に削られている。最先端部及び頭部はつぶれている。	
1007 143	杭	40.3+*×3.2×3.2	2C-63G 底上5.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部欠損	表面にあたり痕がある。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表(木器) 図265-267

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 樹 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
1112 143	杖	27.0+ ϵ ×7.3×5.0	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ属	先端部わず かに欠損	頭部は削られている。先端部は周 辺から削り出されている。	
1100 143	杖	14.7+ ϵ ×3.3×1.8	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ属	頭部欠損	先端部は丸みをもつ。	
1078 144	杖	80.0×6.2 ϕ ×5.8	2C-63G 底上41.0cm	芯持 クリ	ほぼ定形	先端部は周辺から削られている。 頭部は斜めに加工され、頭部は 散かれつぶれている。	
1067 144	杖	77.6×3.4×2.9	2C-63G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ属	定形	先端部を実らせている。頭部は薄 くつくられている。	
1113 144	杖	38.2×5.2×2.9	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ属	一部欠損	先端部はつぶれている。頭部は割 離している。	
1090 144	杖	93.1×8.2×7.9	埋没土中	分割材 クリ	頭部一部欠 損	先端部は細く削られている。頭部 は斜めに切断され、割離も激しい。 頭部から20cmほどの所にわずかに あたり痕があり、表面にはわずかに 削り痕を残す。	
1085 144	柄	88.0×3.3 ϕ (太) 1.9 ϕ (細)	2D-63G 底上68.0cm	分割材 (加工) ムクロジ	端部の一部 を欠損	丸棒状を呈す。年輪から分割材の 加工木と判明。丁寧に仕上げられ ている。	
965 144	丸木	52.5×12.3 ϕ	2C-64G 底上6.0cm	分割材 (加工) ケヤキ	定形	分割材を加工し、丸木をつくる。 表面には幅2-3cmの工具痕、両 端部には細かく加工痕が残る。	
958 144	杖 くびれ状木製品	42.6×7.5×7.0	2D-63G 底上6.0cm	芯持 クリ	くびれ部と 先端部付近 は炭化	頭部は二方向から斜方向に切断さ れ、先端部は細く尖っている。頭 部付近はくびれている。	

2号河川跡第Ⅲ河道出土遺物観察表(木器) 図287-289

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
1043 150	不明	36.4×12.2×8.6	埋没土中	芯持 ヤナギ属	完形	両端部には切断面、表面には割り 痕が残る。未製品と考えられる。	
938 145	広縁	22.4+ * ×4.5+ * ×4.1	2C-63G 底上28.0cm	椀目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	約1/3残存	装着部と取身部分ははっきりと分 かれている。装着部分は隆起して いる。取先・取柄は薄く作出され ている。	
876 145	板 縁?	21.6+ * ×9.4×1.5	埋没土中	椀目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部はわ ずかに欠損 他端部欠損	両側端部は薄くなる。平面には割 り痕が残る。	
886 145	不明	15.8+ * ×6.1×3.3	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	平截。縁部が残る。分割面は加工 していない。	
906 145	不明	15.5+ * ×2.7×1.3	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	二面に割り痕が残る。	
872 145	農具縁柄	21.6×4.9×4.9	埋没土中	分割材 カヤ	柄が欠損	枝分かれ部分を使い、枝を柄に利 用している。幹部分は平截し、平 直面を装着部としている。葉柄部 分が作り出されている。柄が炭化 している。	
1018 145	鐵縁?	38.0×8.0×2.0	埋没土中	椀目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	先端部わず かに欠損	一端部は炭化している為、本来の 形状を失う。側面部は薄くなる。 平面に割り痕が残る。	
874 145	農具縁柄	21.6+ * ×7.4×3.6	埋没土中	分割材 シラカバ類	柄が欠損。 装着部の両 端部欠損。	枝分かれ部分を使い、枝を柄に利 用している。幹部分は平截し、平 直面を装着部としている。	
885 145	不明	17.0+ * ×3.4×3.6	埋没土中	分割材 ヤクナ属	両端部欠損	断面三角形。一端部は炭化してい る。	
908 145	枕状木製品 (杖?)	8.8+ * ×2.8φ ×2.6	埋没土中	分割材 (加工) コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	一端部は斜めに切り落とされてい るが、杖の切断面とは異なる。	
900 145	容器	23.0+ * ×5.2+ * ×4.9+ *	埋没土中	椀目 トチノキ	わずかに残 存	胴部は中央に向かい、鑊底状に凹 む。縁はわずかに隆起させている。 凹部表面はきれいに仕上げられ、 側面には割り痕が残る。	
1022 145	柄	32.8+ * ×3.5×1.5	埋没土中	分割材 (加工) マツ属 積層管葉亜属	一端部欠損	一端部はソケット状に割り出され ている。	

2号河川跡第Ⅲ河道出土遺物観察表(木器) B0289・290

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
1011 146	弓	27.4+ ϕ ×2.5×1.7	埋没土中	分割材 イヌガヤ	一端部欠損	端部は細く、弓舌が作出されている。表面は割材を加工。削り痕が細かい。	
919 146	弓	26.5+ ϕ ×1.7 ϕ ×1.4	埋没土中	芯持 イヌガヤ	両端部欠損	表面を削り、調整している。	
1036 146	不明	14.0+ ϕ ×3.5 ϕ ×2.9	埋没土中	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	一端部欠損	一端部は炭化して、表面は劣化している。	
922 146	くさび	10.7×5.1×3.1	埋没土中	分割材 ヤマダウ	ほぼ完形	一端部は斜めに切断されている。他端部はほぼ水平に切られている。	
909 146	杖?	20.5+ ϕ ×4.4×3.3	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	頸部一部欠損	一端部は炭化している。頸部はつぶれ、周辺は割れている。莖部を残す。削りっばなし。	
888 146	杖	15.0+ ϕ ×6.1×2.1	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	両端部欠損	杖状の杖と考えられる。平面には削り痕がある。	
916 146	不明	10.5+ ϕ ×3.6×2.6	埋没土中	分割材 ヤナギ属	両端部欠損	一面に削り痕が残る。	
904 146	不明	12.7+ ϕ ×3.5×0.5	埋没土中	榫目 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	一端部欠損	薄く削られている。欠損部付近は隆起を持つ。表面はわずかに湾曲している。	
1075 146	くさび	47.0×6.4×4.3	2C-63G 底上38.0cm	分割材 クリ	一部欠損	頭部は斜めに切断されている。先端部は偏平に削られている。	
877 146	板	17.4+ ϕ ×5.6+ ϕ ×0.5	埋没土中	榫目 広葉樹 環孔材	各辺欠損	薄い板。	
1031 146	板材	66.4+ ϕ ×7.8×3.7	埋没土中	榫目 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	一端部欠損	端部は斜めに切断されている。平面には削り痕が残る。	
1037 146	板材	68.6×7.6×2.3	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	両側一端部欠損	両側端部に向かい薄くなる。一端部は丸みをもつ。	
1025 146	板	40.5+ ϕ ×7.2×3.4	埋没土中	榫目 広葉樹 環孔材	両端部欠損	端部が残る。器面は荒れている。	
917 146	板	26.0+ ϕ ×5.8×1.6	埋没土中	榫目 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	一端部欠損	削り痕がある。一端両側部はわずかに薄くなる。	
1017 147	板	40.0×7.5×2.7	埋没土中	榫目 コナラ属 コナラ亜属 クスノキ節	完形	両端部が炭化している。表面には削り痕が残る。	

2号河川跡第Ⅲ河道出土遺物観察表(木器) 図290-292

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
1045 147	板材	35.0+ ϕ ×6.3×2.0	埋設土中	板目 広葉樹 (鹿孔材)	両端部欠損	表面は削られ、平坦になっている。 一面に樹皮が残る。	
1040 147	板材	46.5×15.5×3.0	埋設土中	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一部欠損	両端部は切断され、切断面には細 かな工具痕が残る。平面には平滑 にした工具痕が残る。	
1048 147	板材	46.5+ ϕ ×5.5×2.5	埋設土中	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	端部は斜めに切り落とされる。	
1047 147	板	66.0+ ϕ ×7.0×4.0	埋設土中	板目 広葉樹 (鹿孔材)	両端部欠損	表面は炭化している。一面が焼け ている。劣化が激しい。	
887 147	板	18.3+ ϕ ×7.2×2.6	埋設土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	一面が炭化している。	
880 147	木端	12.2+ ϕ ×8.5×2.9	埋設土中	板目 オニグルミ	一端部欠損	三角形を呈す。一端部は平面方 向から切り落とされた痕跡が残る。 斜辺部は炭化している。当初は板 材として使用されていたとわかる。	
901 147	不明	16.3+ ϕ ×4.3×2.2	埋設土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	割り痕が残る。割り痕等は見られ ない。	
924 147	不明	8.3+ ϕ ×3.8×1.5	2C-63G 底上35.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	端部が残る。一面には分割痕が残 る。	
881 147	不明	33.4+ ϕ ×4.5×1.6	埋設土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	上端部欠損	分割面は整形された様子はない。 きれいに分割されている。	
1034 147	厚板	30.5×23.7×7.6	埋設土中	板目 トチノキ	完形	両端面は斜めに切断され、細かく 工具痕が残る。側面及び裏面は平 滑な面が作出されている。	
1035 147	角材 掘堀材	47.5+ ϕ ×10.5×7.5	埋設土中	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	表面が炭化している。一面端部か ら10cmの位置に長さ7.0cm、幅4.0 cm、深さ1.5cmの方形の納穴があ る。	
930 148	不明木製品	24.3×12.8 ϕ ×10.2	2C-63G 底面直上	分割材 ケヤキ	完形	両端部には分割時の細かな工具痕 が残る。表面には幅約3cm程の削 り痕が残る。	

2号河川跡第Ⅲ河道出土遺物観察表(木器) 図292-295

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 樹 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
909 147	板状木製品	20.4+ ϕ ×7.3×2.9	2C-63G 底面上27cm	分割材 (加工) コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	一面は平滑で、他面は湾曲し、削り痕を残す。	
1029 148	板木 (建築材)	58.1+ ϕ ×9.3×5.6	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	端部はすべて欠損。	建築材として利用された可能性がある。板木の一端部には削り痕が残る。表面には鋭い傷が残る。	
896 148	木端	17.0+ ϕ ×14.4×4.2	埋没土中	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	ほぼ定形	表面にはわずかに工具痕が残る。端部が残る。	
920 148	丸棒状木製品	14.6+ ϕ ×3.1 ϕ ×3.0	埋没土中	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	一端部が炭化している。	
1042 148	板木	51.8+ ϕ ×3.0 ϕ ×2.4	埋没土中	芯持 ヤマギ属	一端部欠損	銜皮が残る。柱は払われている。	
923 148	木端	14.9×5.8×2.3	埋没土中	分割材 ヤマグワ	一部欠損	多面に渡り、切断痕が残る。	
916 148	木端	10.6×6.5×3.5	埋没土中	分割材 エノキ属	定形	切断面が箇所に残る。	
878 148	木端	11.8×4.6×3.0	埋没土中	分割材 ケヤキ	定形	両端部は斜めに切り落とされる。	
1039 148	杖	43.5+ ϕ ×7.5×7.5	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	先端部欠損	頭部はつぶれている。器面は荒れている。	
1027 148	杖	47.6×8.0×6.6	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	先端部付近一部欠損	先端部付近が割られている。両端部には斜めに切断される工具痕が残る。	
912 148	不明	15.5+ ϕ ×6.7×5.8	埋没土中	分割材 エノキ属	両端部欠損	端部、削り痕が残る。	
1005 148	杖	38.3+ ϕ ×4.6 ϕ ×4.0	埋没土中	芯持 ヤマグワ	頭部一部欠損	先端部は二方向から割られ、頭部はつぶれている。劣化が激しい。	
1046 148	不明	38.5+ ϕ ×8.0×4.6	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	杖の可能性はある。端部が残る。	
1025 148	角材	29.4+ ϕ ×6.4×3.8	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	両端部欠損	器面は荒れている。	

2号河川跡第三河道出土遺物観察表(木器) 図295-297

番号 PL	器 種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木 取 り 街 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
873 148	板	38.6+ \pm ×3.9×1.5	埋設土中	柃目 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	両端部欠損	一面は薄く削られている。股線の の刃部の可能性も考えられる。	
1044 148	丸棒状木製品	52.9+ \pm ×2.2 ϕ ×2.3	埋設土中	分割材 (丸く加工) ケヤキ	一端部欠損	一端部は炭化している。長辺に沿 い、細い溝が二本切られている。	
1016 148	不明	38.6+ \pm ×4.3×3.2	埋設土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	割り痕が残る。	
1001 149	棒状木製品?	38.8+ \pm ×2.8×1.2	2C-63G 底上36.0cm	分割材 カヤ	両端部欠損	一面は平滑にされている。他面は 割れており、全体に削られている。	
879 149	木端	13.5×8.0×3.9	埋設土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	割材の両端部を一部加工した木端。	
875 149	板	13.0+ \pm ×5.6×1.5	埋設土中	柃目 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	一端部欠損	端部は丸くつぶれている。表表面 には割り痕がわずかに残る。	
911 149	丸棒状木製品	20.4+ \pm ×4.0 ϕ ×3.1	埋設土中	分割材 トネリコ属	両端部欠損	分割材を仕上くれている。	
1033 149	角材	77.8×13.1×7.6	埋設土中	柃目 ケヤキ	完形	端部を残す。両端部は斜めに切断 され、切断面には工具痕が残る。	
1015 149	角材	38.7+ \pm ×4.8×4.5	埋設土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	一面が炭化している。	
883 149	角材	13.7+ \pm ×3.7×3.5	埋設土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	分割面は整形された様子はない。 きれいに分割されている。	
882 149	角材	14.0+ \pm ×4.4×4.0	埋設土中	分割材 ナンザン類	両端部欠損	一面にあたり痕がある。	
1041 149	角棒	48.0+ \pm ×3.3×3.0	埋設土中	分割材 (加工) クリ	両端部欠損	表面を削り、加工してある。	
1024 149	杭	59.8+ \pm ×9.0×5.0	埋設土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	先端部欠損	端部は周辺から切断されている。 分割面には割り痕が残る。	
1052	杭	40.5+ \pm ×3.7 ϕ ×4.0	2C-63G 底上11.5cm	芯持 ヤマグワ	一端部欠損	先端部は一方から切り落とされ ている。	

2号河川跡第Ⅲ河道出土遺物観察表〈木器〉 図297・298

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
1028 149	丸杖	40.0×3.6φ×2.7	埋没土中	芯材 エノキ属似種	完形	先端部と頭部の一部が周辺から削られ、両頂部はつぶれている。樹皮が一部残る。	
972 149	杖	45.5+φ×4.6×3.2	2C-63G 底上65.0cm	分割材 タリ	一部欠損	先端部は切り落とされ、頭部は周辺から削り出されている。樹皮が残る。	
889 149	杖	12.6+φ×5.6×4.3	埋没土中	分割材 ヤマダブ	一端部欠損	杖の頭と考えられる。頭部は削取りが行われ、わずかにつぶれる。	
1019 149	杖	35.7×6.3×7.5	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形	両端部を削り、つくられている。節部が残る。頭頂部がつぶれている。	
992 150	角杖	38.8×3.3×3.3	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部はつぶれる。	先端部は丸い。湾曲している。	
1020 150	杖	39.7×7.5×7.5	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形	先端部は分割材の頂点を削り、平坦面を作り出している。頭部は周辺から数回に渡り削り出している。	
1032 150	杖?	104.6×11.6×6.6	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	先端一部欠損	先端部は二面から削られている。頭部は平坦である。節部が残る。	
989 150	建築材?	91.0+φ×9.4×5.3	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	一端部は斜めに切断されている。表面には削り痕が残る。	
1049 150	建築材	32.5+φ×9.0×5.6	埋没土中	分割材 オニグルミ	一端部欠損	節部が残る。一端部は斜め方向に分割されている。	
1014 150	杖	32.4×3.5×2.9	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部一部欠損	先端部は二方向から削られている。あたり痕がある。	

2号河川跡出土土種子一覧表

番号	出土位置	種名	写真・PL	番号	出土位置	種名	写真・PL	番号	出土位置	種名	写真・PL
1	2C-64G	モモ		61	(第Ⅱ河道)	ツバキ	155	116	(第Ⅱ河道)	クルミ	
2	2D-64G	モモ		62	2C-64G	モモ		117	(第Ⅱ河道)	トチの木	
3	2D-64G	モモ		63	2C-64G	ノモモ	154	118	(第Ⅱ河道)	クルミ	
4	2C-64G	モモ		64	(第Ⅱ河道)	モモ		119	(第Ⅱ河道)	クルミ	
5	2C-63G	モモ	154	65	2C-64G	モモ		120	(第Ⅱ河道)	クスギ	
6	2D-64G	モモ		66	(第Ⅱ河道)	クルミ		121	(第Ⅱ河道)	カヤの木	154
7	2D-64G	モモ		67	(第Ⅱ河道)	クルミ		122	(第Ⅱ河道)	ツバキ	155
8	2D-64G	モモ		68	(第Ⅱ河道)	モモ		123	(第Ⅱ河道)	ウリ類	155
9	2D-64G	モモ		69	(第Ⅱ河道)	モモ		124	(第Ⅱ河道)	クスギ	155
10	2D-63G	モモ		70	(第Ⅱ河道)	ツバキ	155	125	(第Ⅱ河道)	ウリ類	155
11	2D-64G	モモ		71	(第Ⅱ河道)	シバグリ		126	(第Ⅱ河道)	不詳	
12	2D-64G	モモ		72	(第Ⅱ河道)	シバグリ		127	(第Ⅱ河道)	不詳	
13	2D-64G	モモ		73	(第Ⅱ河道)	シバグリ	155	128	(第Ⅱ河道)	不詳	
14	2C・2D-64G	モモ		74	(第Ⅱ河道)	シバグリ		134	(第Ⅱ河道)	モモ	
15	2C-64G	モモ		75	(第Ⅱ河道)	シバグリ		135	(第Ⅱ河道)	モモ	
16	2C-64G	モモ		76	(第Ⅱ河道)	クルミ		136	(第Ⅱ河道)	モモ	
17	2C-64G	モモ		77	(第Ⅱ河道)	クルミ		137	(第Ⅱ河道)	モモ	
18	2C-64G	モモ		78	(第Ⅱ河道)	モモ		138	(第Ⅱ河道)	モモ	
19	2C-64G	モモ		79	(第Ⅱ河道)	クルミ		139	(第Ⅱ河道)	アンズ	
20	2C-63G	モモ	154	80	(第Ⅱ河道)	モモ		140	(第Ⅱ河道)	クリ	
21	2C-63G	オニグルミ	154	81	(第Ⅱ河道)	ジュズダマ?	155	141	(第Ⅱ河道)	クルミ	
22	2D-63G	オニグルミ	154	82	(第Ⅱ河道)	クリの皮の一部		142	(第Ⅱ河道)	モモ	
23	2D-63G	モモ		83	(第Ⅱ河道)	シバグリ	155	143	(第Ⅱ河道)	モモ	
24	2D-63G	モモ		84	(第Ⅱ河道)	ウリ類(マクワウリ)		144	(第Ⅱ河道)	マナバシイ?	
25	2D-64G	モモ		85	(第Ⅱ河道)	モモ					
26	2D-63G	オニグルミ		86	(第Ⅱ河道)	オナモミ(毛のあるもの)	155				
27	2D-63G	オニグルミ		87	(第Ⅱ河道)	不詳					
28	2D-63G	クルミ		88	(第Ⅱ河道)	不詳					
29	2C-63G	モモ		89	(第Ⅱ河道)	不詳					
30	2D-64G	オニグルミ		90	(第Ⅱ河道)	不詳					
31	2D-64G	モモ	154	91	(第Ⅱ河道)	不詳					
32	2D-64G	シバグリ		92	(第Ⅱ河道)	不詳					
33	2D-64G	不詳		93	(第Ⅱ河道)	不詳					
34	2D-64G	モモ	154	94	(第Ⅱ河道)	不詳					
35	2D-64G	モモ		95	(第Ⅱ河道)	不詳					
36	2D-64G	モモ		96	(第Ⅱ河道)	不詳					
37	2D-63G	モモ		97	(第Ⅱ河道)	不詳					
38	2D-64G	ユウガオ (ヒョウタン)	155	98	(第Ⅱ河道)	不詳					
39		トチの木	154	99	(第Ⅱ河道)	不詳					
40		オニグルミ		100	(第Ⅱ河道)	不詳					
41		クルミ		101	(第Ⅱ河道)	不詳					
42		オニグルミ		102	(第Ⅱ河道)	不詳					
43		オニグルミ		103	(第Ⅱ河道)	不詳					
44		オニグルミ		104	(第Ⅱ河道)	不詳					
45		オニグルミ		105	(第Ⅱ河道)	クルミ					
46		モモ		106	(第Ⅱ河道)	不詳					
47		モモ		107	(第Ⅱ河道)	ユウガオ	154				
48		クルミ				(ヒョウタン)					
49		オニグルミ		108	(第Ⅱ河道)	ヤブツバキ(大)	155				
50		オニグルミ		109	(第Ⅱ河道)	トチの木	154				
51		クルミ	154	110	(第Ⅱ河道)	ヒョウタン	155				
52		クリ	155	111	(第Ⅱ河道)	クスギ	155				
53		クルミ	154	112	(第Ⅱ河道)	クルミ	154				
54		トチの木		113	(第Ⅱ河道)	トチの木	154				
55		クルミ		114	(第Ⅱ河道)	カヤの木	154				
56		トチの木	154	115	(第Ⅱ河道)	モモ					
57	(第Ⅱ河道)	クルミ(大)									
58	(第Ⅱ河道)	クルミ									
59	(第Ⅱ河道)	モモ									
60	(第Ⅱ河道)	モモ									

2号河川跡骸骨一覧表

番号	種名	部位名	左右	年齢	性別	加工	焼骨	写真	備考
1	イノシシ	後臼歯、歯槽片							下顎M1?
2	イノシシ	後臼歯片							
3		骨片							
4	イノシシ	尺骨片	右	成?					
5	イノシシ	下顎結合部	左	成	♂			PL151	1,1,保存
6	イノシシ	骨片							
7		骨片							
8		骨片							
9		骨片							
10	ニホンシカ	角片					○?		
11		頰骨片							
12	イノシシ	尺骨片	右	成				PL151	
13	イノシシ	上腕骨	右	成				PL151	
14		骨片							
15	イノシシ又はニホンシカ	上腕骨片	右						
16	イノシシ?	下顎頭?	右?	成					
17		骨片							
18		骨片							
19		骨片							
20		脛骨片					○		
21		頰蓋骨片							
23		骨片							
24		頰蓋骨片							
25		骨片							
26	ニホンシカ	角片					○		
27		手根骨又は足根骨							
28	イノシシ又はニホンシカ	脛骨片		成					
29		骨片		成					
30		骨片		成					
31	イヌ?	距骨							
32	ニホンシカ	距骨	左	成				PL153	
33		四肢骨片							
34	イノシシ	上顎犬歯	左	成	♂			PL151	
35		脛骨片							
36		四肢骨片							
37		骨片							
38		四肢骨片							
39		四肢骨片							
40		寛骨片?							
41a	ニホンシカ	脛骨片?							
41b		手根骨又は足根骨					○		
42	ニホンシカ	種子骨					○		
43		骨片							
44		骨片							
45	ニホンシカ	上腕骨片	左	成					
46		脛骨片							
47		骨片							
48	ニホンシカ?	中手骨?		成					
50		骨片							
51	ニホンシカ	大腿骨骨幹近位部	右	成				PL153	
52	ニホンシカ	椎骨	右	成					
53		骨片							
55	ニホンシカ	椎骨遠位端	右	成				PL153	
56	イノシシ	脛骨遠位端	右	成				PL152	
57	ニホンシカ	上腕骨遠位端	左	成				PL153	
58		骨片							
59	ニホンシカ	上腕骨遠位端	左	成				PL153	
60		四肢骨片							
61		骨片							

2号河川跡獣骨一覧表

番号	種名	部位名	左右	年齢	性別	加工	焼骨	写真	備考
62	ニホンシカ	中足骨骨幹部		成					
63	イノシシ	下顎結合部			♂			PL151	
64		四肢骨片							
65	ニホンシカ	角分岐部片			♂				第一分岐部?
66	ニホンシカ	踵骨片	左	成				PL153	
67		細骨片					○		
69	イノシシ	上腕骨片	左	成					
70	イノシシ	脛骨片	右	成					
71	ニホンシカ	踵骨	右	成				PL153	
72	ニホンシカ	角室骨	左	成	♂	○		PL152	後内側に角切断のための切り傷あり。図299
73	イノシシ	臼歯片							
74	イノシシ	前肢中節骨					○	PL152	第2指または第4指
75	ニホンシカ	桡骨近位端	左	成					
76	イノシシ	踵骨	左	成					
77	ニホンシカ	上顎第三後臼歯	左	成				PL152	
78		骨片							
79	ニホンシカ	中手骨	左	成				PL153	
80		骨片							
82		骨片?							
84		椎骨片							
85		骨片							
86		四肢骨片							
87	ニホンシカ	角片							
89		骨片							
90		骨片							
91	ニホンシカ	角片							
92	イヌ	下顎骨片							
93	ニホンシカ	桡骨片	左	成?	♀?				
94	イノシシ	臼歯片						PL151	
95	イノシシ	臼歯片							
96	イノシシ	上顎臼歯2個	左	3才±	♂?			PL151	M ² , M ³
98		骨片					○		
99		四肢骨片							
100	ニホンシカ	踵骨	左	成					
101		骨片							
102		骨片							
103	イノシシ	上顎第三後臼歯片	右	3.5才	♂			PL151	
104	イノシシ	臼歯片							
105	イノシシ	下顎骨片?							
107		骨片					○		
108	イノシシ?	踵骨片							
109	ニホンシカ	臼歯片							
110		骨片							
111		距骨片?							
112	ニホンシカ?	四肢骨片		成					
113	ニホンシカ	角片							第一分岐部か?
114	ニホンシカ	桡骨片	左	成					
115		骨片							
116		骨片							
117	ニホンシカ?	角片?							
118		骨片							
120		骨片							
121		骨片							
122	ニホンシカ	距骨	左	成					
123		骨片							
124	ニホンシカ	足根骨					○		
125		骨片							
126		骨片							

2号河川跡獣骨一覧表

番号	種名	部位名	左右	年令	性別	加工	焼骨	写真	備考
128	ニホンシカ	角付き前頭骨	右	成	♂	○		PL152	第一枝分岐部に切断痕
129	イノシシ	上顎第四前臼歯	右	2才±	♂		PL151		
130		骨片							
131	ニホンシカ	橋骨遠位端	左	成					
132		骨片							
133	ニホンシカ	臼歯片							
134	ニホンシカ?	角片?							
135		骨片							
136	ニホンシカ	上腕骨遠位端片	右	成					
137	ニホンシカ	角付き前頭骨						PL152	
138	ニホンシカ	下顎臼歯2個	左	1.5才±				PL153	M ₂ , M ₃
139	イノシシ	上顎第三後臼歯	右	2.5才±	♂?			PL151	
140		頭蓋骨片							
141	イノシシ	下顎臼歯2個付き	左	2.5才±	♂?			PL151	M ₂ , M ₃
142		骨片							
143		骨片							
144		骨片							
145		四肢骨片					○		
146	イノシシ	尺骨近位端	右	成				PL152	
147	ニホンシカ	肩甲骨片	左	成	♂?				
148	イノシシ	寛骨臼片	左	成			○		
149		骨片					○		
150	ニホンシカ?	距骨片	右	成					
152		四肢骨片							
153		四肢骨片							
154	ニホンシカ	距骨	右	成				PL153	
155	ニホンシカ	距骨近位半分	右	成				PL153	
156		臼歯片							
158	ニホンシカ	距骨	右	成				PL153	
159	イノシシ	距骨片	左	2才以下				PL152	
160		四肢骨片							
161	イノシシ又はニホンシカ	胸椎又は腰椎							
162	ニホンシカ	上顎第二前臼歯	左	10才±	♀?			PL153	
163		骨片							
164	ニホンシカ	角片							
165	イノシシ?	腰椎片							
166		四肢骨片							
167	イノシシ	肩甲骨	左	1才以下					近位骨端未癒合
168	ニホンシカ	上顎第三後臼歯	右	成				PL152	
169	ニホンシカ	上顎臼歯片							
170	ニホンシカ	下顎第一切歯	右	5才±				PL153	
171	イノシシ	肩甲骨	左	成				PL152	
172	ニホンシカ	上腕骨片	左	成					
173	ニホンシカ?	肩甲骨片	左	成					
175		骨片							
177	ニホンシカ	角片							
179		骨片							
180	イノシシ	上顎第一後臼歯	右		♂?			PL151	歯槽骨付
181	イノシシ	下顎結合部	右	重成又は成	♂				
182	イノシシ?	頭骨片							
183	ニホンシカ	角付き角骨	右	成	♂			PL152	
184	イノシシ	上顎第三前臼歯	右	2.5才?	♂			PL151	
185	イノシシ	下顎第一切歯	左右					PL151	
186a	イノシシ	上顎臼歯片							
186b	イノシシ	上顎第一切歯	左	2才±	♂			PL151	
187	イノシシ	胸椎骨片	左						
188	ニホンシカ	距骨	右	成				PL153	
189	ニホンシカ	角付き前頭骨							
190	イノシシ	上顎前臼歯2個付き	左	成	♂			PL151	

2号河川跡獣骨一覧表

番号	種名	部位名	左右	年齢	性別	加工	接骨	写真	備考
191		脛骨近位端	左	成					
192	イノシシ	角片							角生付近
193	ニホンシカ	角付前額骨	左	成	♂			PL152	角生骨付き
194	ニホンシカ	臼歯片		亞成?					
195		骨片							
196	イノシシ	上腕骨近位骨幹	左	成				PL151	
197		四肢骨片		成					
198	ニホンシカ	下顎骨片臼歯3個付き	左	10才±				PL153	M ₂ 、M ₃
199		骨片							
200	ニホンシカ	楯骨片	右	成?				PL153	
201	ニホンシカ	下顎第一、第二後臼歯	右	2才±				PL152	
202	イノシシ	寛骨臼片	左	成?				PL152	
203	ニホンシカ	中尾骨	右	成				PL153	
204	ニホンシカ	角片	右	成	♂			PL152	落角。図299
206	ニホンシカ	上腕骨片	右	成?				PL153	
207	イノシシ	頭蓋冠片		亞成					頭頂骨+後頭骨
208	ニホンシカ	楯骨近位端	右	成	♂?			PL153	
209		四肢骨片							
210	ニホンシカ	下顎臼歯	右	3才±				PL152	P ₂ 、P ₃ 、M ₂
211	ニホンシカ	下顎臼歯	右	2.5才				PL152	
212	ニホンシカ?	踵骨	右	成				PL153	
213	ニホンシカ	脛骨						PL153	第四又は第五
214	イノシシ?	寛骨片	右	成		○?		PL152	寛骨臼に加工痕?
215		骨片							
216	イノシシ	下顎第二前臼歯	右						
218	ニホンシカ?	大腿骨幹遠位部	左	成				PL153	
219	イノシシ	下顎第一切歯	右	成	♂?		○	PL151	
220	ニホンシカ	上腕骨	右	成				PL153	
221		骨片							
222	イノシシ又はニホンシカ	脛骨片?							
223		骨片							
224	イノシシ?	尺骨近位部	右	成					
225		楯骨片							
226		寛骨臼片	右	成					
227	イノシシ	上腕骨遠位部	右	成				PL151	
228	イノシシ	下顎犬歯		成	♂	○		PL151	骨角部に加工した痕跡あり。図299
229	シカ	臼歯片	左下	3.5才?				PL152	M ₃
230		骨片							
231		骨片							
232	イノシシ	脛骨片	左			○		PL152	加工痕あり。図299
233	イノシシ	上顎第三前臼歯	右	成	♂?			PL151	
234	イノシシ	上顎骨後臼歯1個付き	右	4才±	♂			PL151	M ²
235	イノシシ	上顎第三前臼歯	右	4才±	♂			PL151	234と同一個体
236	イノシシ又はニホンシカ	四肢骨片							
237	ニホンシカ	楯尺骨片	右	成	♂?			PL153	
238	ニホンシカ	下顎骨前臼歯3個付き	右	11才±	♀?			PL152	P ₂ 、P ₃ 、P ₄
239		骨片							
241	イノシシ	指骨片		成					前肢中趾骨?
242	イノシシ	大腿骨外側顆片	右						
244	ニホンシカ	上顎第二後臼歯	左	成				PL152	
245		楯骨片					○		
246		四肢骨片							
247		骨片					○		
248	ニホンシカ	指骨を含む骨片					○		
249		骨片					○		
250		骨片					○		
251a	イノシシ	第二、第三後臼歯	左	2.5才	♂?				
251b		骨片					○		

2号河川跡獣骨一覧表

番号	種名	部位名	左右	年齢	性別	加工	焼骨	写真	備考
252	イノシシ?	頭骨片							
253		骨片							
254	ニホンシカ	中足骨	右	成					
255		骨片					一部○		
256a	イノシシ	下顎切歯		成	♂?			PL151	
256b		骨片					○		
257		四肢骨片					○		
258		骨片					○		
259		骨片							
260		骨片							
261		骨片					○		
262	イノシシ又はニホンシカ	手根又は足根骨					○		
263	ニホンシカ	角細片					○	PL152	亀裂多数
264		骨片					○		
265	ニホンシカ	角片	左?	成	♂			PL152	落角
266	ニホンシカ	距骨遠位部	左	成				PL153	
267	イノシシ	下顎骨歯3個以上付	左右	4.5才+	♀			PL151	C, L P., R M ₃
268a	イノシシ又はニホンシカ	中手又は中足骨							
268b	イノシシ	上腕骨遠位端							
269	イノシシ又はニホンシカ	距骨片	右	成					
270	イノシシ	椎骨近位端	右	成	♂?				
271		骨片							
272	ニホンシカ	上腕骨遠位端	右	成	♂			PL153	
273	イノシシ	下顎結合部切歯大歯付		成	♀			PL151	
274		骨片							
275						○		PL151	骨針。図299
276	イノシシ	歯片							
277		歯骨片その他							
278		骨片							
279	ニホンシカ	上顎骨骨片							
280	イノシシ	上顎第二後臼歯	左	成	♂			PL151	
281	ニホンシカ	距骨	右	成	♂?			PL153	
282	ニホンシカ	角生骨	左	成	♂	○		PL152	角の切歯痕明顯。図299
283	イノシシ?	四肢骨片							
284	イノシシ?	踵骨							
286	ニホンシカ	中足骨片		成					
287	ニホンシカ	下顎第三後臼歯	右	4才±				PL152	
289		歯骨片							
290	ニホンシカ	距骨骨片	右?	成					
291		四肢骨片							
292	ニホンシカ	上腕骨骨幹近位端	右	成					
294		骨片					○		
295	ニホンシカ	臼歯片							
296a	イノシシ	下顎大歯	右	成	♀				
296b	ニホンシカ	中足骨片							
297	ニホンシカ	踵骨	左	成				PL153	
298	ニホンシカ	角生骨	右	成	♂			PL152	落角の可能性あり。
489	イノシシ?	上顎骨外側滑車片							
490	ニホンシカ	距骨	右	成				PL153	
491	ニホンシカ	前腕手根骨	左	成				PL153	

4. 島出土遺物観察表

島出土遺物観察表〈弥生土器〉 H323

番号 FL	器種	残存 法量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
710	弥生土器 壺	口縁部付近破片	畝間16グループ埋没土中	①白色・夾雑鉱物を含む。②やや硬い。③橙7.5YR6/5	頸部から口縁部に向かい、大きく外反する。口縁部は折り返しをす。内面の一部に横線で痕がある。	外面は口縁から頸部にかけて、横溝波状文が5段施文されていることが確認できる。	
709	弥生土器 壺	胴部半部破片	畝間16グループ埋没土中	①白色・夾雑鉱物を含む。②やや硬い。③橙5YR6/4	表面は横方向に器面調整を行う。	表面には、棒状工具による刷面文内に斜行縦文が施文される。	
715	弥生土器 壺	口縁部破片	畝間29グループ1埋没土中	①長石・小礫を含む。②良好。③赤褐5YR4/5	口縁部と頸部の境に有段をもつ。内面は横溝で整形。口縁部には絡糸体回転正痕、口縁部には同正痕が施文される。	口縁部と頸部との境には棒状の刷面文があるが、1単位が2つづつの施文工具を使用したと思われる。	
707	弥生土器 壺	口縁部～頸部破片	畝間13グループ3埋没土中	①白色鉱物を含む。②良好。③にぶい黄橙10YR6/3	肩部は丸みをもつ。口縁部は大きく外に開き、口縁端部は丸みをもつ。外面口縁部は横溝で。頸部には斜方向に刷毛目整形痕が残る。内面には横方向に磨き痕が残る。表面には焼成後変色している。	頸部には8条1単位の右廻りの刷面文、肩部には刷溝波状文を施文している。	

島出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 H323

番号 FL	器種	残存 法量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
702	土師器 S字壺	口縁部破片 口(14.4cm)	畝間1グループ3埋没土中	①微細砂を含む。②硬質。③灰白2.5YR8/2	外面斜方向刷毛目調整。内面指などで。口縁部内外面横などで調整。		
703	土師器 壺	口縁部～体部破片 口(15.0cm)	畝間3グループ1埋没土中	①細砂・石英粒を多量を含む。②軟質。③にぶい黄橙10YR7/3	体部外面横方向磨削。内面横方向磨削で調整。口縁部内外面横などで調整。		
704	土師器 小形壺	口縁部破片 口(12.8cm)	畝間4グループ1埋没土中	①微細砂を含むが、緻密な粘土である。②普通。③橙5YR6/5	外面などで調整の後、縦方向磨き。内面などで、横方向磨き。		
701 107	土師器 S字壺	口縁部～頸部破片 口(14.9cm)	畝間1グループ埋没土中	①細砂・雲母を多く含む。②やや軟質。③黄灰7.5YR4/1	胴部外面斜方向刷毛目、内面指などで調整。口縁部内外面横などで調整。		
705	土師器 瓶	底部破片	畝間9グループ埋没土中	①砂粒を少量含む。②やや軟質。③橙2.5YR6/6	外面指などで調整。内面斜方向刷毛目調整。		
706	土師器 小形器台	胴部破片	畝間11グループ1埋没土中	①微細砂・雲母粒を含む。②やや軟質。③橙7.5YR6/6	外面縦方向刷毛目整形の後、磨き調整。内面縦方向などで調整。		外面赤色塗彩。
708 107	土師器 S字壺	胴部1/3残存底(9.6cm)	畝間15グループ2埋没土中	①細砂・雲母粒を多量を含む。②やや軟質。③淡赤橙2.5YR7/3	外面縦～斜方向刷毛目調整。内面指などで調整。		

島出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 Ⅷ323

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
711	土師器 器台	脚部上半破片	鉄岡18グループ 3 埋没土 中	①濃細砂・雲母を多く 含む。②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	外面縦方向施磨き。内面縦方向施押さえ。器受部内面 丁寧なで調整。	
731	土製品 紡錘車	1/2残存 口 5.4cm 高 1.1cm	鉄岡10グループ 7 埋没土 中	①濃細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白2.5Y8/2	内外面などで調整。	
712	土師器 S字蓋	口縁部破片 口 (15.4cm)	鉄岡19グループ 1 埋没土 中	①濃細砂を含む。 ②やや軟質。 ③明褐色7.5YR7/2	内外面などで調整。	
713	土師器 蓋	口縁部一帯部 破片 口 (19.3cm)	鉄岡20グループ 4 埋没土 中	①濃細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③灰褐7.5YR6/2	外面縦方向刷毛目調整。内面横方向磨などで。口縁部内 外面などで調整。	

新保田中村前遺跡Ⅰ

《遺物観察表編》

一級河川染谷川河川改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第1分冊

平成2年3月15日 印刷

平成2年3月20日 発行

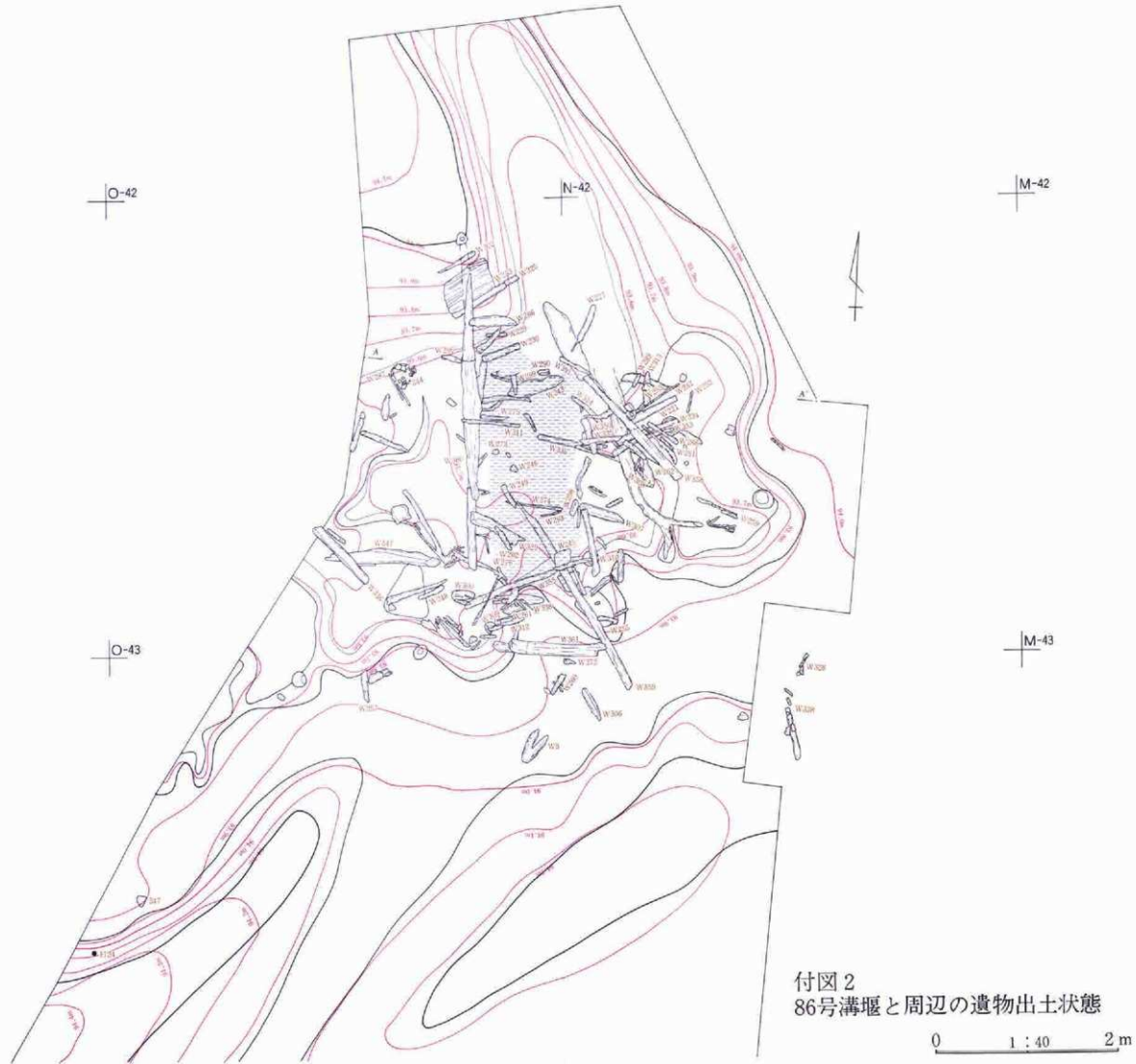
編集／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／株式会社 前橋印刷所

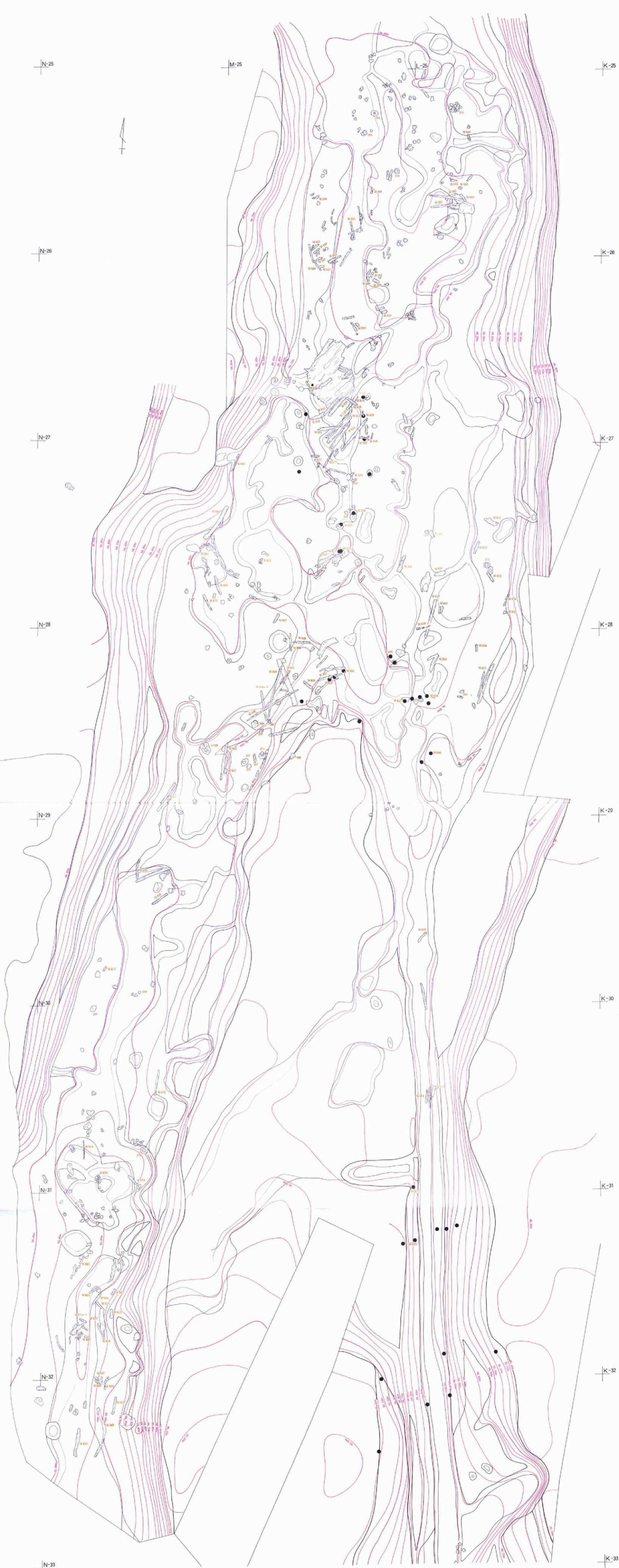


付図1 77号溝遺物出土状態



付図2
86号溝堰と周辺の遺物出土状態

0 1 : 40 2 m



付図3 1号河川跡遺物出土状態(部分)

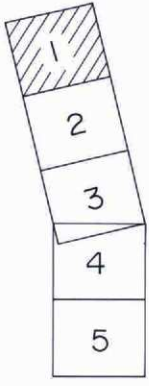
0 1:40 2m



- (付図4・2号河川跡 A-A', B-B')
- 1層 黒褐色粘質土 長さ2〜3mmの炭化物が10㎡に1点ほど混入する。やや粘性がある。
 - 2層 灰黒色粘質土 細砂が土でシルトを含む。長さ5mmの炭化物が10㎡に2〜3点混入する。下部に多くみられる。
 - 3層 黒泥土
 - 4層 灰黒色粘質土 2層よりやや粒径が大きいが、シルトの量も多くなる。中部に長さ1cm〜0.5mmの炭化物を多く散状に含む。
 - 5層 灰色粘質土 黒褐色のシルトと灰色砂とのラミナが一部にみられる。
 - 6層 灰褐色土層 砂・シルト・地山のブロックを含む。
 - 7層 青灰色粘質土 腐植層を含む。腐植層に近づくと、粒径が粗くなる。
 - 8層 灰色粘質土 5層に似ている。黒褐色のシルトと灰色の砂層のラミナが一部みられる。
 - 9層 灰黒色粘質土 シルト砂が水流の影響でまかれた状態を示す。

- 1層 黄土。黒褐色土。細かい軽石を含む。
- 2層 軽石を含む黒褐色土。
- 3層 灰褐色粘質土。Hr-Fa期に伴う洪水層。
- 4層 灰褐色粘質土。Hr-Fa期に伴う洪水層。
- 5層 灰褐色粘質土。Hr-Fa期に伴う洪水層。
- 6層 砂下Hr-Fa。
- 7層 灰褐色粘質土。Aa-Cを含む。
- 8層 Aa-Cを多量に含む黒褐色粘質土。
- 9層 炭化物を含む粘質黒褐色土。
- 10層 灰色粘質土。
- 11層 灰色粘質土。
- 12層 黒褐色粘質土。
- 13層 灰褐色粘質土。
- 14層 灰褐色粘質土。
- 15層 黄褐色粘質土。黒褐色粘質土。
- 16層 YFを多量に含む粘質シルト。
- 17層 灰褐色粘質土。
- 18層 炭化物を含む。黒褐色粘質土。
- 19層 灰褐色粘質土。
- 20層 灰褐色粘質土。
- 21層 炭化物を多く含む灰褐色粘質シルト。
- 22層 中細砂。
- 23層 黒褐色粘質土。
- 24層 炭化物粒 YFを含むシルト。
- 25層 砂。
- 26層 砂とシルトの互層。
- 27層 シルト。
- 28層 砂層。
- 29層 粘質土層。黒い土。
- 30層 軽石を含む灰褐色粘質シルト。
- 31層 軽石を含むシルト。
- 32層 礫山起源の軽石や、流水砂のブロックと黒褐色土ブロックの混入。

付図4 2号河川跡木器出土状態



X=39.85

Y=70.70

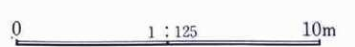
X=39.85



X=39.80

X=39.80

Y=70.70



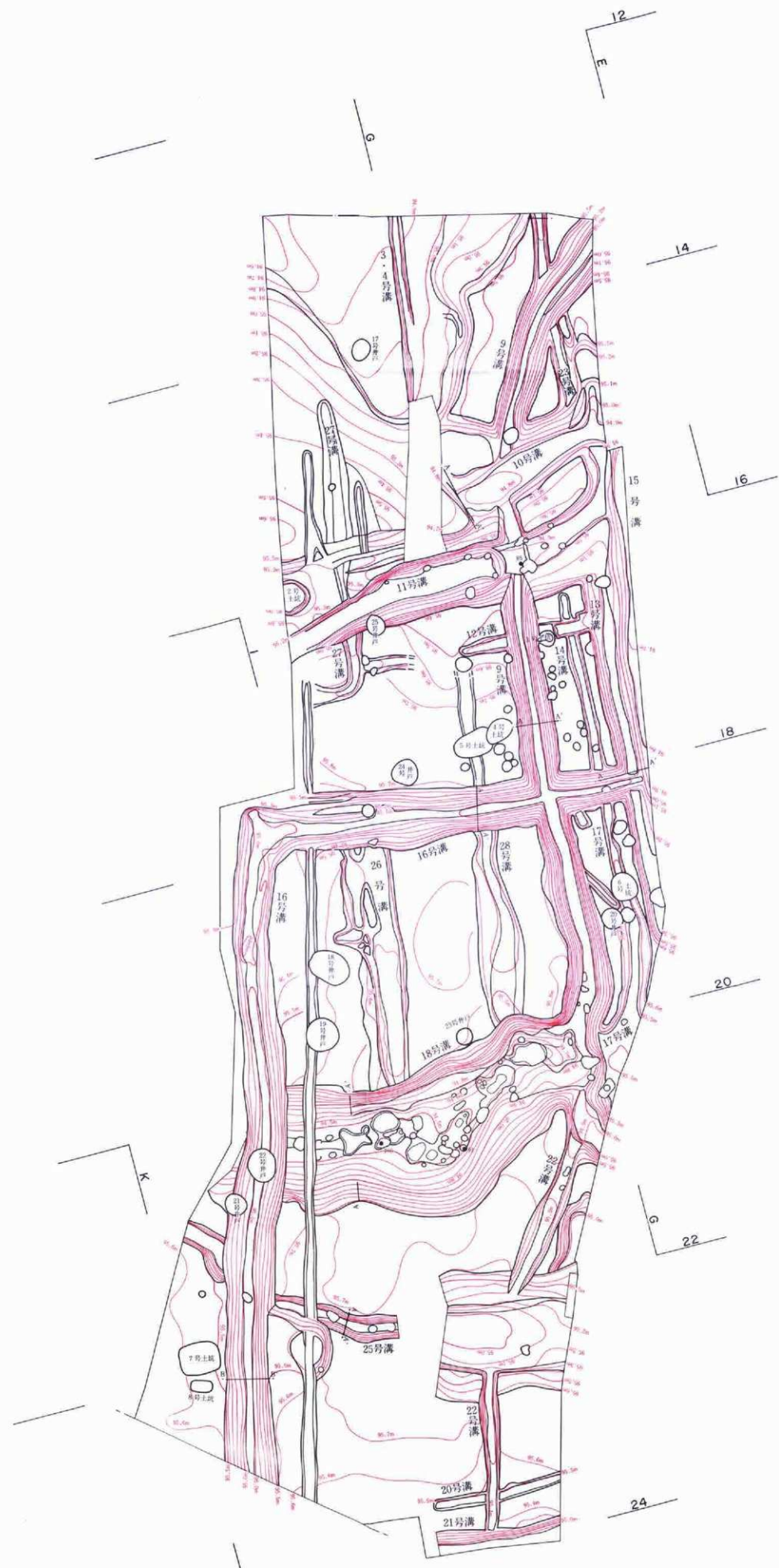
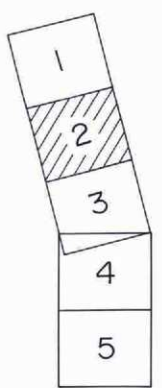
付図5-1
新保田中村前遺跡村前地区Ⅰ・Ⅱ面全体図

X=39.80

X=39.80
Y=70.70

X=39.75

X=39.75



0 1:125 10m

付图 5-2
新保田中村前遗址村前地区 I·II 面全体图

X=39.70

Y=70.70

X=39.70

Y=70.75

X=39.65

X=39.65

Y=70.70



- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

付図 5-3
新保田中村前遺跡村前地区 I・II 面全体図

0 1:125 10m



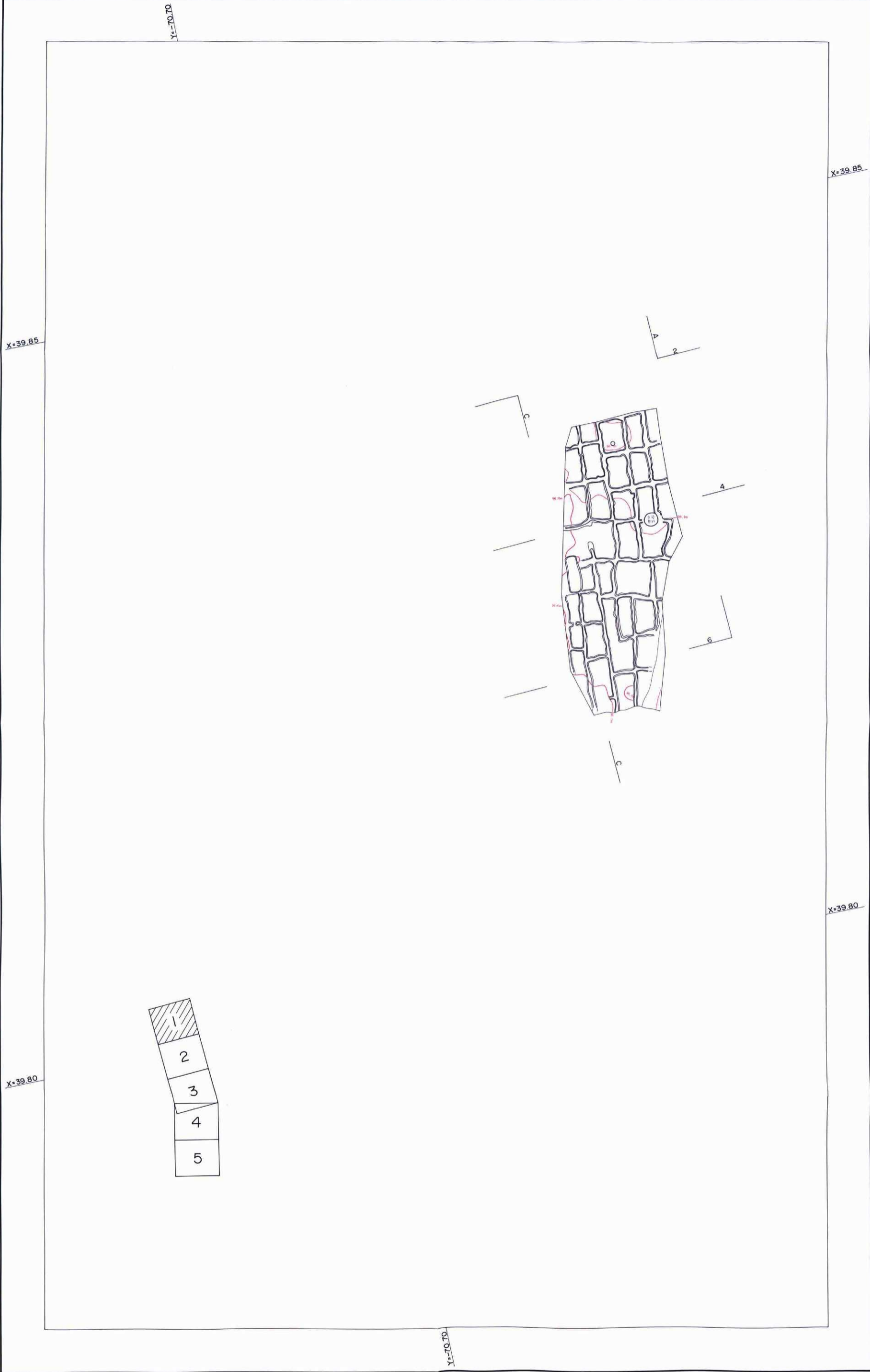
0 1:125 10m

付图 5-4
新保田中村前遺跡村前地区 I・II 面全体図



0 1 : 125 10m

付图 5-5
新保田中村前遺跡村前地区 I・II 面全体図



0 1 : 125 10m
 付図 6 - 1
 新保田中村前遺跡村前地区Ⅲ面全体図

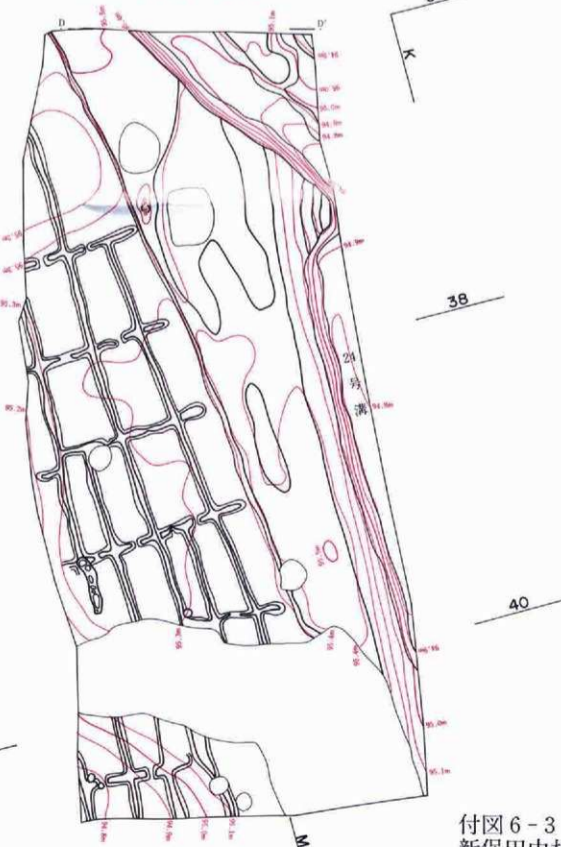
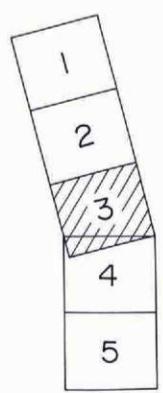
X=39.70

Y=70.70



X=39.70

Y=70.75



X=39.65

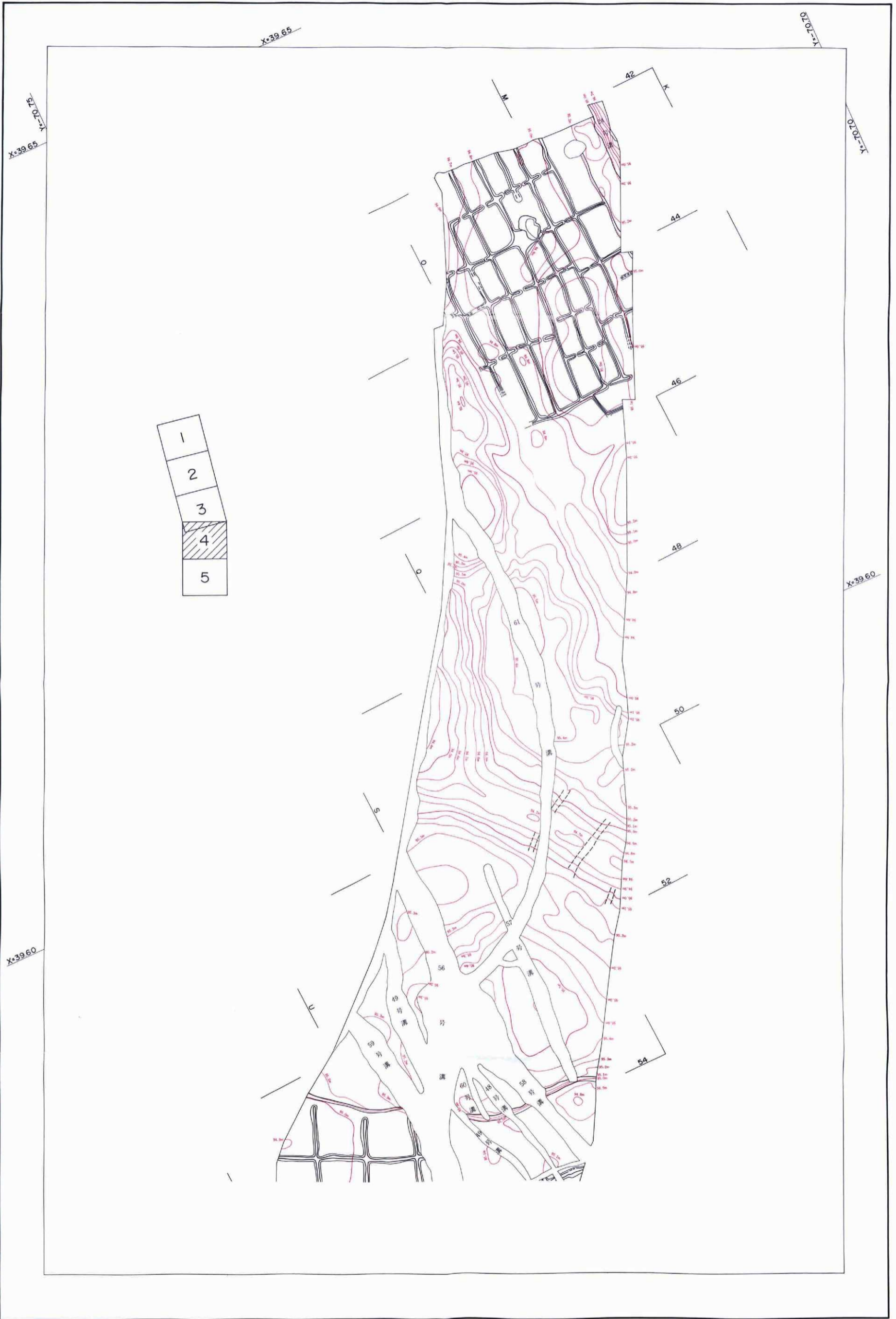
0 1:125 10m

Y=70.75

付図 6-3
新保田中村前遺跡村前地区Ⅲ面全体図

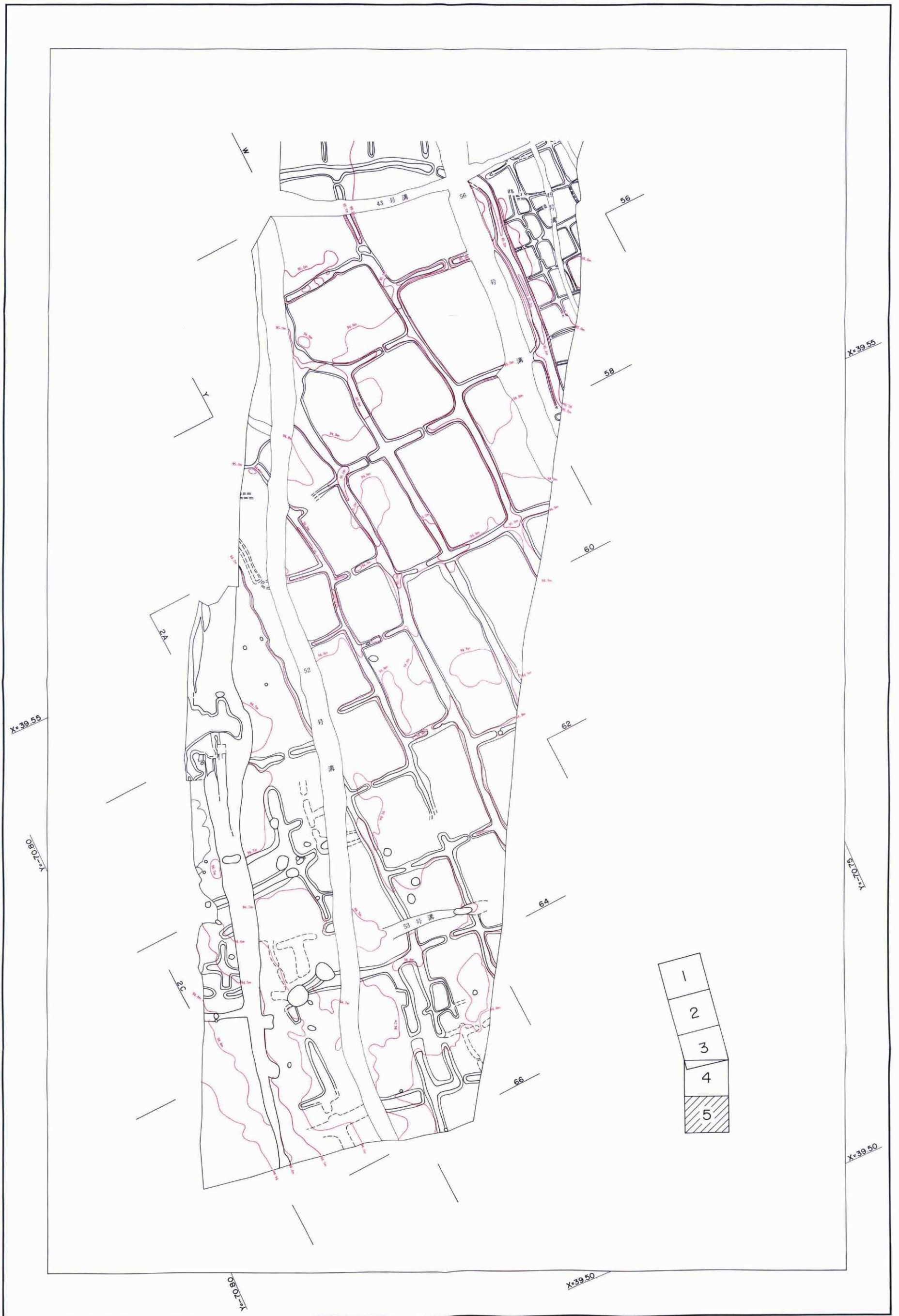
X=39.65

Y=70.70



0 1:125 10m

付图 6-4
新保田中村前遺跡村前地区Ⅲ面全体図



付図 6 - 5
新保田中村前遺跡村前地区Ⅲ面全体図

X=39.70

Y=70.70

X=39.70

Y=70.75

X=39.65

X=39.65

Y=70.70



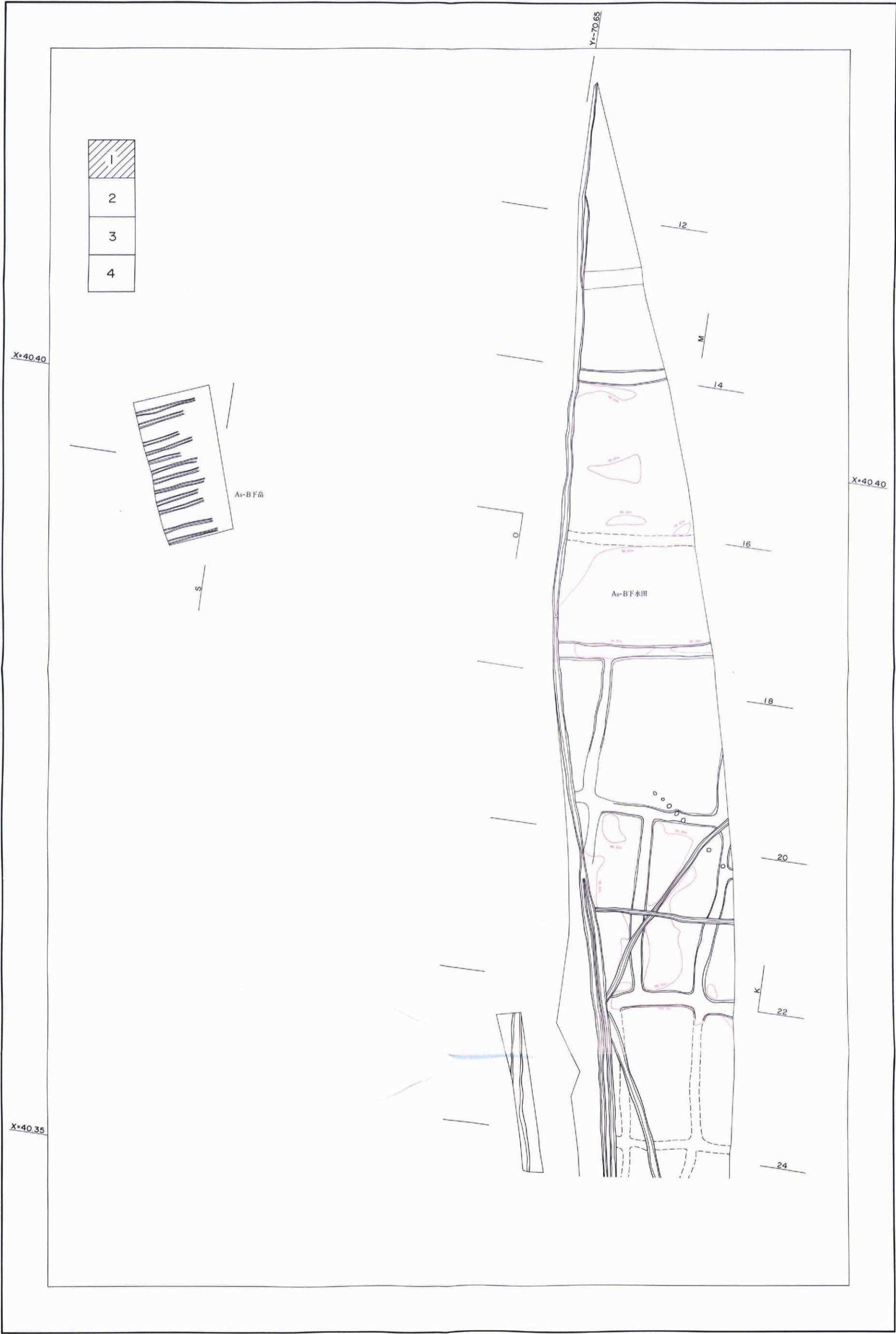
付図7-3
 新保田中村前遺跡村前地区Ⅳ・Ⅴ面全体図



0 1:125 10m
 付図7-4
 新保田中村前遺跡村前地区Ⅳ・Ⅴ面全体図



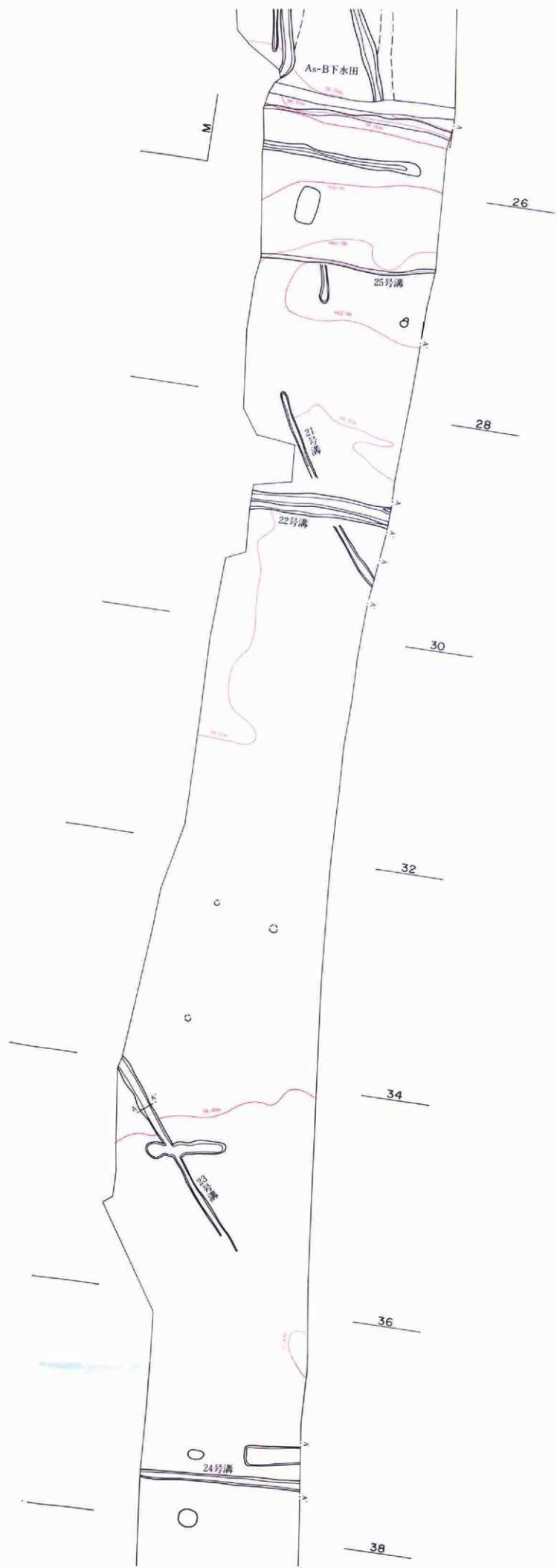
付図 7-5
新保田中村前遺跡村前地区Ⅳ・Ⅴ面全体図



0 1 : 125 10m

付図 8-1
新保田中村前遺跡下り柳地区 I 面全体図

1
2
3
4



X=40.30

X=40.35

X=40.30

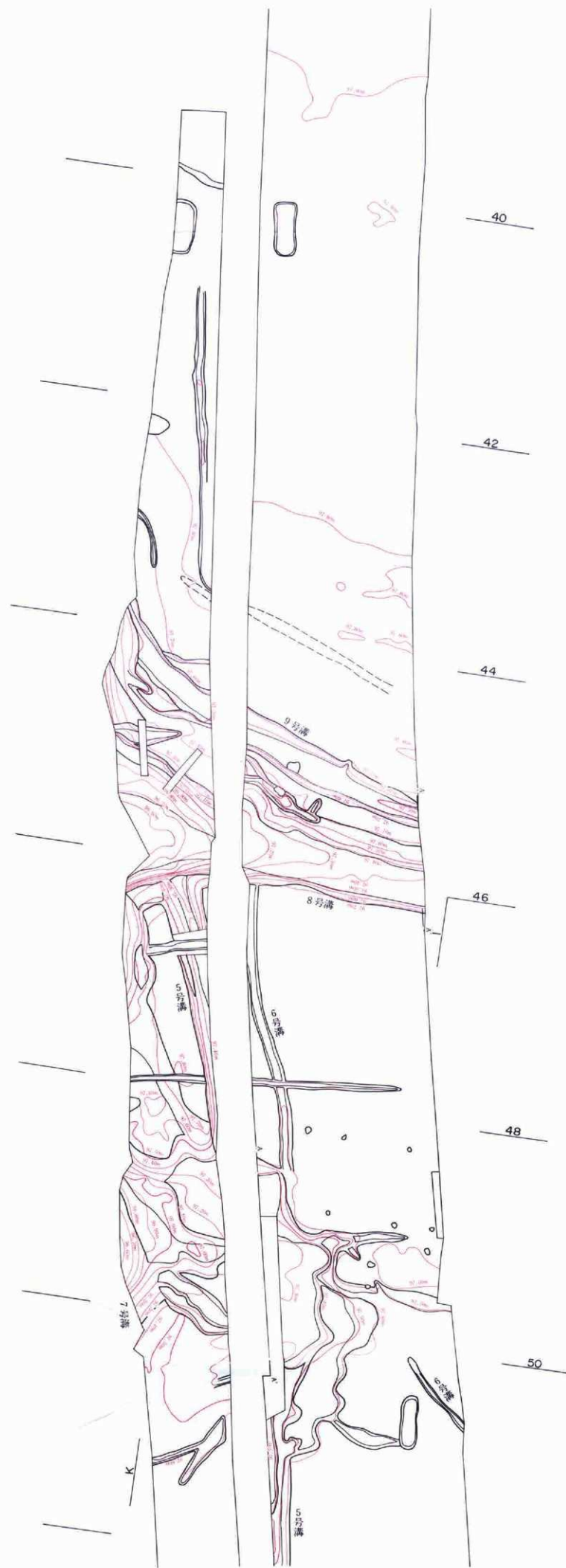
0 1 : 125 10m

付図 8-2
新保田中村前遺跡下り柳地区 I 面全体図

1
2
3
4

X=40.25

X=40.25

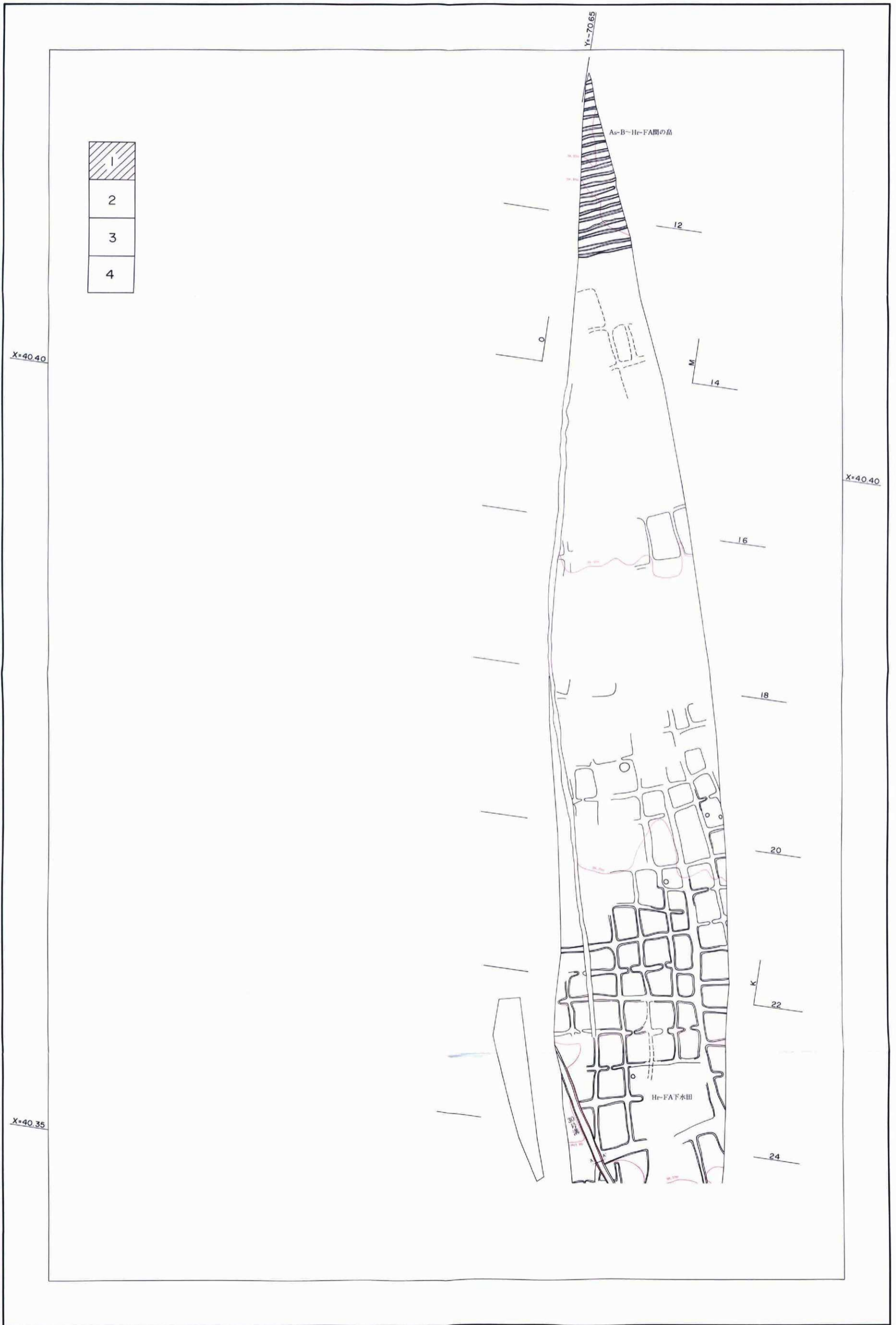


0 1 : 125 10m

付図 8-3
新保田中村前遺跡下り柳地区 I 面全体図



付図 8-4
新保田中村前遺跡下り柳地区 I 面全体図



0 1 : 125 10m
 付図9-1
 新保田中村前遺跡下り柳地区Ⅱ面全体図

1
2
3
4



0 1 : 125 10m

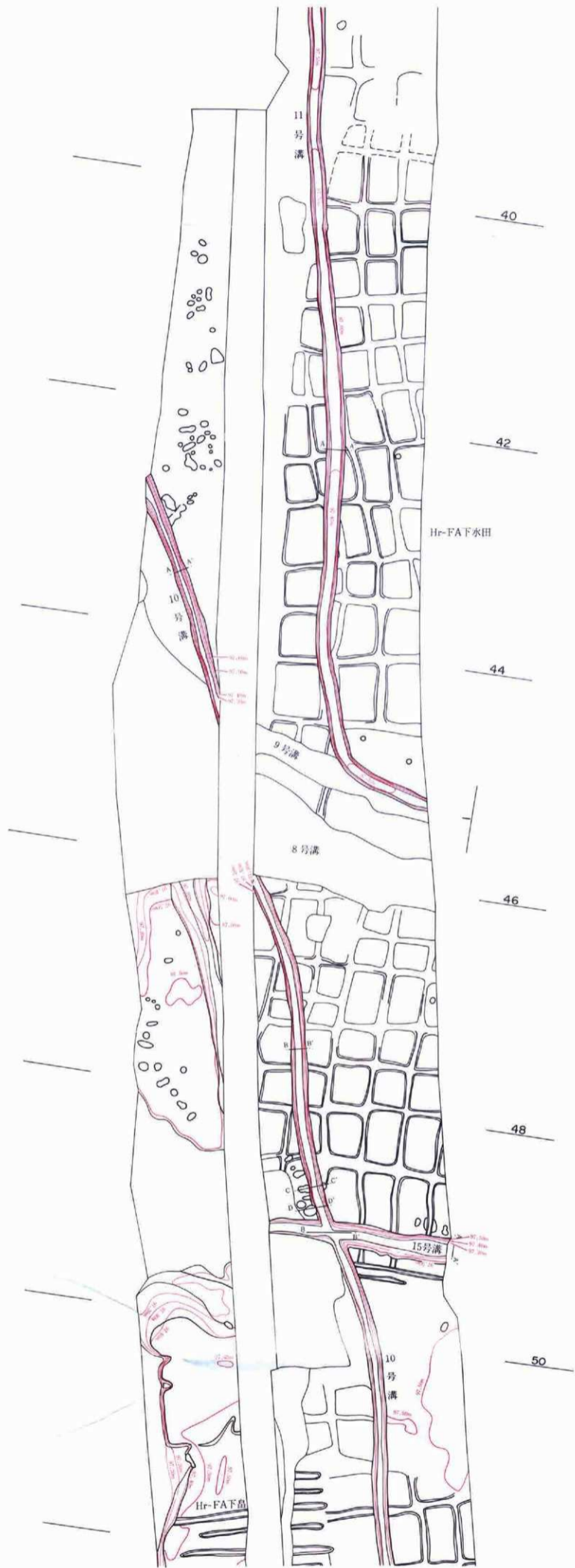
付図9-2
新保田中村前遺跡下り柳地区Ⅱ面全体図

1
2
3
4



X=40.25

X=40.25

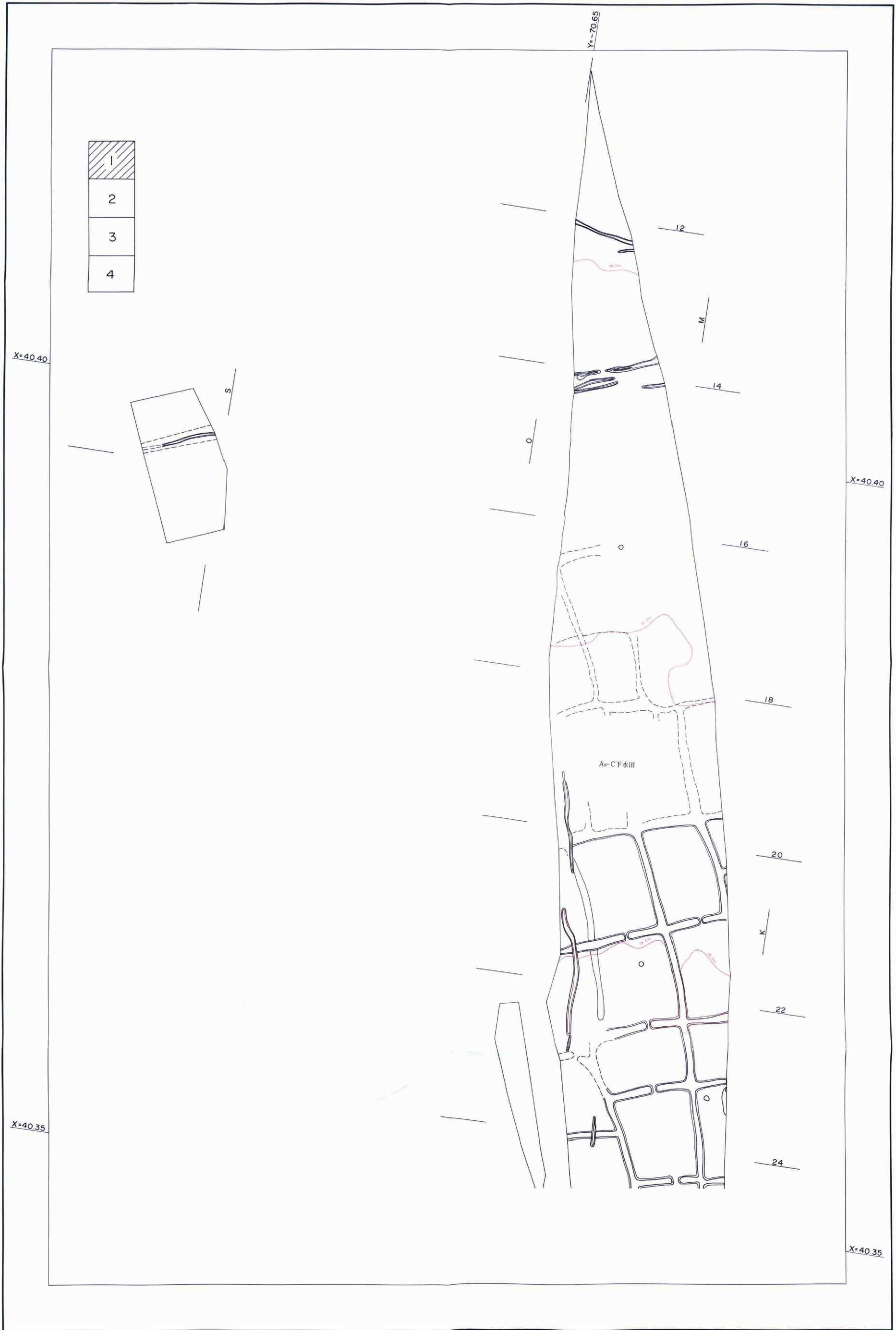


0 1 : 125 10m

付図9-3
新保田中村前遺跡下り柳地区Ⅱ面全体図

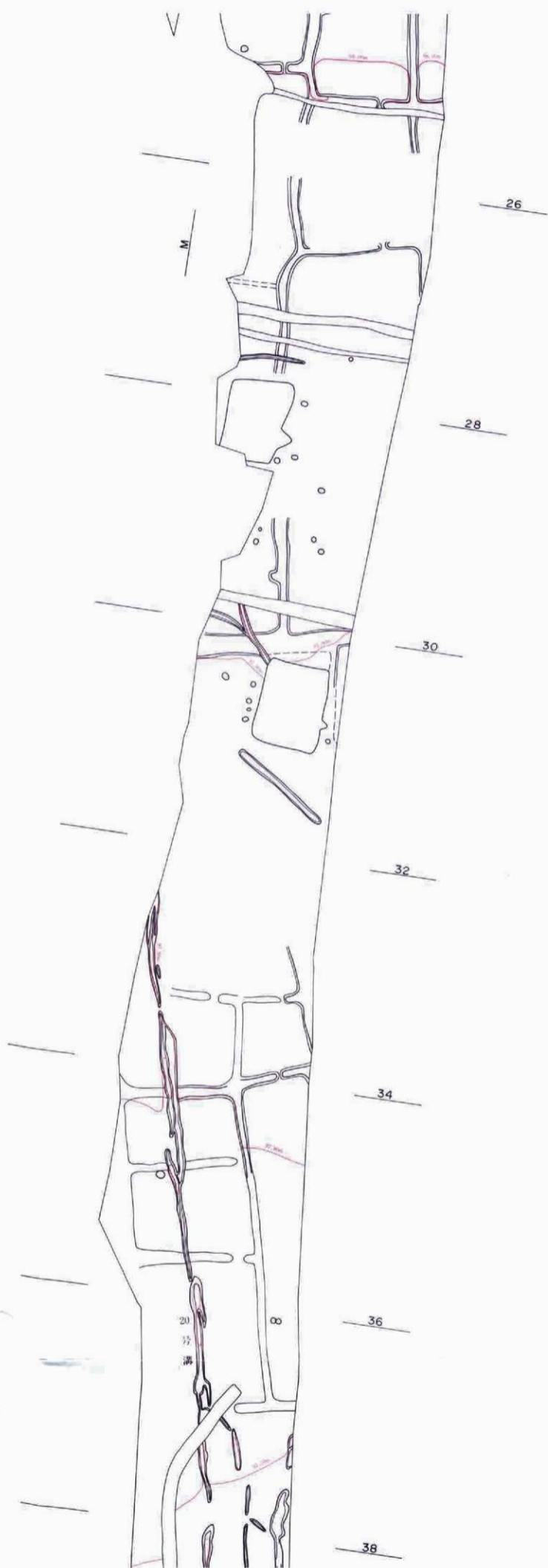


付図9-4
新保田中村前遺跡下り柳地区Ⅱ面全体図



付図10-1
新保田中村前遺跡下り柳地区Ⅲ面全体図

1
2
3
4



X=40.35

X=40.30

X=40.30

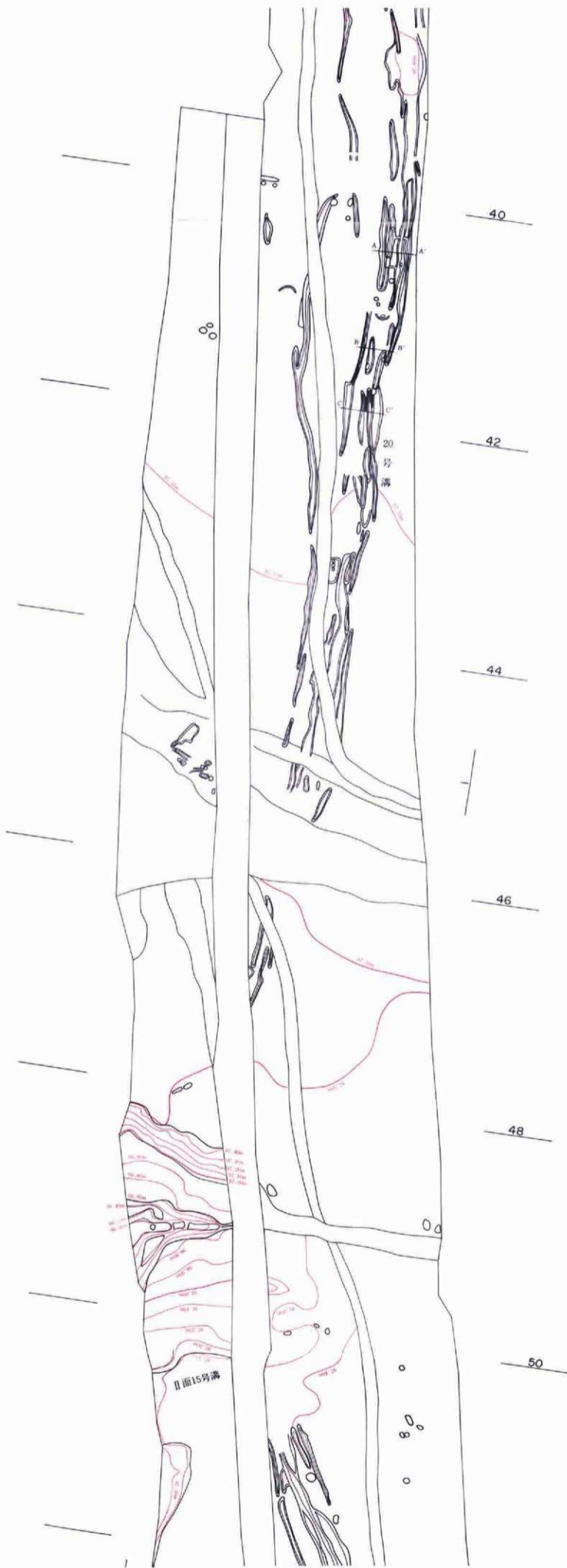
0 1 : 125 10m

付図10-2
新保田中村前遺跡下り柳地区Ⅲ面全体図

1
2
3
4

X=40.25

X=40.25



0 1 : 125 10m
 付図10-3
 新保田中村前遺跡下り柳地区Ⅲ面全体図



付図10-4
新保田中村前遺跡下り柳地区Ⅲ面全体図